

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第154集

# 朝日遺跡 VIII

本文編

2009

財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団  
愛知県埋蔵文化財センター

## 例言

1. 本書は愛知県清須市・名古屋市西区・西春日井郡春日町に所在する朝日遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、近畿自動車名古屋関線清洲JCT・名岐道路・県道高速清洲一宮線及び県道高速名古屋朝日線建設に伴う事前調査として、国土交通省中部地方整備局愛知県道工事事務所・中日本高速道路株式会社名古屋工事事務所・名古屋高速道路公社より愛知県教育委員会を通じての委託事業として、財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センターが実施した。
3. 調査期間は平成16(2004)年10月から平成19(2007)年8月まで断続的に実施し、調査の総面積は5,607平米である、なお年度単位の調査経緯は本文1.2を参照。
4. 発掘調査は平成16年度(石黒立人・加藤博紀・川添和暁・早野浩二)平成17年度(赤塚次郎・永井宏幸・川添和暁)平成18・19年度(赤塚次郎・永井宏幸)を担当し、国際文化財株式会社社の支援で実施した。調査・整理等スタッフ構成は本文1.3を参照。
5. 発掘調査にあたっては、次の各関係機関のご指導・協力を得た。  
愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室・愛知県埋蔵文化財調査センター・清須市教育委員会・春日町教育委員会・名古屋市教育委員会文化財保護室・名古屋市見晴台考古資料館・国土交通省中部地方整備局愛知県道工事事務所・中日本高速道路株式会社名古屋工事事務所・名古屋高速道路公社
6. 本書の執筆担当および文責は下記のとおりである。  
出土土器については永井宏幸・早野浩二・赤塚次郎が、石器は石黒立人、骨角器類・縄文土器は川添和暁、木製品は樋上 昇、ガラス小玉・赤色顔料は堀木真美子、科学分析は鬼頭 剛が担当し、各データを基に永井・赤塚が検討し編集した。本文編の文責は赤塚が担当し、総集編は目次に記した。  
なお、本文編3.5.2は樋泉岳二(早稲田大学)・中村賢太郎・孔智賢(パレオ・ラボ)、総集編5.2は奥野絵美(名古屋大学大学院)・森 勇一(愛知県立津島東高等学校)、総集編6.2は藤尾慎一郎・尾嵩大真(国立歴史民俗博物館年代研究グループ)より玉稿を賜った。遺物撮影は金子知久(スタジオ遊)にご協力をいただいた。
7. 本書の作成にあたっては、以下の方々にご教示・協力を賜った。  
水野正好・寺澤 薫・石野博信・白石太一郎・和氣清章・中井正幸・中島和哉・清野陽一・岡安光彦・藤波啓容・江崎 武・森 勇一・奥野絵美・高橋信明・森 泰通・伊藤淳史・岩野見司・豆谷和之・深澤芳樹・中村俊夫・藤根 久・金子知久・伊藤厚史・伊藤正人・村木 誠・野澤剛幸・山本直人・柴垣哲彦・三好有香・鈴木弘子・七田忠昭・森岡秀人・伊藤伸幸・鈴木 元・原田 幹・藤井 整・黒澤 浩・福海貴子・石川日出志・設楽博己・佐藤由紀男・馬場伸一郎・伊庭 功・藤尾慎一郎・尾嵩大真(順不同敬称略)
8. 座標は旧調査区との関係上、平面直角座標第Ⅶ系(日本測地系)に準拠する。
9. 出土遺物は愛知県埋蔵文化財調査センターにて保管。
10. 本書の編集は赤塚次郎が担当し、Web データベースは堀木真美子が担当した。

# 目次

1. 経過	1
1.1 調査の経過	
1.2 発掘作業の経過	
1.3 整理等作業の経過	
2. 遺跡の位置と環境	4
2.1 地理的環境	
2.2 歴史的環境	
3. 調査の方法と成果	6
3.1 調査の方法	6
3.2 層序	7
3.3 調査区と主要遺構	8
3.4 主要遺構の概要	46
3.4.1 A区の遺構	46
3.4.2 B区の遺構	144
3.4.3 C区の遺構	190
3.4.4 D区の遺構	229
3.5 特定遺物の概要	246
3.5.1 玉類の分布	246
3.5.2 動物遺体	248
遺物実測図	263
抄録	315
写真図版 (写真図版編)	
Web データベースの概要	





## 1. 経過

### 1.1 調査の経過

本遺跡は愛知県清須市・西春日井郡春日町・名古屋市西区に広がる、県下最大規模を誇る弥生時代の集落である。調査は近畿自動車名古屋関線清洲 JCT・名岐道路・県道高速清洲一宮線及び県道高速名古屋朝日線建設に伴う事前調査として、国土交通省中部地方整備局愛知国道工事事務所・中日本高速道路株式会社名古屋工事事務所・名古屋高速道路公社より愛知県教育委員会を通じての委託事業として実施した。愛知県教育委員会の指導の基に、関係諸機関による発掘調査調整会議を定期的に実施し、調査の内容や進捗状況、また工事計画との調整等を行い、安全対策を最優先して実施した。なお調査現場での発掘支援体制として国際文化財株式会社の協力を得た。

### 1.2 発掘作業の経過

調査区は全て清洲東インターチェンジ内において、平成 16 年度は 04Aa・Ab・Ac・04Ba・Bb・Bc 区の 6 調査区を、平成 17 年度は 05Aa・Ab・Ac・05Ca・Cb・Cc・Cd・Ce・Cf・Cg・05Da・Db・Dc・Dd・De 区の 15 調査区、平成 18 年度は 06A・06Ba・Bb・Bc・Bd・06C 区の 6 調査区、平成 19 年度は 07Ba・Bb・Bc・07D 区の 4 調査区を設定して、発掘調査を実施した。調査面積と担当者及び期間については下記の表に基づく。(総集編 1.1, 1.2 参照)

年度	担当者	調査区	面積	調査期間
平成 16 年度	石黒立人・加藤博紀・川添和暉・早野浩二	04Aa.b.c・04Ba.b.c	1497㎡	2004-10～2005-03
平成 17 年度	赤塚次郎・永井宏幸・川添和暉	05Aa.b.c・05Ca.b.c.d.e.f.g・05Da.b.c.d.e	2995㎡	2005-10～2006-03
平成 18 年度	赤塚次郎・永井宏幸	06A・06Ba.b.c.d・06C	767㎡	2007-01～2007-03
平成 19 年度	赤塚次郎・永井宏幸	07Ba.b.c・07D	348㎡	2007-04～2007-08

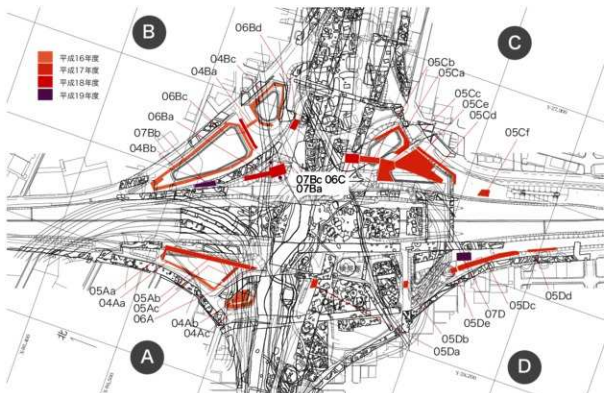


図 1.2 朝日遺跡調査区配置図 1/4000

### 1.3 整理等作業の過程

報告書編集のための整理作業は、平成18年度から20年度の3年間の工程で実施した。まず、調査現場との同時進行的な調査研究環境を整えるために、インターネットを利用した調査成果のアーカイブ化を基本としたシステムを、愛知県埋蔵文化財センター情報センターを中心に開発することを企画した。平成18年度と19年度は、調査現場と併行して遺物整理業務を実施することになり、インターネット環境の整備を急ぐとともに、具体的なシステム内容の整備を進めることにした。

#### ・調査現場でのデータアーカイブ化

発掘調査現場から整理作業、そして報告書編集作業にいたるワークフローに一貫性を持たせるために、調査成果のデジタルデータ化を目標に掲げることとし、まず調査現場においては電子平板を中心に測図作業とその編集を併行して行い、加えて各調査区においては、主要遺構を評価するための必要最低限の遺物データに座標値を与え、遺構と遺物の属性表をweb上で入力し蓄積する体制を整えた。このようにインターネットをプラットフォーム化することにより、調査成果をリアルタイムにアーカイブ化するという効果的な仕組みを運用することが可能となった。

また、コンテンツサーバー (Wiki) を作成し、時系列の調査記録としての調査日記に加えて、調査現場・整理作業での問題点等を書き込み議論する形で、スタッフによる情報の共有化をはかる試みも実施した。

#### ・整理等作業への応用

平成19年度後半から20年度までは、通常の整理等業務が主体となり、その過程で作成される図面類等のデータ編集・処理や遺物整理等を行った。調査現場にて構築した調査成果アーカイブシステムは、さらに報告書編集作業にいたる基礎的な資料の整理・修正・検

調査区	遺構・遺物	座標	座標	座標	スタジオ写真	撮影日時
1-001	遺構 240	遺物 1415	座標長 2470	スタジオ写真 150	撮影日時 10	
2-001	遺構 100	遺物 70	座標長 2210		撮影日時 10	
3-001	遺構 230	遺物 480	座標長 2400	スタジオ写真 170	撮影日時 10	
4-001	遺構 110	遺物 180	座標長 430	スタジオ写真 20	撮影日時 10	
5-001	遺構 170	遺物 100	座標長 2270	スタジオ写真 100	撮影日時 10	
6-001	遺構 140	遺物 150	座標長 2110	スタジオ写真 40	撮影日時 10	
7-001	遺構 510	遺物 1320	座標長 320	スタジオ写真 170	撮影日時 10	
8-001	遺構 130	遺物 2550	座標長 4370	スタジオ写真 40	撮影日時 10	
9-001	遺構 110	遺物 1510	座標長 240	スタジオ写真 40	撮影日時 10	
10-001	遺構 80	遺物 110	座標長 90	スタジオ写真 40	撮影日時 10	
11-001	遺構 60	遺物 220	座標長 110	スタジオ写真 10	撮影日時 10	

図 1.3-1 調査成果のweb上でのアーカイブ化



図 1.3-2 コンテンツサーバーの利用

証等においても絶大な効果を見せ、リアルタイムに調査現場での成果との照合が可能となり、遺構の評価等の作業に活用できる状況に整えられていった。

#### ・システム内容

特定の OS やアプリケーション、デバイスに依存することのないシステム開発を前提としたため、システム構成はオープンソースのソフトウェア群・LAMP を活用し、データベースである MySQL、スクリプト言語である PHP を使用して構築した。本データベースの活用には一般の標準的なブラウザだけを用意すれば良く、特定の市販ソフト等は必要ない。データの流れは以下になる。発掘調査現場で次々に基礎データを入力する。それぞれのコアデータがサーバ上で整えられ調査区単位のデータ管理ができあがる。また、イメージした遺構図に、必要に応じて選択した遺物がプロットされるので、例えば選択した特定の土器・石鍬の分布状況がその場で確認できる。

#### ・報告書とデータベース

本書の内容と調査の経過は、そのままインターネット上での公開を前提とするものであり、原則的にブラウザ上での閲覧・検索を目的とした構成になっている。また本書の作成は、報告書標準仕様を前提として編集を実施したが、上記のようなインターネット活用を最優先したために、各種属性表や現場での記録写真類は一部を除いて割愛した。必要最低限の情報は網羅したつもりであるが、個々の事例等の検証にはサーバ上のデータベースの活用をお願いしたい。

こうした調査現場から整理作業へのワークフローへの取り組みに対して、以下の方々からの助言やご協力を賜った。記して感謝申し上げます。なお整理作業一般での指導等は永井宏幸が、インターネット関係の処理業務は堀木真美子が担当し、赤塚次郎が総括した。

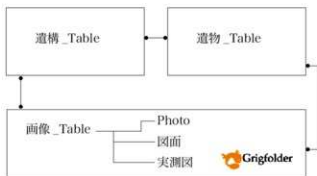


図 1.3-3 システム構成のイメージ

#### （整理業務一般スタッフ）

飯島 歩・野中栄子・瀧 智美  
山田有美子・齋藤佳美・三浦里美  
伊藤ますみ・永井智子・小嶋由美子  
伊藤あけみ・小島裕子・中村たかみ

#### （調査現場での支援スタッフ）

国際文化財株式会社  
現場管理技師：野々村光雄  
調査員：土 任隆・伊藤敬太郎・町田義哉  
福井流星・坂野俊哉・長林 大・辻 広志  
皆川貴史・鈴木恵介  
調査補助：華井京子・栗木 寧・亀井好美  
奥野絵美  
測量技師：諸熊和彦・上田誠人・渡邊 智  
櫻井 毅・竹内裕貴・坂口幸久・星野賢一

#### （編集・web データベース関係）

・編集・データ処理支援  
アルケリサーチ（藤波啓容・中村真理）  
国際文化財株式会社（内田恭司）  
株式会社ラング（横山 真・千葉 史）  
・web データベース作成・スクリプト  
愛知県埋蔵文化財センター（堀木真美子）  
\* 遺構アイコンは  
考古学ソリューション遺構アイコン標準案を使用

## 2. 遺跡の位置と環境

### 2.1 地理的環境

朝日遺跡が所在する場所は、現在の愛知県清須市を中心にして西春日井郡春日町・名古屋市西区に広がる。標高はおおむね2～3mを測り、ほぼ平坦な地形が展開し、つい最近までは名古屋市北部の水田地域として活用されてきた。しかし近年は、名古屋環状2号線・名阪高速道路や名古屋市と岐阜市を結ぶ大動脈である国道22号線が交差し、まさに交通の要所として物流拠点へと急速に変貌しつつある。遺跡の西側には五条川が南流し、その自然堤防と後背湿地が展開する地域であるが、基本的には中世以後には旧河道が複雑に錯綜し、その自然堤防によって形成された微高地上に集落が営まれ、周辺の低地部は水田を中心とした耕作地に利用されるような典型的な沖積低地環境にある。

朝日遺跡周辺には谷Aに代表される埋積浅谷が確認されている。その形成が縄文中期の小海退を基本に、縄文晩期～弥生前期の弥生の小海退を経て形成されたものであり、気候変動が引き金になっている点が指摘されている。これを物語るように、谷Aの谷底面からは縄文晩期の土器とビットが確認できている。この二つの小海退の間には、縄文晩期の再海進が想定され、その海水面が標高1.5m地点にあったものと結論づけられている。こうした縄文後・晩期の気候変動を経て、弥生の小海退を契機にして朝日遺跡では本格的な集落景観が整えられていった。このように朝日遺跡は、縄文中期の頃に形成された浅谷地形と、それをわずかに遡る一時期に作られた微高地（浜堤）上に立地している。



図2.1 朝日遺跡の位置

## 2.2 歴史的環境

遺跡周辺には縄文晩期から弥生前期の小海退に伴い、本格的な集落景観が見られるようになる。朝日遺跡から南東へ約5kmには名古屋市区西志賀遺跡が存在し、東へ4km地点には名古屋市北区月縄手遺跡が、また朝日遺跡が立地する第二浜堤列上に立地すると思われる稲沢市大塚遺跡が北西へ5kmの地点に存在する。そして弥生中期になるとさらに集落遺跡が増大し、朝日遺跡から半径2km圏内には甚目寺町阿弥陀寺遺跡・森南遺跡、清須市松の木遺跡などの存在が見られる。ところが弥生終末期（古墳早期）廻間様式期になると、こうした弥生中期以来の集落遺跡が大きく変貌あるいは消滅し、比較的小規模ではあるが、新たな集落遺跡が展開していく様子が確認できる。その典型的な遺跡が清須市の廻間遺跡であり、近接した土田遺跡とともに2世紀から3世紀の小集落が展開してく

子がうかがえる。この時期、弥生後期中頃をもって朝日遺跡は集落の解体がはじまっている。

古墳時代になると、朝日遺跡周辺部には安定した止水域が広がり、沼沢地とわずかに点在する微高地上に竪穴建物が点在する田園風景が続く。そしてやがて古墳時代中期後半から後期にかけて小規模ながら古墳が造営され、朝日遺跡内に点在する「検見塚」「貝殻山」などはそうした小規模な古墳の可能性が高い。やがて朝日遺跡に近接した朝日西遺跡では11世紀から13世紀にかけての集落遺跡が存在し、徐々にであるが地域再開発が進められていく。やがて15世紀後葉に尾張守護所が清須に移り、尾張地域の中心的地域として、清須城を中心として再び大変革期を迎えることになる。（総集編1.4参照）



図 2.2 朝日遺跡と周辺の遺跡

(国土地理院数値地図 5m メッシュ「濃尾平野」を利用。青色は海拔 2m 未満、緑色は 5m、褐色は 10m を表示)

### 3. 調査の方法と成果

#### 3.1 調査の方法

朝日遺跡は10数年にわたり、複雑で不定形な調査区を設定して、継続的な調査を実施してきた。測量図は平面直角国土地標第7系(旧座標系・日本測地系)に準拠した標準メッシュに基づいた調査成果に依拠している。最小グリッドは5m単位で統一した。

なお、平成10年度から東名阪高速道路と国道22号線により分断された清洲インターチェンジ内の調査区では、道路によって四分割された状況を前提として、北西隅からA・B・C・D区と大区画表示を採用し、その区画内の各調査区には小文字アルファベットを付すこととして、調査区名称の統一を図った。

調査の具体的な手順は、まず各調査区において一カ所ないし複数の標準トレンチを設定し、地層の観察と遺構の残存状況、調査工程

の計画等を事前に立案し、調査ステージの内容と遺構面数などを想定することにより、工事期間内という制約を前提により効率的な調査を実施した。

朝日遺跡は年間を通じて地下水位が高く、最終加工面にいたる段階での湧水が著しい。そこで部分的ではあるが、強制排水工事を実施し、工事期間内での円滑な調査期間の確保を行った。

調査区は工事ヤードに伴うものであり、複雑かつ不定形な状況を呈し、多くの場合が安全対策上シートパイル工法によるヤード確保が前提となった。そこで、発生土の除去等にベルトコンベアーが使用できず、バックホーによる除去を行い、安全確保が最重要課題となった。



図 3.1 朝日遺跡調査風景 (総集編を参照)



## 3.2 層序

朝日遺跡としての「標準層序」を設定し、各調査区単位での層序区分の基本概念とし統一することとした。これにより、従来は個々調査区単位で位置づけていた層序基準と層位名の不統一を解消し、同時に不規則で小規模かつ不定形な調査区間の層位の概略を把握することができるようになった。

朝日遺跡における地層の堆積は、遺跡の範囲が広範囲であり地区単位の特徴が見られるものの、おおむね以下のような層序を形成する。まず浜堤形成の基盤層と考える地層は青灰色から黄色を呈するシルトが遺跡の中央部から北部域、南・北区画や北・東墓域などに見られ、一方で南墓域などでは中粒砂が直接露出する状況が見られる。これらの最終加工面を朝日G層として統一した。その上部には広域に黒色シルトが堆積する。こうしたシ

ルト混じりの砂層を人為的な整地・盛土等を行った二次的な堆積土と理解し、便宜的に朝日T層と位置づけていた。

したがって朝日T層は黒色あるいは暗い褐色のシルト混じりの砂層で、多くは遺物が攪拌された状況で包含する。所属時期は高蔵式から朝日式期を中心とするものと考えておきたい。朝日T層の上位には砂まじりのシルト層が堆積する朝日H層、さらに粘土が堆積する朝日M層で、複数の炭化物層が見られる場合が多い。朝日M層上位には朝日U層が存在する。砂を挟むシルト層である場合が多く、朝日M層との間に不整合面が見られる。無遺物層であるが、谷Bなどでは朝日M層が厚く堆積し、その下位には宇田式期（古墳時代中期）の遺物が出土している。（総集編2.1参照）

### <標準層序>

朝日C層 シルト層（中世期）

朝日U層 砂を挟むシルト層・下位に不整合面（宇田式期を中心 古墳中～古代）

朝日M層 粘土層（下部に炭化物を含む薄い層が2つ存在）（松河戸式期 古墳前）

朝日H層 砂まじりシルト層（廻間式期～山中・八王子古宮式期 弥生後期～古墳早期）

朝日T層 シルトまじり砂層（高蔵式期～朝日式期 弥生中期）

朝日G層 シルトあるいは砂層（朝日遺跡基盤層）

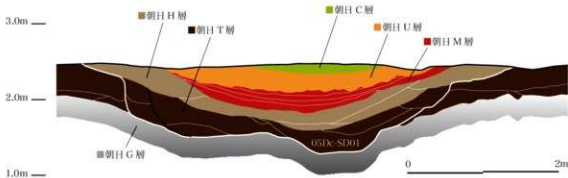


図 3.2 溝内に堆積した朝日遺跡標準層序模式図 05Dc-SD01

### 3.3 調査区と主要遺構

調査成果については、現在の道路軸である東名阪道路と国道22号線の交差を軸に、北西をA区、北東をB区、南東をC区、南西をD区と四つに大きく区分して調査区を説明しておきたい。朝日遺跡としてはA区がほぼ朝日遺跡北区画、B区は北墓域、C区は東墓域と谷B、D区は南区画を中心とした地区に相当する。なお、A・B区とC・D区の間には谷Aが存在することになる。

朝日遺跡の調査は、昭和47年(1972)からの長い調査歴が存在し、その個々具体的な成果を踏まえ、それらを統合する形でまとめる事を主眼にした。調査区や遺構記号などは既刊報告書に沿うべく、統一することなくそのまま使用する。なお、方形周溝墓はその特性から、歴代の調査報告書を踏襲し、今回の調査成果を追加して統一番号を付した。



#### 3.3.1 04Ab・Ac区

北区画の南端部で谷Aに向かって南に緩やかな傾斜を保つ。複数の環濠が廻る環濠帯が存在し、これに重複する遺構群が錯綜し、複雑な様相を呈する。

##### 層序

04Ab区東壁の状況から、標高2m付近までは朝日M・H層がほぼ水平堆積するが、弥生後期の大溝内には窪地状の地層が堆積する。その下層には厚く黒色シルト朝日T層が堆積するが、谷A左岸周辺部でもあり、貝層の廃棄・整地層による複雑な地層が認められる。おおむね標高1.2mほどで基盤層である朝日G層が露出する。

##### 主要遺構

調査区北側に展開する後期環濠2条と、その南側に存在する2条の中期環濠とに大きく区分できる。04Ab区は工事設計との関係から中期遺構群の調査は部分的にとどまる。北区画-後期外環濠は04Ab区内で大きく北側に彎曲する状況があらたに確認できた。さら

にその南側には併行するように溝SD02が存在する。SD02の掘削時期は、その出土遺物から山中1式期内に求めることができよう。SD02を含めて多量の遺物の出土はこの空間の機能を考える上で重要な資料となる。なおSD02の掘削以前にSK03が存在し、貝田町式3期新の良好な資料が出土している。

##### 小結

弥生時代後期の内環濠と外環濠に内側に凹む彎曲部を持つ特殊な場所が確認できた。さらにその南側にはSD02が存在し、一つの機能的な空間が設定されていたものと考えられる。なおこうした内側への彎曲部は、朝日遺跡では谷Aを挟んで3カ所において確認できる。またSD02に重複するSK03は中期後葉の良好な一括資料が出土しているが、昆虫化石による分析結果からは大量の食糞性昆虫や食肉・雑食性昆虫が出土しており(総集編5.2)、その機能を考える上で興味深い調査成果となる。





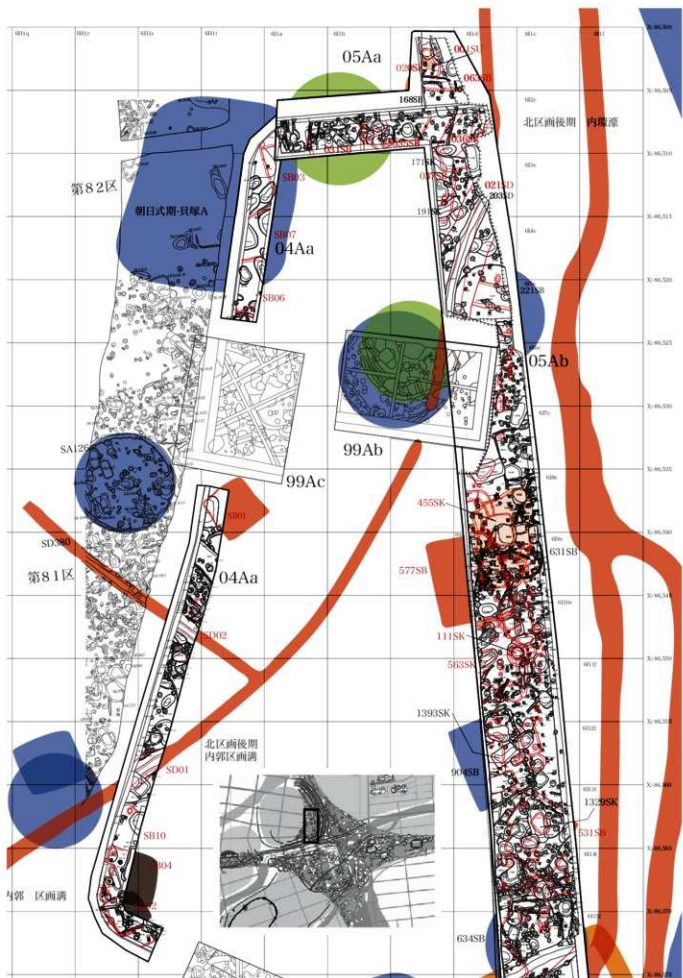


图 3.3-3 北区画 04Aa · 05A区 1/300

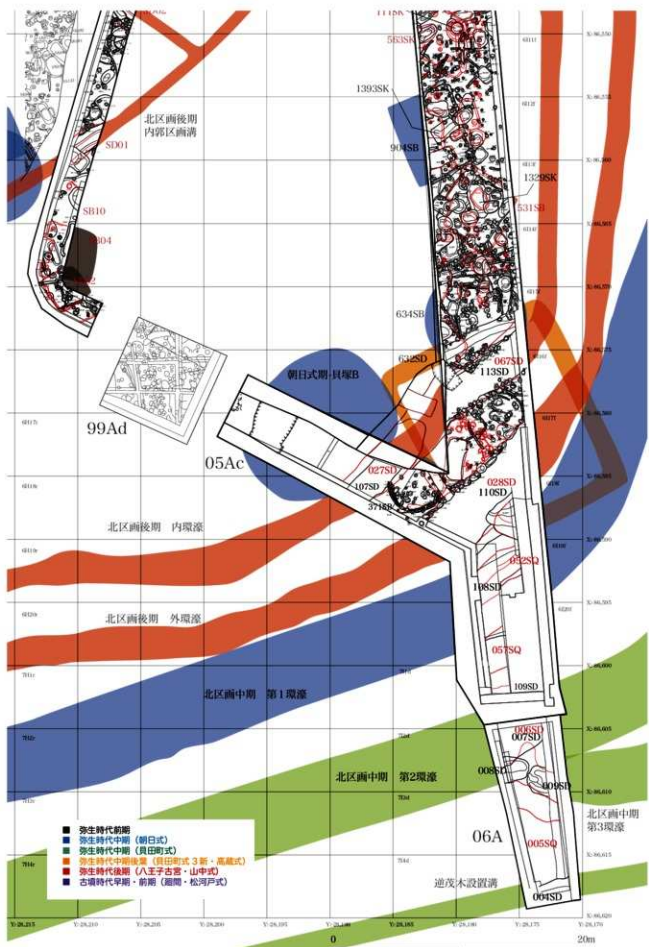


图 3.3-4 北区画 04Aa · 05A 区 · 06A 区 1/300

## 3.3.2 04Aa・05Aabc・06A区

### 3.3.2.1 北区画 (04Aa・05Aabc)

調査区は朝日遺跡北区画南東部に位置する。環濠帯に接したその北側を中心にした調査区を設定。遺構・遺物において、他の調査区に比べ飛躍的に充実した内容が見られる。

#### 層序

標高1.0m前後を調る朝日T層の上部には、安定して0.2mほどの朝日H層が堆積する。朝日T層は人為的な土壌の入れ替え等の数度に渡る複雑な整地層の連続によって構成された地層と考えられ、したがって安定した層序を見いだせるような生活面を確認する事はできない。おおむね0.7mと厚く黒色シルト層が堆積し、膨大な遺物が包含される。

#### 主要遺構

まずは、貝田町時期・朝日式期に所属する遺構群が展開する。これに重複する形で山中I式期を中心とした遺構群が存在し、高蔵式期の明確な遺構が欠落する状況が見られる。

#### ・山中期を中心とした遺構群のまとめ

調査区南端にて弥生後期の二重環濠（内環濠05A-107SD・113SD、外環濠110SD）が巡っており、一時期においてこの場所が入口機能（既存の内環濠を埋めて入口を作成する05A-027SD）を有していた可能性が高い。その北側には主要な遺構がほとんど見られず、小規模な遺構が点在する広場的な空間が想定できる。なお環濠間および外環濠南には堤状の盛土（05A-052SQ, 057SQ）を確認できた。05A-203SD・04Aa-SD01は北区画内に存在する内郭区画溝と想定され、これに直行する形で04Aa-SD02・81区-SD380の溝状遺構が存在する。99Ab区において内郭区画溝の入口部が存在し、付近からは魍龍文鏡の破鏡が出土している。この入口部南東地区では、05A-577SB・455SK・111SK等興味深い遺構が存在する。なお内郭区画溝の北側部には

竪穴建物（04Aa-SB06・SB03・SB07）が点在する状況が推定できる。

05A-031SBは床面にワイングラス形高杯（250）などが出土し、その特徴などから山中I式の新しい段階に所属する。また066SBから舌状石製品（s7）が出土し（未使用品）、山中I式に所属する。

052SQ 堤状遺構からはその製作年代を推定する資料として高杯脚部（434）、脚部部に小さな複数透孔があり山中I式を降る資料ではない。

455SKからは多量の土器等が処置された形で見つかっている。一部に廻間I式0段階古相の資料も含まれるが、山中II式3段階新相を中心とする良好な一括資料と思われる。577SBは南北7mの大型の竪穴建物で、その南側堀方から舌状石製品（s32）が出土している。531SBは内環濠の近くに存在する竪穴建物で、八王子古宮式に所属する。



05Ab区南端部の環濠帯

#### Wiki・Blog-memo

113SD・内環濠。出入り口部  
山中I式後半期を中心とする土器。小型品が多く、その他に卜骨（d-198）。113-SDと027-SDとの関係については、はじめに断面V字状の溝が掘削され（八王子古宮式から山中I式古）次にU字状で幅の溝が掘削され（山中I式新）、その後一部を埋められて、溝の作り替えがなされた（山中I式中頃）。溝の最終掘削時期は、出土遺物の特徴から山中I式の未葉と推定した。113-SD（内環濠）の掘削面の時期を推測する資料。脚部部で4方向の小さな透孔。山中I式に所属するd-550資料  
なお竹製品が南堀方から出土d-825  
110SD外環濠。重下層出土土器。瓶型高杯で山中I式期（d-721）。

#### ・貝田町式・朝日式期

環濠帯の内側に多くの堅穴建物とそれに関連する遺構群が展開する。05A区北側には土坑群が密集して存在し、多量の灰層・炭化物とともに土坑内に堆積する。代表的な171SK・191SKを含めてこれらは貝田町式に所属する。なお周囲には大型円形堅穴建物が点在する。

05Ac区と04Aa区北側には朝日式期を中心とした貝塚状の高まり（貝塚A・B）が存在する。そしてこの場所はそれ以降においてほとんど手つかずの空間が存在していたことが判明した。

#### 3.3.2.2 06A区と逆茂木設置溝(004SD)

06調査区は北区画環濠帯の東南隅部に位置する。谷A北岸部に含まれ、多重環濠帯と逆茂木設置溝等が存在する地区である。

##### 層序

基本層序である朝日U層・M層・H層がほぼ数10cmの単位で水平に堆積（H層下の遺構に影響されて凹み状に堆積）する。調査区南に向かって緩斜面を形成しながら谷Aに連続する。基盤層は黄色シルト層（朝日G層）。

##### 主要遺構

調査区北側には北集落を巡る環濠帯の外郭を形成する大溝が、重複して存在する。北端部には東西方向の大溝が存在し、朝日T層を基本とする黒褐色シルトが厚く堆積する。05Ab区109SDを北側掘方にもち、おおむね幅16mほどで、深さ1.5mを測るものと想定できる。007SDの中央部には重複して高蔵式期を中心とした遺物を包含する、砂・シルトのラミナが複雑に厚く堆積する溝状遺構が確認できる。洪水性の堆積層と思われる。不定形な流れが想定でき、溝の掘方はその浸食のためか凹凸が著しい。なお007SDの掘削時期は貝田町式期に所属するものと考えたい。

##### 小結

朝日式期には大型円形堅穴建物群が点在し、複数の貝塚の形成が見られる。高蔵式期に所属する遺構群はほとんど存在しない。ただ後期環濠に重複する形で、13mほどの方形区画632SDが存在する。後期環濠南側には内郭区画溝が設定され、内環濠との間には特殊空間（広場）が存在し、455SK付近には祭祀場の様相が見られる。

後期環濠は八王子古宮式古宮式～山中I式初頭段階に掘削され、その後山中式中頃に一部再整備が行われ、調査区内（北区画南東部）にはあらたに出入り口部が付設される。

調査区南端には004SDが存在し、その南側掘方部は調査区外に置く。いわゆる第2「逆茂木」の延長部分に相当し、枝を付けたままの材の存在が確認できる。逆茂木の直上には砂・シルトがラミナ状に厚く堆積し、004SDの機能を消失させた起因と推測できる。高蔵式期の遺物が伴う。

##### 小結

007SDを中心に木製品が多量に出土している。007SD上層には朝日H層が堆積し、山中式期の遺物と木製高杯や三稜形木鎌などが出土している。007SD中層は高蔵式期の砂・シルトがラミナ状に堆積し、黒褐色シルトの下層からは貝田町式期に所属する土器に伴い容器類や弓などの興味深い資料が出土した。中期第2環濠である007SDは、北区画を巡る中期第3環濠がこの付近にて合流するような状況が確認できる。

007SDと004SDの間には15mの幅広い平坦面が存在し、遺構は存在しない。特に007SD側には0.3mほどの高まりが認められた。この堤状の高まり（005SQ）の盛土には山中式期の遺物が包含する。



### 3.3.3 06Ba・07Bb.c区

調査区は朝日遺跡の中央部に存在する浅谷(谷A)北岸で、朝日遺跡北集落を巡る環濠帯から東部に位置する。周辺には弥生中期の東西大溝と方形周溝墓群(東墓域)が展開する地区である。なお調査区南端は谷A北岸に位置し、急傾斜を伴い谷地形に移行する。

#### 主要遺構

朝日式期に所属する居住域と思われる場所が、調査区北側に認められ円形竪穴建物016SBとその周辺に存在する廃棄土坑群(033SK・036SK・026SK)によって構成される。また周辺には小柱穴群が存在し、一つの居住空間が想定できる。竪穴建物016SBを破壊する形で、方形周溝墓群が展開する。最も大きいものは調査区北端に存在する013SDであり、63N区(朝日1991)で調査された貝田町式前半期に所属するSZ149の南溝。10mクラスの周溝墓に復元できる。その他に調査区中央部から谷Aにかけて三基の周溝墓が存在する。いずれも陸橋部の幅が広い小型の四隅陸橋型であり、朝日式期に所属すると考えられる。

調査区南端の谷A北岸周辺部には貝塚を中心とした、生産加工空間が存在する。まず、谷A北岸には貝塚遺構と思われる高まり(009SX・010SX)が2ヶ所に存在し、その間の谷への傾斜部付近には階段状の平坦面をもつ施設や土坑が存在する。またこれらを覆うように、斜面には貝層の広がりが大きく二層にわかれて認められる。さらに貝塚遺構や階段状施設の周辺には柱穴群や土坑なども存在し、朝日式期を中心とした貝製品の加工に伴う作業空間を推測される。

調査区中央部には東西方向の大溝が2条存在する。005SDおよび006SD。溝間の幅は

#### 層序

基本層序である朝日U層・M層・H層と約0.1m前後の堆積層が存在し、全体に粘り気の強い土質となる。H層の下層には、特に調査区南側に中粒砂層が広く分布しているのが特徴的である。その下部には遺物が含まれている朝日T層が遺構に伴う形で広く分布し、基盤層朝日G層である黄色シルト層を掘削する。

#### Wiki・Blog-memo

06Ba区の谷地形を観察する限り、谷地形の恒常的な流水は、朝日式期以降ほとんど見られない。  
朝日T層の上位に堆積した、中粒砂がT-SA層としたものであれば、高蔵式期まできわめて安定した環境か?。→2007-03-28(水)17:07:32  
上記、0115M-1&2被砕貝層は、99Bb区で検出された谷の岸辺に堆積した貝層と類似した構造を持つようである。99Bb区の場合は今回の谷とは対岸になりかつ東側に距離も離れるが、所属時期や堆積状況に類似性が認められる。→2007-03-29(木)01:04:45  
本日撮影状況からは、谷AのT-1層は貝田町期を中心とした遺物が含まれているようである。要時検討→2007-03-30(金)20:07:23  
谷Aの岸に沿って土塁状の高まりが存在するが、朝日式期～貝田町期を通じて土壌中に貝層を介在させつつ、盛り土が幾度も積み重ねられていったかの如き様相。谷に下るような開口部の周辺には不規則な段状の地形が存在するようであり、獣骨や木質を含む貝層が堆積している。→2007-04-06(金)22:56:02

溝掘方で5mを測り、20cmほどの整地面が確認できる。北側の005SDは下層から朝日式期の土器・木製品が出土しており、溝の掘削時期が朝日式期に遡ることは明らかである。一方で谷A側に存在する006SDは、ある段階で溝内を整備し、その直後に人為的な埋め戻し作業を行った痕跡が認められる(T-SA層以前)。全体として、調査区内では朝日式期に所属する遺構群を中心にして展開しており、続く貝田町式期にかけての遺物が若干認められるが、高蔵式・山中式期の遺物や明確な遺構は存在しない。

#### Wiki・Blog-memo

07Ba区では06Ba区010SXの西側への広がりを確認できる。また徐々に貝層の高まりが西に向かって低くなっていく状況を確認。  
貝層下層にて溝を検出し、06Ba区の101SK等と組み合わせて方形周溝墓が想定できる(SZ421)。07Ba区では朝日式期の遺物が主体。  
したがって朝日式期の方形周溝墓を再利用する形で、埋戻すように貝層が堆積したことになる。→2007-08-13(月)10:17:43  
07Bc区でも06Ba区006SDの東側延長部を確認できた。やはり同様な人為的な溝の埋め戻しを確認。T-SA層は確認できない点や含まれる遺物から高蔵式期前後以前の作業と想定できる。→2007-08-13(月)

## 小結

調査区南側には、朝日H層を除去すると特徴的な中粒砂の堆積層が広く分布することが確認できた。この朝日T-SA層の分布は、おおむね南側の大溝006SD以南に限定できる。また谷A斜面では場所によって0.5m以上に厚く堆積しており、北岸の貝塚遺構である090SXと010SXの高まりの間を抜け006SD

まで分布の広がりを追うことができた。これが洪水性の砂層と推測すると、ある時点では谷をほぼ埋め尽くすような場面が存在したことになる。さらにこの砂層の末端が005SDの朝日H層下、朝日T層の最上位で確認できことから、朝日T-SA層の堆積時期を高蔵式末葉段階に求めることが可能である（総集編2.1基本層序参照）。

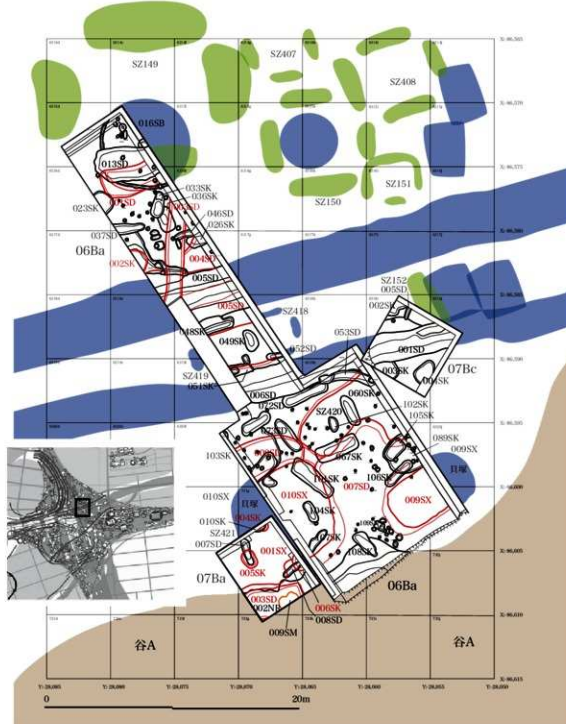


図 3.3-5 谷 A とその出入り口 (06Ba・07Bac) 1/300

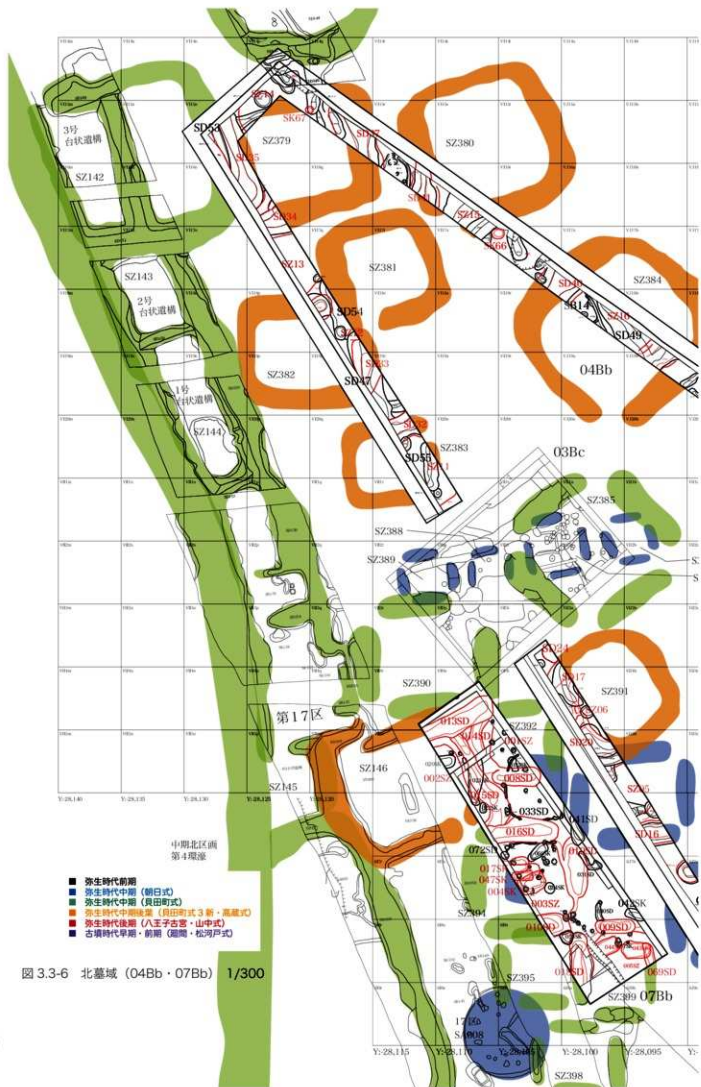
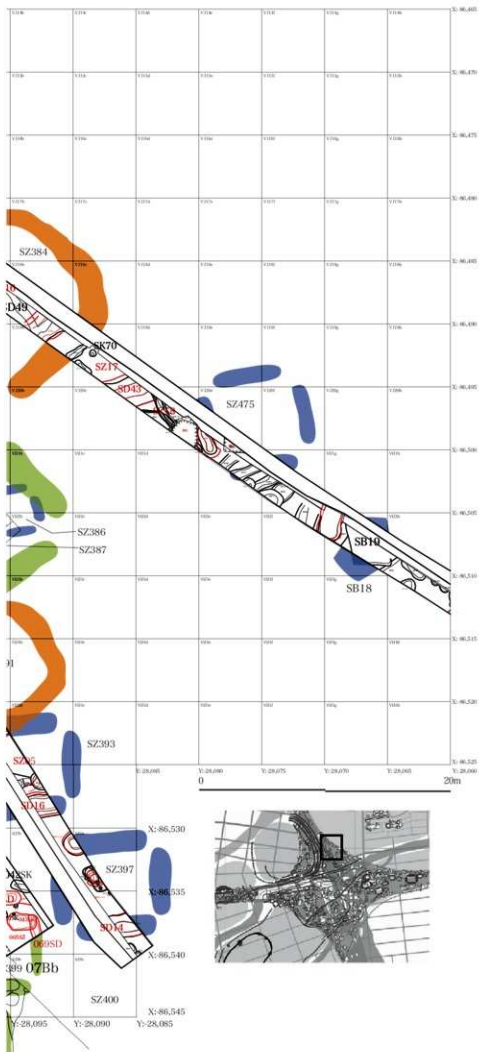


图 3.3-6 北墓域 (04Bb·07Bb) 1/300





### 3.3.4 04Bb・06Bc・06Bd区

#### 3.3.4.1 06Bc区調査概要

調査区は朝日遺跡東側の北墓域に位置する。周辺には中期の方形周溝墓群（北墓域）が展開する。

#### 層序

基本層序である朝日U層・M層・H層と均一な水平堆積が存在し、全体に粘り気の強い地質となる。総じて朝日M層・H層は方形周溝墓に伴い溝内で窪地状に堆積する状況が確認できる。H層下部には遺物が包含されている朝日T層が薄く堆積し、遺構は基盤層である黄色シルト層を掘削する場合が多い。

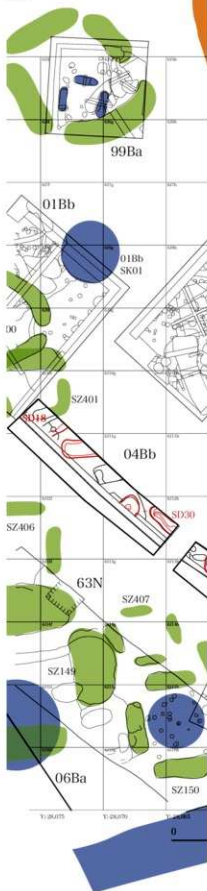
#### 主要遺構

高蔵式期を中心とした方形周溝墓群とその下層に朝日式から貝田町式古段階を中心とした土坑群が展開する。調査区北側には大型の周溝墓が存在し、L字状に屈曲する溝008SD及び016SDと017SDが伴い区画を形成する。04Ba区SD01を東溝と想定し、方13mほどの周溝墓SZ414を想定できよう。なお、008SD陸橋部付近には溝内に西三河産の壺の土器配置が見られる。012SZ（SZ413）は溝の中央部に陸橋部を有するB1型墳に復原できる。区画内には主体部が複数存在し、04Ba区SK09が位置的にも中心埋葬主体であり、その西南側には4基の土器棺墓が列状をなして存在する。

調査区南側ではL字状に屈曲する溝013SDが存在し、大型の周溝墓014SZが想定できる。盛土を除去する過程で、013SDに併行して050SDが存在し、西側への周溝墓の拡張が行われたことが判明した。すなわち014SZは造営当初の形態が東溝として050SDが存在し、南溝が調査区南東コーナーで検出した049SDおよび03Bd区SD04に連続する周溝と思われる。方12～13mの周溝墓と想定したい。その後、東側に013SDから03Bd区SD04にコ字状を呈する溝を掘削することにより拡張工事を実施しているものと推測できる。東西16mほどの規模を有する。

014SZには主体部が複数存在し、まず墳丘の中央部には、基盤黄色シルトが混在する斑土で充填された大きな落ち込みが存在し、併行する021SKと022SKの2基の主体部と039SKが営まれている。その他に040SK

Z402





と拡張された東側付近には041SK及び土器棺墓3基が見られる。

高蔵式期に営まれた周溝墓の下層には土坑やピットが散在して発見されている。その内で、050SDと重複する051SKは貝層の堆積が見られ、貝田町式古段階の土器が共存する。明瞭な建物痕跡は認められないが、単発的な居住区が存在した事が類推できる。

#### Wiki・Blog-memo

墳丘墓の盛土と主体部・土器棺との関係について  
墳丘墓での盛土の作業は、あらかじめ設定されたものではない可能性がある。埋葬主体の設置準備において臨時実施されたと考えれば・・・。要検討課題。  
盛土褐色粘質土が主体部埋土の上に覆われている状況が確認できた。  
--2007-03-13(火)08:27:07  
014SZ マウンドの構造に関する見直し。朝日式または貝田町期の溝埋設後、その溝を埋め立て、ほぼ円形の貝層黄褐色土が埋められる。その後土坑は地山土を用いて丁寧に埋め立てたのち、新たに精選された砂を用いて主体部を埋め直し、再び埋め立て、その上に土器棺を埋設しながら、徐々にマウンドが形成されていったものと考えられる。--2007-03-17(土)16:12:22

#### 3.3.4.2 07Bb区調査概要(図3.3-6)

調査区は北集落環濠帯に近接する北墓城の西端部に位置する。調査区から東側へは、広く中期を中心とした方形周溝墓群が展開する地区(北墓城)となる。

#### 層序

基本層序である朝日U層・M層・H層の水平堆積が存在し、全体に粘り気の強い土質となる。その中で特にH層が、墳丘墓に伴う周溝窪地状に厚く堆積する状況が確認できた。朝日H層下部には、0.2mほどの中期の遺物包含層である朝日T層が堆積し、基盤層である黄色シルト層となる。

#### 主要遺構

中期後半を中心とした5基の方形周溝墓が展開し、その下層には土坑・建物が散在する居住域が確認できる。調査区北側には、主軸方向が異なる001SZ・002SZが近接して営まれる。なお002SZはSZ149として報告されている周溝墓の東部に相当する。001SZは南

#### 小結

012SZに営まれた土器棺墓の列状配置から、その配置状況には共通した特徴がうかがえる。すなわち墳丘の盛土上面から土坑を掘削することによりあらためて土器棺を設置するのではなく、土器棺を設置した後でその周辺と上部を土で覆うような状況が確認できた。墳丘盛土が周溝墓設定段階で一律に存在したのではなく、断続的な埋葬に伴い、徐々に段階的に盛土が形成されていくものと推測できる。なお、012SZの造営段階の東溝である050SDから蕨手杖木製品(w262)が出土している。

SZ415 土器棺墓の調査



溝008SDが調査区東端で収束することが確認できたため、方6m規模の小規模な四隅陸橋型の方形周溝墓と推測できる。加えて南西の陸橋部は、基盤黄色シルトを混在する斑土で盛土に合わせる形で作り付けられたものであり、その付設が002SZ東溝015SDと重複する。001SZの南西陸橋部の付設が、002SZの造営後に実施されたものと推定できる。

調査区中央部には保存状況が良好な四隅陸橋型である方形周溝墓003SZが存在する。方7m規模の墳丘墓で高さは1.3mを測る。埋葬主体部が確認でき、ほぼ中央部には棺痕跡が想定できた047SKが存在し、その上部に017SKと004SKが併行して営まれている。017SKと004SKは盛土上部にて検出でき、基盤黄色シルトが混じる斑土で覆われていた。その下層で発見できた047SKは、003SZと主軸線を共有しており、周溝墓造



図 3-3-8 07Bb SZ394 西壁断面図 (横軸 1/80 縦軸 1/40)

営の初期段階に営まれた主体部と推測できよう。

調査区南端に存在する 005SZ は、西溝 018SD は 63N 区 SK01 として報告されている同遺構であり、方 5m ほどの小規模な方形周溝墓である。主体部が 2ヶ所確認できている。なお東溝北端陸橋部付近から鉢 (858) が出土している。貝田町式 2 期に所属する。

墳丘墓下には竪穴建物・廃棄土坑・ビット群が展開する。おおむね 001SZ と 003SZ の間を中心に、やや集中して分布するようである。朝日式 2 期を中心とした遺構群と思われる。竪穴建物 2・廃棄土坑 3 など。

#### 小結

調査区周辺は、貝田町式 2～3 期を中心として営まれた、一辺 5・6m の比較的小型の方形周溝墓群が展開する地区である。墳丘の主体を異にする 2つの群が確認できる。調査

区北側に存在する旧調査区 SZ149 (002SZ) とその北側には 03Bc 区 SZ02 が展開する。調査区中央部から南にはほぼ東西南北方向に軸線を置く 001SZ・003SZ・005SZ が配置されている。周溝墓の軸線と主体部の主軸とは関係が見られ、家族墓群をまとめる枠組みが存在したことを推測する事例として興味深い遺構配置と思われる。

調査区南に存在する 003SZ と 005SZ の間に、陸橋部の共有が認められる。特に 003SZ の南東陸橋部では、基盤黄色シルトによる混合斑土が丁寧に貼付けられており、墳丘盛土の変化に伴い傾斜路を整備していく様子がうかがえる。またその斜面両端には加工された材が出土しており、加えて山中式 1 式期の高杯の配置が認められた。07D 区の 004SZ で確認された状況と類似するものであり、墓前祭としての共通性が指摘できる。

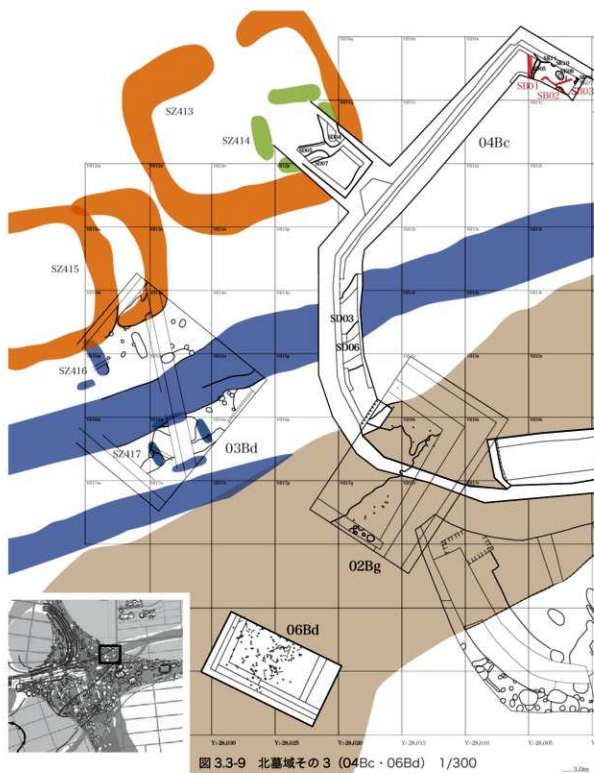
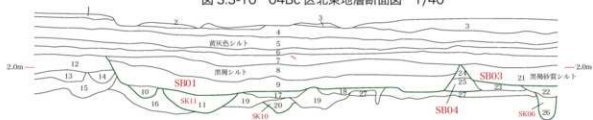
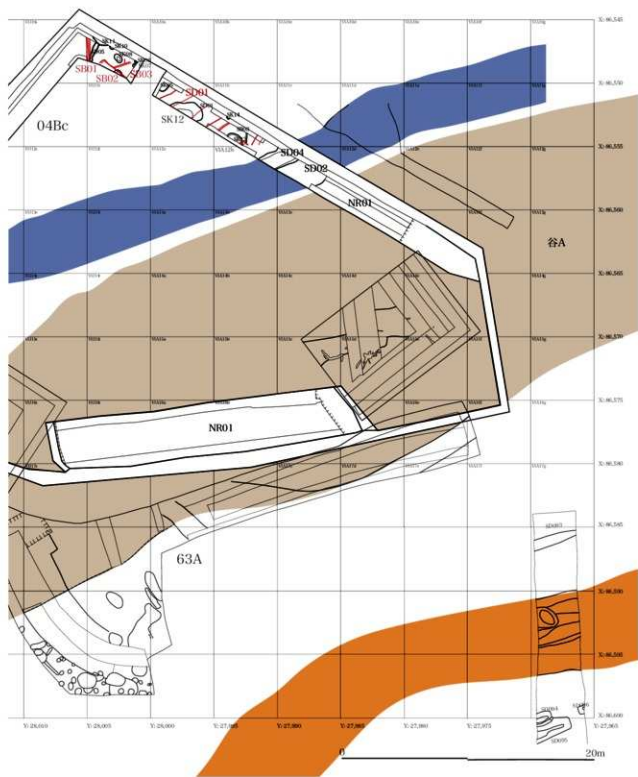


図 3.3-10 04Bc 区北東地層断面図 1/40





- 弥生時代前期
- 弥生時代中期 (朝日式)
- 弥生時代中期 (貝田町式)
- 弥生時代中期後葉 (貝田町式3新・高麗式)
- 弥生時代後期 (久玉字古堂・山中式)
- 古墳時代早期・前期 (福岡・松河戸式)



### 3.3.5 06Bd区

調査区は朝日遺跡東側の谷 A 南岸付近に位置する。調査区から南側へは、方形周溝墓が展開する地区（東墓域）となる。

#### 層序

調査区全体が谷 A に含まれ、基本層序である朝日 C 層・U 層・M 層・H 層までのほぼ水平堆積層が存在する。H 層以下には、砂・シルトの互層が厚く堆積し、その下部の砂層までの間に黒褐色シルトである朝日 T 層が薄く堆積する。

#### 主要遺構

朝日 H 層を除去した標高 0.6m 付近から、調査区東側で谷 A 左岸を検出することができた。谷 A 左岸の堀方限定して薄く砂礫層が堆積するのが確認できた。その斜面からは杭を含めて含めて板材の出土が多く、注目できる。砂・シルトの互層からは遺物の包含はほとんど見られず、その直下のシルト層に土器・木製品等が散在する。供伴する遺物からは、貝田町式期を中心とする時期に所属するものと考えられる。

調査区西端コーナー部で破砕貝層が分布し、骨角器・木製品等が共伴する。調査区南

側の谷 A 左岸斜面から堆積する薄い黒褐色粘土層（最下層）からは、朝日式土器を伴う。

全体に貝田町式期を中心とした遺物群と思われる、高蔵式以降の遺物はほとんど見られない。

#### 小結

居住域からやや離れた地点である 06Bd 区において、骨角器・木製品、さらに貝層が存在する点は留意する必要がある。調査区西南側に存在する人為的な整地土・杭列を含め、谷岸での特定目的を意図した何らかの施設の存在を類推させる。所属時期は朝日式 1 期。

#### Wiki・Blog-memo

06Bd 区：調査区北側に存在する谷 A 右岸と想定した薄ち込み状の積層が存在する。注目すべきは、その上部に薄い黒褐色層が堆積する。あるいは谷 A 南側に設定された特殊な層記号である可能性も考慮する必要がある。周辺から板材の出土が多く注意が必要である。砂礫層からの土器の共伴資料からは弥生中前期半期が中心と思われる。---2007-02-01

06Bd 区：001NR の掘削。T 層下砂層の掘削完了し、3 段目掘削に移行。砂層中より多量の木製品等が出土 (d-013～048)。d-019 木容器、d-020 木製刺状物、d-030・044 鹿角等注目される遺物が出た。東側谷落ち層出土の d014 板材周辺に散在の杭が確認され、今後黒色粘土層掘削時に注意が必要。---2007-02-01

06Bd 区：001NR の掘削。東側より灰褐色土層の積層検出始める。中央部より西側の砂層下黒色粘土層より多量の木製品等が出土 (d-049～075)。d-067 切石群。木製品等は注目される。西端トレンチ内より貝層を確認。破砕貝層のため内容詳細は難しいが若干あるいはハマグリのように見える。四トレンチ内の標高は海抜 0m を下回るものの、地下水深度は少ない。月曜日は引き続き黒色粘土層の掘削。地層断面図作成の予定。---2007-02-02



図 3.11 06Bd 区地層断面図 1/50



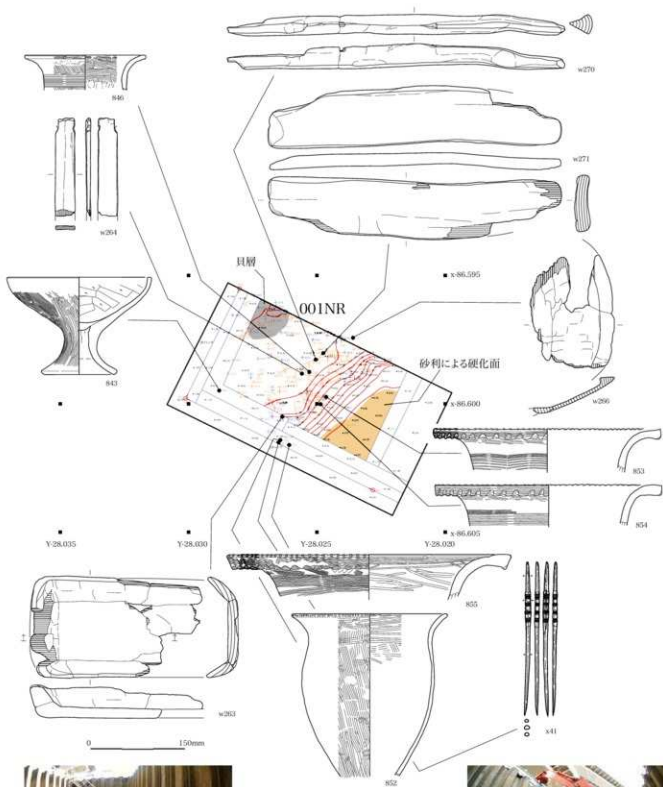


図 3.3-12 O6Bd 区 (谷 A)  
遺物出土状況 1/150



### 3.3.6 06C区

調査区は谷Bが谷Aから分岐し、南東側に流路を変化する場所に位置する。調査区北東部には、谷B左岸である東墓城の西端部に位置する微高地がわずかに見られ、調査区南西に向って急速に傾斜面を形成する。

#### 層序

谷Bに堆積した基本層序は、上から朝日C層・U層・M層と0.3mほどの単位で厚く堆積し、谷B最下層付近には朝日H層を中心とした複雑な砂・シルトの堆積が認められる。

#### 主要遺構

調査区全体が、谷B左岸（東岸）に相当し、西に向って傾斜がきつく、標高0.4m付近からは緩斜面に以降する。谷B下層の砂堆積層までの深さは、基盤シルトが露出する微高地から2mを測る。

谷Bの最下層には砂と黒色シルトが交互に堆積し、多量の土器細片が出土している。ほとんどが二次的なものと思われ、明瞭な遺物の出土状況は山中式期に所属する資料に限定できる。棒状・オール状の木製品などが出土

している。調査区中央部には不定形な大型土坑004SXが存在し、砂・シルトのラミナ状の堆積が認められる。東岸の斜面には003SDと005SDが存在し、墳丘墓に伴う周溝の痕跡と思われる。61M2区SZ185の南東部分に相当する。

#### 小結

谷B左岸に存在する貝田町式期の方形周溝型墳丘墓の縁を破壊する形で流路が形成された。谷Bへの多量の流水は少なくとも中期後半以降である可能性が高い。調査区は谷Aと谷Bが分岐し、61M2区SD8・9に沿って存在するもう一つの流路が合流する地点。山中式期に中に流路の付け替え時期と多量の流水が存在した時期を想定できるようである。

#### Wiki・Blog-memo

06C区：001NR-M・H、003SD、004SXトレンチ掘削を行う。M層下の礫質砂質シルト層をH層として掘削。003SD（原溝墓溝狭欠）を完成。調査区南側谷斜面から東西に広がる落ち込みを004SXとしてトレンチ掘削。底直上の斑土層から高麗期の土器片が多数出土している。001NR-Hと004SXの境界と思われる付近から航列（5本）が検出された。遺物地点取り上げd-048～067。---2007-02-28

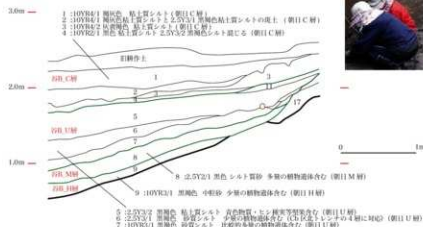


図 3-13 06B区遺物出土地点



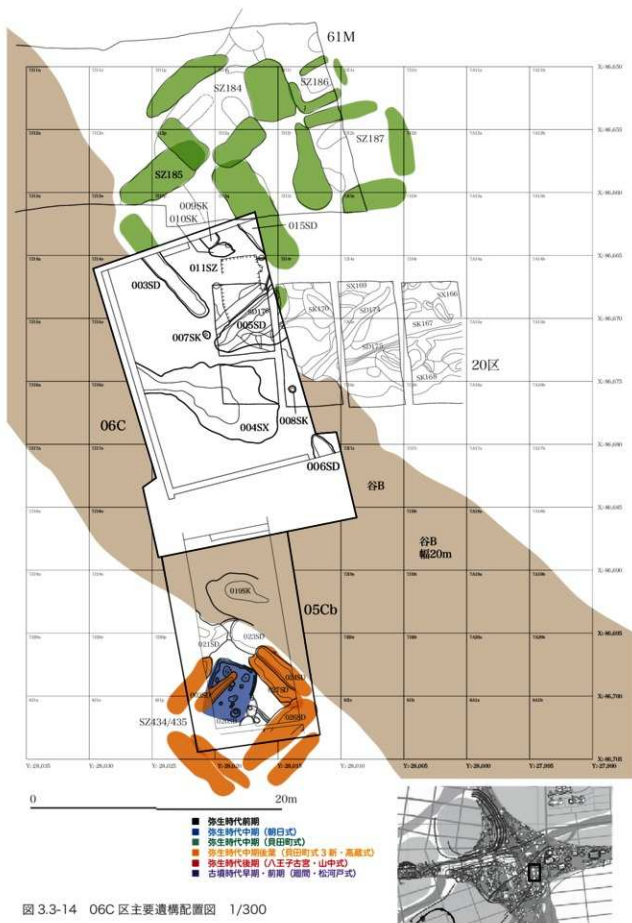


図 3.3-14 O6C 区主要遺構配置図 1/300

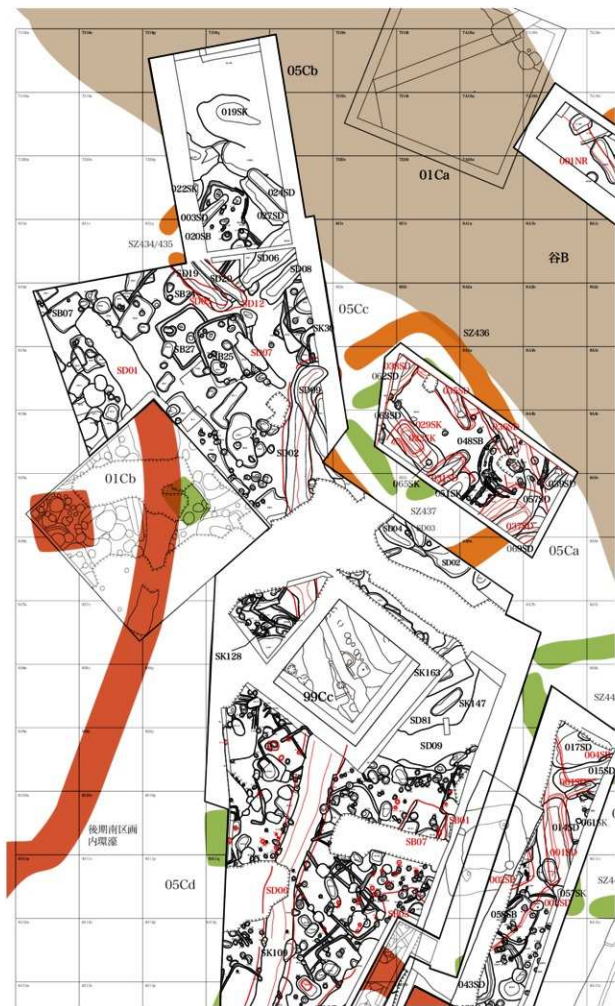
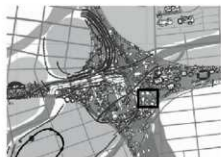
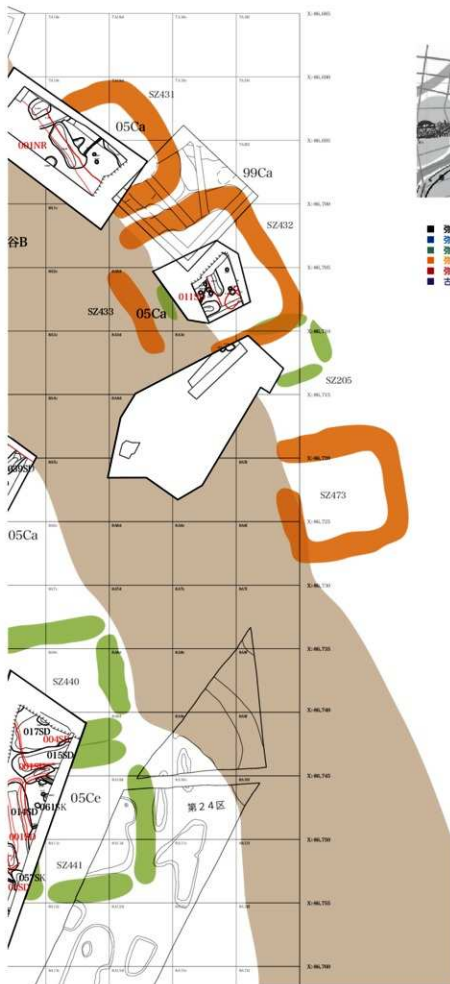


图 3.3-15 朝日C区 谷Bと南区画限濠 1/300



- 弥生時代前期
- 弥生時代中期 (朝日式)
- 弥生時代中期 (貝田町式)
- 弥生時代中期後葉 (前田町式 3 新・高塚式)
- 弥生時代後期 (八王子古宮・山中式)
- 古墳時代早期・前期 (扇岡・松戸式)



図 3.3-16 朝日C区 谷Bと南区画環濠その2 1/300



### 3.3.8 05Ca・Cb・Cc・Cd・Ce区

Ca・Cb区は谷Bの両岸域に位置し、調査区が旧調査区および工事ヤード等の関係から5箇所に分断される。谷B両岸を中心とした地区で、右岸には南区画東端部の環濠が存在する。

#### 層序

朝日T層の上部には0.2mの朝日H層が安定して堆積し、遺構内には朝日M層が比較的厚く(0.3m前後)堆積する。なお、朝日M層とU層の間に中粒砂の堆積が部分的に確認できる。中期の遺物を包含するT層は0.3～0.5m前後でCd区で厚く堆積する。

#### 主要遺構

05Cc区では、調査区西寄りに後期南区画の内環濠SD01が存在し、調査区内で終焉する状況が確認できる。同様に外環濠SD02は谷Bに向かって彎曲して終焉するものと想定したい。谷Bと後期環濠の終焉部に囲まれた特異な空間を想定できる。05Cd-SD06は後期南区画外環濠、SD02の延長に位置し、調査区の中央部を南南西から北北東にゆるやかに蛇行しながら縦断する。溝底の高さが蛇行の折目部を境にして北を高く約0.2mの段差を持つ。05Cc-SU01～10は谷B沿いに帯状に集積した高蔵式期の土器を含む土器群であるが、これらは山中期の環濠の設定とその出入り口付近の整地作業により、二次的に集積したものと推測したい。

中期の遺構群としては、まず谷B両岸に沿って貝田町式から高蔵期の方形周溝墓が展開する。特に右岸には高蔵期の大型方形周溝墓SZ436が存在し、SZ437を取り込んで大きく拡張する形で造営された。このような状況は近接する05Cd区SZ438・SZ439の関係と共通する。SZ436のほぼ中央部には大型の方形墓壇029SKが存在し、2個所の主体

部を検出。その内の032SKは木棺墓で、東隅から頭部の人骨、中央部に屈折した脚部と思われる骨痕跡を確認した。なおその周囲から僅かな赤色顔料の粒子が点在する。調査区北東端に検出した松葺里型円形竪穴建物048SBは、南側にピット列を伴い突出部を付設する可能性がある。

おおむね竪穴建物を中心とした居住域が展開するが、時期は高蔵期を中心に貝田町式後半期に所属するものが含まれる。竪穴建物が方形周溝墓と大きく重複関係が見られるも、その逆はない。朝日遺跡全域に共通するように、墓域から居住域に変遷をたどる地区は存在しない。

#### 小結

Cc区では朝日期に遡る資料も散見するが、遺構としてはSK54のみであり、貝田町式前半期の遺構(SK53・SK30・SB12・SB25・SB24)も少なく、おおむね谷B左岸には貝田町後半期を中心とする遺構群(居住域・墓域)が展開するものと思われる。これに重複する形で谷B両岸には大型方形周溝墓を伴い、高蔵期の墓域が設定された。そして後期になると山中I式期に北区画環濠を掘削し、調査区北端・谷B右岸に出入り口が設定された。なお他の地区と異なる点として、谷B右岸周辺地区の上層には廻間III式後半期から松河戸I式期にかけての竪穴建物が点在。



### 3.3.9 05Cf区

調査区は朝日遺跡南墓域の東端部に位置し、調査区の東側を谷Bが南流する。

#### 層序

他の地区と大きく異なり、朝日遺跡標準層序が確認できず、全体として黒色中粒砂が厚く堆積する状況が確認できる。

#### 主要遺構

調査区北端に見られる溝 003SD とこれに併行する溝 009SD による蛇行溝に区画される形で、高蔵式期の方形周溝墓が展開する。出土遺物はほとんど見られないが、005SD 上層から左図の壺が出土している。こうした高蔵式期の周溝墓群を破壊する形で中粒砂が堆積したことが断面観察から確認できる。その後、009SD 上に方形掘方をもつ墓壇 006SK が存在する。006SK は長軸 2.43m・短軸 1.51m・深さ 0.20m を測り、内部に木棺墓の痕跡を確認することができた。なお、木棺墓は中粒砂で覆い尽くされていた。

#### 木棺墓 004SK

墓壇上から棺内部にかけて中粒砂が堆積し、比較的良好な形で木棺痕跡を確認することができた。棺の形状は小口部と側板が傾斜をもつ槽形木棺と思われる。棺側で厚さ 0.05m 前後を想定でき、長軸 2.23m・短軸 0.92m・深さ 0.18m を測る。ただ複数の板材を組み合わせた構造であった可能性が高い。頭位を南南東に置き、棺内には側板に沿って 2 つの木弓状の木製品が副葬されている。さらに小杭が数カ所木弓に沿って打ち込まれていた。棺上にはほぼ中央部に拳大の河原石(安山岩)の配石が認められる。やや特異な墓壇であり、周囲に区画溝を伴う可能性は見られず、単独の埋葬と思われる。供伴する土器がなく、所属時期は不明瞭であるが、遺構や砂層の堆積状況から後期初頭を測ることは考え難い。

なお、05Cf 区周辺では木弓の出土が集中しており、朝日遺跡南東端での特異なあり方は注目しておく必要がある。

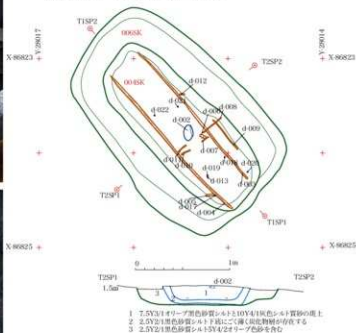


図 3.3-17 05Cf 区 006SK (1/40)



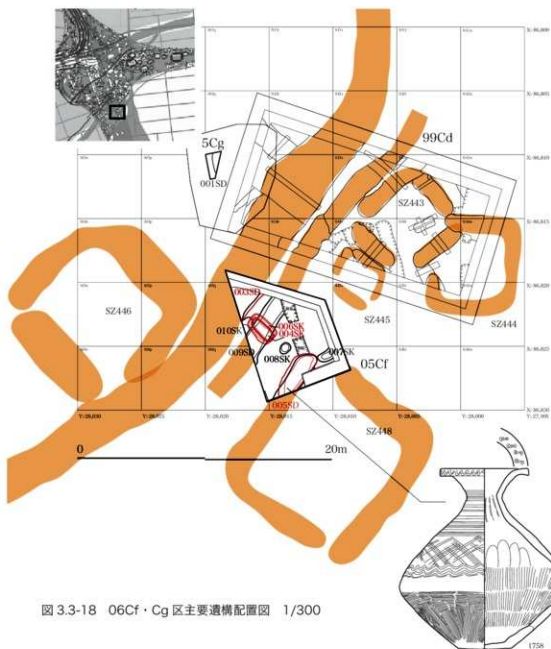
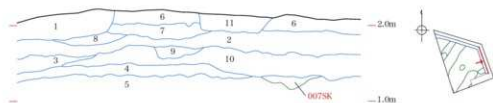


図 3.3-18 06Cf・Cg 区主要遺構配置図 1/300



- 1 5Y4/2灰オリーブ粘土と5Y3/1オリーブ黒色シルト質砂と2.5Y3/1黒褐色砂質シルトと5Y4/3暗オリーブ粘土の混土(腐植物・酸化鉄少量含む)
- 2 7.5Y4/1灰色中粒砂5Y3/1オリーブ黒色砂質シルトを少量含む
- 3 5Y2/1黒色砂質シルト
- 4 5Y2/1黒色シルト5Y4/2灰オリーブ砂質シルトをブロック状に含む(腐菌菌通土の再層積)
- 5 5Y4/2灰オリーブ色中粒砂5Y3/1オリーブ黒色砂質シルトを少量含む(朝DG層)
- 6 7.5Y3/2オリーブ黒色砂質シルト腐植物・酸化鉄分含む
- 7 5Y3/2オリーブ黒色砂質シルト酸化鉄分・灰化物少量含む
- 8 5Y3/1オリーブ黒色砂質シルトと5Y3/2オリーブ黒色砂質シルトの混土
- 9 7.5Y4/1灰色中粒砂と5Y3/1オリーブ黒色砂質シルトの混土(灰化物少量含む)
- 10 5Y2/1黒色砂質シルト7.5Y4/1灰色中粒砂少量含む
- 11 5Y4/2灰オリーブ粘土と5Y3/1オリーブ黒色シルト質砂と2.5Y3/1黒褐色砂質シルトと5Y4/3暗オリーブ粘土の混土(腐植物・酸化鉄少量含む)

図 3.3-19 06Cf 区地層断面図 (1/50)

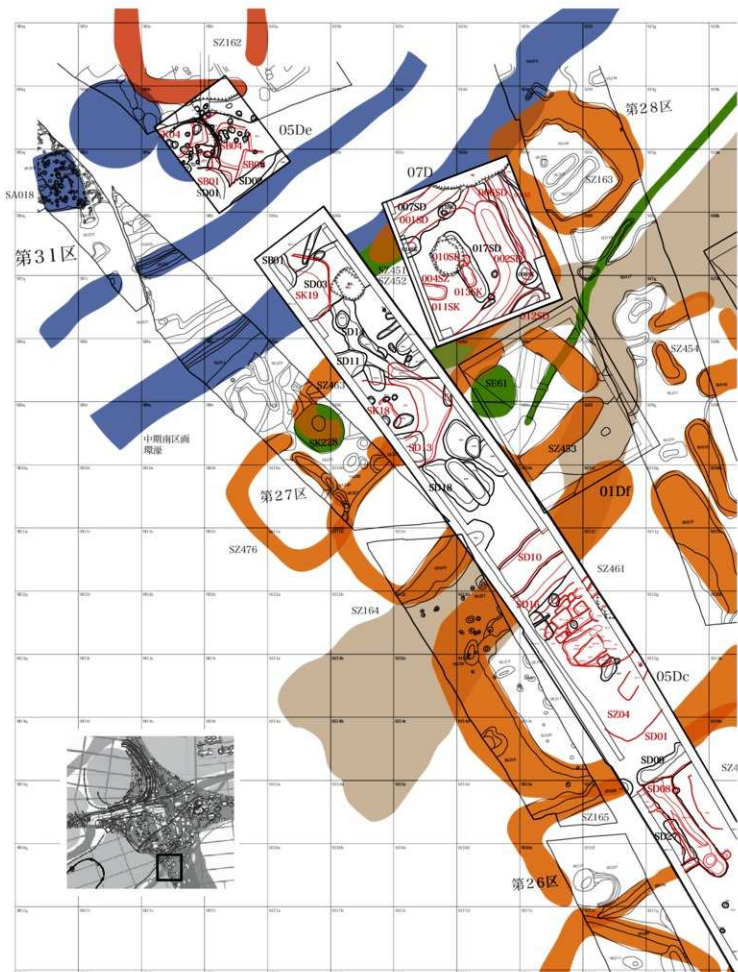
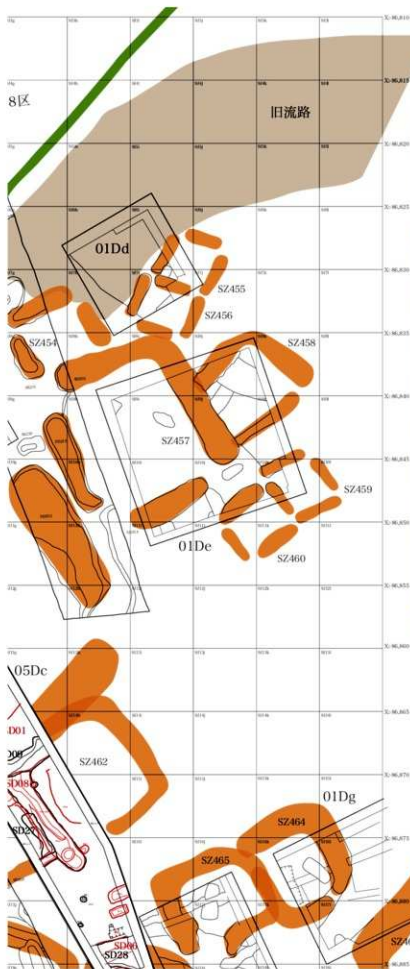


图 3.3-20 朝日D区 1/300



05Dd-SZ168



- 弥生時代前期
- 弥生時代中期 (朝日式)
- 弥生時代中期 (具田町式)
- 弥生時代中期後葉 (貝田町式 3 期・高森式)
- 弥生時代後期 (八王子古墓・山手式)
- 古墳時代早期・前期 (福岡・松河戸式)

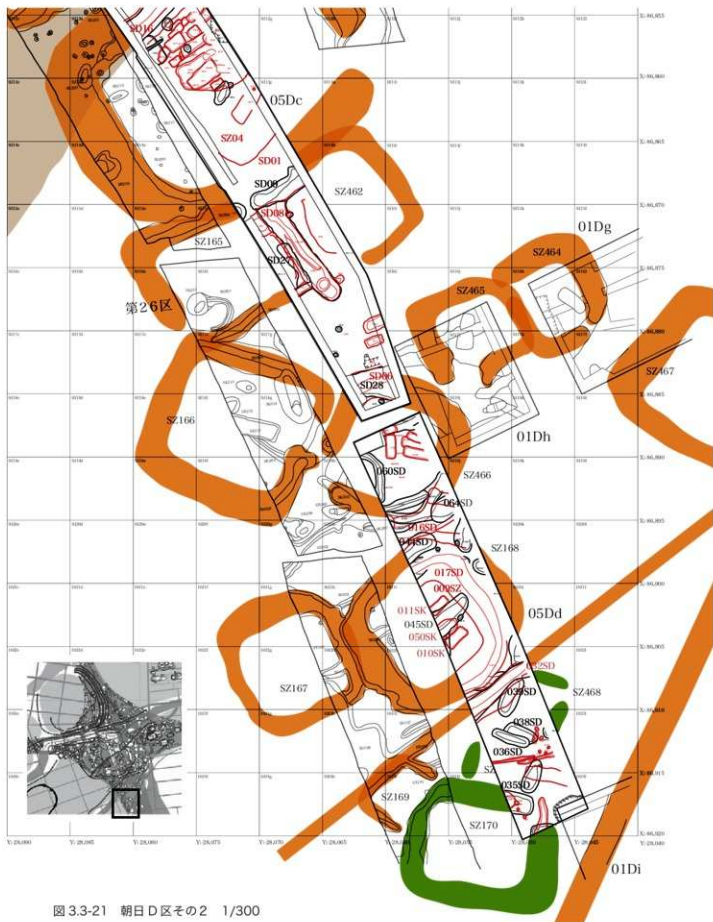


図 3.3-21 朝日D区その2 1/300

### 3.3.10 05Dc・05Dd・07D区

調査区は、朝日遺跡中期南区画を画する環濠に近接する位置で、この大溝を境としてその南側には方形周溝墓群（南墓域）が展開する地区となる。

#### 層序

05Dc区SD10東壁において朝日標準層序を検討した。ほぼ安定して朝日H層・M層が0.2mほど堆積し、方形周溝墓に伴う溝と盛土による凹凸が明瞭に確認できる。なおSZ461とSZ452との間には砂層の堆積(後期)が認められ、遺構が大きく削りとられ、朝日H・M層が厚く堆積する状況が確認できる。方形周溝墓群の墳丘部を縫う形で、流水による砂層が堆積している。

#### 主要遺構

05Dc区北隅に存在する溝SD03（南区画・中期環濠）をさかいにして、その南側には広く方形周溝墓群が展開する。SD03は弥生時代中期前葉（朝日式期）に掘削された溝で、朝日遺跡谷C左岸に展開する集落遺跡の南限を区画する溝として考えられている。遺物出土量はこの溝を境にして大きく異なり、南側では激減する。SD03下層に存在するSD32は、掘削時期が朝日式期に遡る可能性が高い。遺物の出土は希少であるものの、弓片や部材と考えられる木製品などが出土している。南側に広く展開する南墓域に築造された方形周溝墓は、おおむね高蔵式期を中心にして展開するものであるが、貝田町式3期に所属する方形周溝墓と一部に重複関係がみられる。特に注目される遺構としては、調査区中央部付近に存在するSZ461（05Dc-SZ04）がある。規模的にも比較的大きなものであるが、さらに墳丘上には複数の重複する主体部が存在する。

方形周溝墓SZ463（05Dc-SZ09）は北溝にはやや不定形な陸橋部が認められ、陸橋部西

#### Wiki・Blog-memo

05Dc: SZ462については、L字型の周溝墓であるが、西周溝の再整備が認められ、その際に西溝中央部に陸橋部が存在し、B1型を呈する可能性が高い。

南区画中期環濠であるSD03は、貝田町式新段階に溝内に遺跡跡の出土部が見られる。出土部は、北側をSD32の埋土を削り出す形で、かつ南側を地山を掘った土を盛り上げる形でつくられている。出土部の東側には堀根をほじめとする土器類とともにイノシシ下顎骨が出土している。一方、出土部の西側には細い木片が並んで出土している。

側で溝内埋葬と推測できるSK21を検出した。SK21からは打製石剣・赤色顔料が付着する摺石・磨製石斧片および粗製有孔鉢がまとまって出土している（高蔵期）。07D区を中心にしてSZ451・452が存在する。SZ451（貝田町式）を大きく東側に拡張する形で盛土し、規模を拡大させる（SZ452高蔵期）。その後中央部付近には複数の埋葬主体が存在する。その内の07D-013SKからは人骨痕跡が確認できた。05Dd区中央部には良好に盛土が残存した方形周溝墓SZ168が見られる。複数の埋葬主体が存在する。その南側には溝032SDが存在し、この溝を境にして高蔵期の遺構群は見られなくなる。

#### 小結

南区画中期環濠以南には、高蔵式期を中心とした墳墓の拡幅等を伴う方形周溝墓群が展開する。遺跡の南限とした01Di区の溝までの100m幅の中に、南墓域が形成されている。05Dc区北端での方形周溝墓下層には、井戸や土坑を伴う貝田町式を中心とする遺構群が展開する。なお、廻間様式以降の遺構および遺物の出土はほとんど確認できない。

#### Wiki・Blog-memo

07D区: 朝日H層の堆積層を溝溝に削って除去した段階で、興味深い資料を得ることができた。調査区中央部には04SZ2盛土が明瞭に堆積するが、その北東に存在する陸橋部周辺から山中1式初瀬段階の高杯が出土し、特にd-004・008は陸橋部に配置された状態で発見された。また陸橋部は基礎シルトと黒褐色シルトの混合埋土により丁寧に付設されたものであった。山中式高杯の土器配置は、遺跡内各所の墳丘でも確認できており、墓前部のあり方を考える上で大変興味深い事例と思われる。



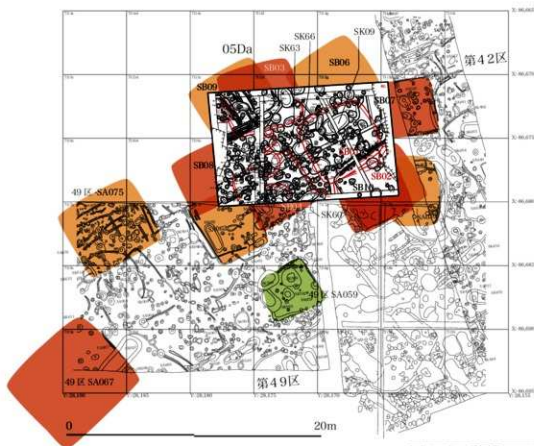
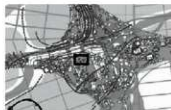


図 3.3-22 05Da区 1/300



### 3.3.11 05Da区

谷A左岸の南区画・後期内環濠に近接してその内部に位置する調査区。

#### 層序

朝日T層が0.7mと厚く堆積し、遺物の包含も著しい。その上部には朝日H層・M層が0.1mと水平堆積する。

#### 主要遺構

SB01をはじめ、その多くが八王子古宮式から山中I式に所属する方形プランをもつ竪穴建物が展開する地区である。特に竪穴建物SB08は壁周囲に不規則に小ピットを巡らせ、北辺に並行し約1m内側に複数の周溝を持つ。竪穴建物SB09は東辺に並行する多条の小ピットを伴う周溝がみられ、これらを建物拡張の痕跡と見做せば、5回前後(約4m)

の拡張が行われたことになる。なお南辺にも4条の周溝が認められたが、拡張幅は1m以内にとどまる。SB10は地山面にほぼ垂直に掘り込まれた掘方と、北壁と小ピットを伴う周溝が明確に検出された。床面のほぼ全面に、地山の淡黄色シルトを細かく突き崩し黒色土と混合して用いた版築状の貼り床が複数面確認され、その層厚は全体で0.2m近くに達する。竪穴建物周囲には主軸を同じくする土坑(SK09・SK60・SK97)を伴う。土坑内は大量の土器片の他、焼土・灰・炭化物で充填されていた。

なおSB01・03・04が配置された、その間にSK63が存在し、鹿が描かれた筒形土器が出土している。



図 3.3-23 05Db 区 1/300

- 弥生時代前期 (朝日式)
- 弥生時代中期 (貝田式)
- 弥生時代中期 (貝田式)
- 弥生時代中期後葉 (貝田式3新・高藏式)
- 弥生時代後期 (八王子古宮・山中式)
- 古墳時代早期・前期 (廻間・松河戸式)

### 3.3.12 05Db 区

南区画 - 後期環濠内の中央部南端に設定した小規模な調査区で、後期内環濠まで15m、中期環濠まで55mの場所に位置する。

#### 層序

0.2m ほどの朝日H層と0.4m から0.5m ほどの中期を中心とした整地層 (朝日T層) が厚く堆積し、遺物の包含も著しい。

#### 主要遺構

後期に所属する遺構は、明確に把握できないものの竪穴建物が数棟錯綜する形で存在するようであり、その下層には中期の居住区が存在する。主体は高藏式期を中心としており、

楕円形・方形を呈する竪穴建物が数棟重複ないし建直し等の状況が認められる。なお最終加工面においては朝日式期に遡る土坑等の遺構も確認できている。

調査区周辺は、中期から後期に至るまで数度の整地と造成面が繰り返見られる場所であり、明確な遺構の把握は極めて困難な状況である。出土遺物も整地に伴う碎片化が著しく遺構との整合性は確認が難しいものが多い。



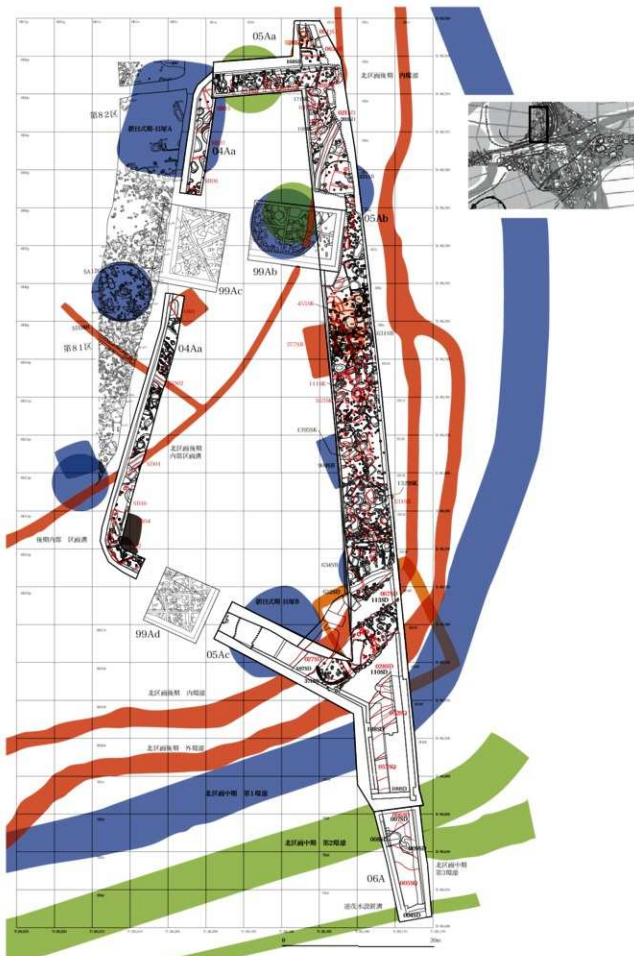


图 3.3-24 北区图 (04Aa·05A·06A 区) 1/500

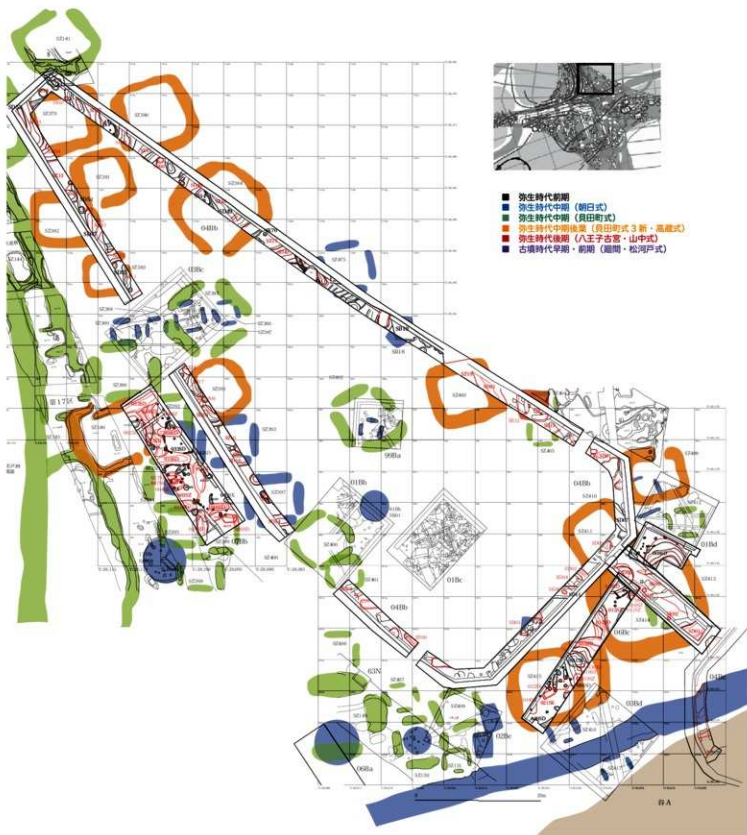


图 3.3-25 北墓城 (04B・06Bc・07Bb 区) 1/600



图 3.3-26 谷 B 周边 (05C 区) 1/500

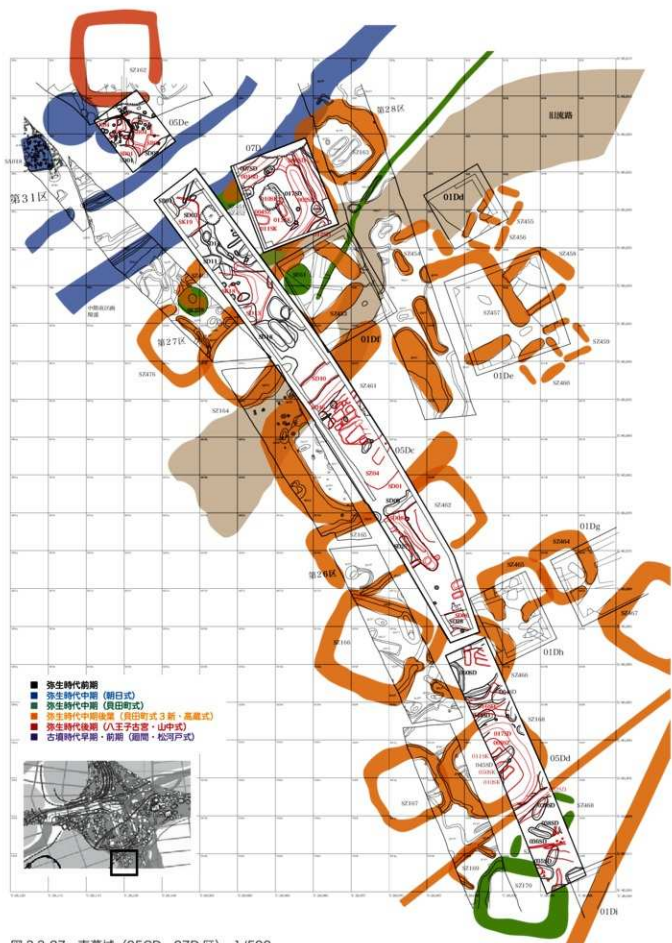


图 3.3-27 南基域 (05CD·07D 区) 1/500

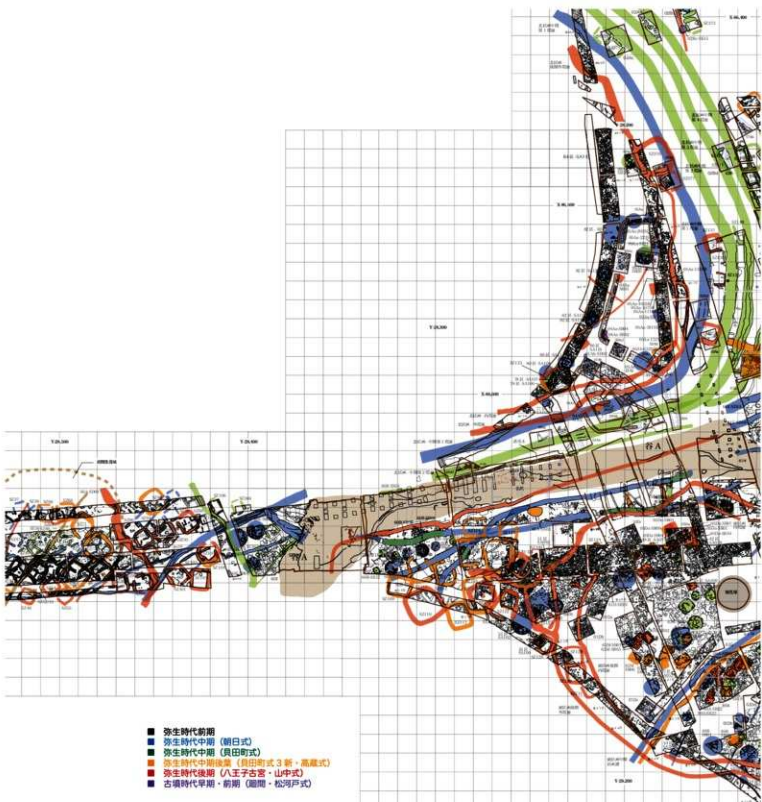
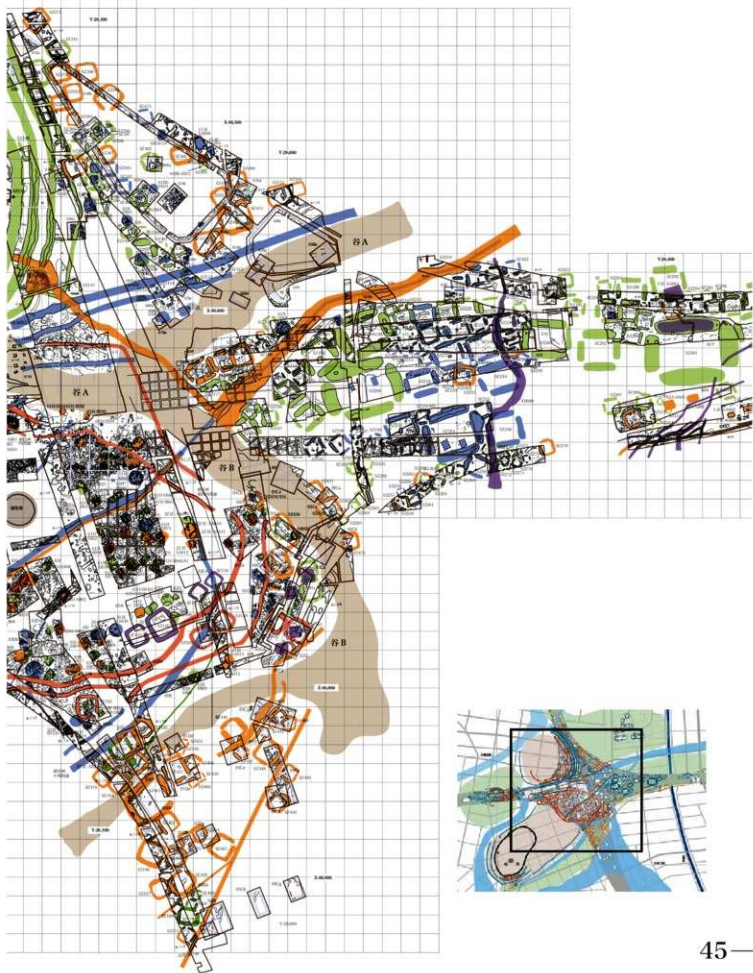


圖 3.3-28 朝日遺跡主要遺構配置圖 1/2000





### 3.4 主要遺構の概要

各調査区において、朝日遺跡を評価する上で重要と思われる主要遺構について、A区からD区の順にまとめて整理することにした。ここではできるだけ一括遺物・供伴遺物の総合的な提示を優先させることにし、明らかな重複遺構等の混入もそのまま掲載する。

#### 3.4.1 A区の遺構

##### 3.4.1.1 04Aa-SB02・SB04

04Aa区南端付近に集中して検出した竪穴建物群。朝日H層を基本に遺構面を形成する。所属時期は廻間I式前半期であり、比較的まとまって遺物が認められる。SB02は長軸2.98m・短軸は調査区内1.58m・深さ0.20mで、SB04は長軸4.56m・短軸は調査区内2.14m・深さ0.14mを測る。

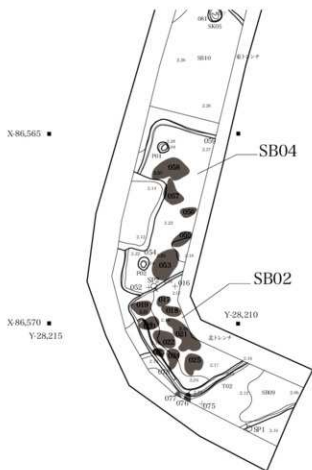
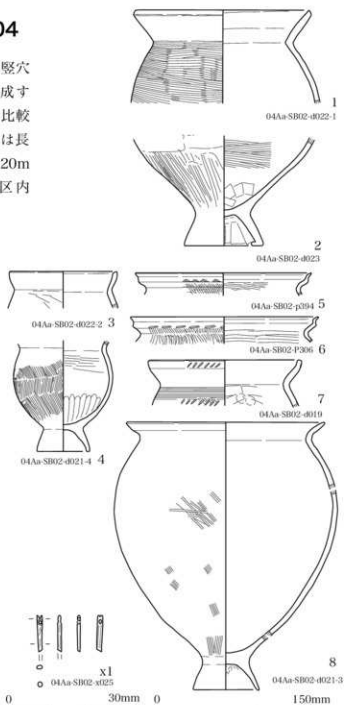
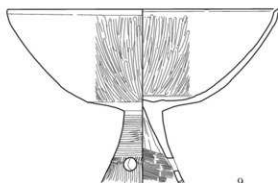


図 3.4.1-1 04Aa-SB02・SB04 1/100

#### 04Aa-SB02\_1

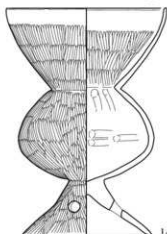






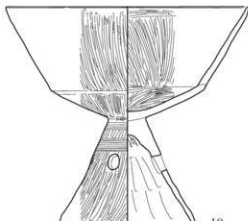
9

04Aa-SB02-0021-2



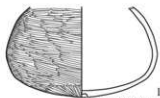
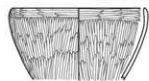
14

04Aa-SB02-0016



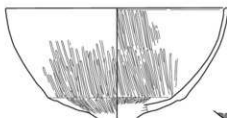
10

04Aa-SB02-0021-1



15

04Aa-SB02-0018



16

04Aa-SB02-0017



11

04Aa-SB02-0022-2.3



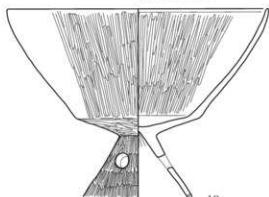
13

04Aa-SB02-0024



17

04Aa-SB02-0021-5



12

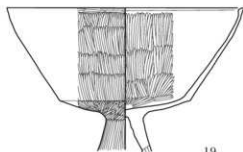
04Aa-SB02-0021-6



18

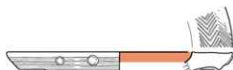
04Aa-SB02-0021-7

04Aa-SB04



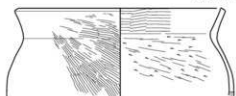
19

04Aa-SB04-d052



27

04Aa-SB04-d059



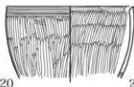
28

04Aa-SB04-d057-1



20

04Aa-SB04-d053-3



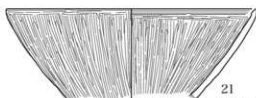
26

04Aa-SB04-d053-1



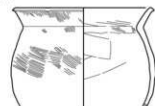
29

04Aa-SB04-d057-3



21

04Aa-SB04-d057-2



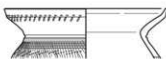
30

04Aa-SB04-d056-2



22

04Aa-SB04-d058-3



31

04Aa-SB04-d058-1



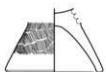
23

04Aa-SB04-d056-1



32

04Aa-SB04-d055-2



24

04Aa-SB04-d058-2

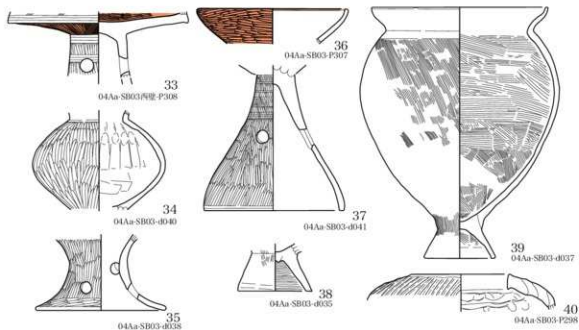


25

04Aa-SB04-d053-2

0 100mm

04Aa-SB03

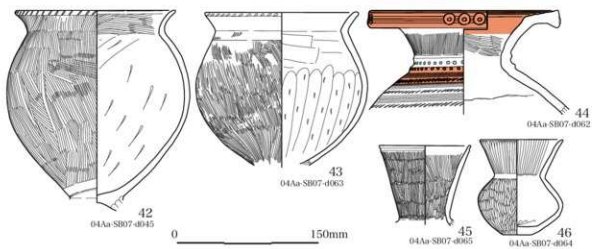


0 50mm

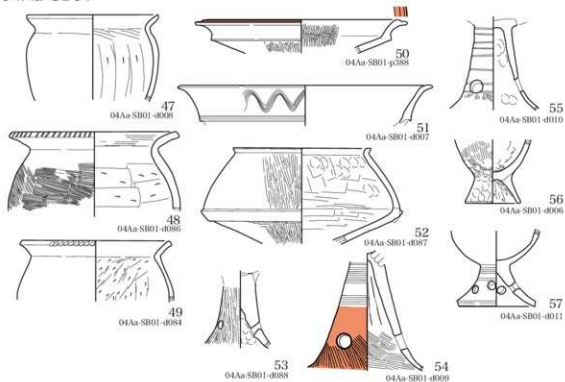


壺体部のほぼ中央部付近の破片資料で外面は土がき

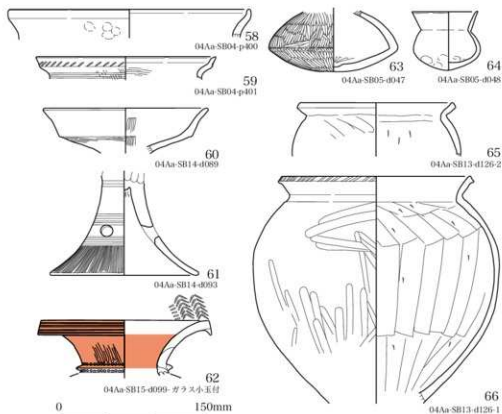
04Aa-SB07



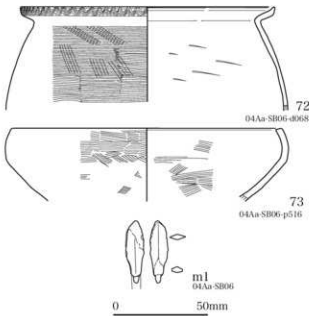
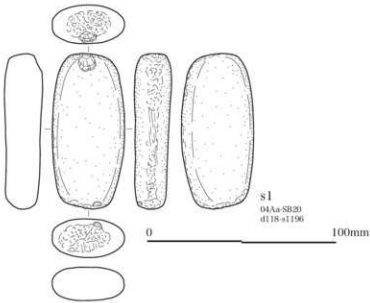
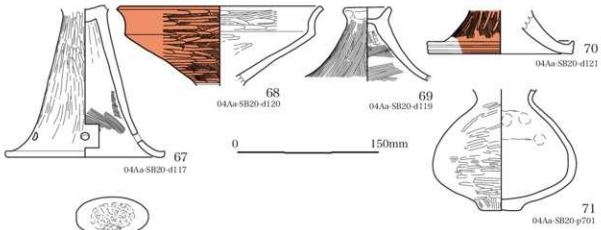
04Aa-SB01



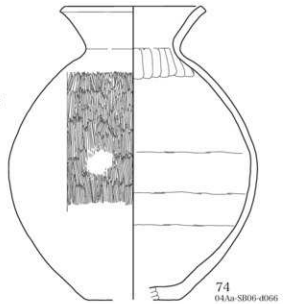
04Aa-SB04-05-13-14-15



04Aa-SB20



04Aa-SB06





04Aa- 貝塚 A

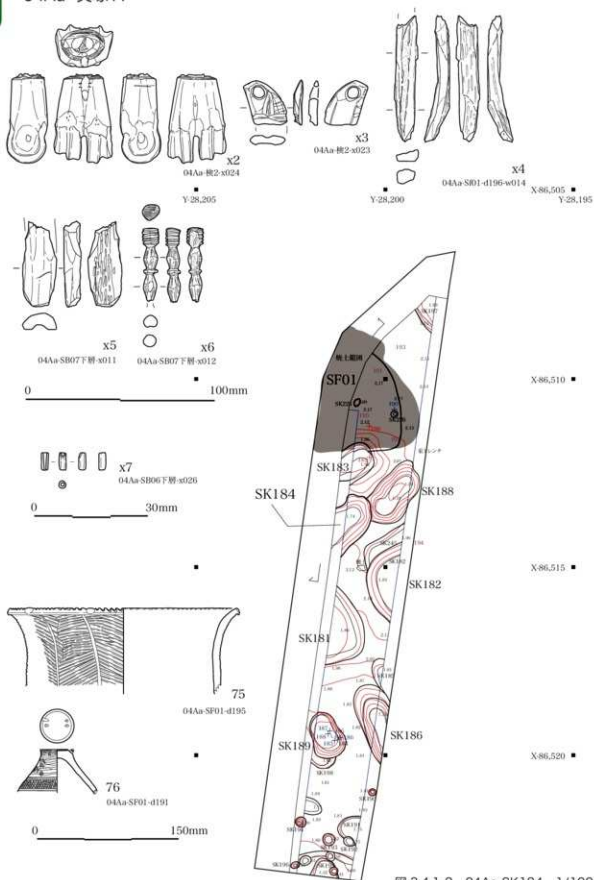
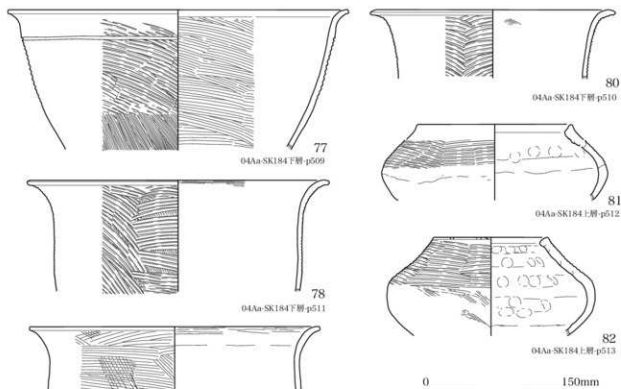


図 3.4.1-2 04Aa-SK184 1/100

## 04Aa-SK184



SK184は04Aa区北端に存在する土坑群の一つで、長軸1.37m以上で短軸が1.04m深さが0.44mを測る。多量の炭化物・貝等を含む堆積が認められる。朝日式1期に所属。遺構の検出面付近には、広く腐食貝層が0.3m前後ほど堆積する状況が確認できる。調査区に近接した第82区では最終加工面に遺構が認められず、05Ac区と同様に朝日式期の貝塚状の高まり（貝塚A）が長く存在したものと推測できる。貝塚周辺部に焼土面や土坑群が展開していく様子がうかがえる。

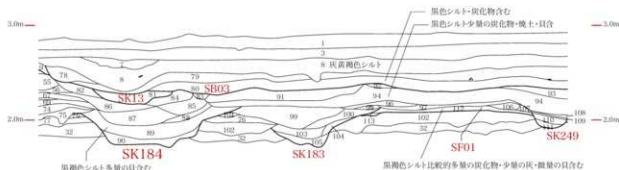


図 3.4.1-3 04Aa-SK184 付近断面図 1/40





### 3.4.1.2 04Ab-SD01・SD02

北区画南側の谷A右岸に位置する04Ab区では、後期内環濠SD03と後期外環濠SD01が北区画内側に向かって凹み部を形成する特異な空間を形づくっている。さらにその南側には溝状のSD02が併行して設置されている。なおその下層には重複して貝田町式3期新の大型土坑SK03が存在する。SD01-3層を中心として多量の遺物が出土し、SD02では4層を中心として土器・木製品などの遺物が集中する。両者とも基本は山中I式期を中心とする遺物群である。

溝は逆台形状を呈し、SD01は幅5mで深さ1.72mを測る。SD02は溝幅が2.83mで深さ1.39mを測る。SD01-1層は朝日M層が堆積し、松河戸式期の遺物が出土している。2・3層は朝日H層で山中I式期の良好な一括資料。SD02も同様であり、最下層の4層は八王子古宮式から山中I式初頭段階に所属する堆積層と思われる。いずれにしる後期環濠の掘削が、八王子古宮式の新しい段階から山中I式初頭段階に求めることができる。

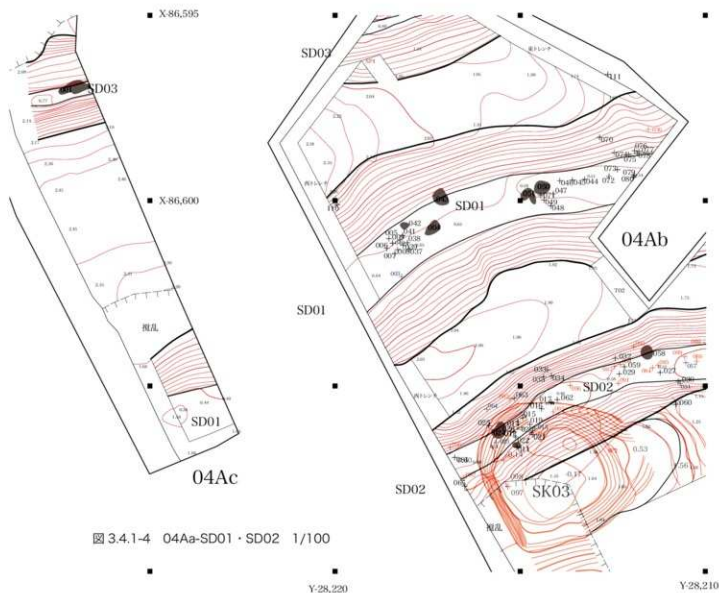
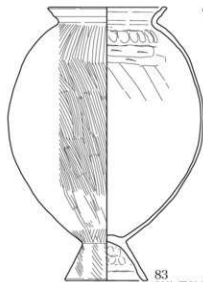
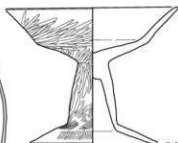


図 3.4.1-4 04Aa-SD01・SD02 1/100



83  
04Ab-SD01-1册-0004-1



84  
04Ab-SD01-1册-0004-2

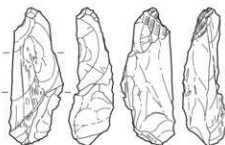
04Ab-SD01\_1



85

04Ab-SD01-1册-0003

0 150mm



x8  
04Ab-SD01-1册-x0027



x9  
04Ab-SD01-2册-x0028



x10  
04Ab-SD01-2册-x0038



x11  
04Ab-SD01-2册-x0039



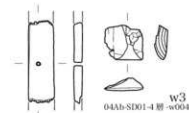
x12  
04Ab-SD01-3册-x0029

0 100mm



0 150mm

w1  
04Ab-SD01-3册-w003

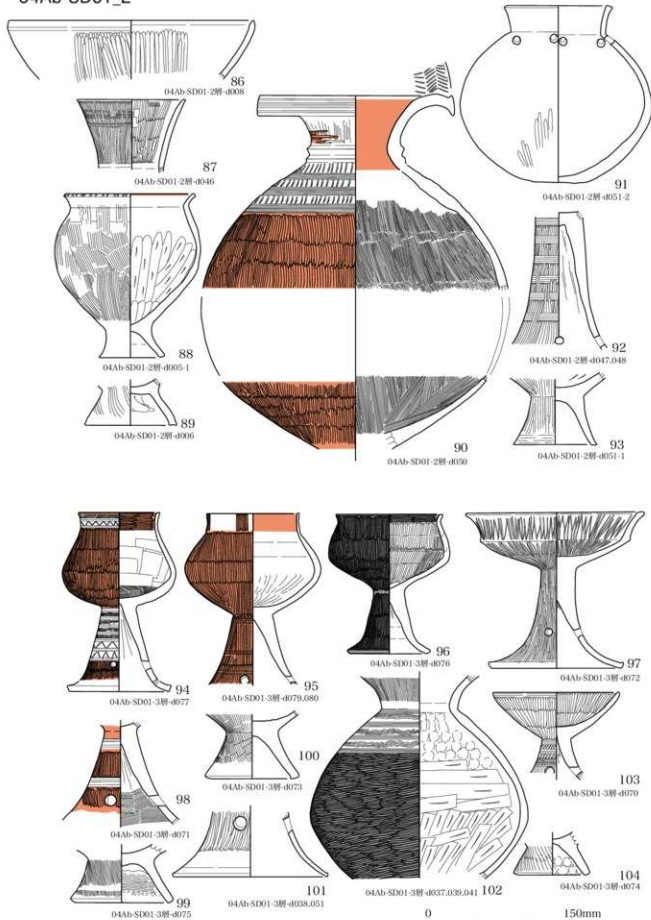


w2  
04Ab-SD01-3册-w005

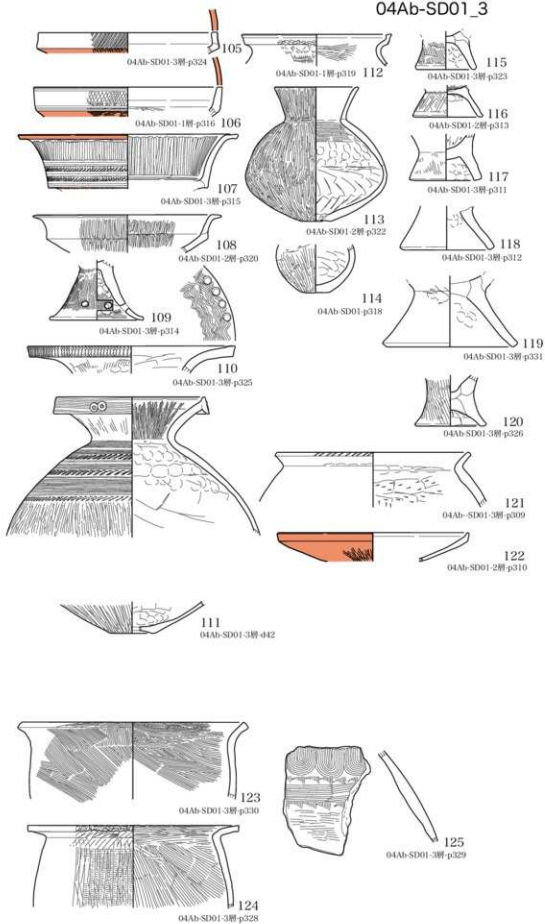


w3  
04Ab-SD01-4册-w004

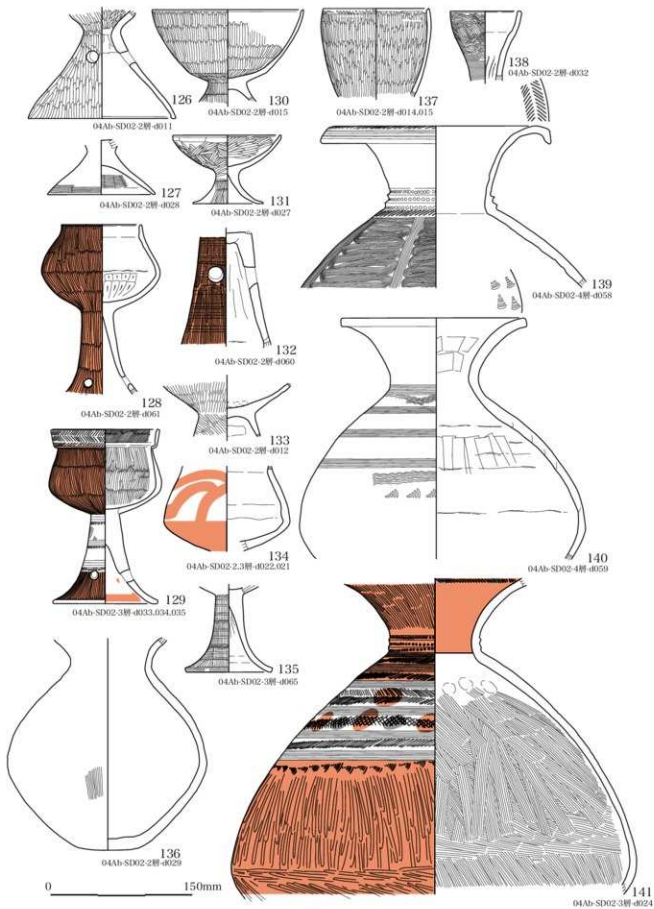
04Ab-SD01\_2



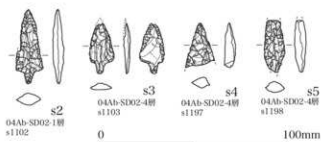
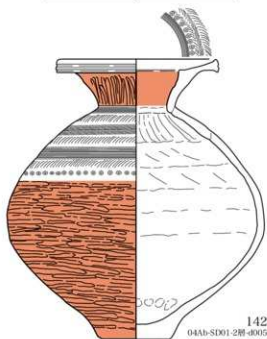
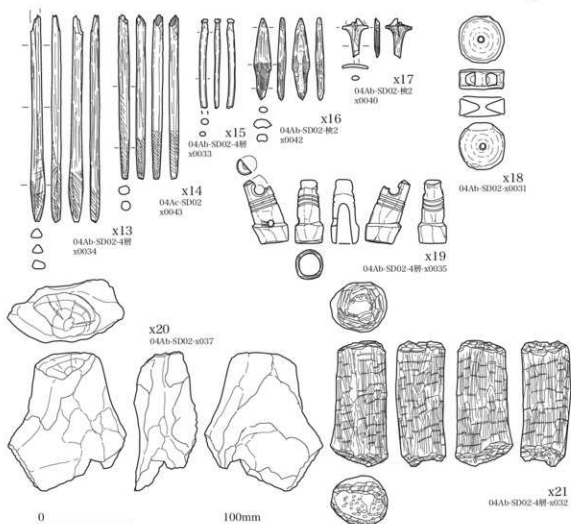
04Ab-SD01\_3



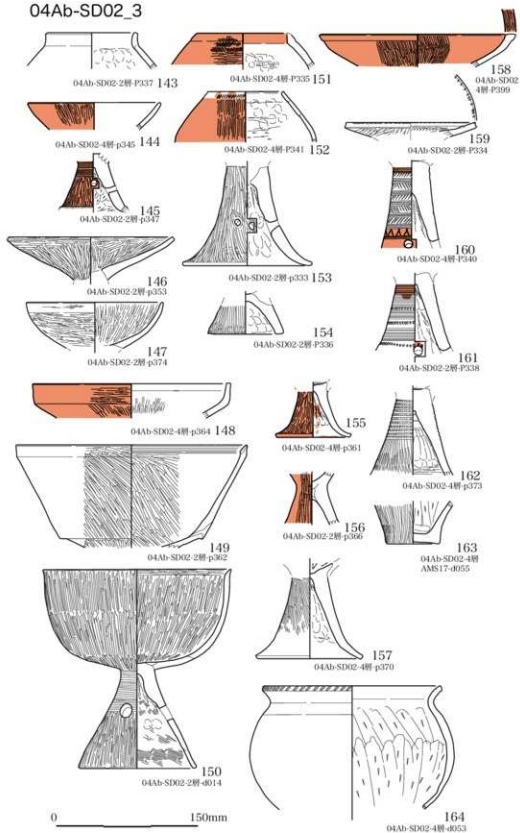
04Ab-SD02\_1



04Ab-SD02\_2

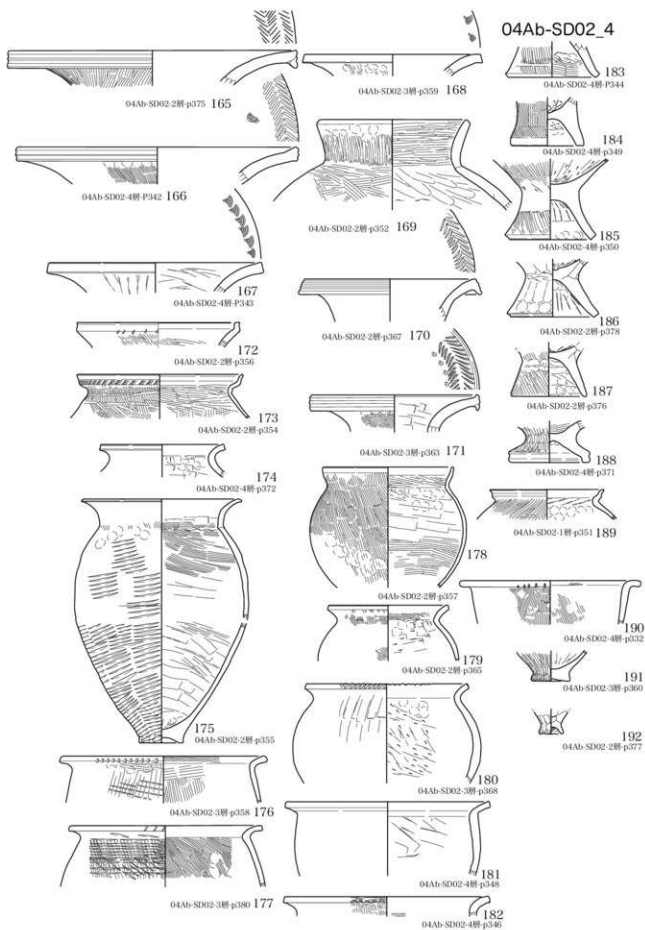


04Ab-SD02\_3

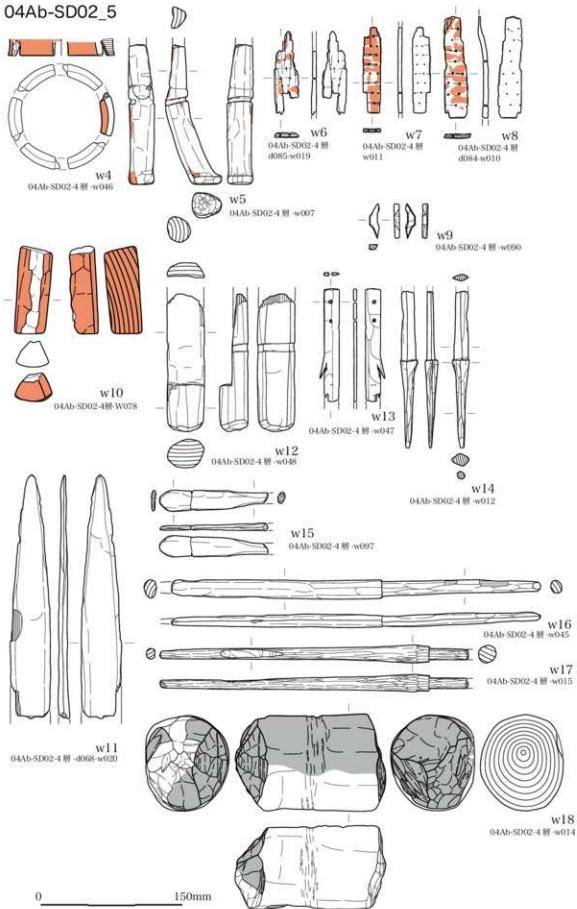




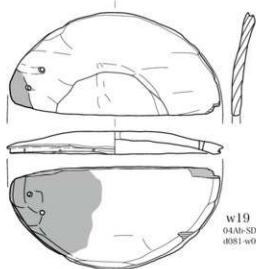
04Ab-SD02\_4



04Ab-SD02\_5

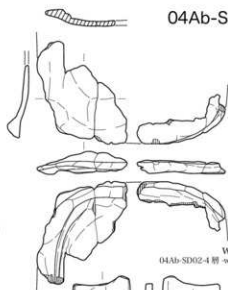


04Ab-SD02\_6

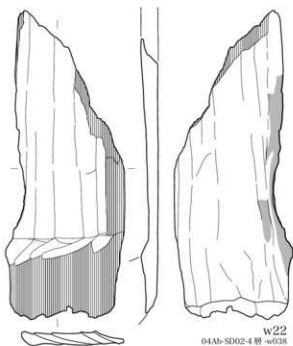


w19  
04Ab-SD02-4層  
-0851-w006

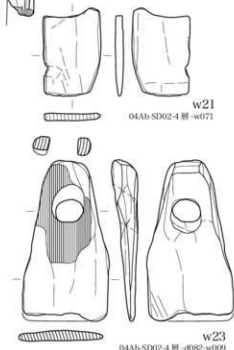
0 150mm



w20  
04Ab-SD02-4層-w013



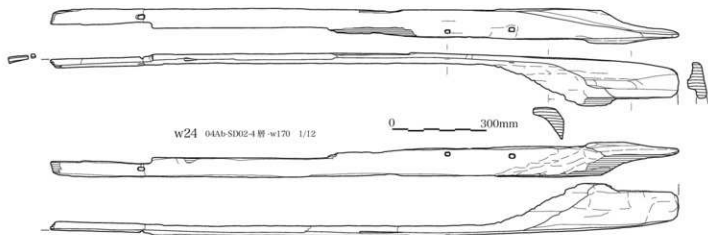
w22  
04Ab-SD02-4層-w038



w21  
04Ab-SD02-4層-w071



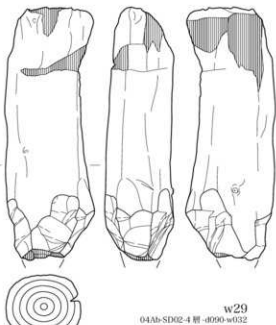
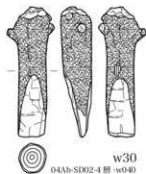
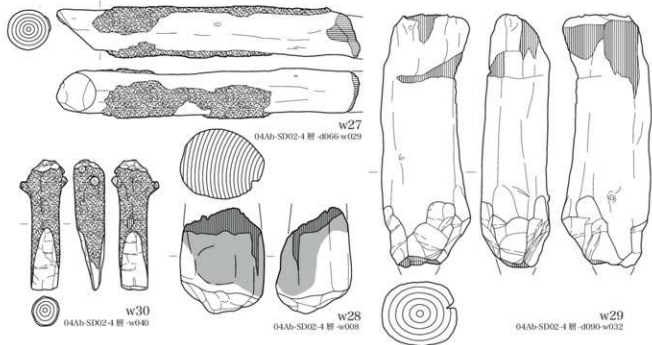
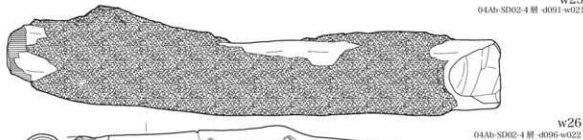
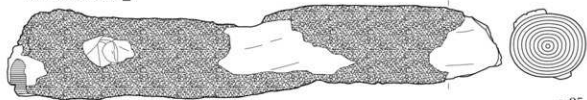
w23  
04Ab-SD02-4層-0882-w009



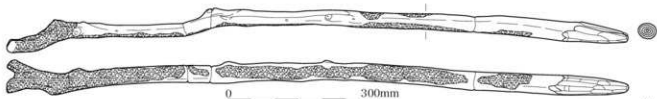
w24 04Ab-SD02-4層-w170 1/12

0 300mm

04Ab-SD02\_7



0 150mm

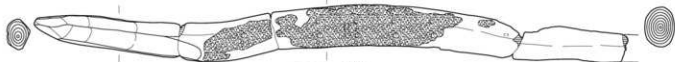


0 300mm

04Ab-SD02\_8



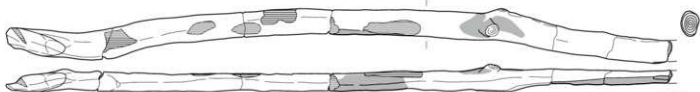
w32  
04Ab-SD02-4 册-w083



w33  
04Ab-SD02-4 册-w084



w34  
04Ab-SD02-4 册-w086



w35  
04Ab-SD02-4 册-w089



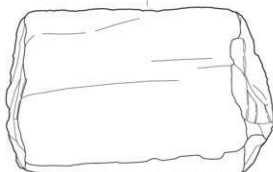
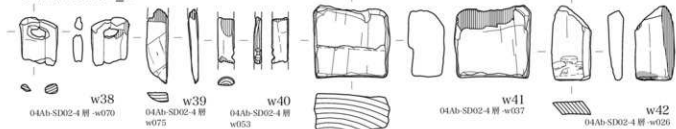
w36  
04Ab-SD02-4 册-w141



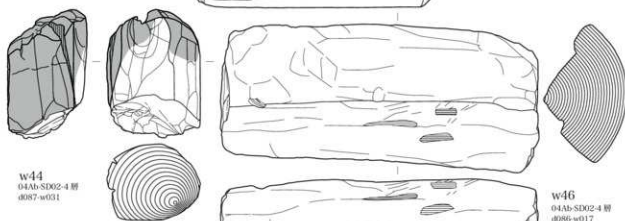
w37  
04Ab-SD02-4 册-w129



04Ab-SD02\_9



w43  
04Ab-SD02-4 層 -d067-w016

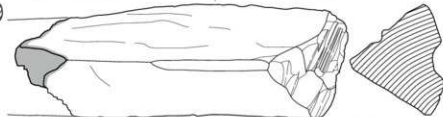


w44  
04Ab-SD02-4 層  
d087-w031

w46  
04Ab-SD02-4 層  
d086-w017



w45  
04Ab-SD02-4 層 -w080



w47  
04Ab-SD02-4 層 -w039



0 150mm

### 3.4.1.3 04Ab-SK03・SD10



SK03は北区画後期環濠とその関連遺構の下層で発見できたやや大型の土坑。調査区のほぼ中央部に存在し、重複する形で中期北区画第1環濠SD01が存在する。2.43×2.07mで深さ1.01mを測る。貝層が堆積する上層と黒色のシルトが堆積する下層に区分し、遺物の多くは下層より木製品を伴って大量に出土している。貝田町式3期新の一括資料。なお昆虫化石の分析からは食糞性昆虫や食肉・雑食性昆虫が見つかった。重複するSD01は調査の経緯からその一部しか発掘調査していないが、深さ0.91mを測る。なおSD01として掲載した出土遺物の多くはSK03との重複部分からの取り上げ資料である。

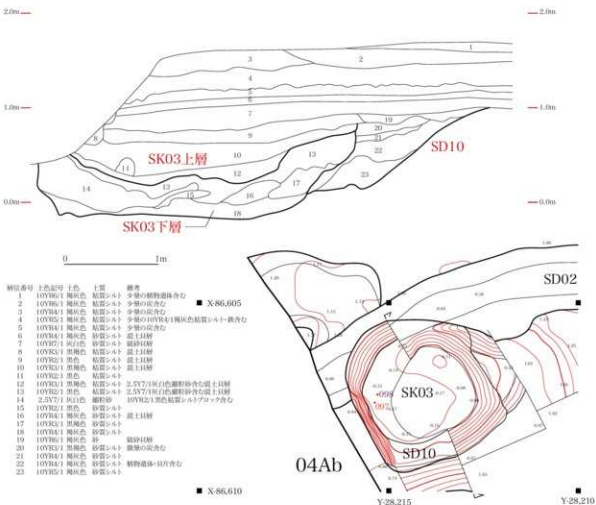
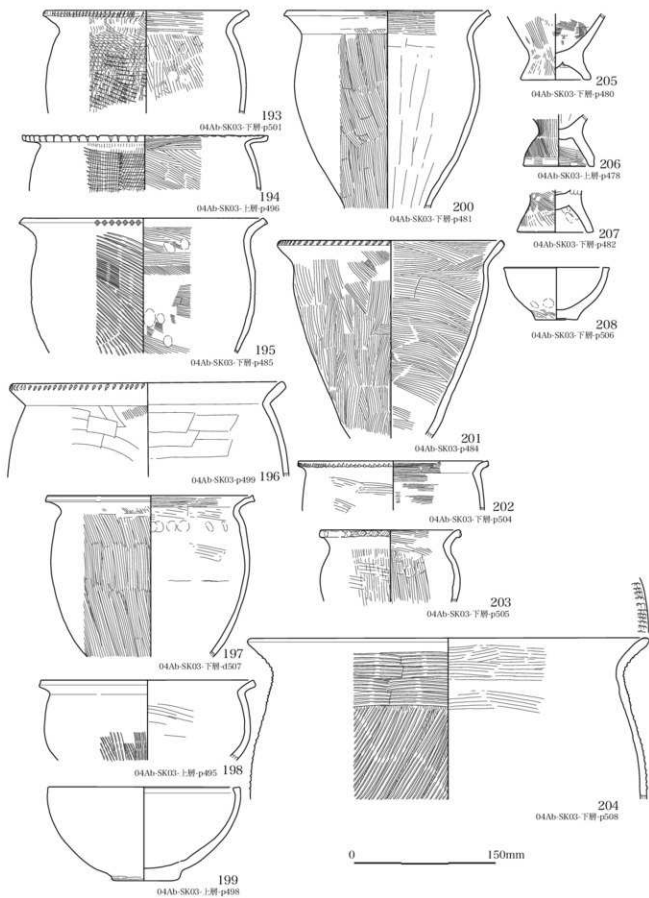
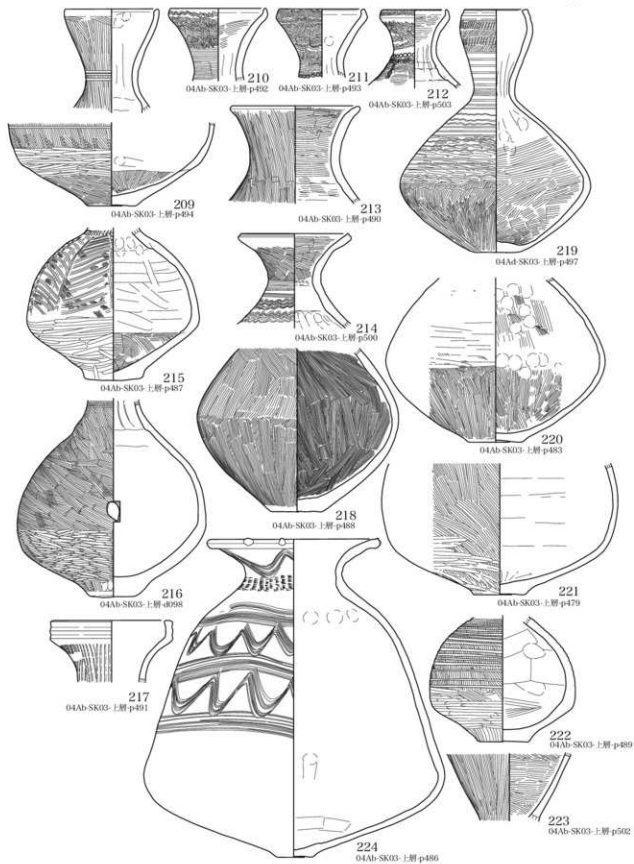


図 3.4.1-5 04Aa-SK03 1/100 断面図は 1/40

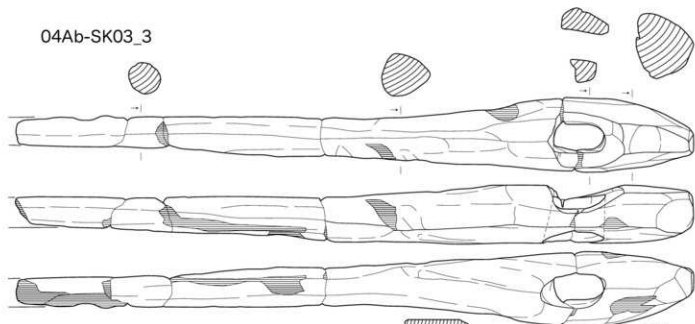


04Ab-SK03\_1



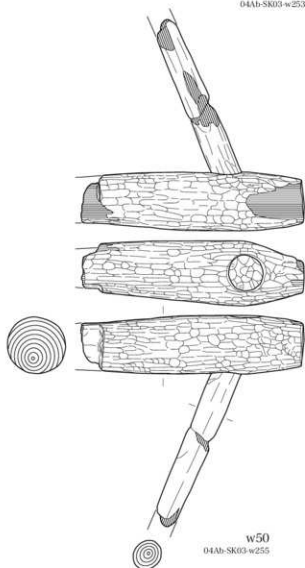


04Ab-SK03\_3



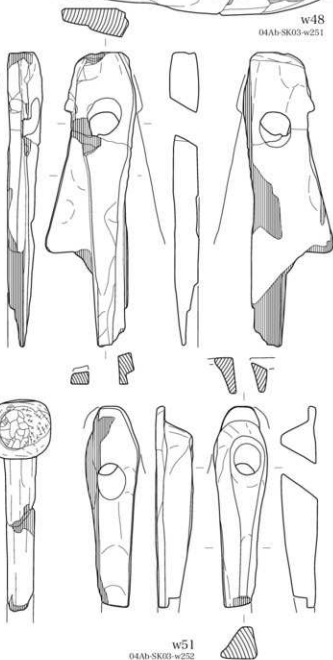
0 150mm

w49  
04Ab-SK03-w253,254



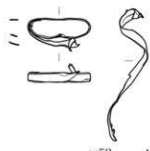
w50  
04Ab-SK03-w255

w48  
04Ab-SK03-w251



w51  
04Ab-SK03-w252

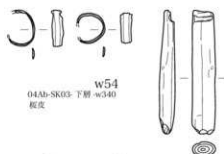
04Ab-SK03\_4



w52  
04Ab-SK03-上層-w306  
板皮



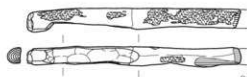
w53  
04Ab-SK03-下層-w339  
板皮



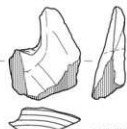
w54  
04Ab-SK03-下層-w340  
板皮



w55  
04Ab-SK03-上層-w397



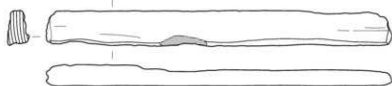
w56  
04Ab-SK03-w267



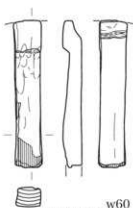
w57  
04Ab-SK03-w281



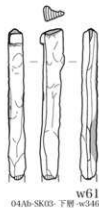
w58  
04Ab-SK03-上層-w308



w59  
04Ab-SK03-下層-w354



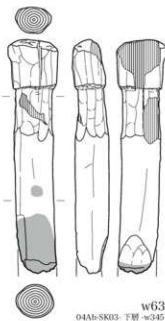
w60  
04Ab-SK03-下層-w343



w61  
04Ab-SK03-下層-w346



w62  
04Ab-SK03-下層-w362

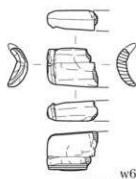


w63  
04Ab-SK03-下層-w345

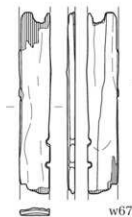


w64  
04Ab-SK03-下層-w344

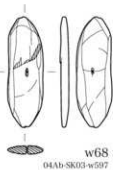
04Ab-SK03\_5



w65  
04Ab-SK03-w256



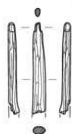
w67  
04Ab-SK03-w258



w68  
04Ab-SK03-w597



w69  
04Ab-SK03-w271



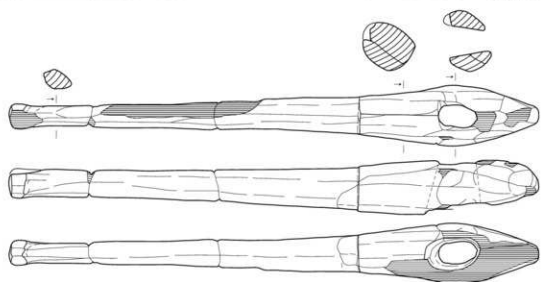
w66  
04Ab-SK03-w259



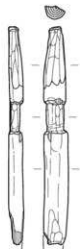
w70  
04Ab-SK03-w270



w71  
04Ab-SK03-w272



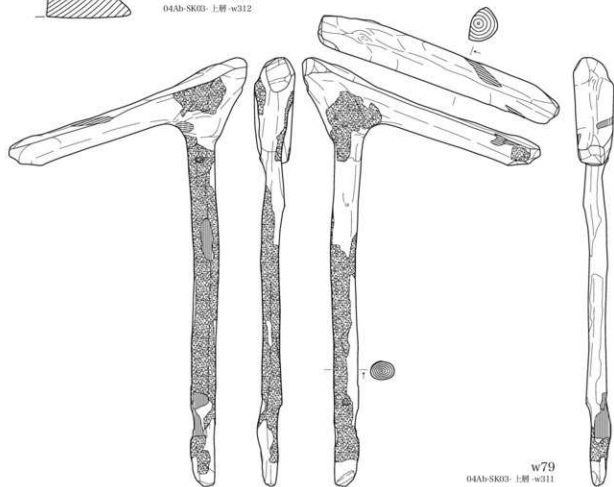
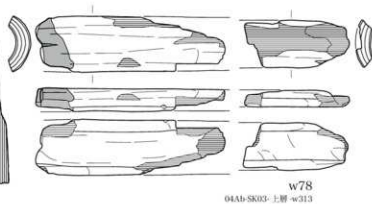
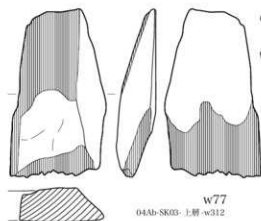
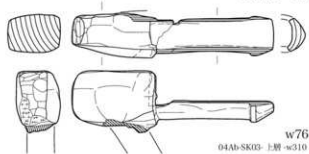
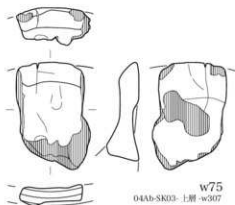
w72  
04Ab-SK03.SD10-w282



w73  
04Ab-SK03-w511



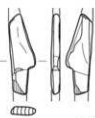
w74  
04Ab-SK03-T III-w342



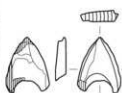
04Ab-SK03\_6



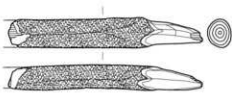
w80  
04Ab-SK03-上層-w314



w81  
04Ab-SK03-上層-w328



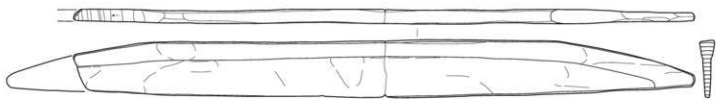
w82  
04Ab-SK03-上層-w334



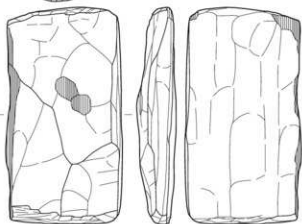
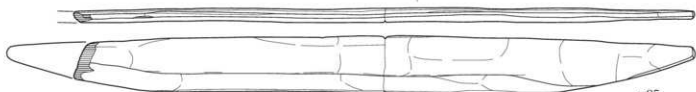
w83  
04Ab-SK03-上層-w315



w84  
04Ab-SK03-上層-w316



w85  
04Ab-SK03-上層-w324



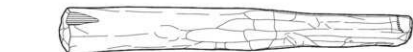
w87  
04Ab-SK03-上層-w331



w86  
04Ab-SK03-上層-w336

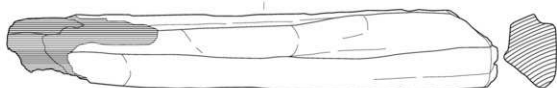


0 150mm



w88  
04Ab-SK03-下層-w341

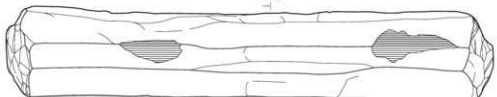




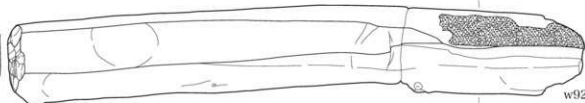
w89  
04Ab-SK03-上層-w335



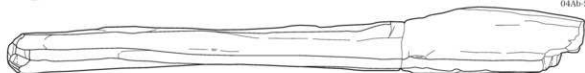
w90  
04Ab-SK03-上層-w290



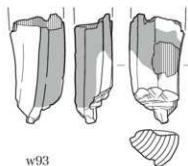
w91  
04Ab-SK03-上層-w321



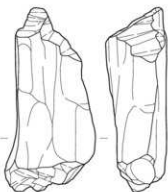
w92  
04Ab-SK03-上層-w322



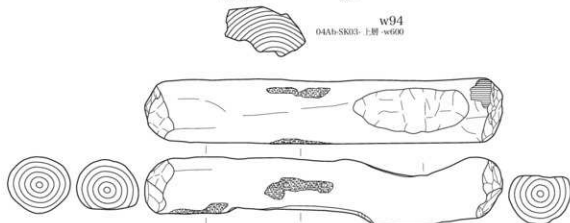
04Ab-SK03\_8



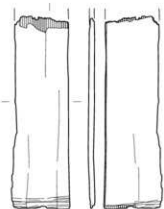
w93  
04Ab-SK03-上層-w598



w94  
04Ab-SK03-上層-w600



w95  
04Ab-SK03-上層-w601

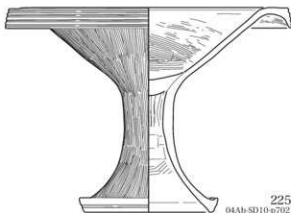


w96  
04Ab-SK03-下層-w602



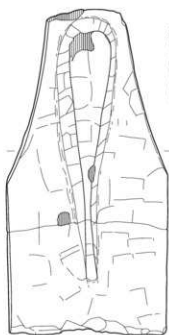
w97  
04Ab-SK03-上層-w599

0 150mm



225  
04Ab-SD10-p702

0 \_\_\_\_\_ 150mm



w100  
04Ab-SD10-w180



w99  
04Ab-SD10-0097-w188



0 \_\_\_\_\_ 150mm



w98  
04Ab-SD10-w176

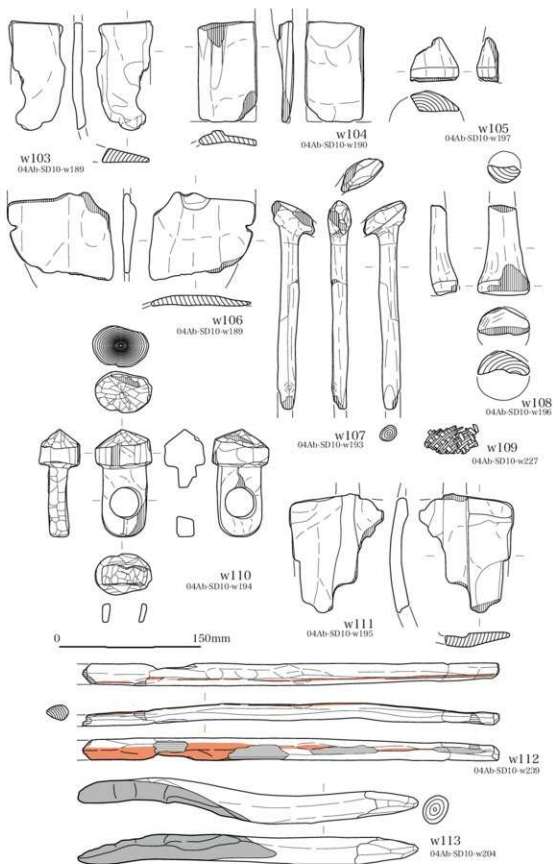


w101  
04Ab-SD10-w181

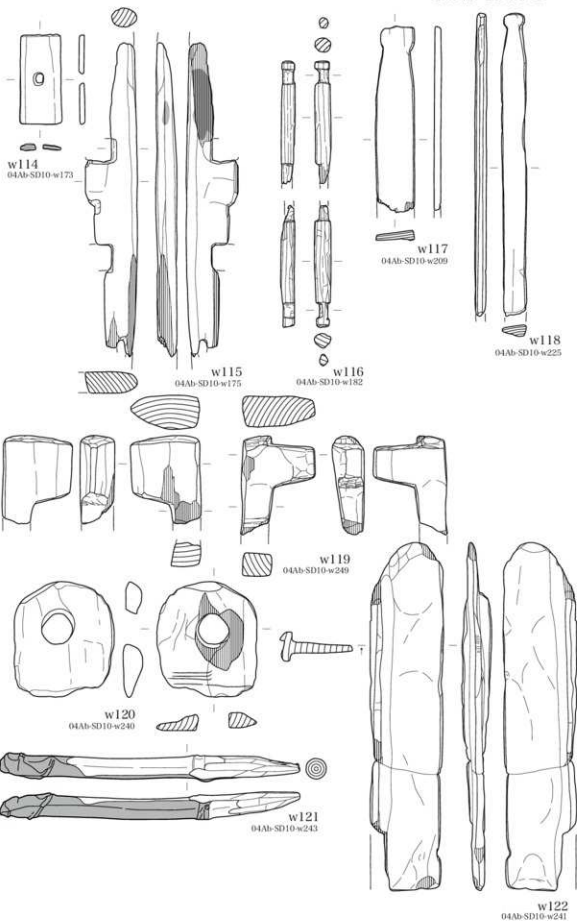


w102  
04Ab-SD10-w183

04Ab-SD10\_2



04Ab-SD10-3



04Ab-SD10\_4

0 150mm



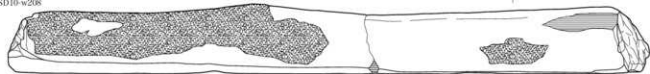
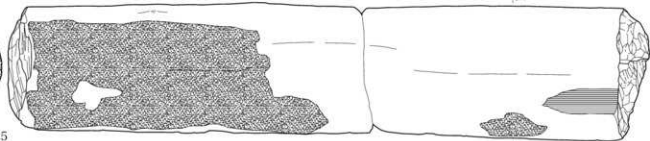
w123  
04Ab-SD10-w248



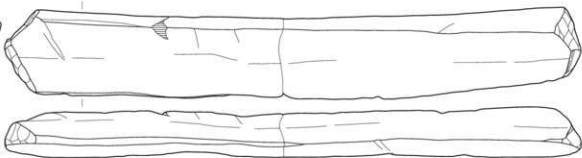
w124  
04Ab-SD10-w245



w125  
04Ab-SD10-w208



w126  
04Ab-SD10-w200



### 3.4.1.4 04Ab・Ac-SD03



調査区北端で検出した大溝で、北区画後期  
内環濠に相当する。溝幅は4.5m以上となり  
深さ1.31mを測る。2層は朝日H層が堆積し、  
廻間I式前半期の遺物が出土している。3層  
は貝等が混在する黒色シルトが堆積し、遺物  
の出土は少ない。なお、溝の大幅な改修や再  
掘削等は確認できない。

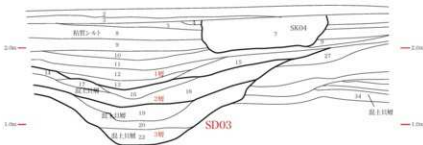
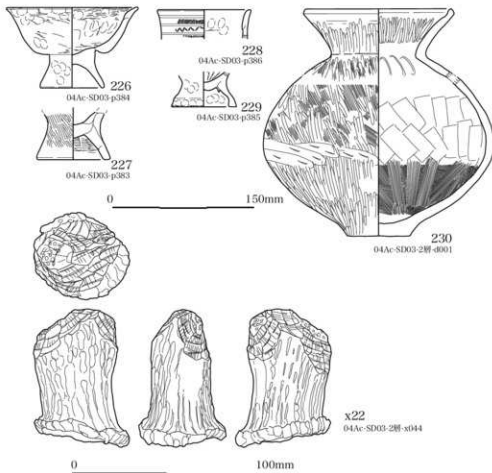


図 3.4.1-6 04Aa-SD03 東壁断面図 1/50

### 04Ac-SD03



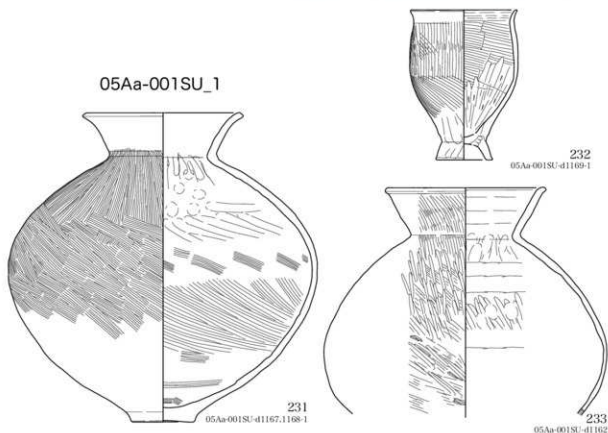


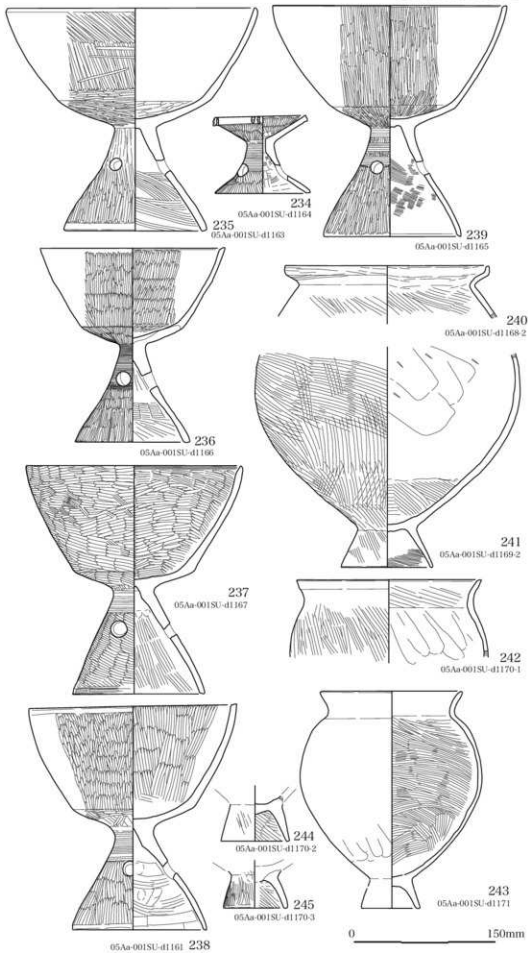


### 3.4.1.4 05Aa-001SU

05Aa 区北端部での土器集積遺構。朝日H層内で020SK上に位置するが、土坑状の掘込みが認められず、1.41×0.91mの範囲に密集して完全な形状を保った状態で据え置かれたものと思われる。土器組成は有段高杯5・広口壺2・小型器台1・台付甕4点。高杯は全体に重量感がある作りで、脚部も直線的であり尾張低地部とは異なり、どちらかという和西三河的な様相が感じられる。なお台付甕での使用痕跡はほとんど認められない。高杯などの特徴から廻間1式3段階の一括資料と考えられる。周辺において、この段階に所属する遺構群はほとんど認められず、朝日遺跡の集落構造の崩壊期以後に位置づけられる興味深い遺構である。

(図3.4.1-5)







### 3.4.1.5 05Aa-031SB・05Ab-036SK

05Aa区では朝日H層において複数の竪穴建物の重複が確認できている。その内で最も新しい段階の竪穴建物が031SBである。出土した遺物の特徴からは廻間I式0段階に所属するものと思われる。一辺約4.5mほどで深さ0.44mを測る。焼土ピット等は確認できない。

036SKは05Aa区と05Ab区が交差する地点に位置する楕円形状の土坑。長軸は5.0m前後で短軸は2.3mで深さ0.44mを測る。北区画内郭区画溝021SDと併行する遺構で、山中I式期に所属し、北側に隣接する063SBに伴う付属施設の可能性がある。なお037SBは同じく山中I式期に所属する竪穴建物。

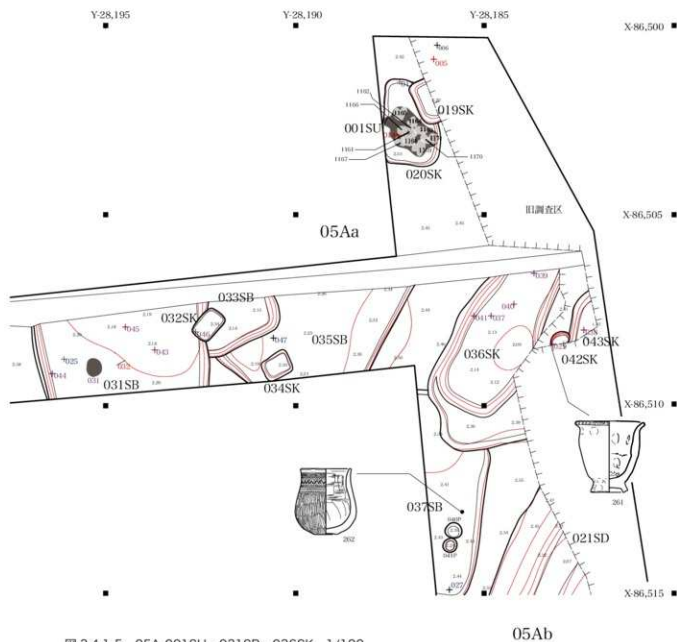
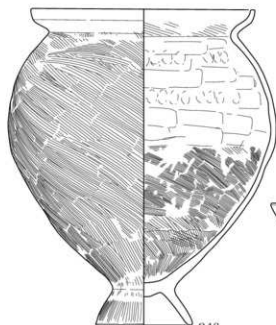


図 3.4.1-5 05A-001SU・031SB・036SK 1/100

05Ab

05Aa-031SB



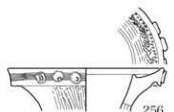
246

05Aa-031SB-001



250

05Aa-031SB-0045



256

05Aa-031SB-0043



251

05Aa-031SB-H p-410



257

05Aa-031SB-p411



252

05Aa-031SB-p403



258

05Aa-031SB-p407



253

05Aa-031SB-p402



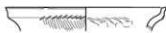
259

05Aa-031SB-p412



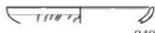
247

05Aa-031SB-p409



248

05Aa-031SB-p405



249

05Aa-031SB-p404



254

05Aa-031SB-p408



260

05Aa-031SB-0044



255

05Aa-031SB-p406

0 150mm



05Aa-031SB-0025-0045 86

0 50mm

05Ab-042SK



261

05Aa-042SK-029

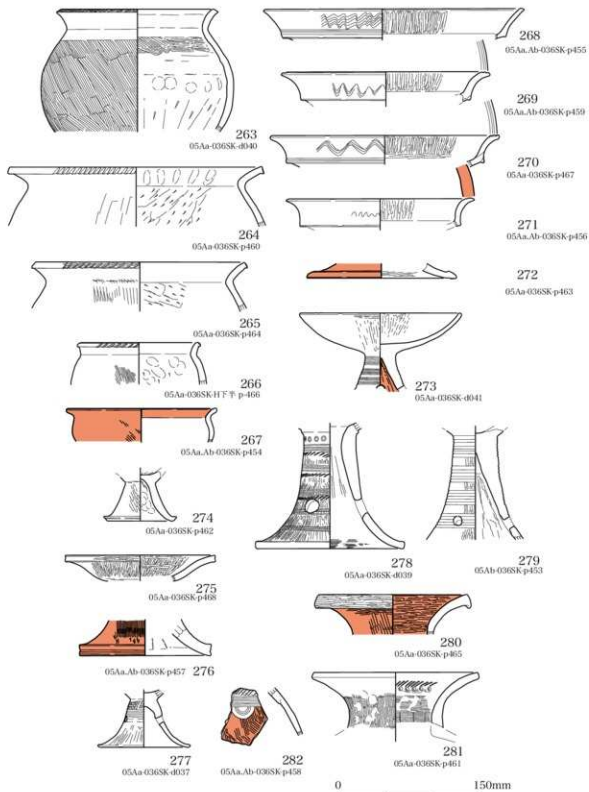
05Ab-037SB



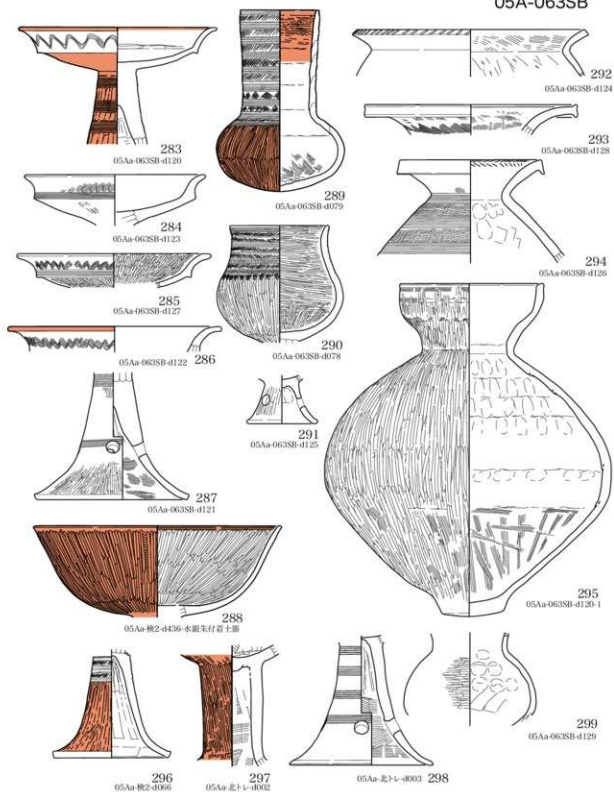
262

05Ab-032-0133

05Aa-036SK



05A-063SB



0 150mm



### 3.4.1.6 05Aa-063SB・066SB

北区画内郭区画溝である021SD・203SDの内側には、山中I式期を中心とする方形竪穴建物が集中して存在する。その中で063SBからは比較的まとまって遺物が出土し、特に大型の椀形高杯からはその表面に水銀朱付着が確認できる。

なお031SBの下層には重複する形で、山中I式期に所属する066SBが存在する。6.28×5.04mで深さは0.24mを測り、西壁溝付近より舌状石製品(s7)が出土している。

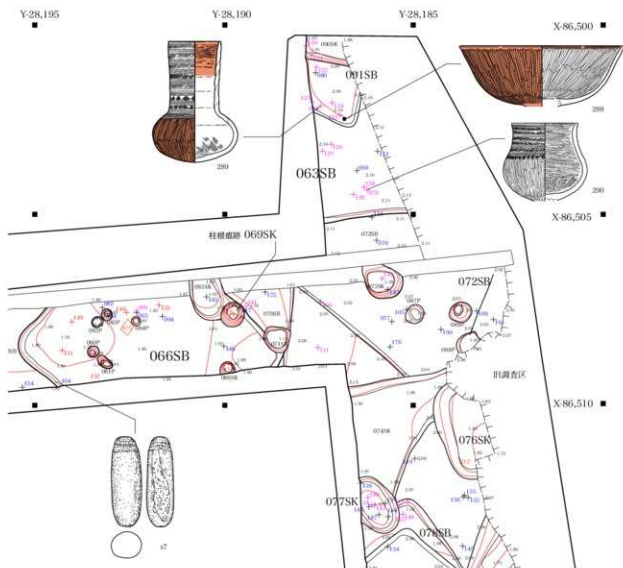
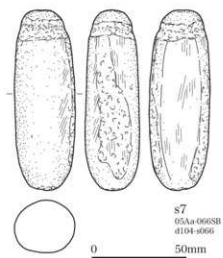


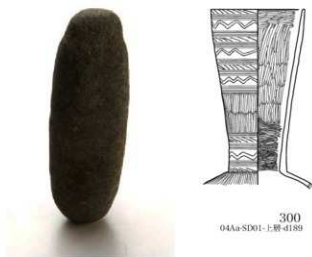
図 3.4.1-7 05Aa-063SB・066SB 1/100



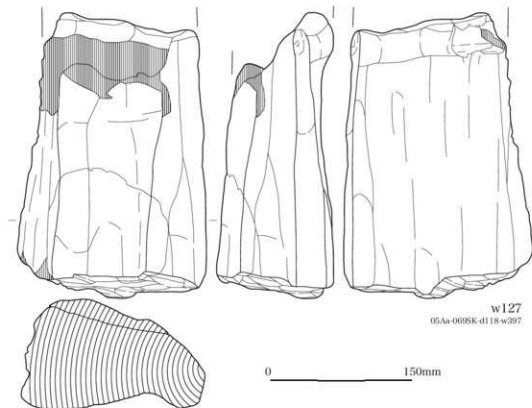
05Aa-066SB



内郭区画溝



05Aa-069SK (柱根)





### 3.4.1.7 後期北区画環濠

内環濠 (05A-027SD・067SD・107SD・113SD)

外環濠 (05A-028SD・110SD)

05Ac区西・Ab区南端で後期北区画環濠を検出でき、多量の出土遺物を確認した。まず後期内環濠は027SD・067SDの上層と107SD・113SDの下層に大きく区分して整理することができる。上層の067SDは調査区の南側で緩やかに立ち上がる傾向が見られ、一部に陸橋部(出入)的な施設が存在した可能性が高い。内環濠はまずV字形の大溝(下層)が掘削され、その後溝の補修と埋め立て等によりU字形の溝に造りかえているものと思われる。出土遺物からは環濠の初期の掘削は八王子古宮式ないし山中I式初頭段階と推測でき、再整備である上層の時期は山中式中頃を降ることはない。おおむね山中I式3段階と想定しておきたい。

外環濠はやはり上層の028SDと下層の110SDに大きく区分して整理しておくことができるが、基本的には朝日H層の上に朝日M層がやや厚く堆積した状況下での便宜的な区分であり、大溝の再整備等は確認できていない。所属時期は基本的には内環濠と変わりはない。出土遺物は外環濠から木製品を含め多量の遺物が検出できている。

027SDは溝幅2.92mで深さ0.57m

067SDは溝幅3.21mで深さ1.21m

113SDは溝幅3.09mで深さ1.08m

028SDは溝幅3.77mで深さ0.77m

110SDは溝幅2.87mで深さ1.0m

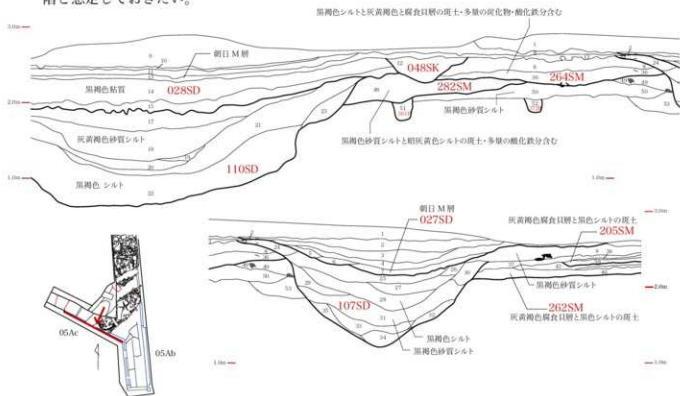


図 3.4.1-8 05Ac-107SD・110SD 南壁断面図 1/50

Y 28,190  
X 86,575

Y 28,185

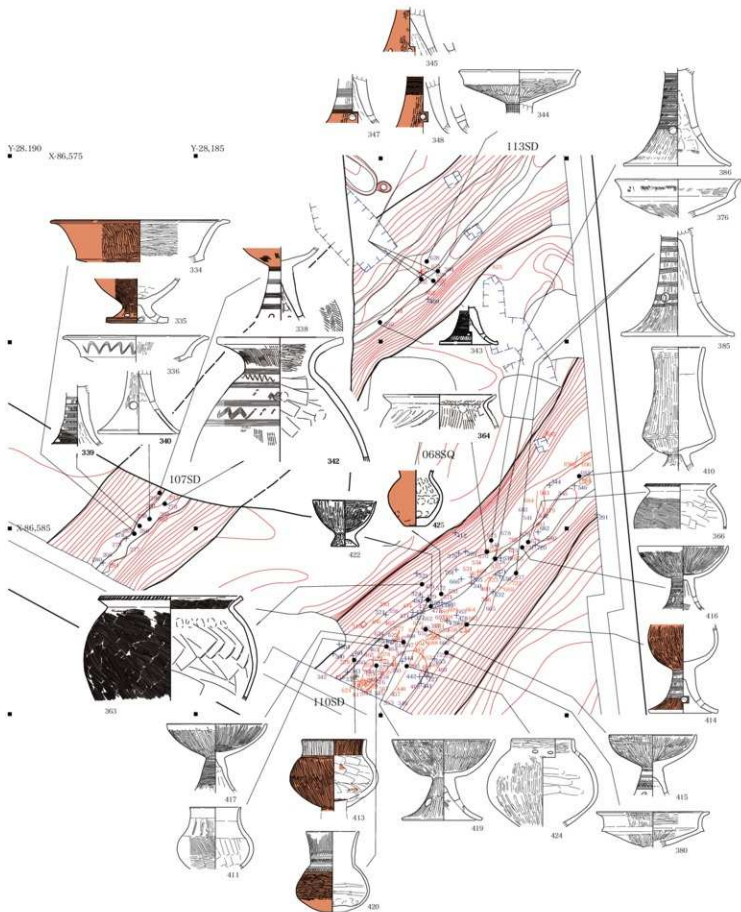
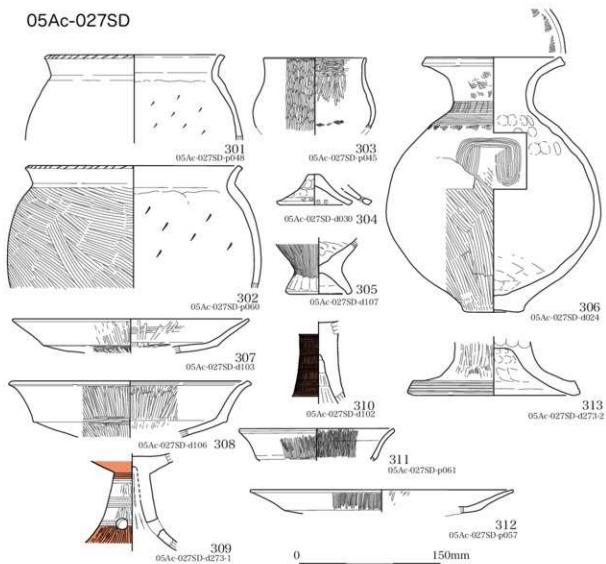
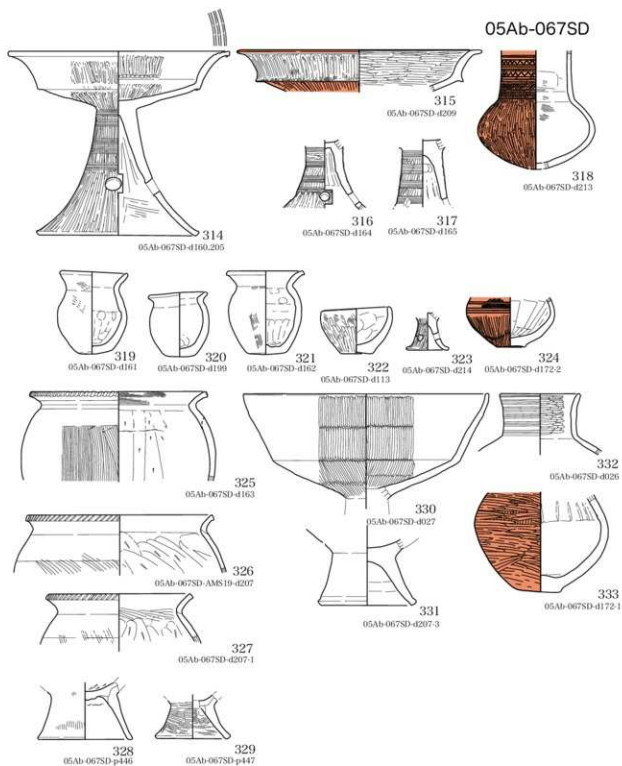


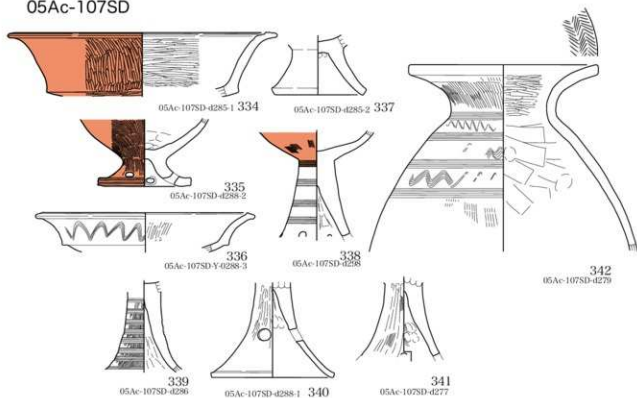
图 3.4.1-9 05A-107SD · 110SD 1/100

05Ac-027SD

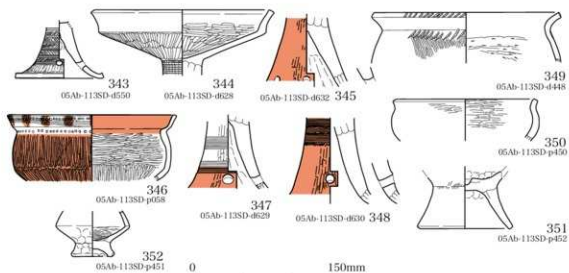




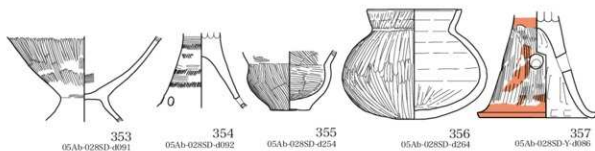
05Ac-107SD



05Ab-113SD

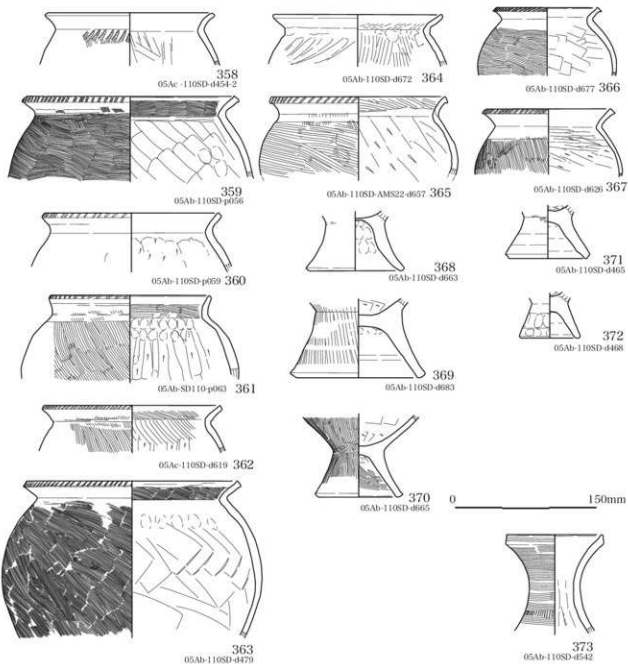


05Ab-028SD



0 150mm

05Ab-110SD\_1



05Ab-110SD\_2



374  
05Ab-110SD-d337



375  
05Ab-110SD-d570



05Ab-110SD-d443 384



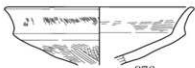
390  
05Ac-110SD-d453



391  
05Ab-110SD-d457



392  
05Ab-110SD-d454



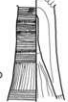
376  
05Ab-110SD-d537



393  
05Ac-110SD-d454-1



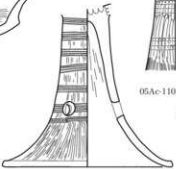
394  
05Ab-110SD-d458



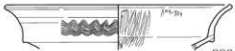
395  
05Ab-110SD-d463



05Ab-110SD-d545 377



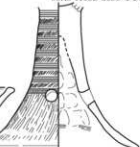
05Ab-110SD-d538 385



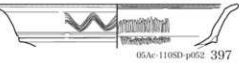
396  
05Ab-110SD-p051



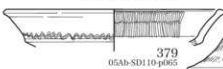
05Ac-110SD-p054 378



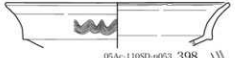
05Ab-110SD-d540 386



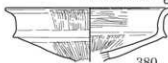
05Ac-110SD-p052 397



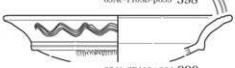
379  
05Ab-SD110-p065



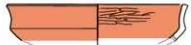
05Ac-110SD-p053 398



380  
05Ab-110SD-d725



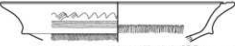
05Ab-SD110-p064 399



05Ab-110SD-p046 381



05Ab-110SD-d725 387



05Ac-110SD-d616 400



05Ab-110SD-d680 382



05Ab-110SD-d662 388



05Ab-110SD-d697 401



05Ac-110SD-d342 402



05Ac-110SD-d350 403



05Ac-110SD-d349 404



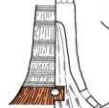
405  
05Ab-110SD-d673



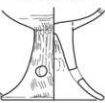
05Ac-110SD-d622 406



05Ab-110SD-d660 383



05Ab-110SD-d670 389



05Ac-110SD-d355 407

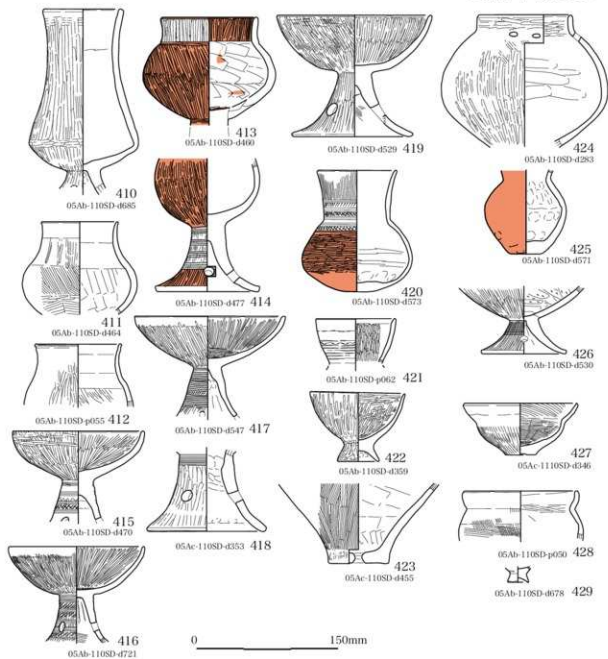


05Ac-110SD-d360 408

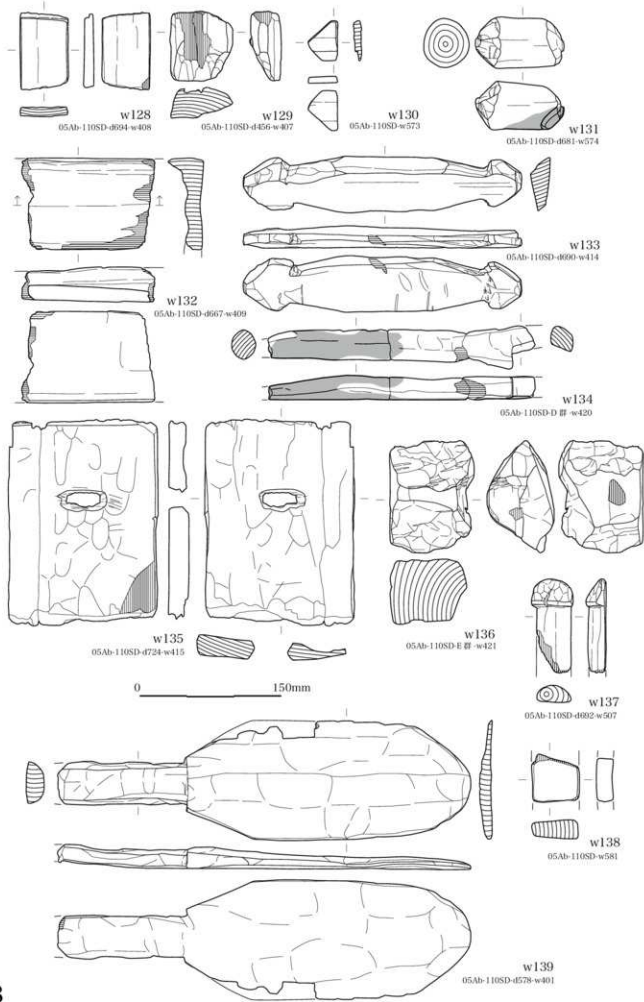


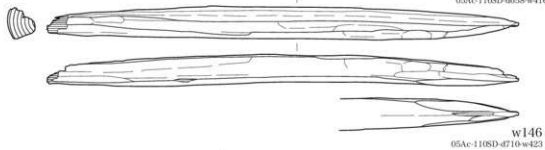
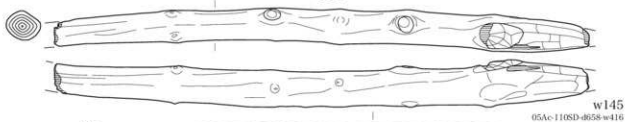
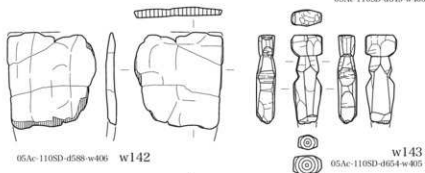
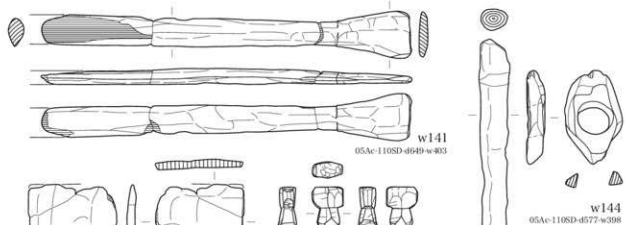
409  
05Ab-110SD-d675



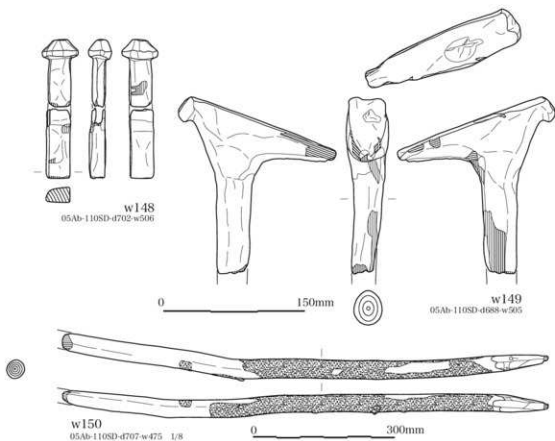


05Ab-110SD\_4





# 05Ab-110SD\_6

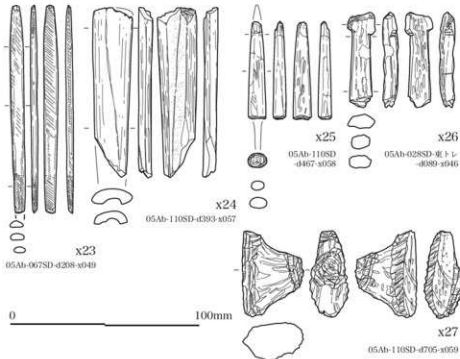
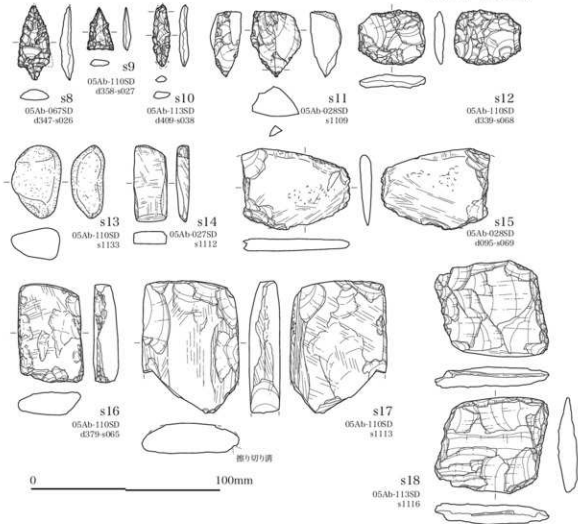


05Ab-110SD- 骸骨地

骨種	骨元	X	Y	Z	骨長	骨幅	骨厚	骨重	骨色	骨質	骨質	骨質	骨質	骨質
05Ab-110SD-01	05Ab-110SD-01	-4008.827	-38180.476	1.879	01284	011000	骨頭	3000-28-28	011000-Y	骨質	骨質	骨質	骨質	
05Ab-110SD-02	05Ab-110SD-02	-4007.012	-38177.346	1.201	01284	011000	骨頭	3000-28-28	011000-Y	骨質	骨質	骨質	骨質	
05Ab-110SD-03	05Ab-110SD-03	-4006.079	-38180.072	1.713	01284	011000	骨頭	3000-28-28	011000-Y	骨質	骨質	骨質	骨質	
05Ab-110SD-04	05Ab-110SD-04	-4006.473	-38177.033	1.318	01284	011000	骨頭	3000-28-28	011000-Y	骨質	骨質	骨質	骨質	
05Ab-110SD-05	05Ab-110SD-05	-4005.490	-38180.402	1.042	01284	011000	骨頭	3000-28-28	011000-Y	骨質	骨質	骨質	骨質	
05Ab-110SD-06	05Ab-110SD-06	-4007.022	-38179.032	1.201	01284	011000	骨頭	3000-28-28	011000-Y	骨質	骨質	骨質	骨質	
05Ab-110SD-07	05Ab-110SD-07	-4006.133	-38177.069	1.318	01284	011000	骨頭	3000-28-28	011000-Y	骨質	骨質	骨質	骨質	
05Ab-110SD-08	05Ab-110SD-08	-4005.001	-38177.361	1.113	01284	011000	骨頭	3000-28-28	011000-Y	骨質	骨質	骨質	骨質	
05Ab-110SD-09	05Ab-110SD-09	-4006.034	-38177.137	1.211	01284	011000	骨頭	3000-28-28	011000-Y	骨質	骨質	骨質	骨質	
05Ab-110SD-10	05Ab-110SD-10	-4005.043	-38175.003	1.408	01284	011000	骨頭	3000-28-28	011000-Y	骨質	骨質	骨質	骨質	
05Ab-110SD-11	05Ab-110SD-11	-4005.303	-38176.309	0.877	01274	011000	骨頭	3000-28-28	011000-Y	骨質	骨質	骨質	骨質	



05A-110SD\_7



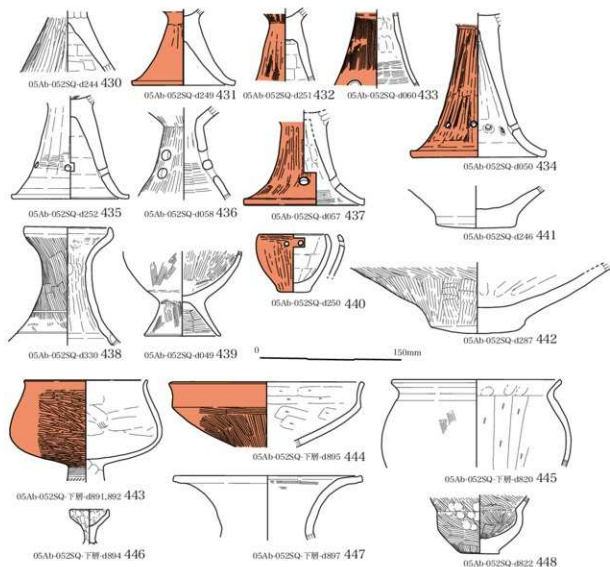


### 3.4.1.8 環濠堤 05Ab-052SQ

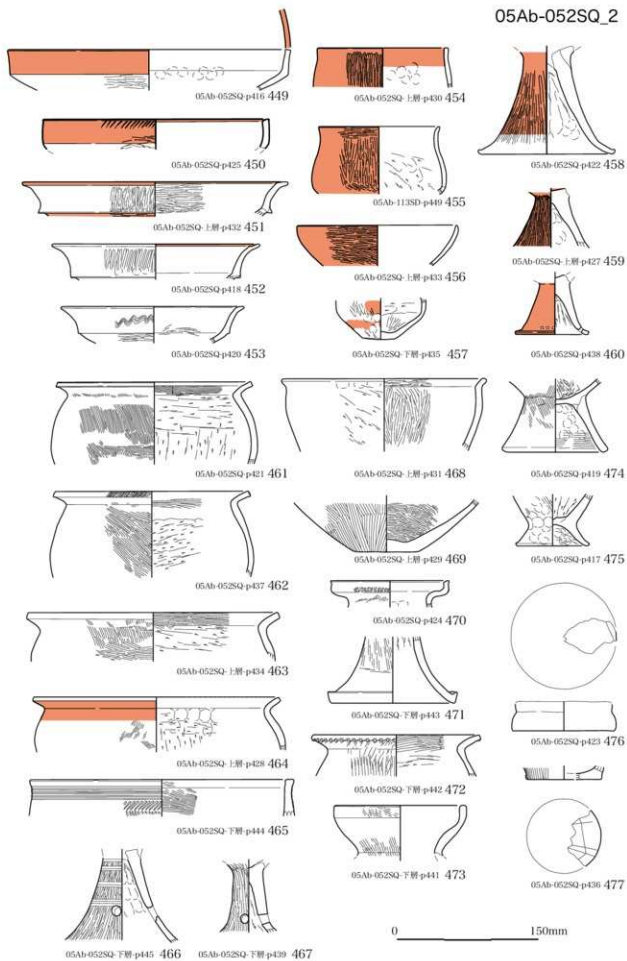
052SQ は後期北区画外環濠の南側（外側・谷側）に存在する堤状遺構で、中期北区画第1環濠を埋立てて構築されている。残存状況は幅4mほどで高さ0.6mで、盛土は環濠掘削による発生土（朝日G層砂）を混ぜて使う層序番号-4（図3.4.1-10）と、そうではなく黒色の粘質シルトを用意する6に区分できる。おおむね環濠の上下層に則した堤の整備状況と想定したい。

盛土内からは八王子古宮式から山中I式期にかけての遺物群でまとまる。下層（層序番号-6）からは八王子古宮式期の遺物が見つかっており、環濠と堤の造営が後期初頭段階にあることを傍証するものである。なお層序番号-7は中粒砂でT-SA層と想定できるものであり、砂層の堆積後の構築である事が断面図からもわかる。

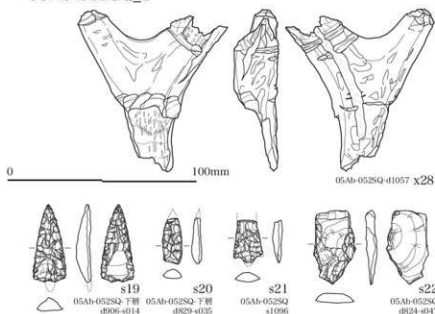
#### 05Ab-052SQ\_1



## 05Ab-052SQ\_2



## 05Ab-052SQ\_3



層序番号	土色記号	土色	土質	備考(05Ab-1088D付近の地層)
1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	
2	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	2.5Y4/2暗灰黄色中粒砂を含む
3	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	少量の5Y5/3灰オリーブ色中粒砂、微量の炭化物を含む
4	2.5Y4/2暗灰黄色	砂質シルト	少量の2.5Y4/4オリーブ褐色中粒砂を含む	
5	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	少量の炭化物を含む
6	5Y5/2	灰オリーブ色	中粒砂	少量の5Y4/1灰黄色砂質シルトを含む
7	5Y4/1	灰黄色	砂質シルト	微量の炭化物、少量の酸化鉄を含む
8	5Y4/1	灰黄色	砂質シルト	微量の炭化物、少量の酸化鉄を含む
9	7.5Y4/1	灰黄色	砂質シルト	微量の炭化物、少量の酸化鉄を含む
10	5Y4/1	灰黄色	砂質シルト	微量の酸化鉄を含む
11	5Y3/1	オリーブ黒色	砂質シルト	微量の酸化鉄を含む
12	5Y3/1	オリーブ黒色	砂質シルト	微量の炭化物・酸化鉄を含む
13	5Y3/1	オリーブ黒色	砂質シルト	微量の炭化物・酸化鉄を含む
14	5Y3/1	オリーブ黒色	砂質シルト	微量の炭化物を含む
15	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	少量の炭化物を含む
16	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	少量の炭化物を含む
17	2.5Y2/1	黒色	砂質シルト	少量の腐食貝、微量の腐植物を含む
18	10Y1R.7/1	黒色	砂質シルト	多量の木質・炭化物を含む(黒土層)
19	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	微量の腐植物を含む
20	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	微量の2.5Y4/2暗灰黄色・酸化鉄を含む
21	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	微量の5Y5/3灰オリーブ色中粒砂・炭化物、少量の酸化鉄を含む
22	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	微量の炭化物・酸化鉄を含む
23	5Y3/1	オリーブ黒色	砂質シルト	微量の2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルト・炭化物を含む
24	5Y2/1	黒色	砂質シルト	微量の腐植物を含む
25	5Y2/1	黒色	砂質シルト	微量の腐植物を含む
26	5Y3/1	オリーブ黒色	砂質シルト	少量の5Y5/3灰オリーブ色中粒砂、微量の炭化物を含む
27	2.5Y3/2	黒褐色	シルト質砂	木質を含む
28	2.5Y3/2	黒褐色	シルト質砂	木質を含む
29	2.5Y3/2	黒褐色	シルト質砂	木質を含む
30	7.5Y4/1	灰黄色	中粒砂	
31	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	微量の炭化物を含む
32	5Y4/3	暗オリーブ色	中粒砂	少量の炭化物を含む
33	5Y4/3	暗オリーブ色	中粒砂	少量の炭化物を含む
34	5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	少量の炭化物を含む
35	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	少量の炭化物、微量の酸化鉄を含む
36	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	少量の炭化物、微量の酸化鉄を含む
37	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	少量の炭化物、微量の酸化鉄を含む
38	5Y4/1	灰黄色	砂質シルト	少量の炭化物、微量の酸化鉄を含む
39	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	少量の炭化物、微量の酸化鉄を含む
40	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	少量の炭化物、微量の酸化鉄を含む
41	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	
42	5Y3/1	オリーブ黒色	砂質シルト	少量の炭化物を含む
43	5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	少量の炭化物を含む
44	10Y5/1	緑灰色	中粒砂	少量の炭化物を含む
45	2.5Y4/1	黄灰色	シルト質砂	10Y5/1緑灰色中粒砂を含む
46	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	少量の炭化物を含む
47	5Y4/1	灰黄色	砂質シルト	少量の炭化物を含む
48	5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	少量の炭化物を含む
49	2.5Y2/1	黒色	砂質シルト	少量の腐食貝、微量の腐植物を含む
50	7.5Y5/1	灰黄色	中粒砂	少量の炭化物を含む



### 3.4.1.9 中期北区画第1環濠

#### 05Ab-108SD



05Ab区の南端に存在する中期北区画第1環濠108SDは、溝幅は7.44mで深さ1.34mを測る。上層と下層に大きく二つに区分でき、上層は幅約4mほどで深さ0.75m。黒色の砂質シルトを中心に堆積する。大規模な大溝となる下層は、南側に二つの杭列とその間に草本性植物による敷物を上下二層に配置した護岸施設状の遺構が確認できた。さらにその上部は斑土を伴う地層(図3.4.1-10)で覆われており、あるいは層序番号-40前後までが盛土状の施設と理解すると、中期第1環濠

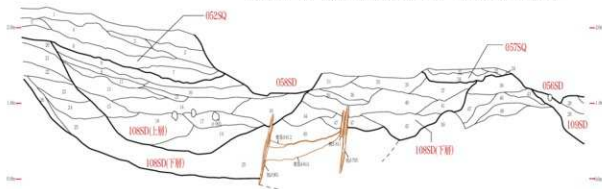
108SDと第2環濠109SDの間に堤状の高まり(057SQ)を想定することが可能となる。

108SDからは木製品の出土を加えることができるが、所属時期を決定する明確な資料などは見られない。現状では従来の見解を踏襲して、朝日時期の掘削と貝田町時期の再整備という位置づけを考えておきたい。

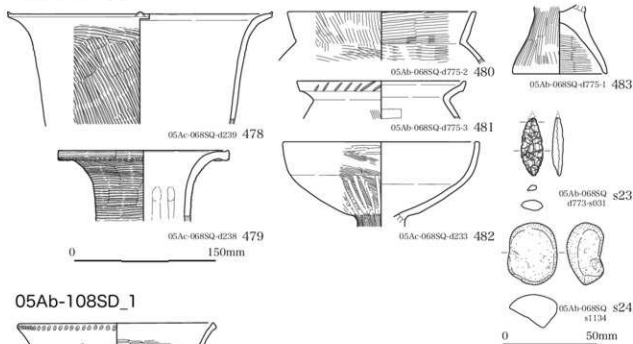
なお最上層に存在する058SD・056SDは調査区西側で取東する溝、あるいは土坑であり、052SQとの関係を配慮すると後期末葉を遡るものではない。



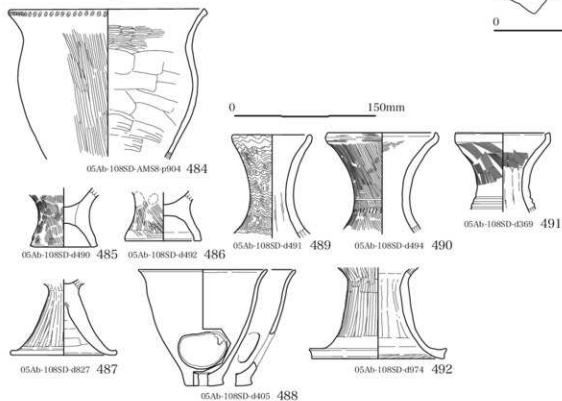
図 3.4.1-10 05Ab-108SD断面図 1/50 (縦軸 1/80)



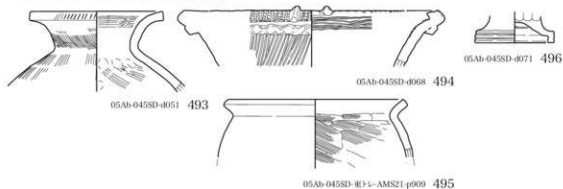
05Ac-068SQ

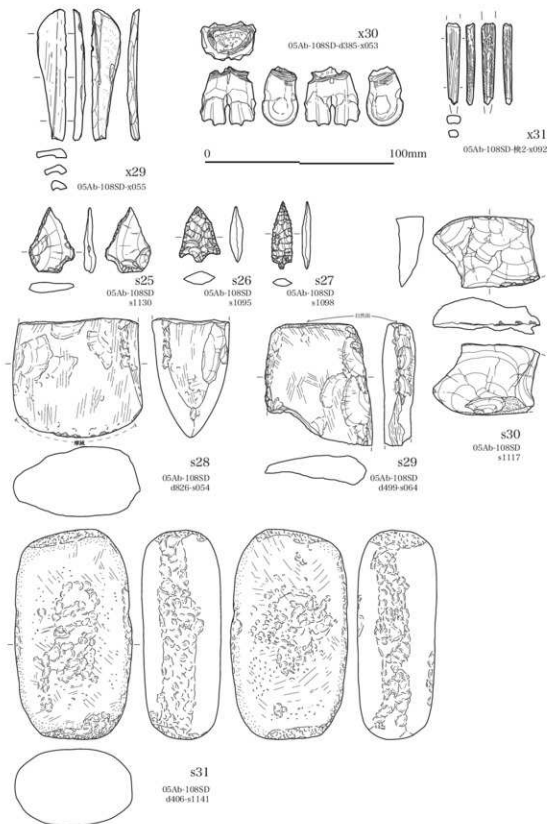


05Ab-108SD\_1

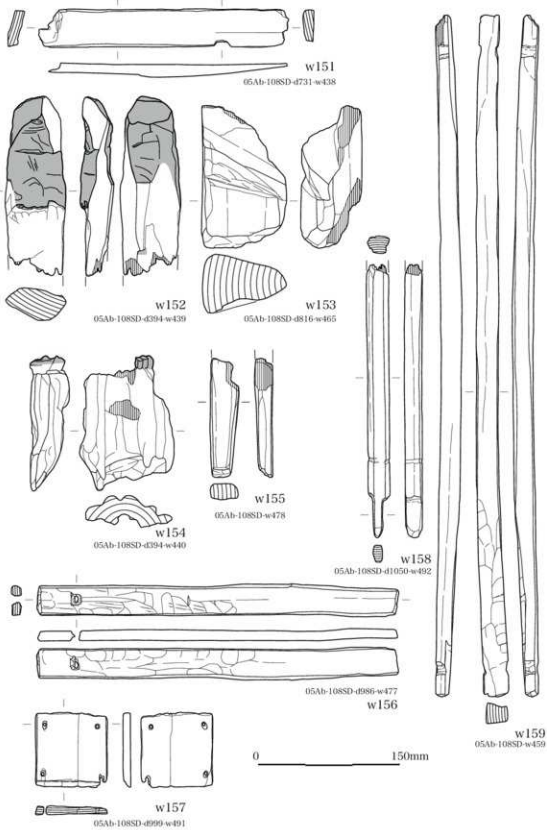


05Ab-045SD(108SD上層)

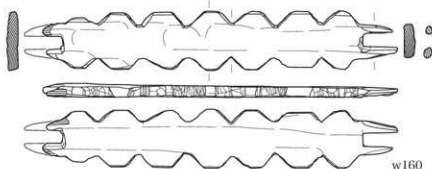




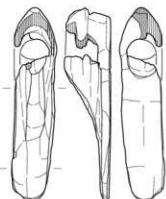
05Ab-108SD\_3



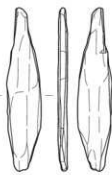
05Ab-108SD\_4



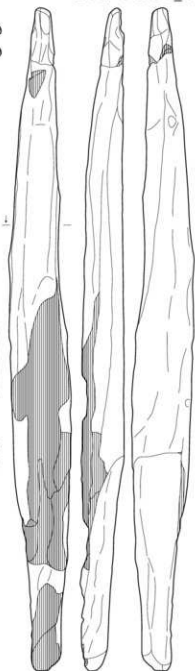
w160  
05Ab-108SD-d761-w470



w161  
05Ab-108SD-d1038-w489



w162  
05Ab-108SD-d1054-w490



05Ab-108SD-d890-w476 w163



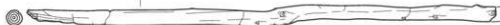
w164  
05Ab-108SD-d785-x508



w165  
05Ab-108SD-d789-w460

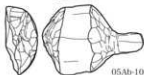
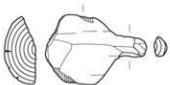


w166  
05Ab-108SD-d795-w462



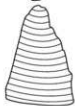
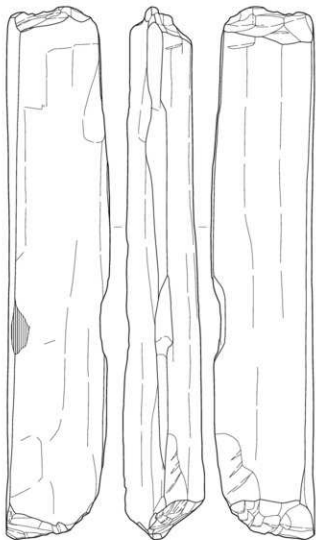
w167  
05Ab-108SD-d799-w463

05Ab-108SD\_5



w168

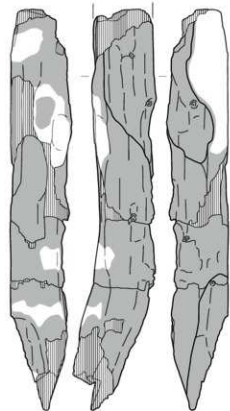
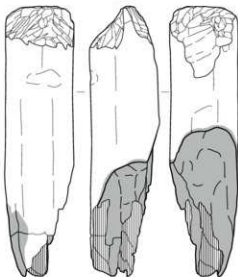
05Ab-108SD-w572



w169

05Ab-108SD-d483-w433

0 150mm



w170

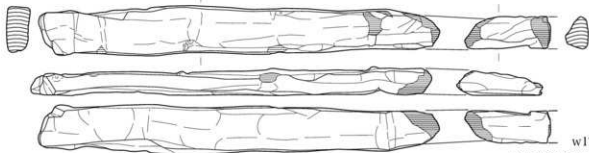
05Ab-108SD-d776-w435

05Ab-108SD\_6



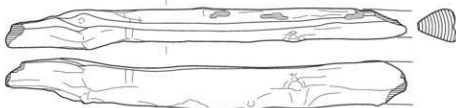
w171

05Ab-108SD-d961-w426



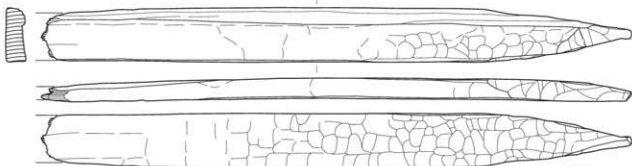
w172

05Ab-108SD-d386-w428



w173

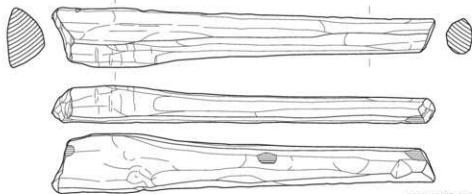
05Ab-108SD-d389-w429



w174

05Ab-108SD-d734-w430

0 150mm

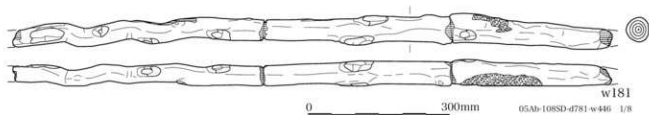
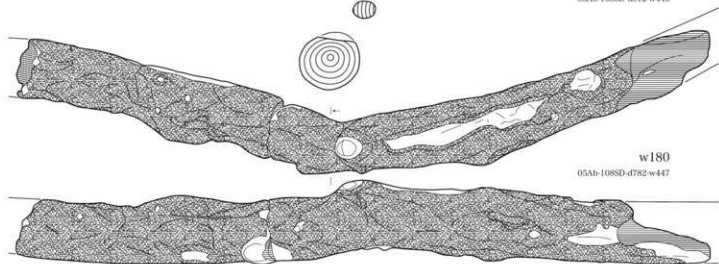
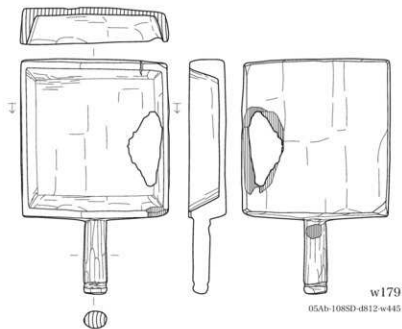
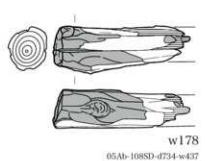
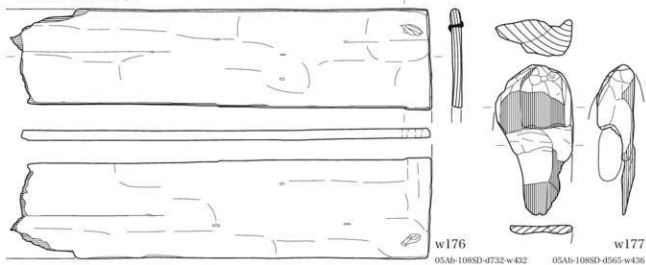


w175

05Ab-108SD-d482-w427 1/8

0 300mm

05Ab-108SD\_7







w182

05Ab-108SD-4787-w448



w183

05Ab-108SD-4798-w449

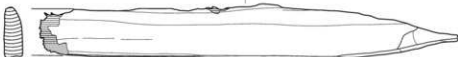


w184

05Ab-108SD-4814-w451



0 150mm



w185

05Ab-108SD-4814



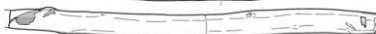
w186

05Ab-108SD-4814

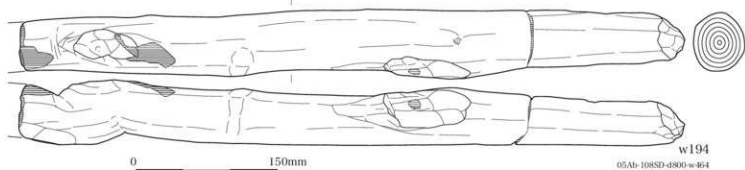
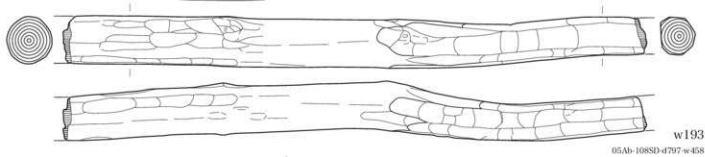
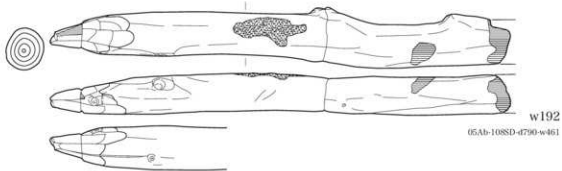
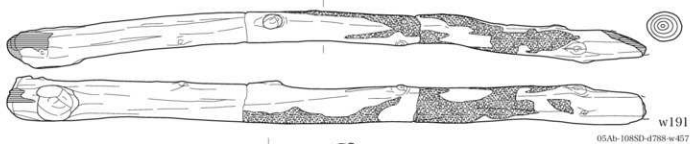
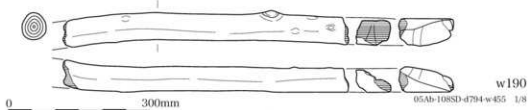
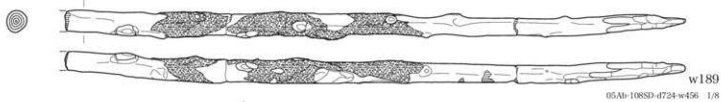
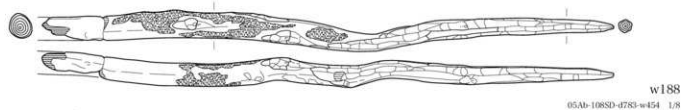


w187

05Ab-108SD-4777



0 300mm



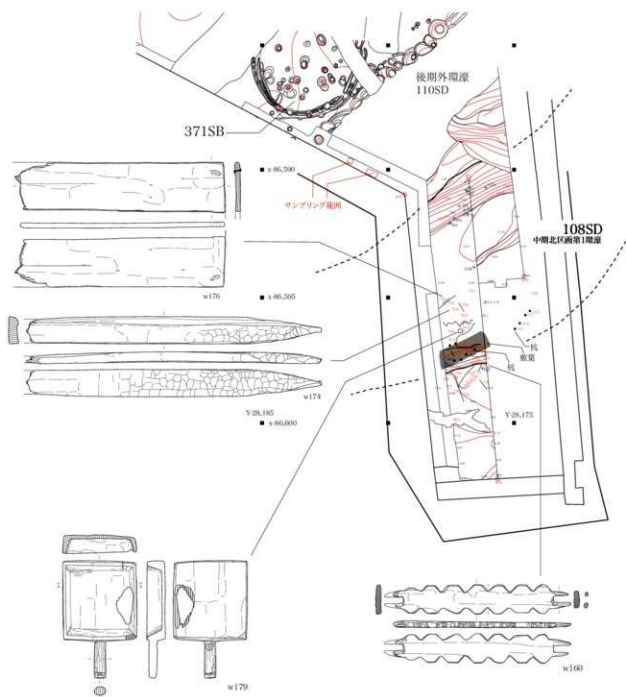


図 3.4.1-11 05Ab-108SD 1/150

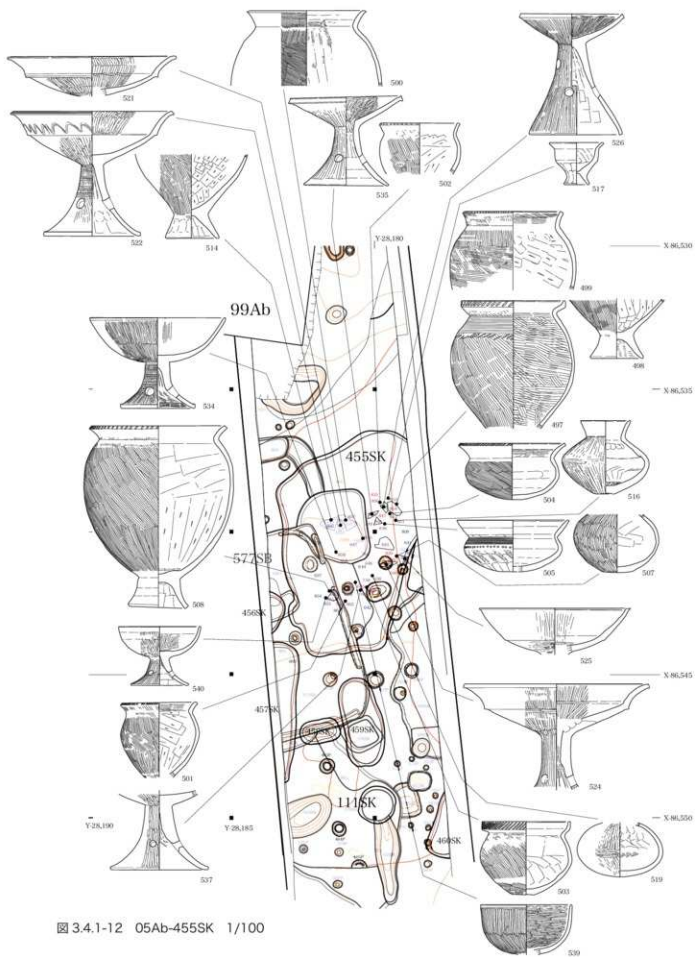


图 3.4.1-12 O5Ab-455SK 1/100

### 3.4.1.10 05Ab-455SK・577SB

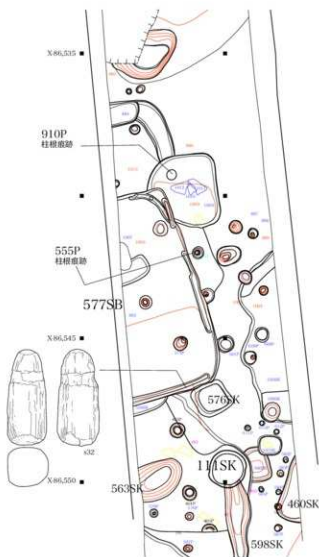
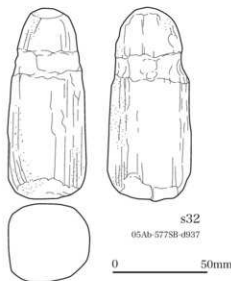


図 3.4.1-13 05Ab-577SB 1/100

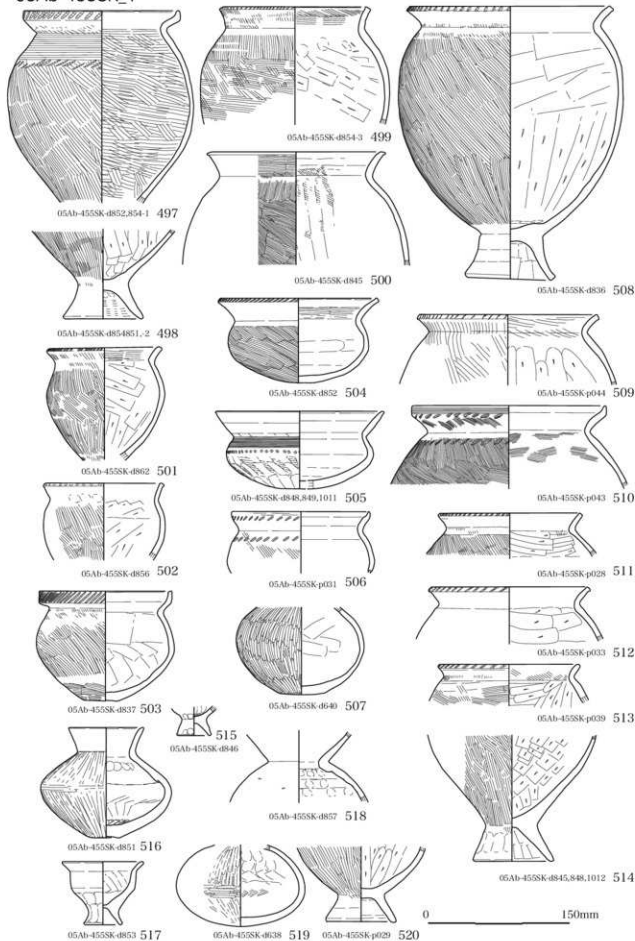


05Ab 区のほぼ中央部に存在する弥生後期の不定形土坑で、北区画南東部に位置する。後期北区画内環濠と後期内郭区画溝にはさまれた広場状の空間に存在し、その空間はちょうど内郭区画溝が途切れ、出入口と想定できる 99Ab 区に近接する。朝日 H 層内の皿状の落ち込みであり、7.67×4.82m で深さは 0.19m ほどの広がりによく多くの土器が見つっている。出土土器は山中Ⅱ式 3 段階新相を中心とするものであり、一部に廻間 1 式 0 段階古相の遺物を含む。土器の他に獣骨等も散見できる。なお 455SK 底面より山中Ⅱ式新段階の高杯等出土している。おおむね山中Ⅱ式新相段階を中心に多量の土器廃棄（処置）が行われたものと推測したい。

その他に周辺部には興味深い遺構が見られる。まず重複する 577SB との関係が注目されるが、577SB の機能終了後に 455SK が営まれていく事は間違いない。577SB は南北 7.2m を測るやや大型の竪穴建物で深さは 0.2m。周辺には小規模なピット群が存在し、577SB 東側に塀のような施設が存在した可能性が考えられる。また南側には垂直に掘削された円形土坑 111SK が存在する。1.75×1.55m で深さ 1.23m を測るのもで、何らかの柱状立物を想定したい。なお周囲には小型土器・ミニチュア土器などが見つかっており、祭祀空間的な様相が遺物・遺構の配置から推定される (276 頁参照)。

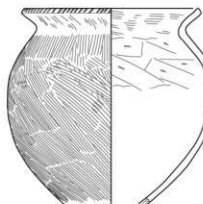
こうした遺構等の配置からは、山中Ⅰ式の終わり頃から山中Ⅱ式期にかけて、577SB 周辺部で執り行われたと考えられる特定の儀礼とその場面の跡が想定できる。その最終段階は廻間Ⅰ式期を待つ事無く終焉したものと考えることができ、朝日遺跡の終焉景観を考える上で重要な遺構群と評価したい。

05Ab-455SK\_1

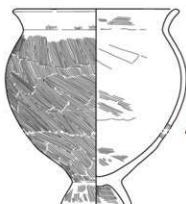




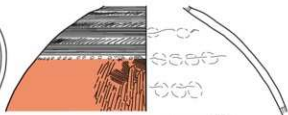
05Ab-455SK\_3(455SK上層)



05Ab-棟-d759-1 547



05Ab-棟-d760.843 549



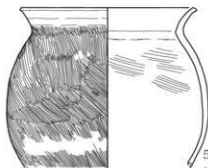
05Ab-棟-d759-3 551



05Ab-棟-d759-2 552



05Ab-棟-d758 548



550

05Ab-455SK-AMS24-00843



s33

05Ab-455SK  
d808-s023



s34

05Ab-455SK  
d865-s024



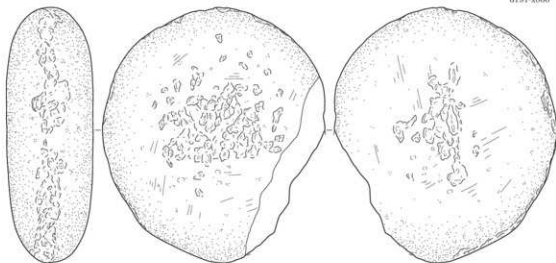
s35

05Ab-455SK  
d810-s048



x32

05Ab-445SK  
d191-s060



0

100mm

s36  
05Ab-455SK  
d833-s1143



### 3.4.1.11 05Ab-531SB



05Ab区中央部付近に存在する竪穴建物。朝日H層での検出段階ではやや不整形な状況であるが、加工面においてほぼ正方形を呈する掘方を確認でき、4.76×4.73mで深さ0.11mを測る。八王子古宮式期に所属する。なお下層には中期の竪穴建物や土坑・ピット群が錯綜し、これらの遺構群を整地する形で営まれている。

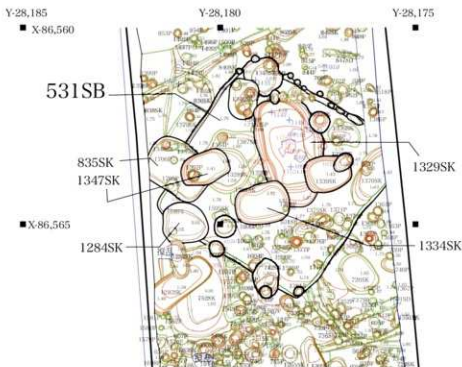
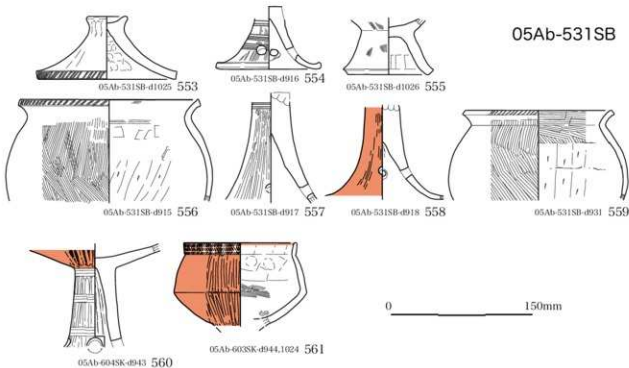


図 3.4.1-14 05Ab-531SB 1/100





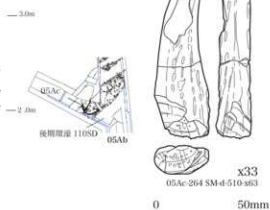
### 3.4.1.12 貝塚B (朝日式期)

#### 05Ac-205SX・264SM・282SM

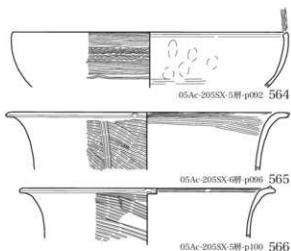
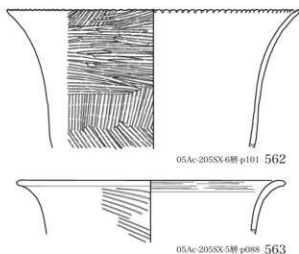
05Ac区に存在する貝塚痕跡。表土を除去するとただちに朝日式期の遺物を包含する貝腐食土が露出し、その状況からおおむね二層に大きく整理できる。上層(264SM)と下層(282SM)で各々約0.25mほどの堆積が認められる。なお205SXは107SDの西側に広がる腐食土であり、264SMに相当するものと思われる(図3.4.1-8)。貝塚Bの下層には円形竪穴建物(371SB)が存在する。また朝日式期の貝塚形成後に、この場所を活用した痕跡は認められず、貝塚状の高まりが環濠内側に長く存在したことが推測できる。

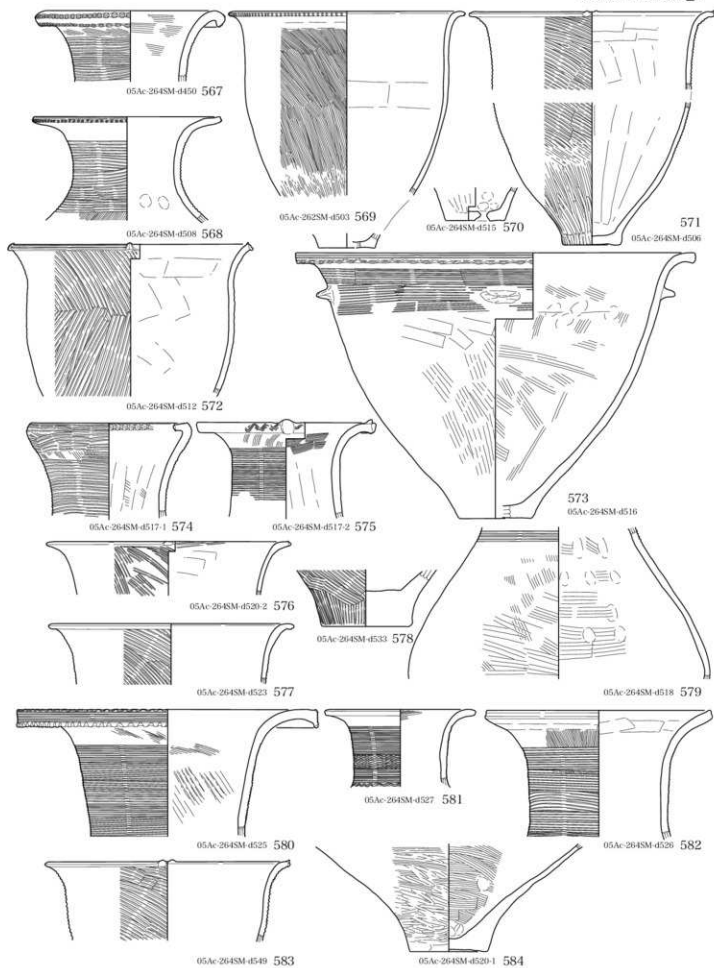


図 3.4.1-15 05Ac-264SM 断面図 1/40



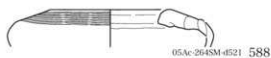
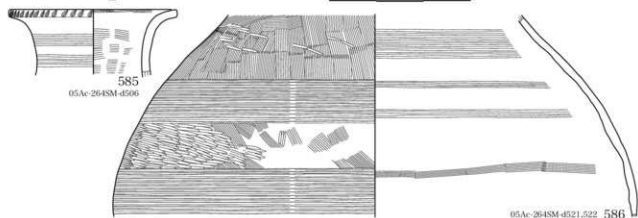
#### 05Ab-205SX





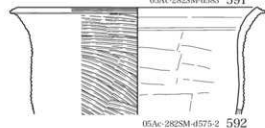
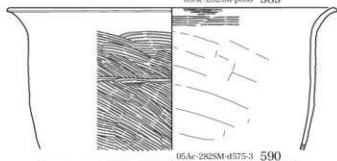
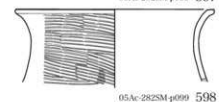
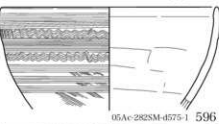
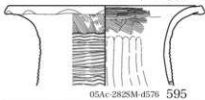
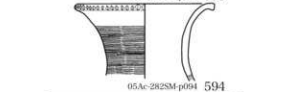
05Ab-264SM\_2

0 150mm



05Ab-282SM

05Ac-282SM-p090 593



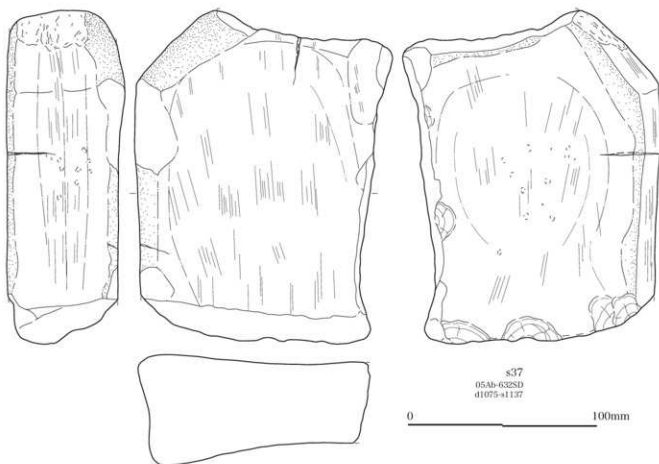
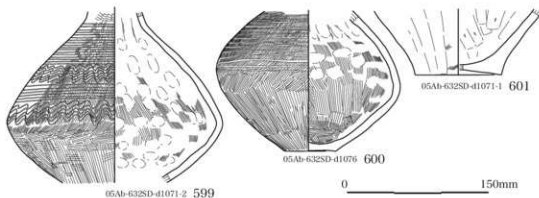
05Ac-282SM-p099 598

### 3.4.1.13 05Ab-632SD



05Ab区南側の後期環濠帯に重複するように存在する方形区画。632SDと05Ac区375SKそして05Ab区629SDにより方13mほどの方形区画が想定でき、周溝墓の可能性も考えられる。いずれにしろ05Ab区において小規模な土坑を除いて、明確な高蔵式期の遺構は希薄である。632SDは深さ0.94mで、箱状に垂直に掘削される溝である。

05Ab-632SD





### 3.4.1.13 05Ab-634SB

05Ab 区南側の後期内環濠と重複する形で存在する竪穴建物。大きく 2 棟の竪穴建物が重複しており、まず最初に直径 8m ほどの円形竪穴建物 634SB が営まれる。その後には 6×5m の矩形を呈する竪穴建物が営まれ、複数の建替えが認められる。その中央付近には焼土とベンガラが散布された場所があり、石器・玉類の加工痕跡と思われる石材チップが確認できている。朝日式 3 期の遺物が供伴する。周囲には土坑が多く分布し、その中で最も新しい遺構が 1283SK で貝田町式 3 期新に所属する。いずれにしる朝日式期から貝田町式前半期にかけての竪穴建物が展開していく地区と考えられよう。

#### 05Ab-634SB

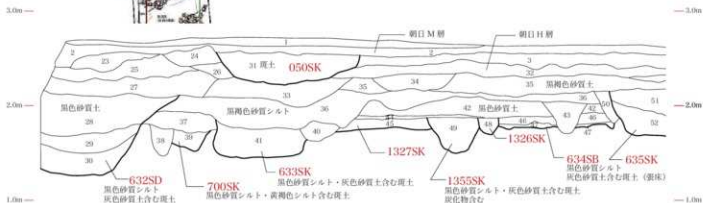
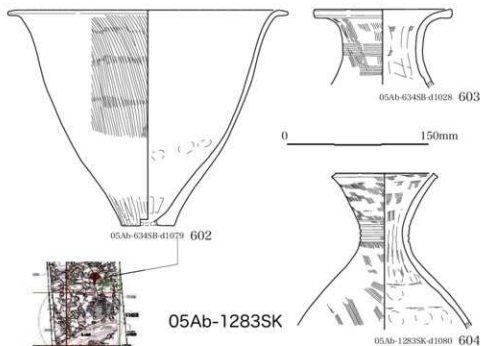


図 3.4.1-16 05Ac-634SB 付近 西壁断面図 1/40

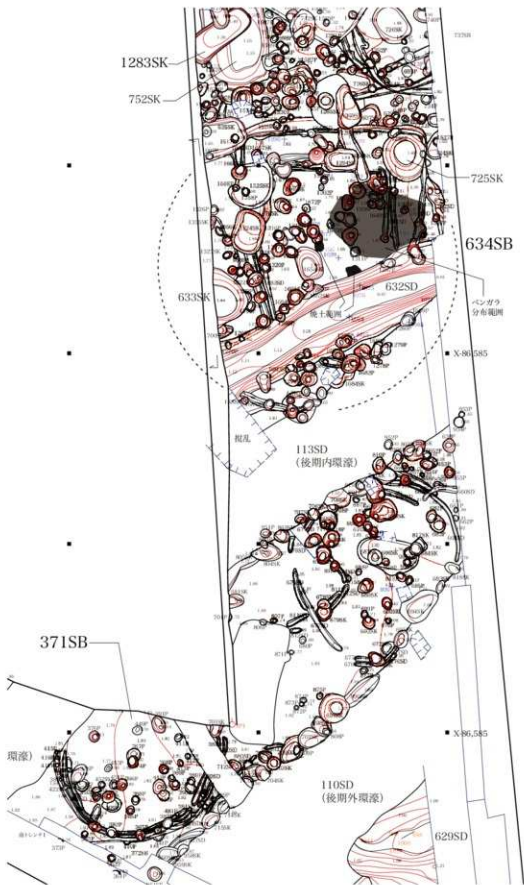


図 3.4.1-16 05Ac-634SB 1/100



### 3.4.1.14 05Ab-1329SK

05Ab 区の中央部付近に位置する後期竪穴建物 531SB に重複する形で存在する、貝田町式 1 期の長方形土坑。灰と焼土の互層が堆積し、底部には獣骨等を含む土器廃棄が見られる。南北 2.83m・東西 1.63m で深さ 0.64m を測る。周囲には貝田町式期を中心とした廃棄土坑群が集中する。

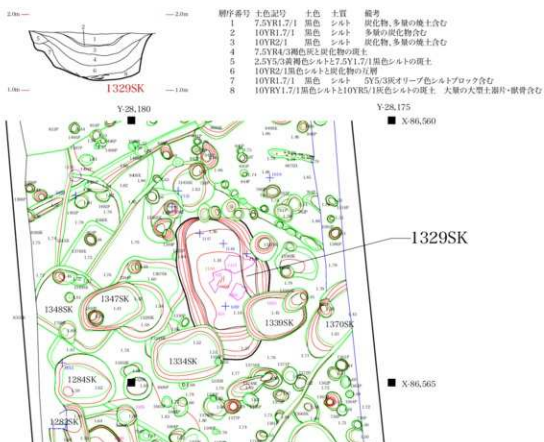
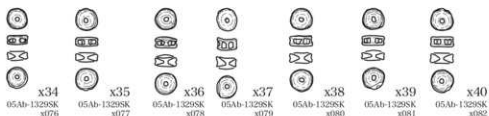


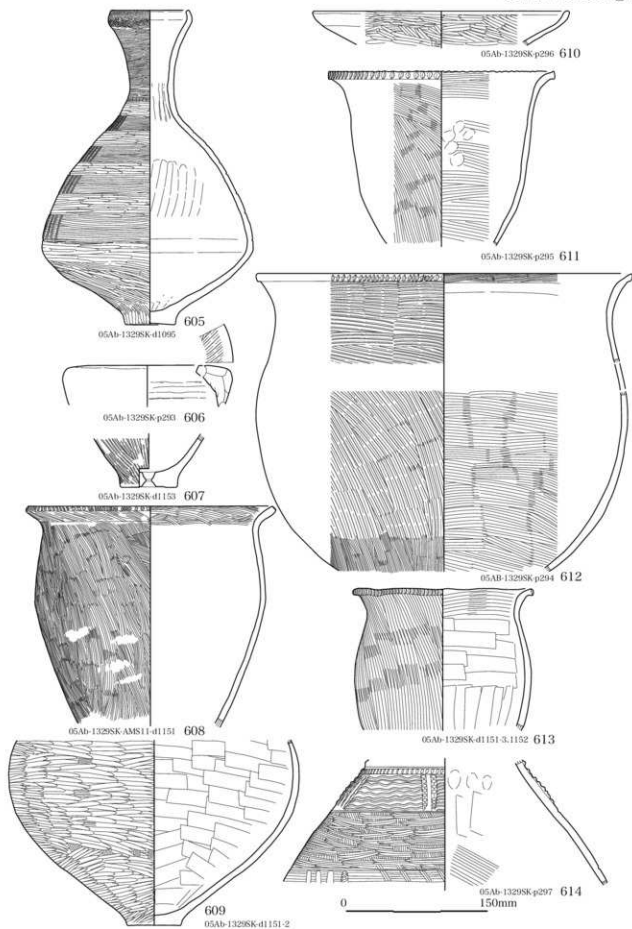
図 3.4.1-17 05Ac-1329SK 1/50

### 05Ab-1329SK



0 50mm







### 3.4.1.15 05Ab-1393SK・904SB

1393SKは05Ab区の中央部に位置する長方形土坑。長軸2.21m・短軸1.26mで深さ0.71mを測る。土器・骨・石などが廃棄された状況で見つかっており、貝田町式1期に所属する。904SBは1393SKなどの方形土坑が展開する廃棄土坑群に重複する形で検出できた方形竪穴建物。土坑群が営まれる以前に設置されたもので、朝日式期に所属するものと思われる。南北5.02mで深さ0.20mを測る。中央部やや南側に焼土面が見られる。

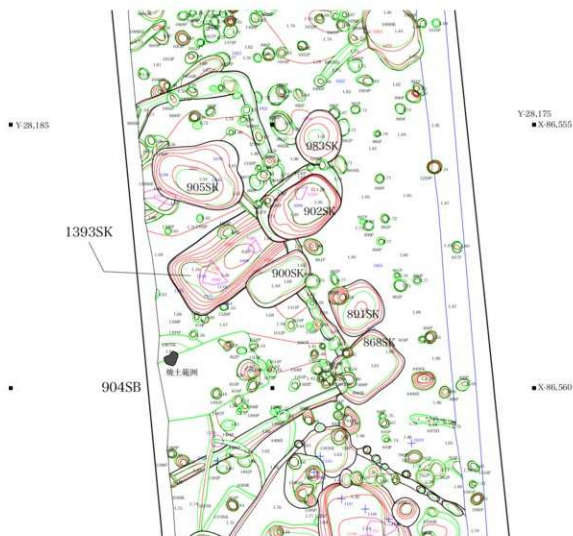
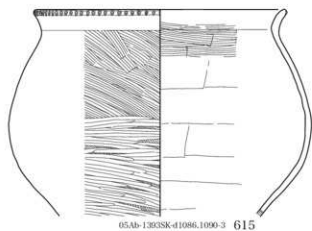
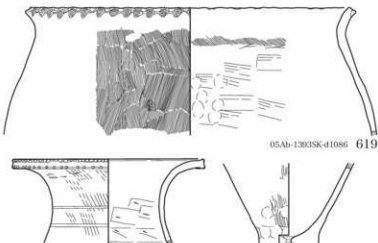


図 3.4.1-18 05Ab-1393SK・904SB 1/50



05Ab-1393SK-d1086.1090-3 615



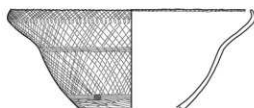
05Ab-1393SK-d1086 619

05Ab-1393SK-d1089 620

05Ab-1393SK-d1086.1090-1 621

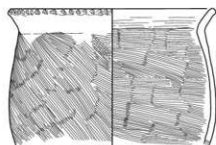


05Ab-1393SK-d1086.1090-2 616



05Ab-1393SK-d1090-4 617

0 150mm

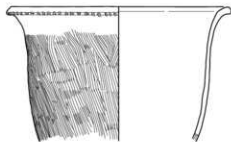


05Ab-1393SK-AMS5-d1090-5 622



05Ab-1393SK-AMS5-d1090-5 624

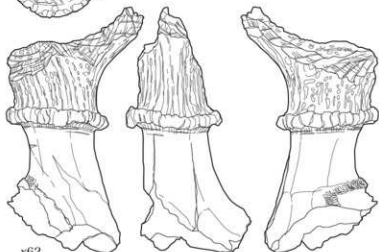
## 05Ab-1329SK\_2



05Ab-1329SK-1-AMS4-p902 618



05Ab-1329SK-p913 623

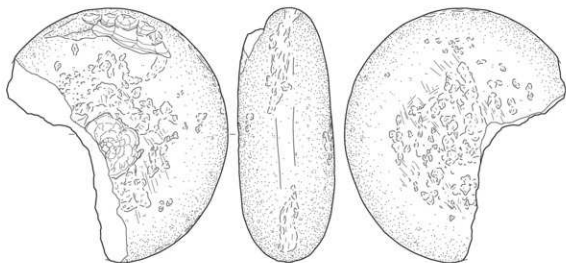


x62

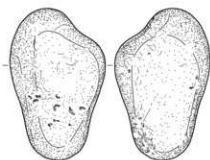
05Ab-1393SK-d1087-x084

0 100mm

05Ab-1393SK\_2



s38  
05Ab-1393SK  
d1088+1142



s40  
05Ab-1393SK  
d1084+1146



s39  
05Ab-1393SK  
d1132+1138



0 100mm

### 3.4.1.16 05Ab-221SB・191SK 他

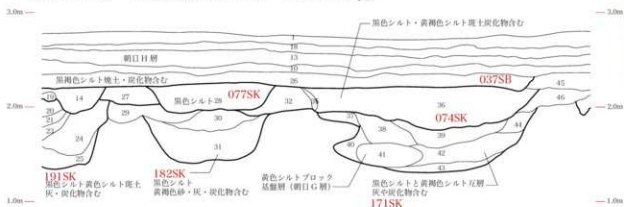
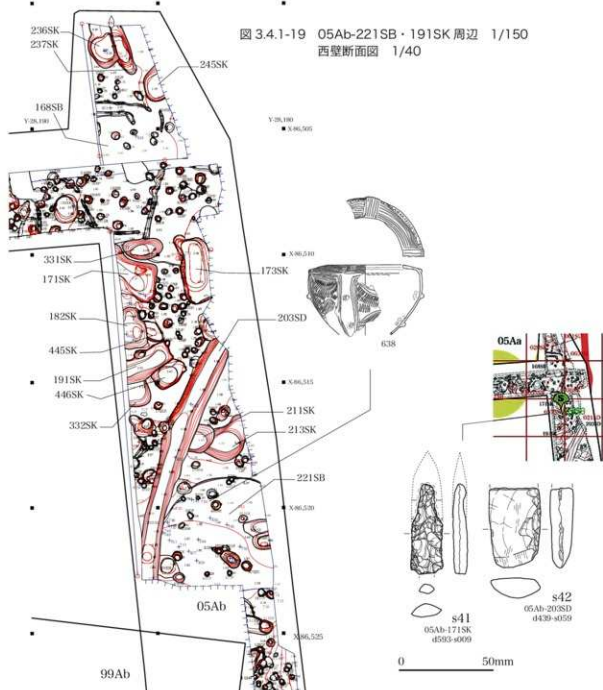
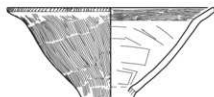


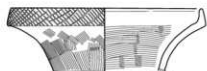
図 3.4.1-19 05Ab-221SB・191SK 周辺 1/150  
西壁断面図 1/40



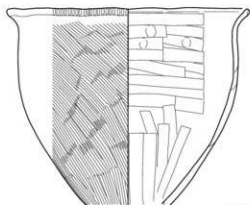
05Ab-171SK



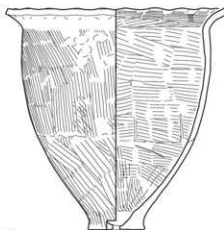
05Ab-171SK-d604-2 625



05Ab-171SK-p286 626



05Ab-171SK-p284 627



05Ab-171SK-d604-1 628

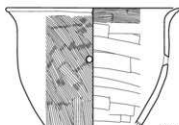


05Ab-171SK-p285 629

05A-191SK



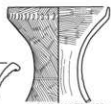
05Ab-191SK-p287 630



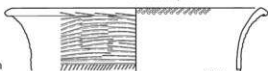
05Ab-191SK-p291 632



05Ab-191SK-p288 631

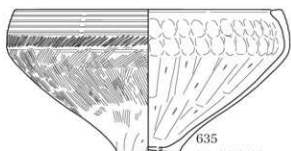


05Ab-191SK-p290 633

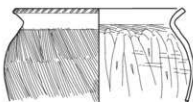


05Ab-191SK-p289 634

0 150mm



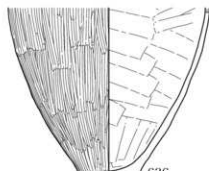
635  
05Ar-237SK-d440



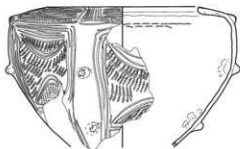
637  
05Ab-211SK-AMS20-p008



05Ab-221SB-d744 638



636  
05Ab-221SB-d714p714



### 3.4.1.16 北区画 - 中期第2環濠 06A-006SD・007SD



06A区北側に存在する溝群で、中期北区画第2環濠を中心とした遺構。調査区北側には大きな落ち込みが存在し、006SDとして調査した。その後その下層にて中期第2環濠である007SDを確認し、同時に近接して009SDが調査区東側に存在して取束する状況を確認する事ができた。現状では第3環濠の取束点と想定しておきたい。なお、008SDは最下層に木製品が廃棄される土坑状の施設と思われる。いずれも貝田町式期を中心とした遺構群であり、溝上位には多量の砂層がラミナ状に複雑に堆積する状況が認められる。高蔵式期

のT-SA層およびその影響下の堆積と想定した。中期第2環濠上層である006SDからは三稜形木鏃(w203)・木製高杯(w204)が出土し、その盤状高杯の形態などから八王子古宮式・山中I式期に所属するものと思われる。

006SD以南は緩やかな平坦面を残しつつ徐々に南に下降し、谷A右岸に至る。調査区南端の004SDとの間には幅8mほどの平坦面が存在し、現状では0.2mほどの盛土状の高まり005SQが存在する。005SQは山中I式期の遺物を包含する。なお005SQ下層では遺物や遺構は確認できない。

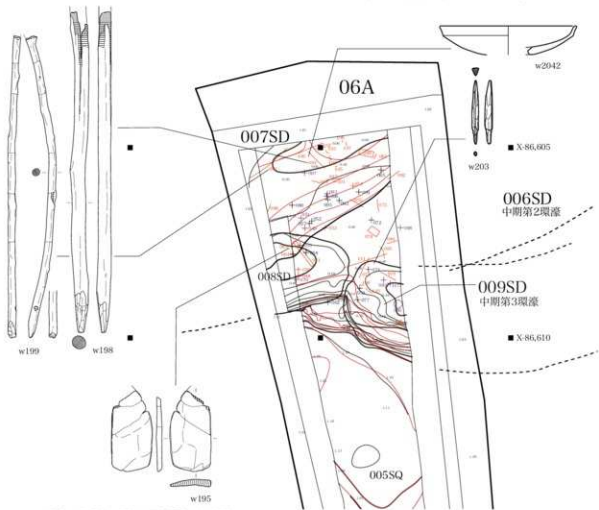
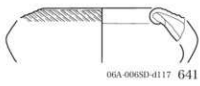


図 3.4.1-20 06A区北側 1/100

06A-006SD



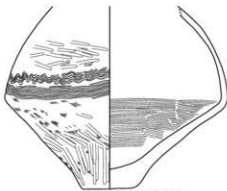
06A-006SD-0004 639



06A-006SD-d117 641

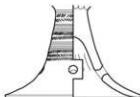


06A-006SD-0034 640



06A-006SD-0086

642



06A-006SD-0026

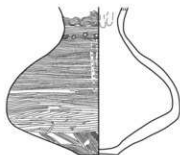
643



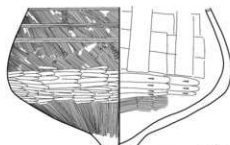
x67  
06A-西トレ下層 s09

0 50mm

06A-007SD (006SD下層)



06A-007SD-0051 644



06A-007SD-0093 645



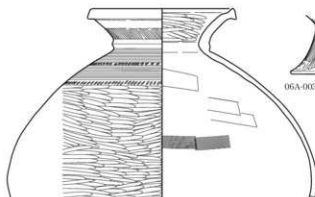
06A-007SD-0050 646



06A-007SD-0049 647

0 50mm

06A-005SQ



06A-002SU (005SQ E) p0254 648



06A-003NR-0008 650



06A-西トレ-0001 652

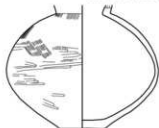


651

06A-北トレ-0009 651



06A-東トレ-d146 653

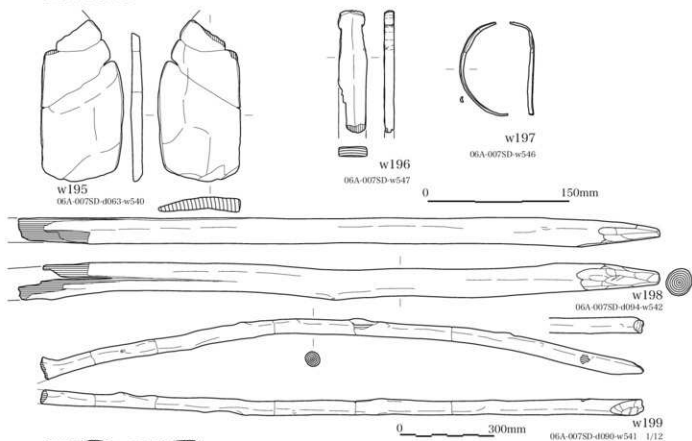


06A-西トレ-d140 649

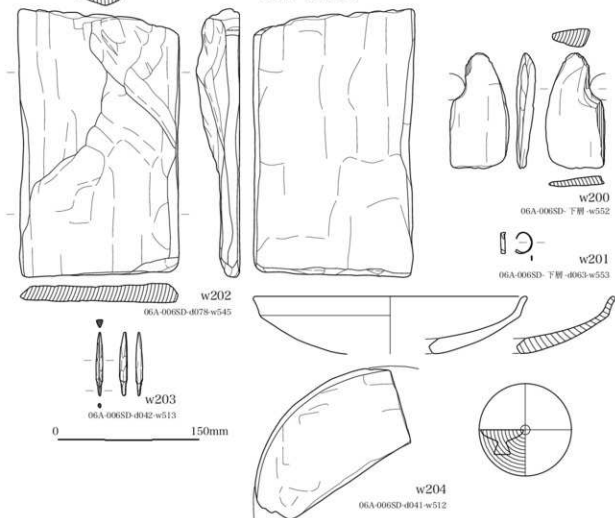
0 150mm



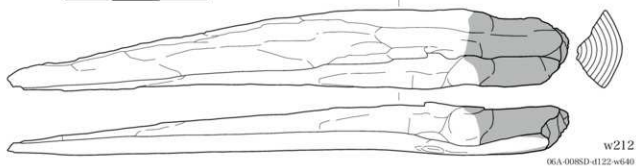
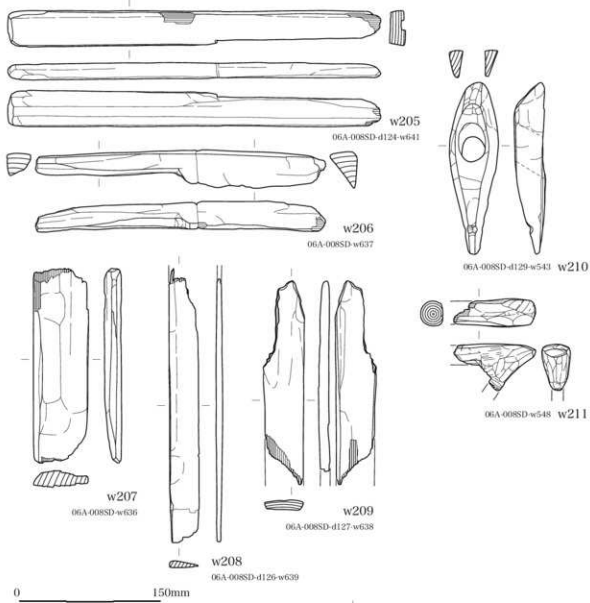
06A-007SD

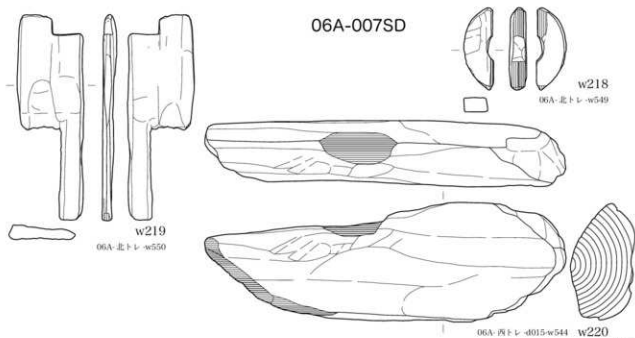
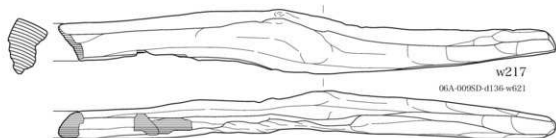
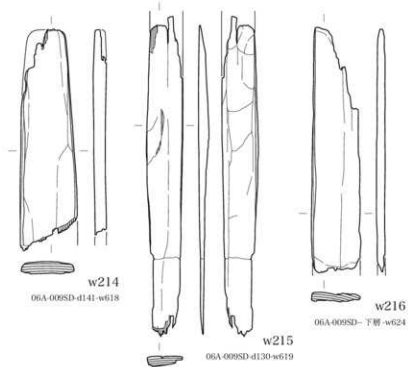
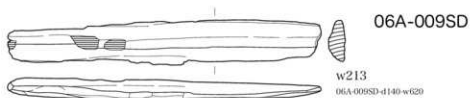


06A-006SD

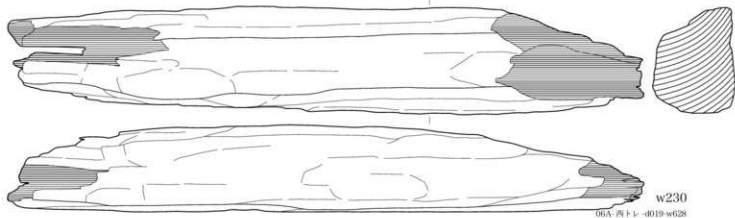
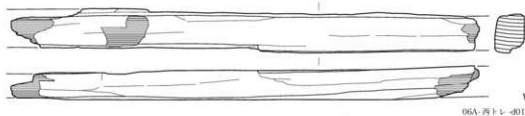
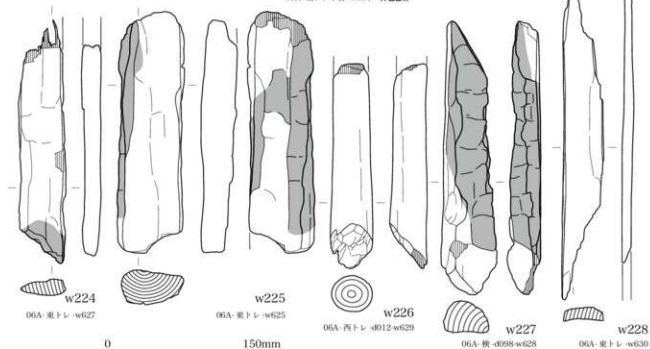
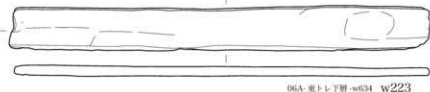
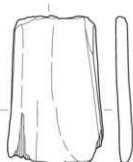
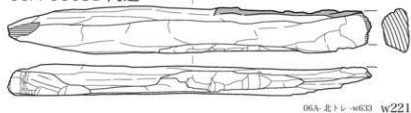


06A-008SD





06A-006SD 周辺



### 3.4.1.17 逆茂木設置用溝

#### 06A-004SD

06A区南端で砂層に埋没する形で溝004SDを確認することができた。谷A右岸に設置された逆茂木設置用の溝の延長部分であると思われる。枝をつけた樹木や加工木製品、獣骨や土器片などが出土している。逆茂木を覆い尽くす砂層は高蔵式期に所属する朝日T-SA層である。

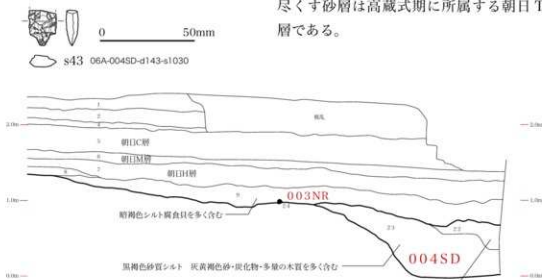
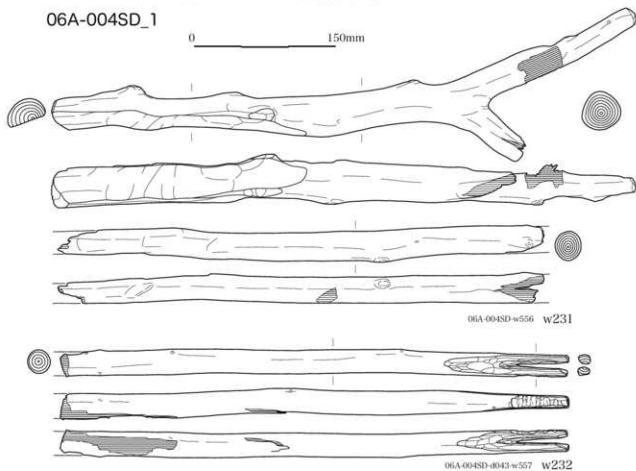
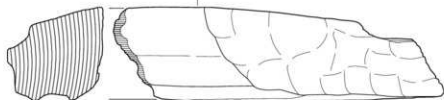


図 3.4.1-21 O6A 東壁断面図 1/50

#### 06A-004SD\_1



06A-004SD\_2



W233

06A-004SD-4112-w583



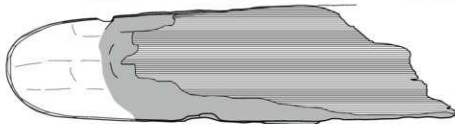
W234

06A-004SD-4067-w555



W235

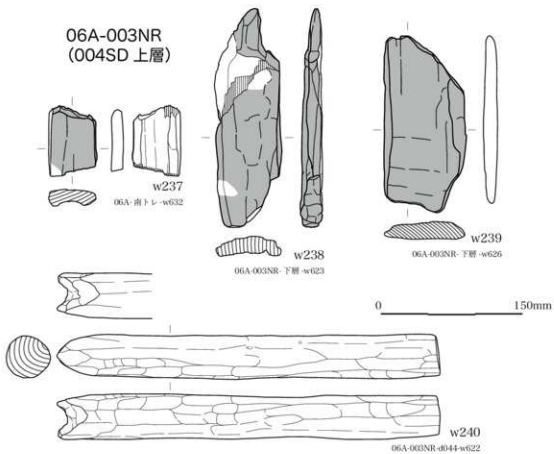
06A-004SD-4061-w554



W236

06A-004SD-4007-w582

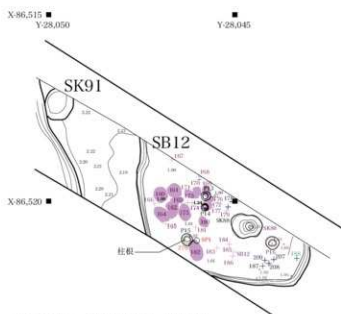
06A-003NR  
(004SD 上層)





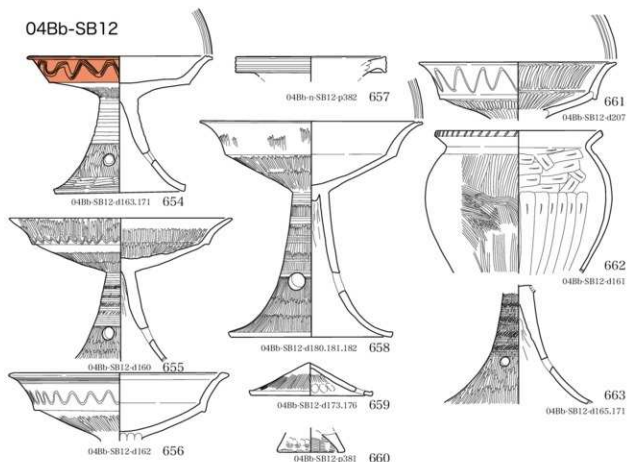
### 3.4.2 B区の遺構

#### 3.4.2.1 04Bb-SB12



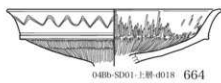
04Bb区北東側で検出した四柱穴を持つ方形の竪穴建物で、下層には貝田町式の方形周溝墓であるSZ404が存在する。東西が4.49mで深さ0.46mを測る。床面より山中式中頃の資料を含む、多量の土器が出土している。なお北墓域を中心とする当地区周辺には、山中期の明確な遺構群が存在しないが、西側の土坑SK91(0.76m深さ0.41m)と東側のSD01上層(1.17mほどの落ち込み状の遺構)からも山中式期の遺物の出土が確認できている。

図 3.4.2-1 04BbSB12 1/100





04Bb-SD01



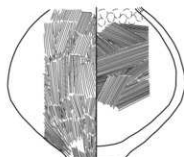
04Bb-SD01-上層-0018 664



04Bb-SD01-上層-0019 665



04Bb-SD01-下層-0045.046 670

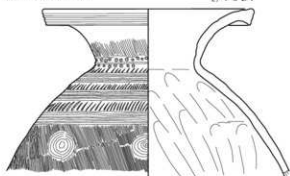


04Bb-SD01-下層-0032 671



04Bb-SD01-上層-0017.36 672

04Bb-SK91



04Bb-SD01-下層-0024.25 666



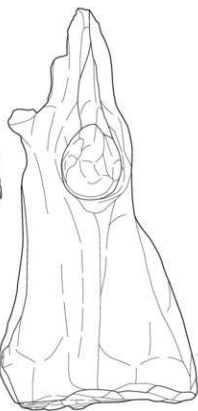
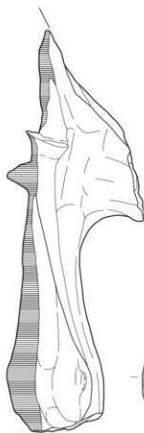
04Bb-SD01-上層-0013 667



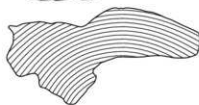
04Bb-SD01-上層-0015 668



04Bb-SD01-下層-0027 669



w241  
04Bb-P15-柱頭  
d279-w375



0 150mm

673  
04Bb-SK91-d211.217.216



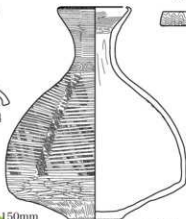
### 3.4.2.2 04Bb-SZ379 他と土器棺墓



SZ142



04Bb-SD35 上層-d121 674

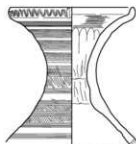


04Bb-SD35 下層-d124 675

SZ379



04Bb-SD37 下層-d122 676



04Bb-SD37 上層-d123 677

0 150mm

0 20m

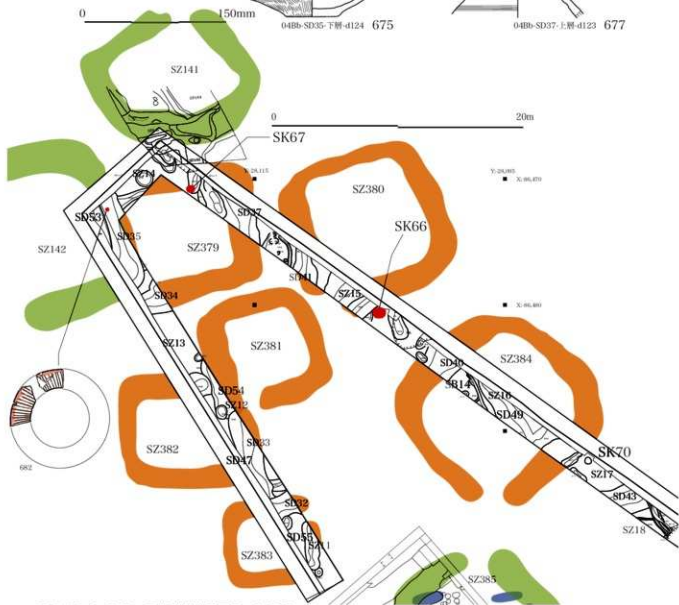
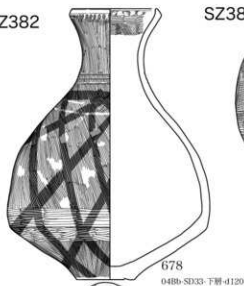
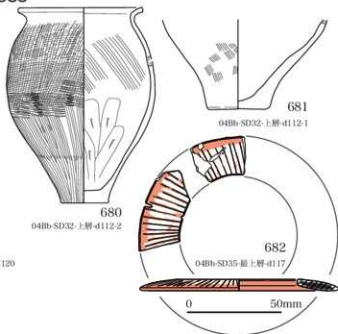


图 3.4.2-2 04Bb 区北侧遺構配置图 1/300

SZ382



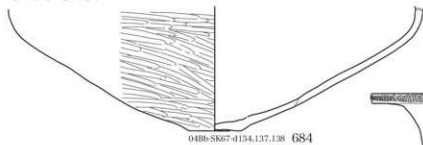
SZ383



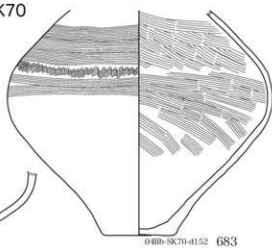
土器棺墓

0 150mm

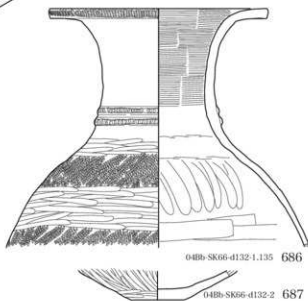
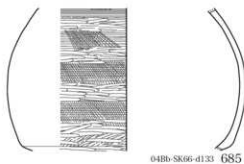
04Bb-SK67



04Bb-SK70



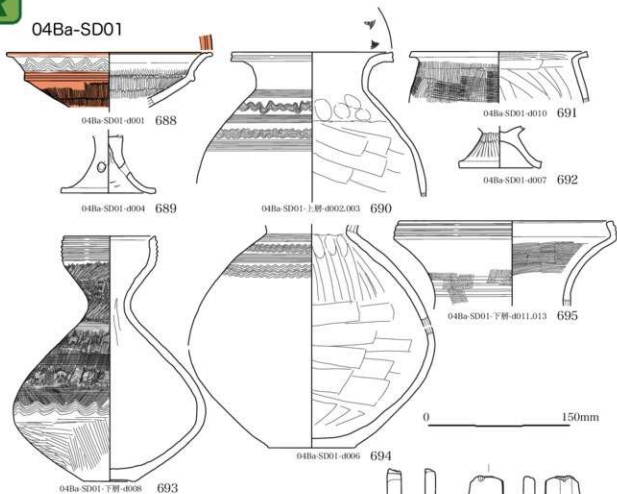
04Bb-SK66



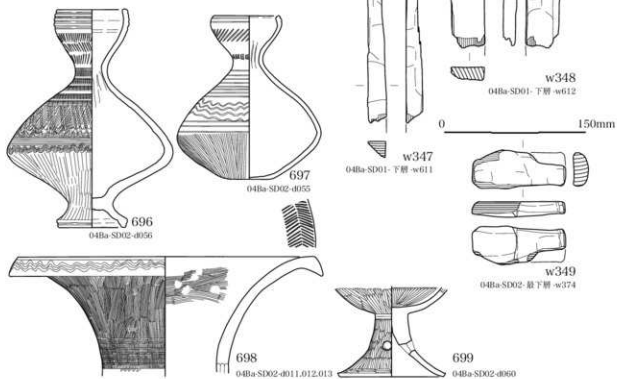


### 3.4.2.3 SZ413

#### 04Ba-SD01



#### 04Ba-SD02



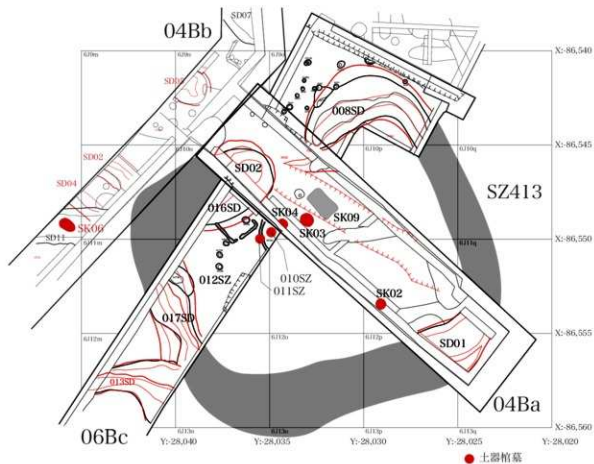
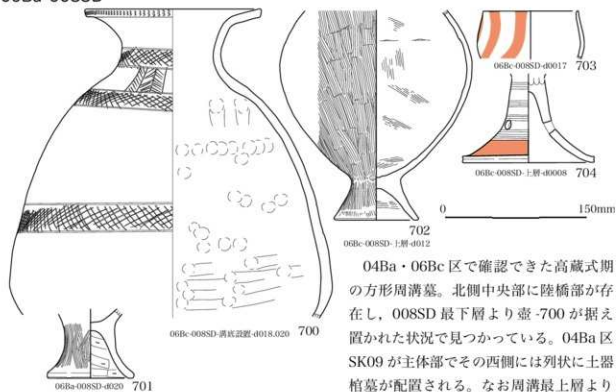


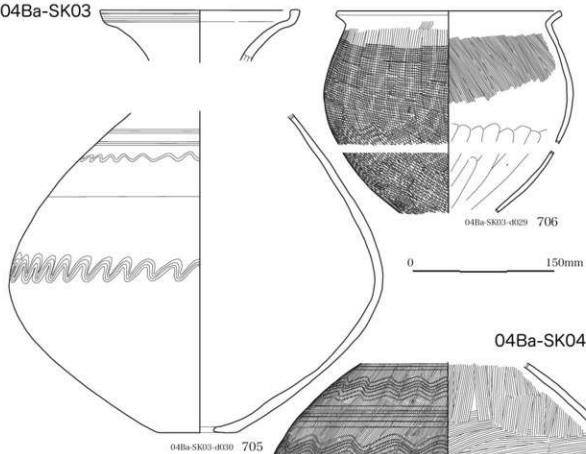
図 3.4.2-3 SZ414 と土器棺墓 1/200

06Ba-008SD

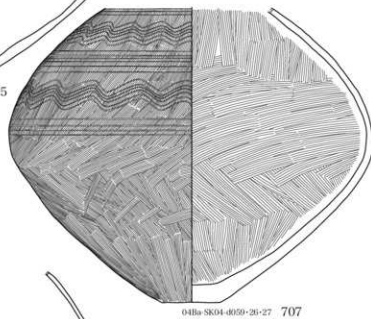


04Ba・06Bc区で確認できた高蔵式期の方形周溝墓。北側中央部に陸橋部が存在し、008SD最下層より壺-700が据え置かれた状況で見つっている。04Ba区SK09が主体部でその西側には列状に土器棺墓が配置される。なお周溝最上層より山中式期の遺物が出土する。15.5×11.0m

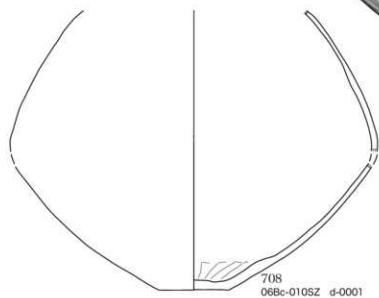
04Ba-SK03

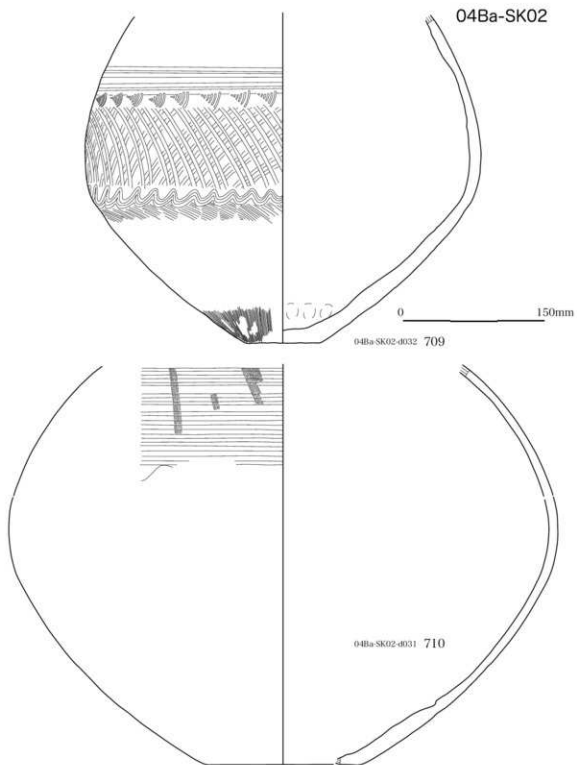


04Ba-SK04

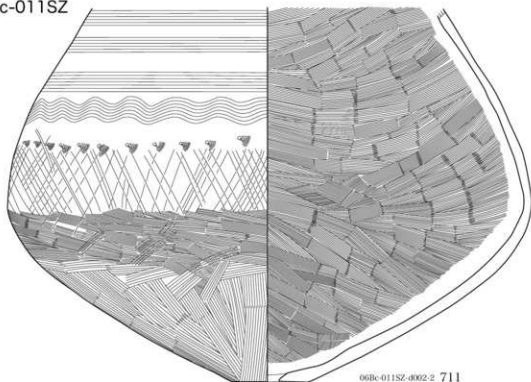


06Bc-010SZ

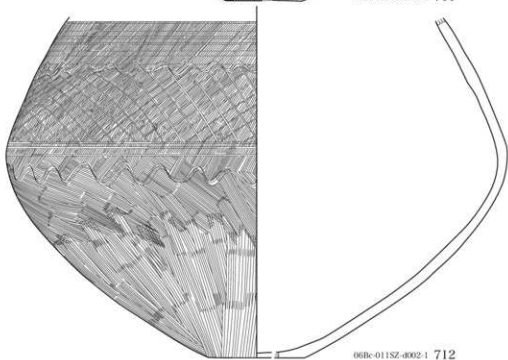




06Bc-011SZ



06Bc-011SZ-002-2 711

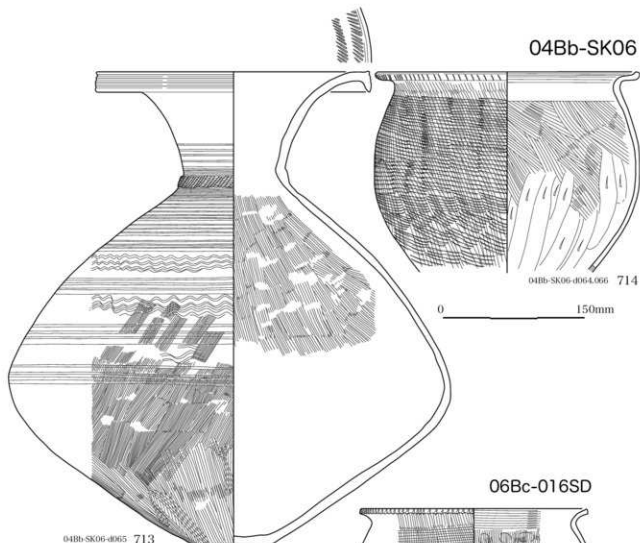


06Bc-011SZ-002-1 712

0 300mm



04Bb-SK06



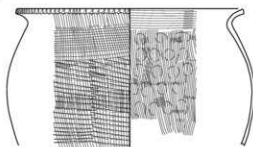
04Bb-SK06-0065 713

06Bc-017SD

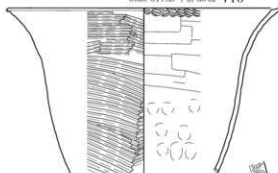


06Bc-017SD-F#-0042 716

06Bc-016SD



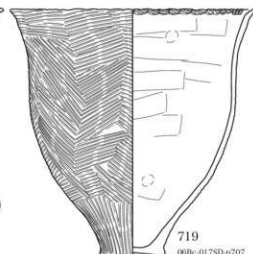
06Bc-016SD-00038 715



06Bc-017SD-F#-0041 717



06Bc-017SD-0036 718



719

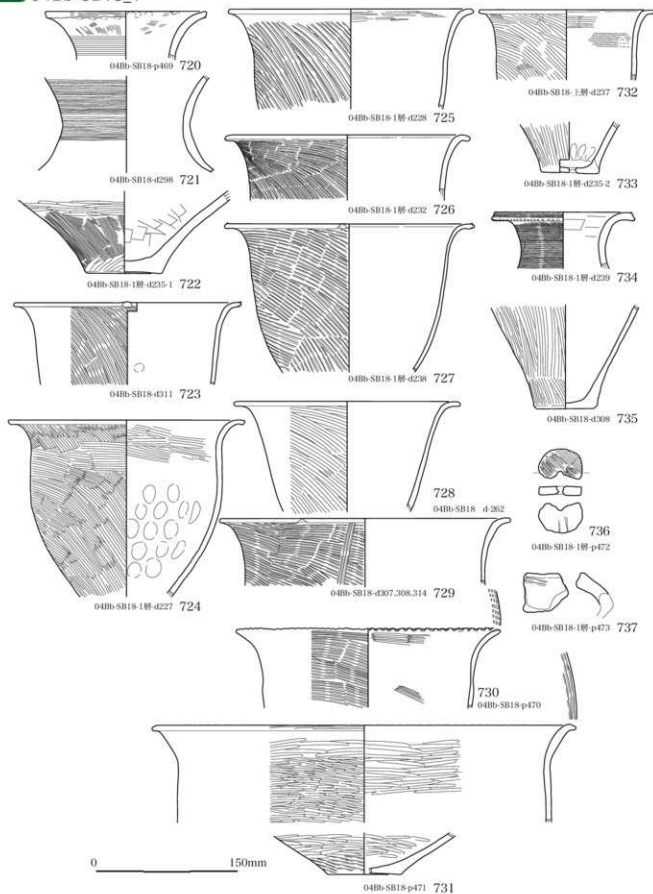
06Bc-017SD-p707

0 150mm



### 3.4.2.4 04Bb-SB18 · 19

04Bb-SB18\_1







### 3.4.2.5 06Ba-005SD

06Ba 区中央部に存在し、北墓城南端を東西に直線的に設置される大溝 006SD と併行する。溝の層序は上から朝日 U・M・H 層と堆積し、H 層は植物遺体層を含む粘土層とシルト層に区分できる。その内のシルト層からは比較的まとまって八王子古宮式期に所属する土器が出土している（上層）。H 層の下には朝日 T 層が堆積するが、その上位の間層として朝日 T-SA 層と想定する中粒砂が 2cm ほど確認できる。朝日 T 層より下位には砂混じりの黒色シルト層が堆積し、上位にはハマグリを下位にはマガキを中心とした貝層の堆積

が認められる（下層）。木製品を含む朝日式期の土器を包含する。溝最下層にはシルト・砂のラミナ状の堆積が見られ、若干の流水の痕跡が認められる。T-SA 層を含むほとんど遺物が混在しない中層（層序番号 -27 ~ 30）をはさんでその前後に上層と下層とに大きく区分できる。溝の掘削は朝日式期の段階であり、当初はほぼ垂直に掘削された箱堀状であったと想定できる。なお 005SD は、04Bc 区で検出した SD02・SD03 に連続する大溝と思われる。

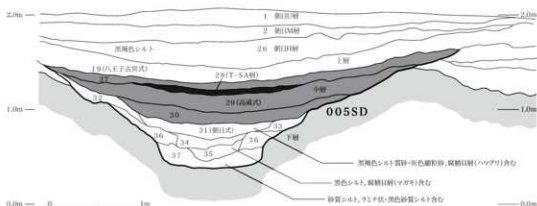
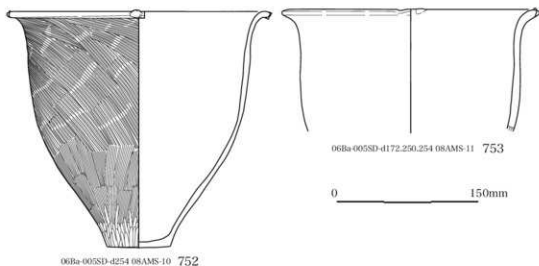
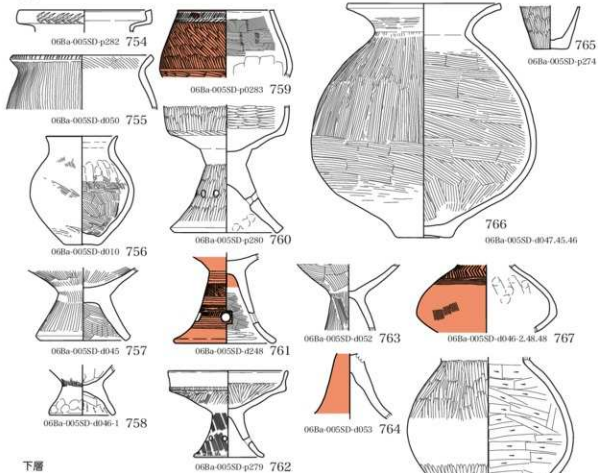


図 3.4.2-4 06Ba 区 005SD 断面図 1/50

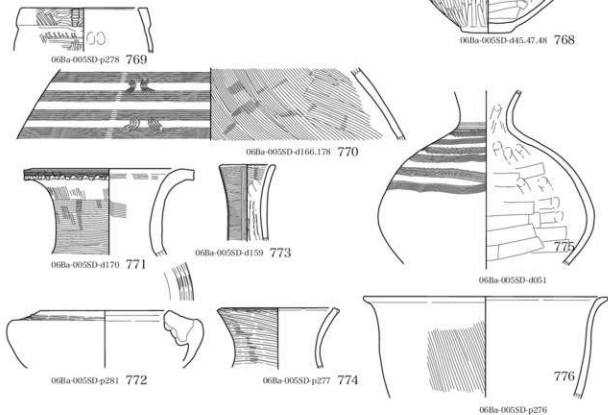
#### 06Ba-005SD\_1



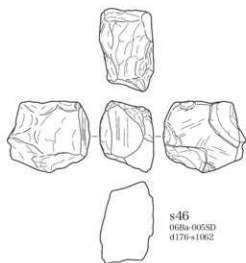
上層



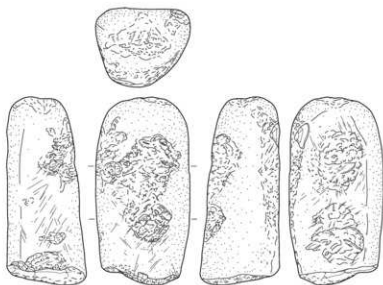
下層



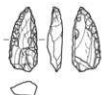
06Ba-005SD\_3 下層



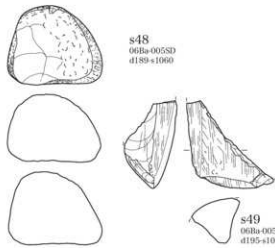
s46  
06Ba-005SD  
d176+1062



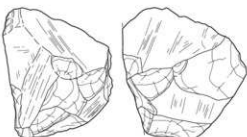
s48  
06Ba-005SD  
d189+1060



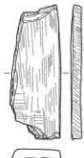
s47  
06Ba-005SD  
s1056



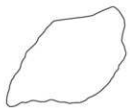
s49  
06Ba-005SD  
d195+1052



s50  
06Ba-005SD  
s1061



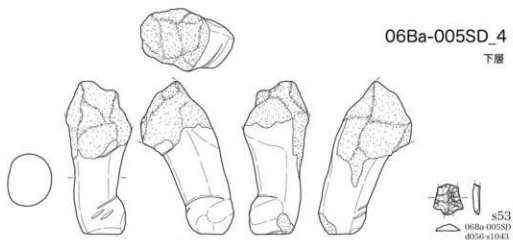
s51  
06Ba-005SD  
d131+1055



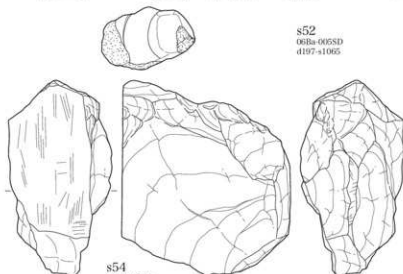
0 150mm

06Ba-005SD\_4

下層



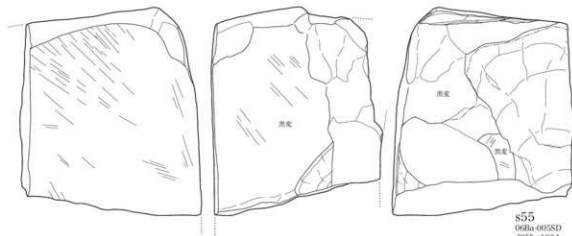
s52  
06Ba-005SD  
d197-s1065



s54  
06Ba-005SD  
d194-s1063



0 150mm



s55  
06Ba-005SD  
d255-s1064

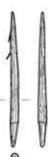
06Ba-005SD\_5 下層



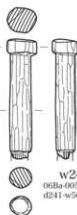
w242  
06Ba-005SD  
d141-w558



w243  
06Ba-005SD  
d142-w559



w244  
06Ba-005SD  
d165-w562



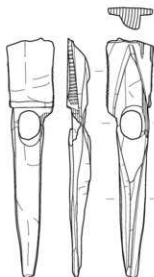
w245  
06Ba-005SD  
d241-w563



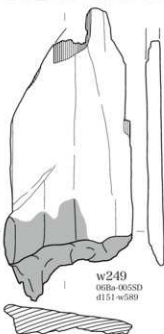
w246  
06Ba-005SD  
d220-w593



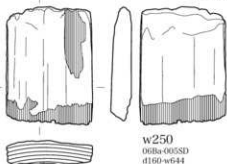
w247  
06Ba-005SD  
d146-w560



w248  
06Ba-005SD  
d163-w561



w249  
06Ba-005SD  
d151-w589

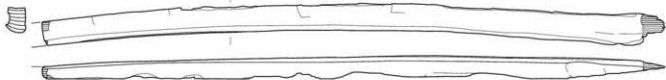


w250  
06Ba-005SD  
d160-w544

0 150mm



w251  
06Ba-005SD  
d156-w591

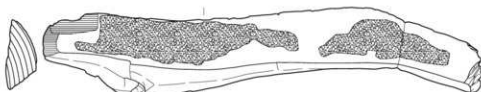


w252  
06Ba-005SD  
d155-w640

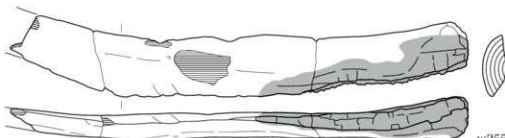




w253  
06Ba-005SD  
d149-w647

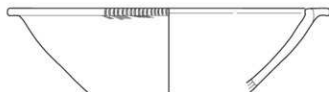


w254  
06Ba-005SD  
d152-w648

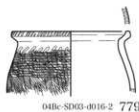


w255  
06Ba-005SD  
d171-w643

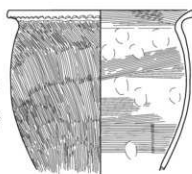
04Bc-SD03



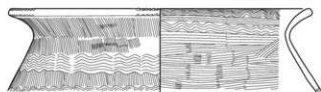
04Bc-SD03-0018 777



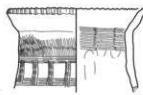
04Bc-SD03-0016-2 779



04Bc-SD03-0016-1 781



04Bc-SD01(SD03):変形-d050 778



04Bc-SD01(SD03):変形-d053 780

0 150mm



### 3.4.2.6 06Ba-009SX (貝塚)

06Ba 区南東端に存在する方形の高まりで、010SX と同様な貝塚遺構と思われる。谷 A 右岸に面して作られ南北 5.5m で高さ 0.3m を測る。大きく二層の堆積層に区分でき、その下位には黒色シルト層が堆積する。第 1 層 009SX-1 は黒褐色シルトで、その上位面から朝日式期の甕-782 が見つかった。第 2 層は粘り気の強い砂まじりのオリブ黒色シルトが堆積する。なお下層には、010SX で認められたような方形周溝墓の存在は確認できない。朝日式期の遺物を包含する。

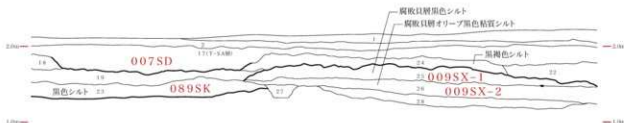
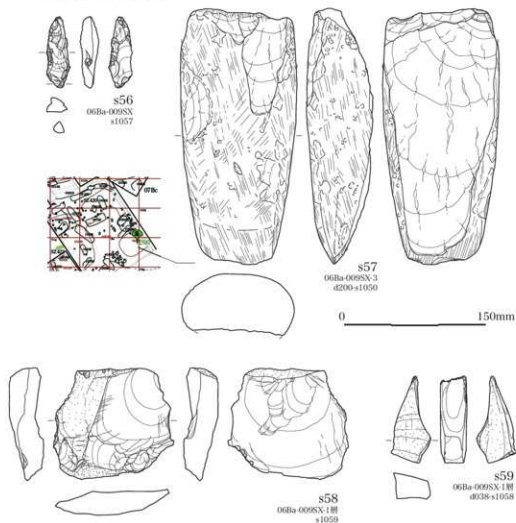


図 3.4.2-5 06Ba 区 009SX 断面図 1/50

#### 06Ba-009SX\_1



土器の出土分布

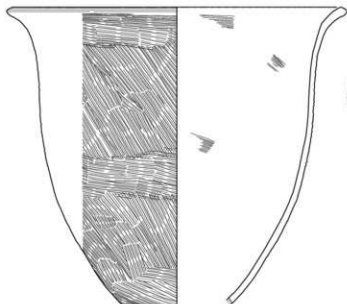


0 150mm

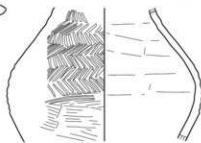
06Ba-009SX\_2



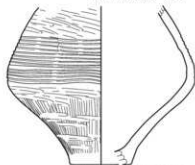
06Ba-009SX-d026 783



06Ba-009SX-1附-0035 782



06Ba-009SX-d024 784



06Ba-009SX-1附-d105 785

### 3.4.2.7 06Ba-010SX・07Ba-001SX (貝塚)

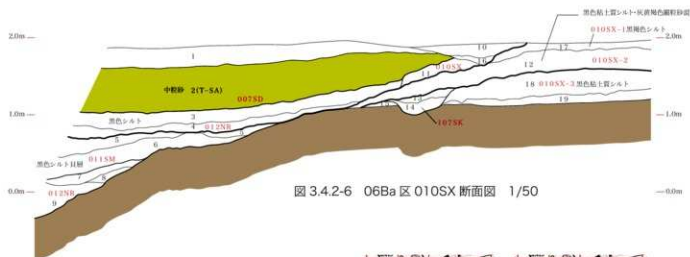
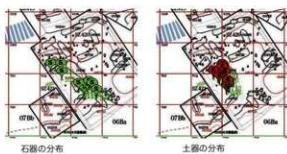
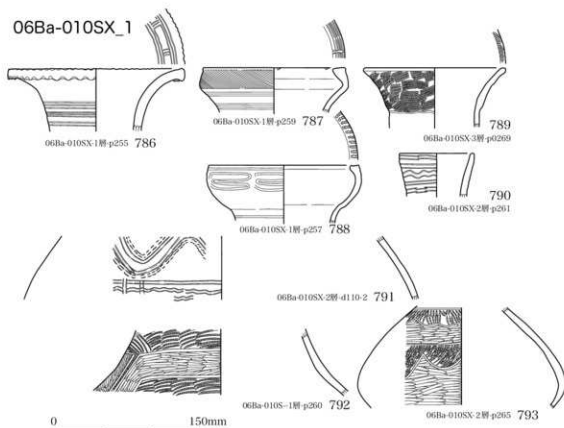
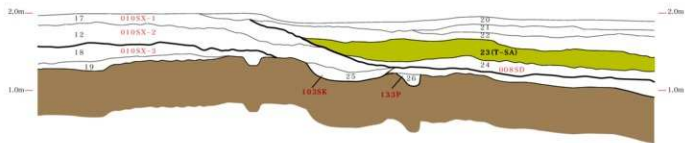


図 3.4.2-6 06Ba区 010SX 断面図 1/50



#### 06Ba-010SX\_1

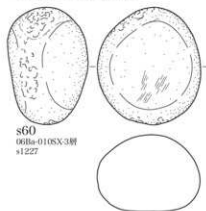




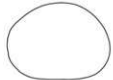
06Ba区南西部、009SXと同様に谷A右岸に存在する方形の高まりで、腐食貝層が厚く堆積し貝塚が形成されていたものと想定できる。その西側である07Ba区001SXを含めると南北8m・東西9mほどの広がりを持ち、基盤層からの高さは0.6mを測る。大きく3つの堆積層から構成されており、上から第一層010SX-1は、褐色シルトで貝田町式前半期の土器を包含する。第二層の010SX-2は黒褐色シルトでおおむね0.3mと厚く堆積し、

炭化物が混在する。下位面には灰・炭化物の分布があるも、炉跡等は確認できない。第三層の010SX-3は、粘り気のある砂混じり灰褐色シルトで、貝殻痕跡や炭化物が混在する。第2・3層では朝日式2期の遺物を包含する。010SXは周囲を、朝日T-SA層である洪水性の砂層により覆われ、それ以後はほとんど人為的な改変の痕跡は認められない。なお、下層に101SK・107SK及び07Ba区007SDが存在し、方形周溝墓SZ421上に形成した貝塚と考えられる。

06Ba-010SX\_2

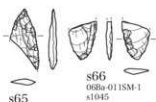


s60  
06Ba-010SX-3層  
s1227



s61  
07Ba-001SX-2層  
s1003

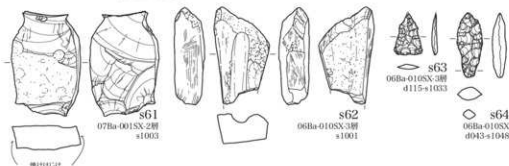
06Ba-011SM



s65  
06Ba-011SM-1  
d227-s1044

s66  
06Ba-011SM-1  
s1045

0 150mm

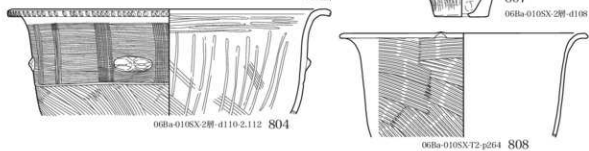
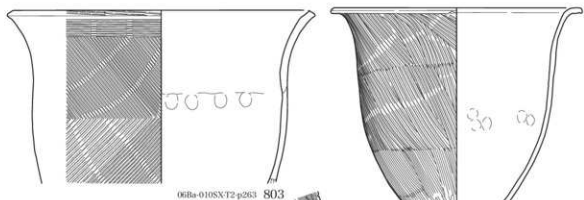
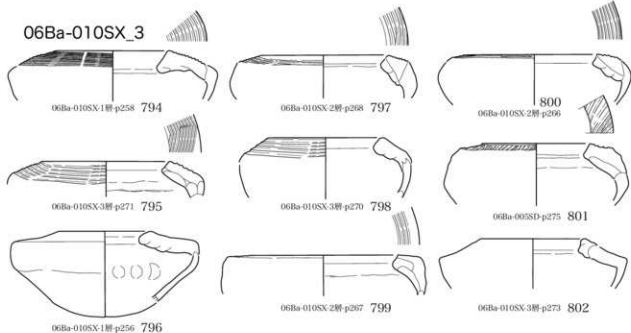


s62  
06Ba-010SX-3層  
s1001

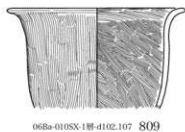
s63  
06Ba-010SX-3層  
d115-s1033

s64  
06Ba-010SX  
d043-s1048

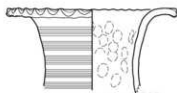
06Ba-010SX\_3



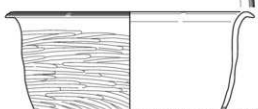
0 150mm



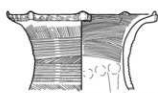
07Ba-001SX



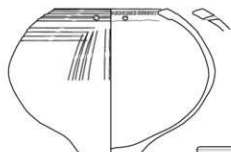
07Ba-001SX-1册-d000 810



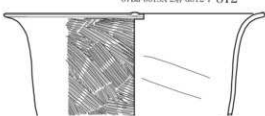
07Ba-001SX-2册-d012-1 812



07Ba-001SX-2册-d013 815

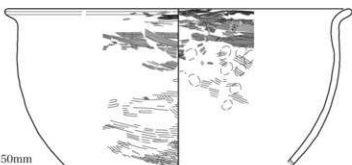


07Ba-001SX-2册-d011 811



07Ba-001SX-2册-d014 813

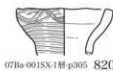
0 150mm



07Ba-001SX-2册-d010 814



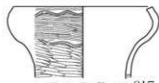
07Ba-001SX-2册-d012-2 816



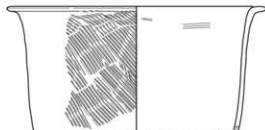
07Ba-001SX-1册-p305 820



07Ba-001SX-2册-p304 821



07Ba-001SX-1册-p300 817



07Ba-001SX-1册-p303 822



07Ba-001SX-1册-p001 818



07Ba-001SX-1册-p299 819



07Ba-001SX-1册-p302 823



### 3.4.2.8 06Ba- 谷 A 右岸加工面

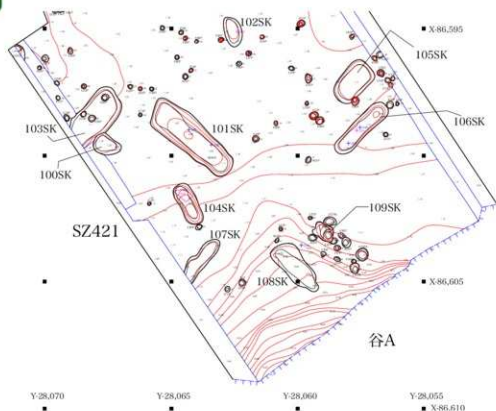
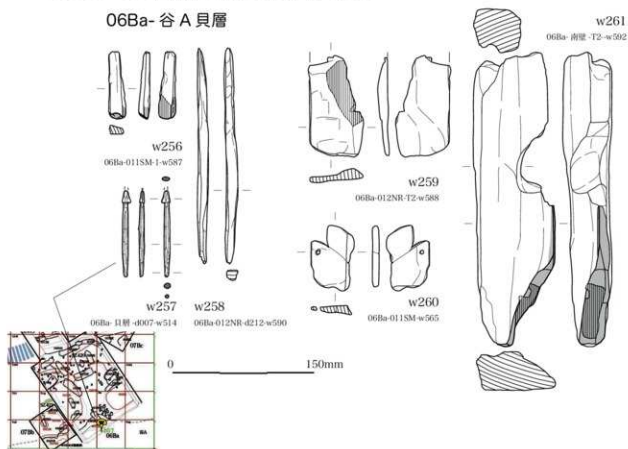


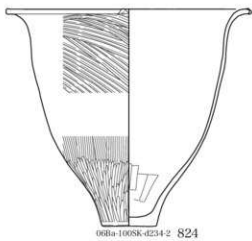
図 3.4.2-7 06Ba 区南側谷 A 右岸の最終加工面 1/150

#### 06Ba- 谷 A 貝層

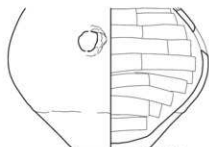




06Ba-100SK

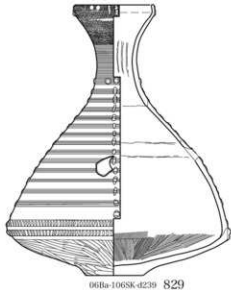


06Ba-100SK-d234-2 824



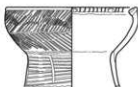
06Ba-100SK-d234-1 825

06Ba-106SK



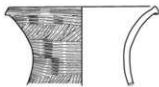
06Ba-106SK-d239 829

06Ba-102SK

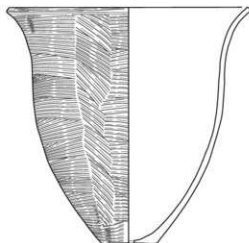


06Ba-102SK-d237.206 826

06Ba-104SK

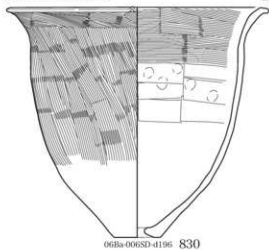


06Ba-104SK-d240-1 827



06Ba-104SK-d240-2 828

06Ba-006SD



06Ba-006SD-d196 830



06Ba-006SD-d183 831



### 3.4.2.8 SZ415

06Bc-014SZ · 013SD · 050SD

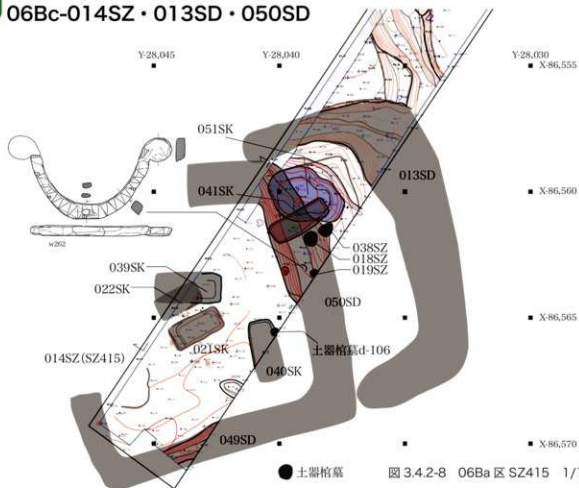
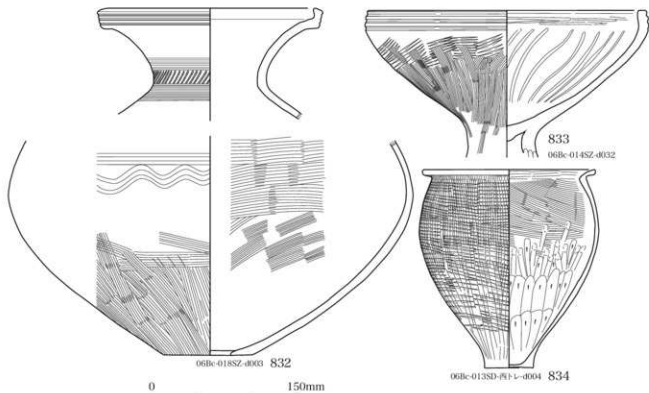


图 3.4-2-8 06Ba 区 SZ415 1/150



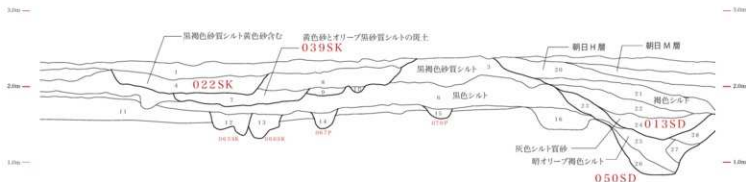


図 3.4.2-8 06Ba 区 SZ415 西壁断面図 1/50

SZ415 は 06Bc 区西側に存在する方形周溝墓で、東側への墳丘の拡張が認められる。まず 050SD と 049SD、加えて 03Bd 区で確認されている溝によって囲まれた周溝墓が造営される。その後に東側に 013SD が掘削され墳丘の拡張が行われる。021SK が拡張以前の中心埋葬主体部であり、拡張後に 039SK・022SK さらには 040SK や 041SK が追加される。また土器棺墓である 038SZ・018SZ・019SZ が設置される。出土遺物から高蔵式期に所属する方形周溝墓と推定できる。興味深

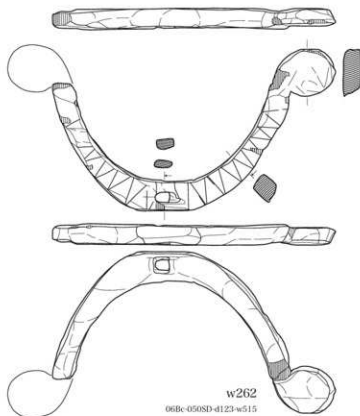
い資料として、東溝 050SD からベンガラが塗布されて蔵手杖木製品が出土している。

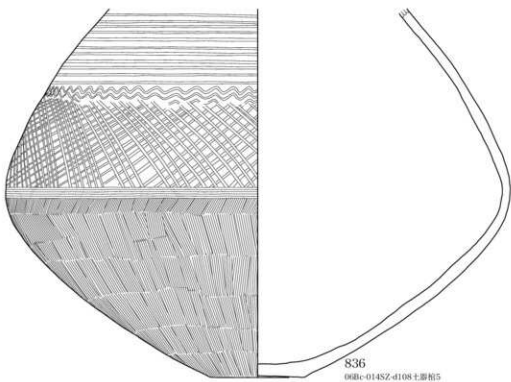
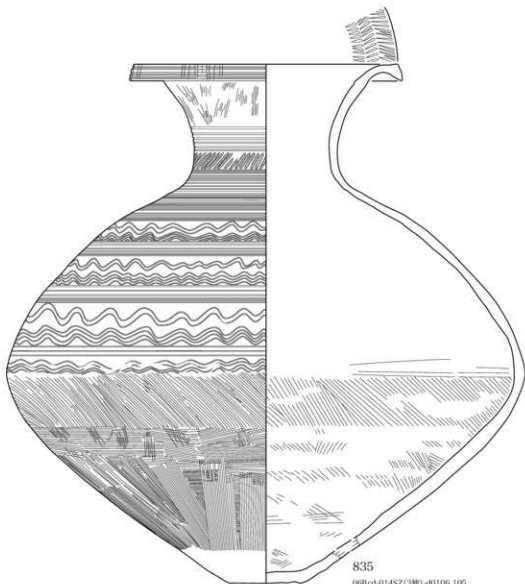
規模は 10×9.5m から 14.5×9.5m に拡張する。

なお、050SK に重複する形で 051SK が存在し、貝・炭化物が混在する堆積層からは朝日式期の土器が出土している。また各遺構からも朝日式期の遺物が混入しており、周囲に朝日式期の小規模な居住区が存在していたことが推測できよう。

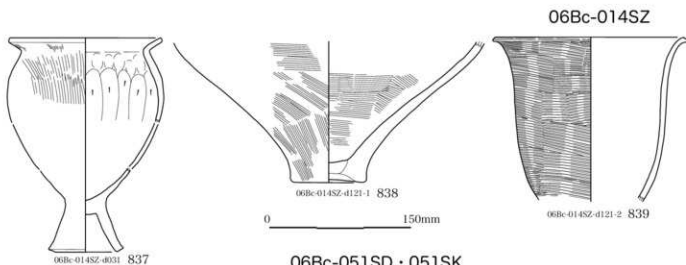


土器棺墓の分布と 壘-834

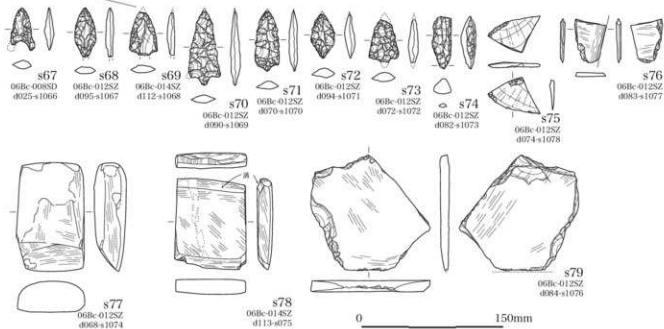
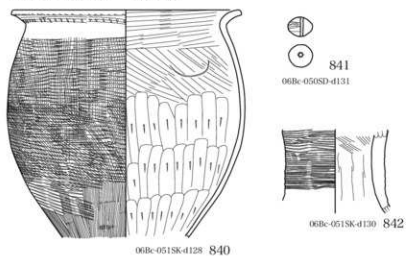




0 150mm



06Bc-051SD・051SK

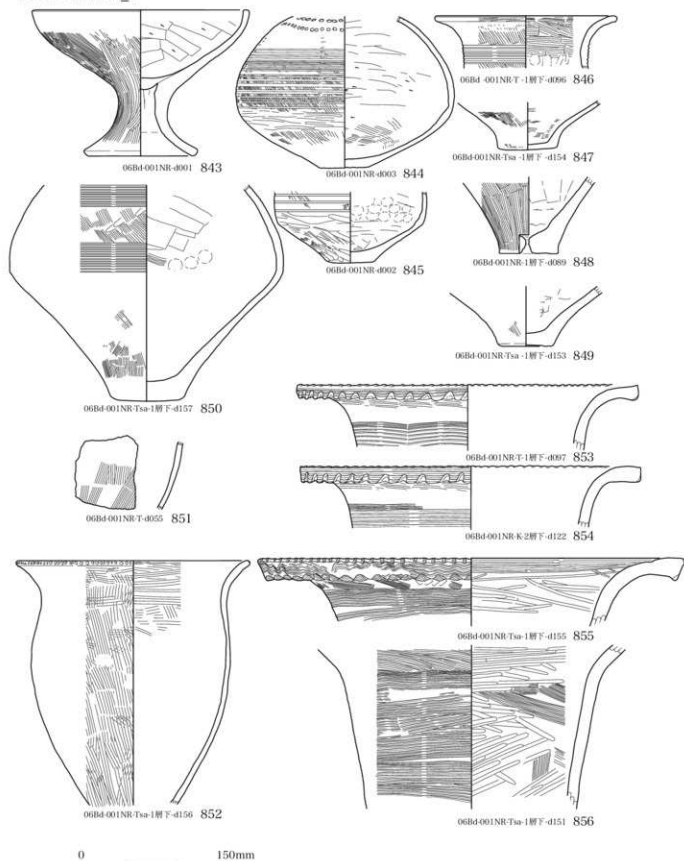


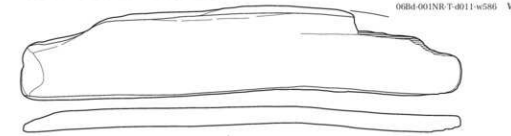
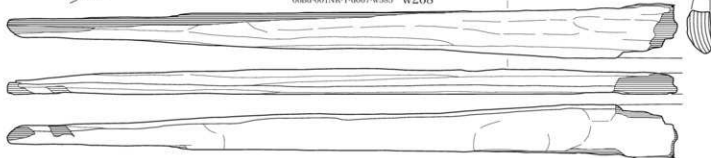
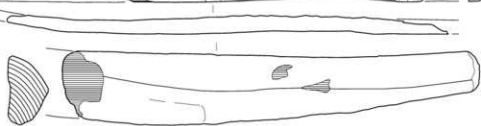
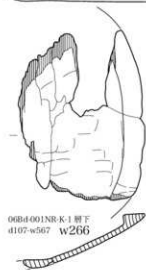
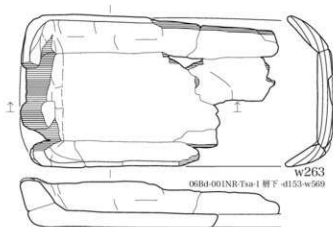


### 3.4.2.9 谷 A (06Bd)

圖 3.3-12 參照

06Bd-001NR\_1





06Bd-001NR-T-011-w586 w270

0 150mm

06Bd-001NR-T-011-w586 w269

x41  
06Bd-001NR  
d158-x106

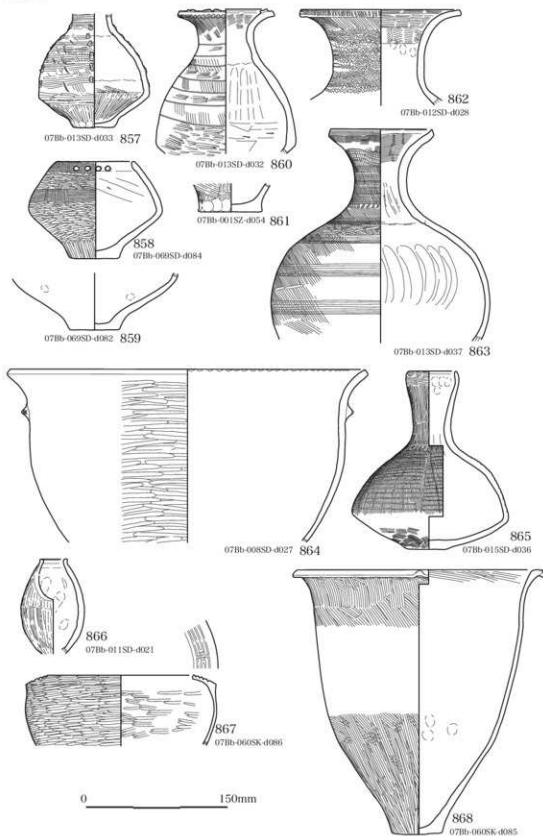
0 50mm



### 3.4.2.10 SZ394

#### 07Bb-003SZ

07Bb





07Bb 区は北区画環濠帯に近接した北墓域に位置し、調査区全体に中期の方形周溝墓が展開する。その下層には加工面に掘削された朝日式期の居住域が認められる。方形周溝墓は貝田町式 2 期を中心に、ほぼ南北に主軸をあわせるように列状に配置されており、これに主軸を斜めに置く形で高蔵期の方角周溝墓 SZ146 が重複する。中央部に存在する SZ394 では、重複する 3 基の埋葬主体部が確認できた。

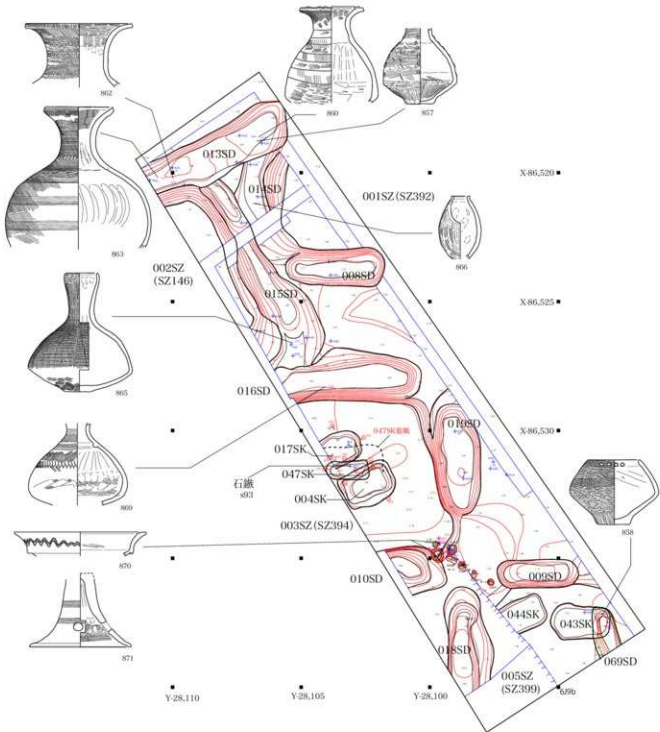
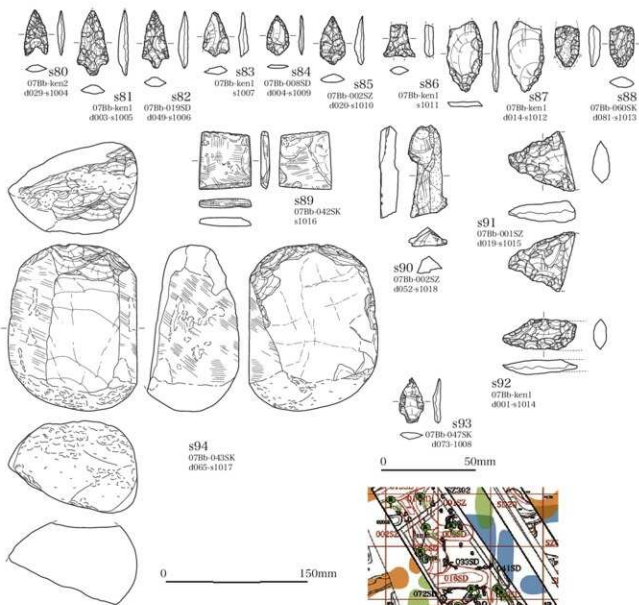
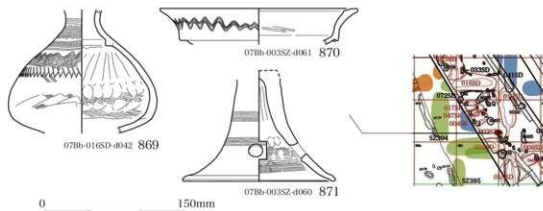


図 3.4.2.10 07Bb 区 SZ394・SZ399・SZ392・SZ146 (1/150)



石器の分布



07Bb区の方形周溝墓下層には加工面に掘削された小溝と土坑群が展開し、朝日式2期を中心として若干の遺物が確認できる。033SDは楕円形状を呈する小溝で5.5×4.6mほどの規模を持つ堅穴建物の痕跡と思われる。同様に072SDは東西4.3mほどの堅穴建物であった可能性が高い。また042SKは焼土面をもち040SDと関連して建物痕跡の可能性が想定できる。

SZ394の北東隅に存在する陸橋部では、入口部と思われる補修痕跡(朝日G層である基盤層を基にした整地土)が認められ、周囲からは山中式期の高杯(870・871)と加工材の痕跡が見つかっている。墓域の各地点で確認できる山中式期の墓前祭祀痕跡の一つと思われる。

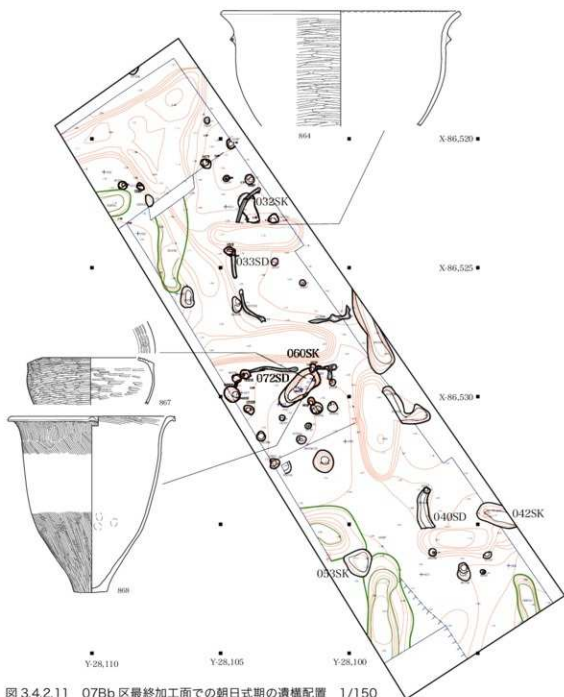
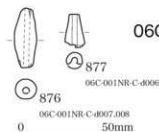
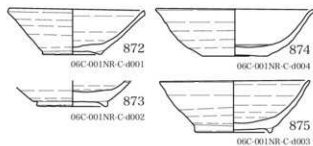


図 3.4.2.11 07Bb区最終加工面での朝日式期の遺構配置 1/150

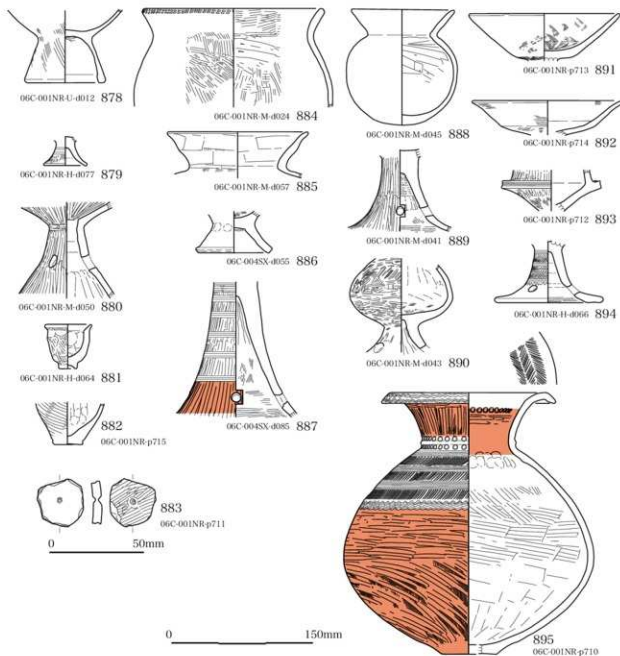


### 3.4.2.10 谷B

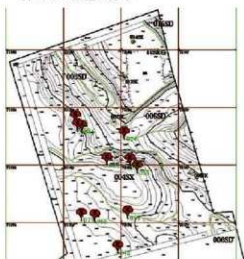
06C-001NR・05Cb-001NR



06C-001NR\_1



谷 B での土器の分布



谷 B での木製品の分布

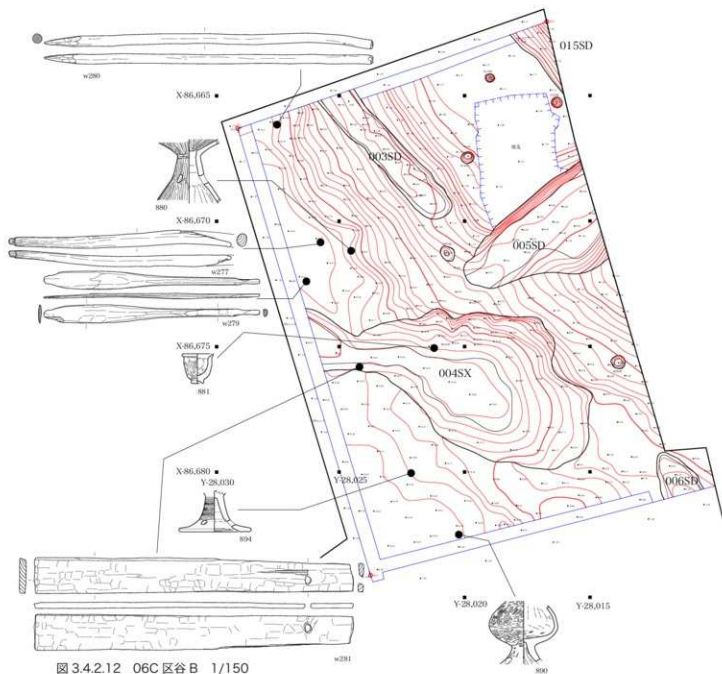


図 3.4.2.12 06C 区谷 B 1/150

06C-001NR\_2

0 150mm



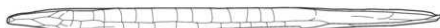
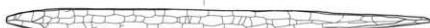
w272

06C-001NR-U-0029-w532



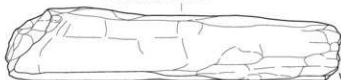
w273

06C-001NR-U-0019-w533 1/8



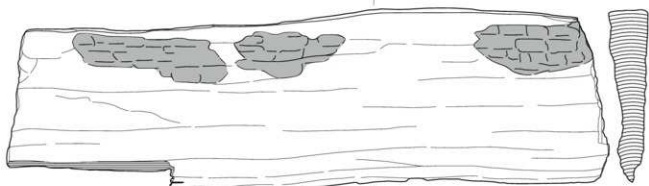
w274

06C-001NR-U-0018-w534 1/8



w275

06C-001NR-U-0020-w535 1/8



w276

0 300mm

06C-001NR-U-0017-w536 1/8

06C-001NR\_3



w277

06C-001NR-M-0060-w531



w278

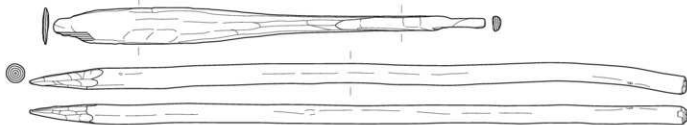
06C-001NR-M-0137-w524

0 150mm



w279

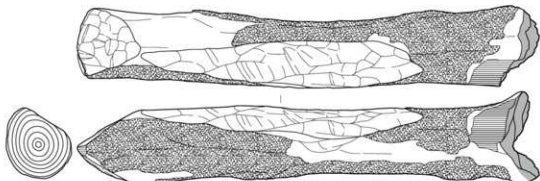
06C-001NR-M-0062-w530 1/8



06C-001NR-M-0103-w527 1/8 w280



06C-001NR-M-0038-w529 1/8 w281

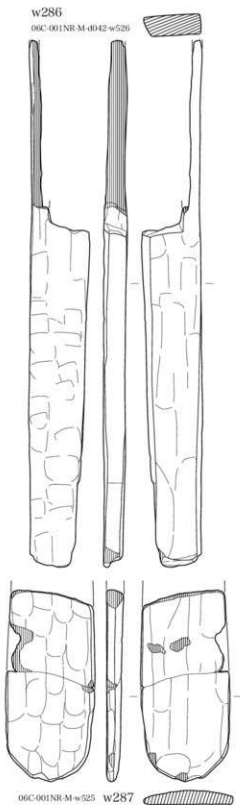
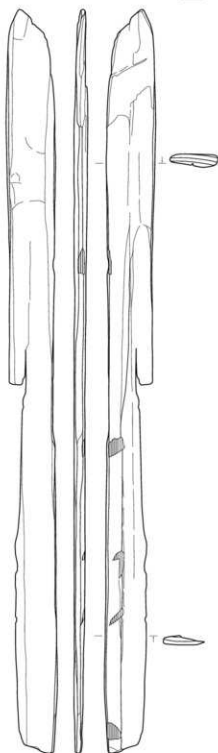
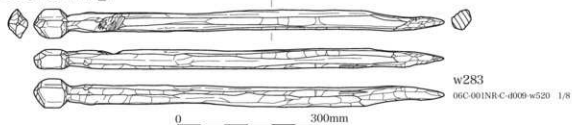


w282

06C-001NR-M-0054-w528 1/8

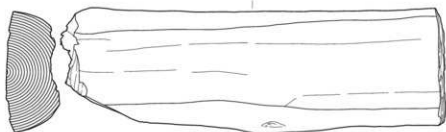
0 300mm

06C-001NR\_4



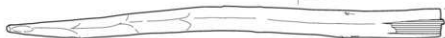


06C-001NR\_5



w288

06C-001NR-M-0017-w594



w289

06C-001NR-M-0016-w590



w290

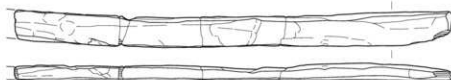
06C-001NR-M-0027-w653



0 150mm

w291

06C-001NR-M-0033-w650

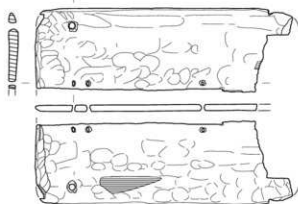


0 300mm

w292

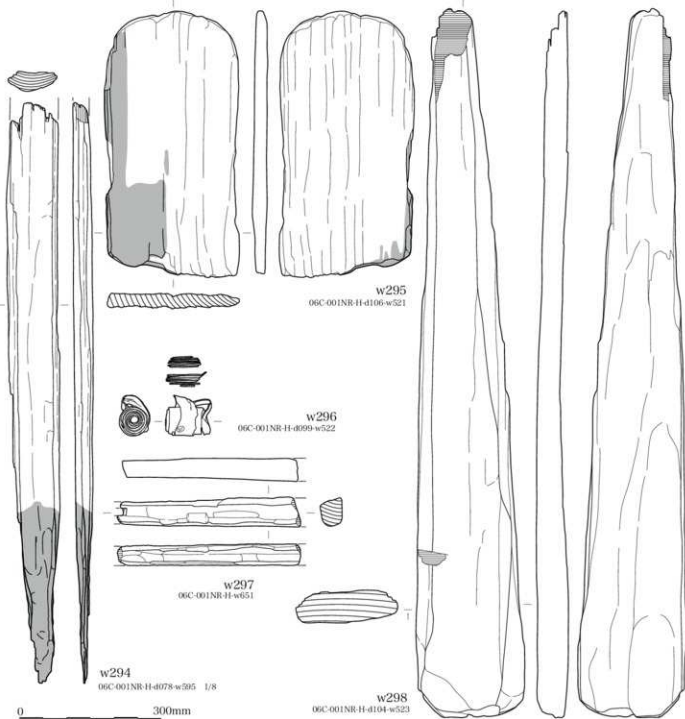
06C-001NR-M-0027-w652 1/8

06C-001NR\_6



w293  
06C-001NR-前トレ-w654

0 150mm



w294  
06C-001NR-H-078-w395 1/8

w295  
06C-001NR-H-0106-w521

w296  
06C-001NR-H-0099-w522

w297  
06C-001NR-H-w651

w298  
06C-001NR-H-0104-w523

0 300mm

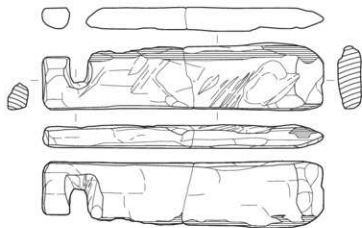
06C-001NR\_7



w299  
06C-001NR-M-0058-w517



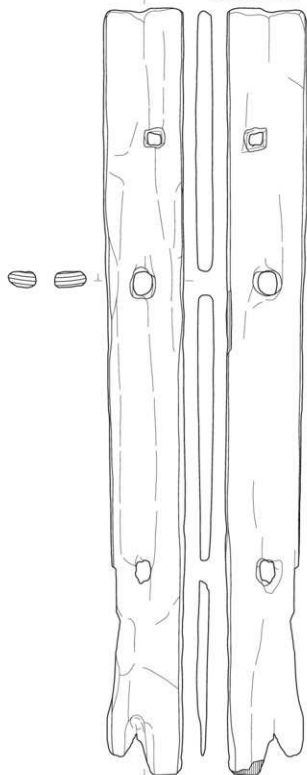
鳥形木製品出土地点



w300  
06C-001NR-M-0040-w518

06C-004SX

w302  
06C-004SX-d071-w536



w301  
06C-004SX-w580



w304  
06C-004SX-d088-w579

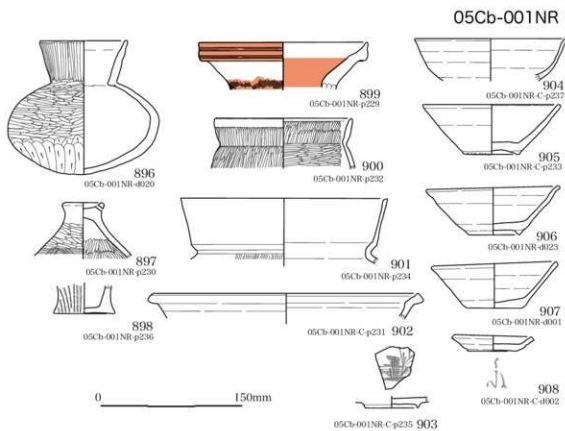


w303  
06C-004SX  
d089-w537

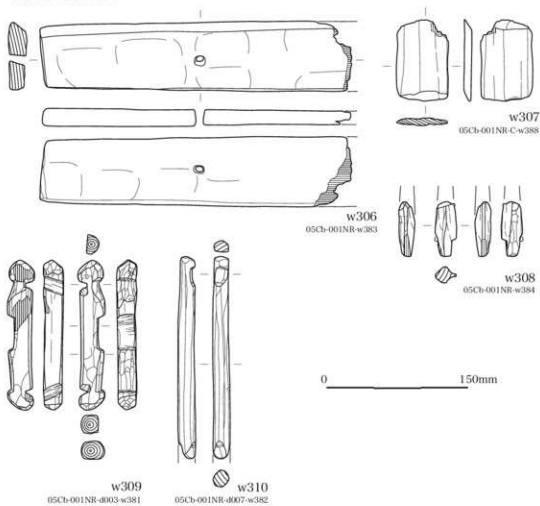


w305  
06C-004SX-d090-w530 1/8  
0 150mm

0 150mm



**05Cb-001NR**



### 3.4.3 C 区の遺構

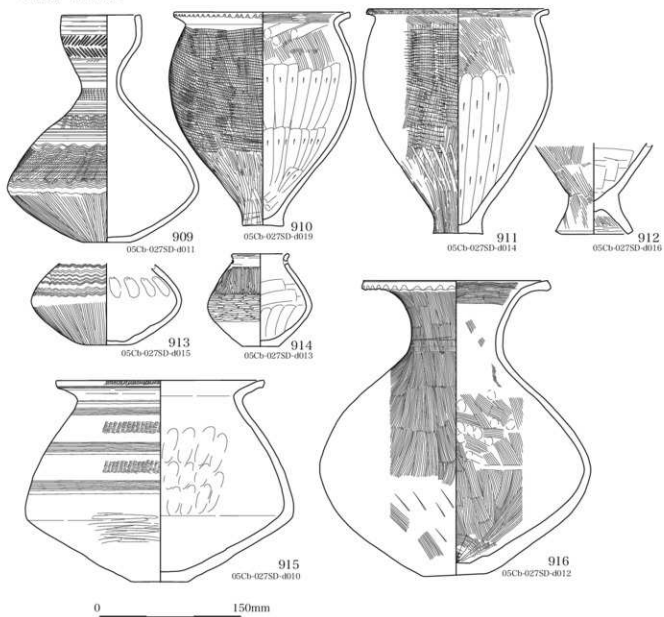


#### 3.4.3.1 SZ434・435

SZ434 (05Cc-SD20・SD06・05Cb-027SD・003SD)

SZ435 (05Cc-SD19・SD08・05Cb-024SD・022SK)

05Cb-027SD



方形周溝墓 SZ434・SZ435 は、谷 B 右岸に設定した 05Cb 区・05Cc 区に所在する。SZ434 は 05Cc-SD20・SD06・05Cb-027SD・003SD の四つの溝により区画され、SZ435 は 05Cc-SD19・SD08・05Cb-024SD・022SK により区画された周溝墓と考え、墳丘の拡張を想定したい。なお、024SD が 001NR (谷 B) により破壊された状況が確認できるため、谷 B が存在する以前に造営さ

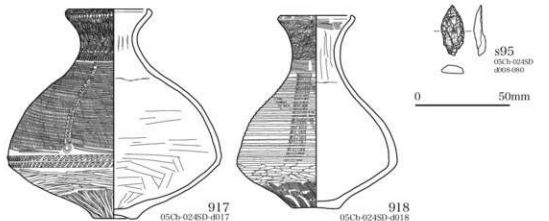
れた方形周溝墓と考えられる。溝内より高蔵式期の遺物が多く出土している。主体部については確認できていない。

SZ434 は 7.5×7.2m

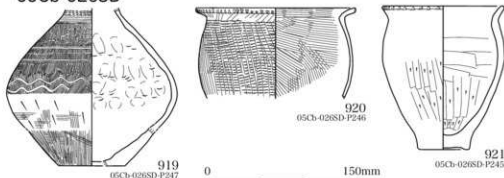
SZ435 は 7.9×7.7m

なお、周辺部では下層遺構として、主に貝田町式期を中心とした竪穴建物群が存在する。

### 05Cb-024SD



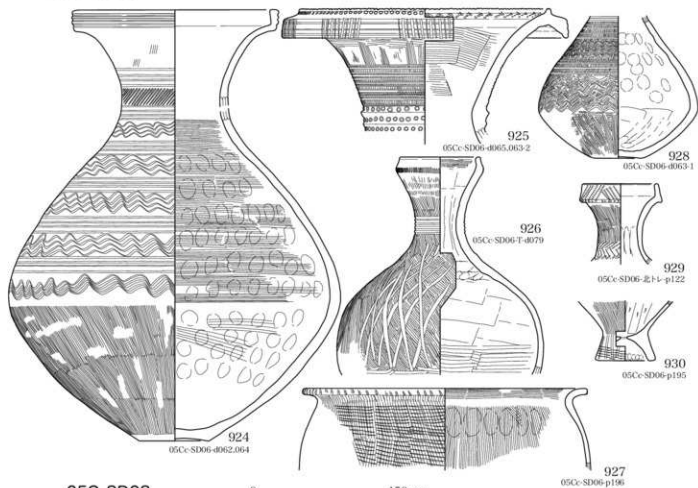
### 05Cb-026SD



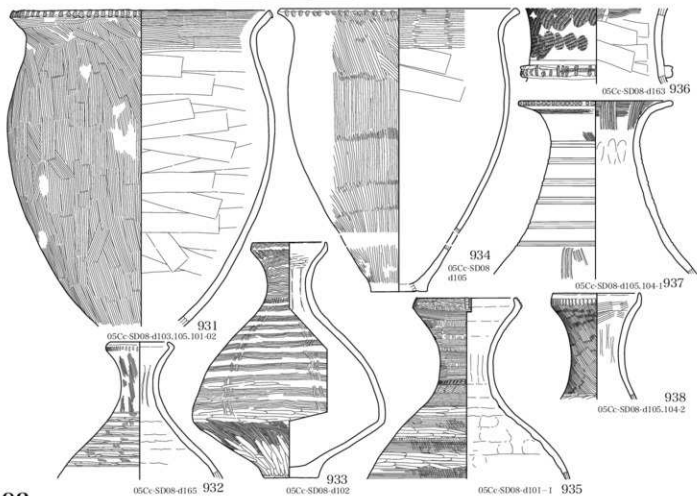
### 05Cb-027SD



05C-SD06



05C-SD08





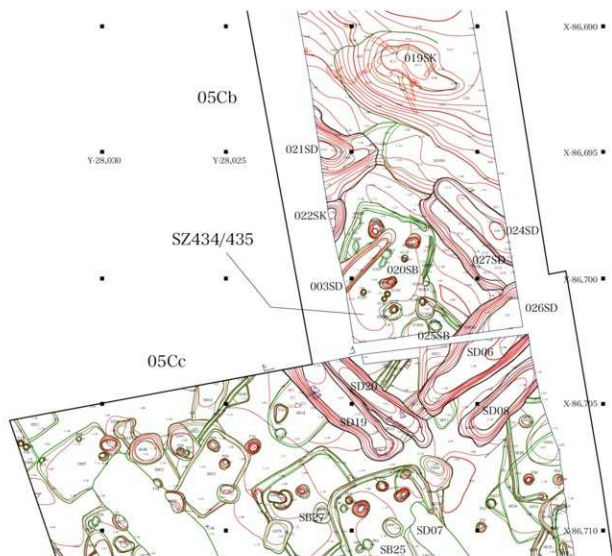
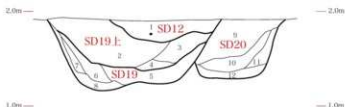


図 3.4.3-1 05Cc・Cb区 SZ434・435 1/150



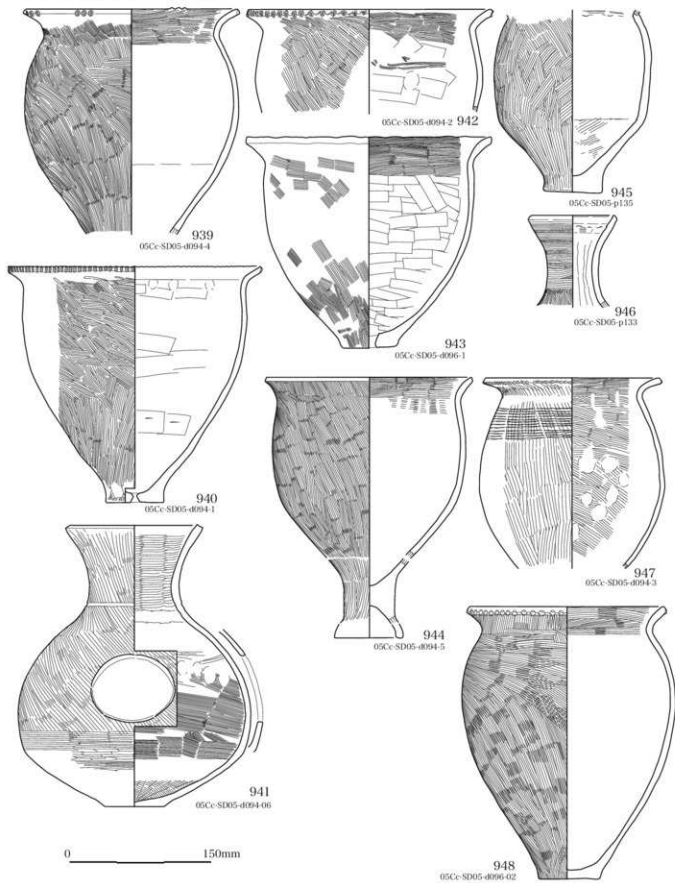
順序番号	土色記号	土色	土質	備考
1	2.5Y2/1	黒色	砂質土	酸化鉄分・炭化物・自然木含む
2	2.5Y2/1	黒色	シルト質砂	2.5Y3/2黒褐色細粒砂・貝・酸化鉄分・炭化物含む
3	2.5Y2/1	黒色	砂質土	酸化鉄分・炭化物含む
4	2.5Y2/1	黒色砂質土と2.5Y4/2暗灰黄色中粒砂の混土		酸化鉄分・炭化物含む
5	2.5Y2/1	黒色砂質土と2.5Y2/1黒色砂質シルトの混土		2.5Y4/2暗灰黄色中粒砂・炭化物含む
6	2.5Y2/1	黒色シルト質砂と2.5Y4/2暗灰黄色中粒砂の混土		2.5Y5/3黄褐色中粒砂・ブロック含む
7	2.5Y2/1	黒色	シルト質砂	
8	2.5Y2/1	黒色シルト質砂と2.5Y4/2暗灰黄色中粒砂の混土		
9	2.5Y2/1	黒色	シルト質砂	炭化物・酸化鉄分・腐植物含む
10	2.5Y2/1	黒色	砂質土	多量の酸化鉄分含む
11	2.5Y2/1	黒色砂質土と2.5Y5/3黄褐色中粒砂の混土		酸化鉄分・炭化物含む
12	2.5Y2/1	黒色	砂質土	炭化物含む



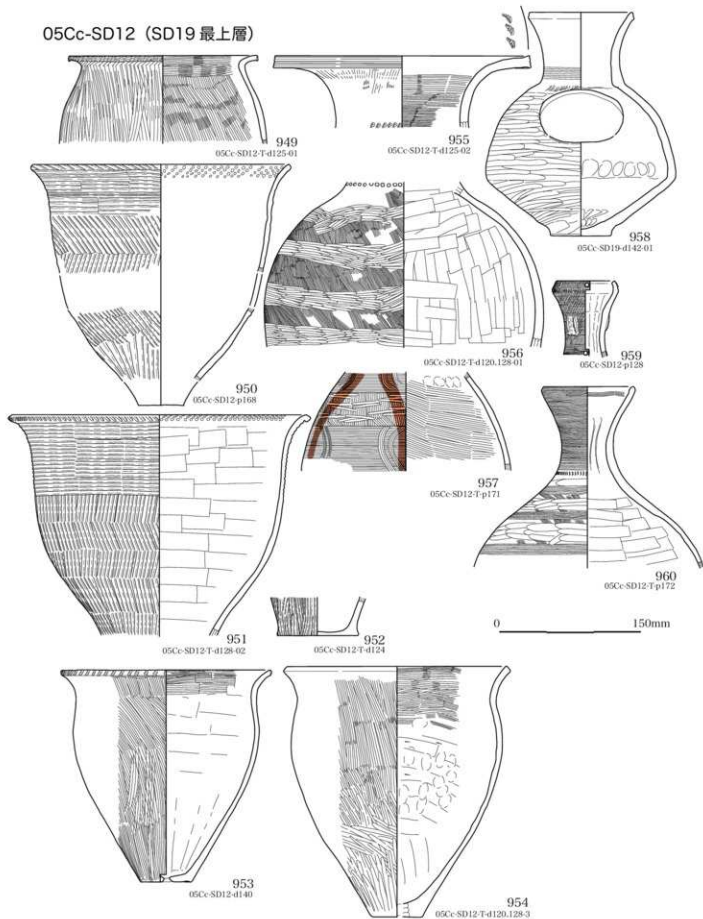
SD06・SD08土土層分布

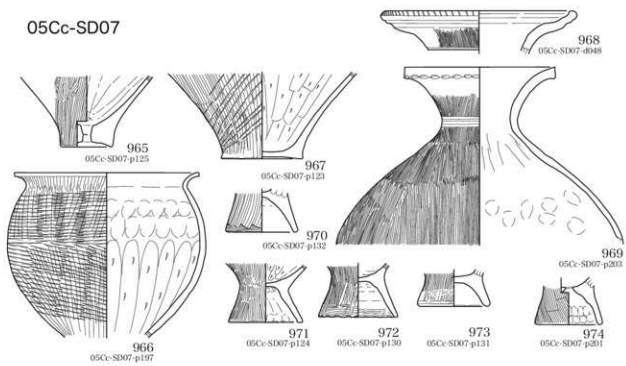
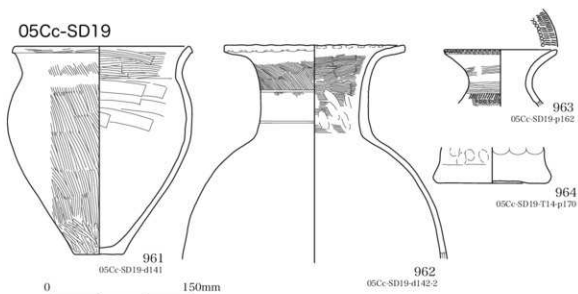
図 3.4.3-2 05Cc区 SD19・SD20北壁断面図 1/40

05Cc-SD05 (SD19 上層)



05Cc-SD12 (SD19 最上層)





### 3.4.3.2 05Cb-021SD・019SK



05Cb区には、谷Bによって削り取られる形で残存する、高蔵式期の遺構が認められる。021SDの存在からはSZ435に接して、列状に配置された方形周溝墓の存在が類推できる。

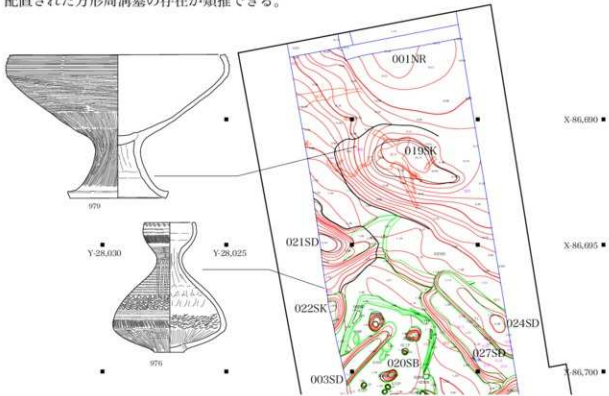
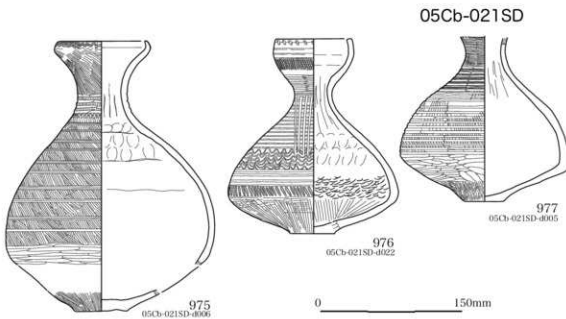
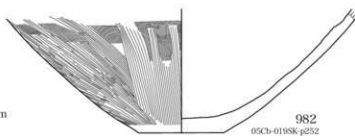
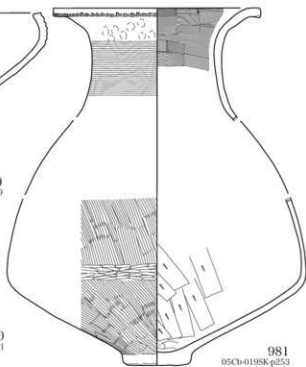
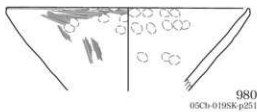
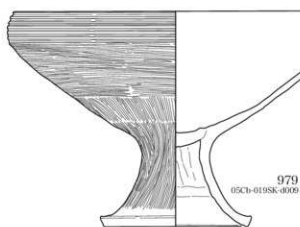
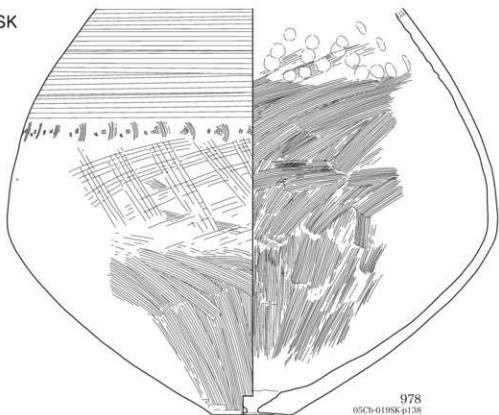


図 3.4.3-3 05Cc区 021SD・019SK 1/150



05Cb-019SK



0 150mm

### 3.4.3.3 05Cb-020SB・05Cd-SB25・27

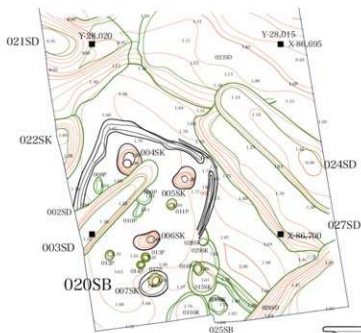


図 3.4.3-4 05Cb-020SB 1/100

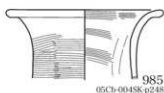
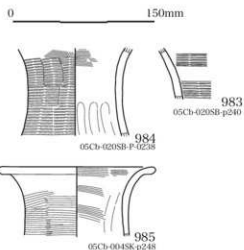


図 3.4.3-5 05Cc-025SB・027SB 1/100



谷B右岸である05Cb・05Cc区の下層には貝田町式期を中心とする竪穴建物が点在し、居住区を形成する。加工面には建物痕跡のビット・小溝などが数多く確認できる。その中で最も古く遡ることができる資料が、朝日式2期に所属する05Cb区020SBと思われる。05Cc区のSB025・027は貝田町式期の竪穴建物で前者は長軸5.3mで短軸4.12m・深さ0.29mを測る。



### 3.4.3.4 後期南区画環濠

内環濠 (05Cc-SD01)

外環濠 (05Cc-SD02・05Cd-SD06)

後期南区画の環濠が05Cc区の中で取束する状況が確認できた。内環濠であるSD01は調査区北西端で垂直に立ち上がって取束する。一方で外環濠であるSD02は調査区西端部でやや拡張しつつ取束する状況が見られる。

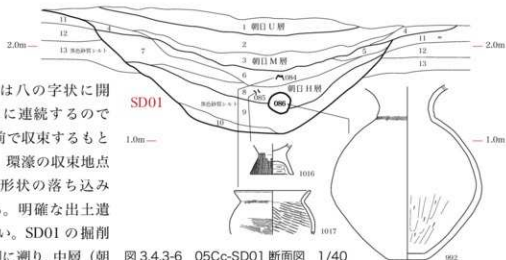


図 3.4.3-6 05Cc-SD01 断面図 1/40

SD01とSD02は八の字状に開き、SD02は谷Bに連続するのではなく、その直前で取束するものと思われる。なお、環濠の取束地点の中央部には円形落ち込みSX01が存在する。明確な出土遺物は確認できない。SD01の掘削時期は山中I式期に遡り、中層(朝日H層)からは廻間式期にかけて遺物が混在する。

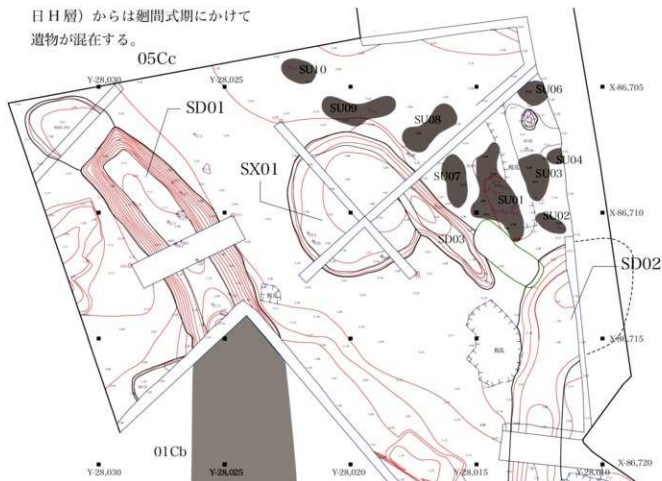
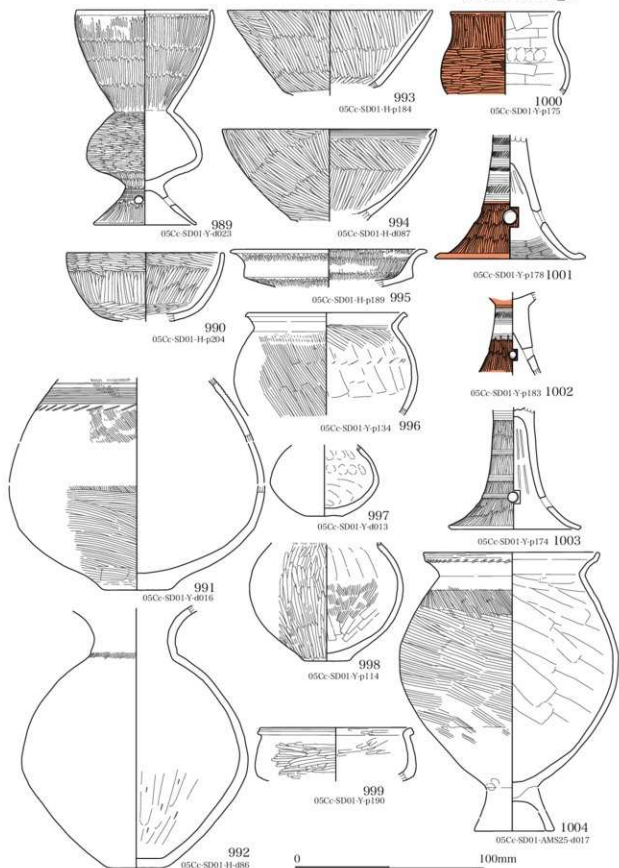


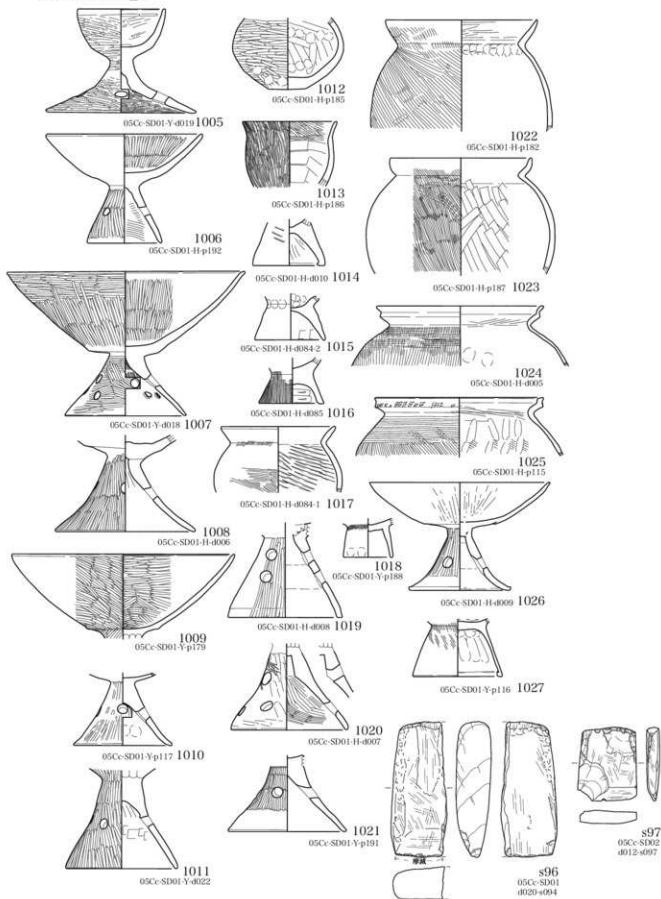
図 3.4.3-7 環濠 05Cc-SD01・SD02 1/150



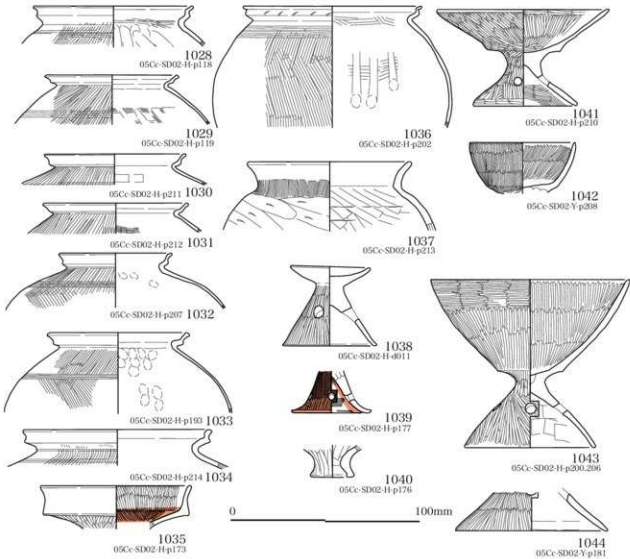


\*図 3.4.3-5 での 6~8 朝日 H 層内出土器 (H), 9 層出土器 (Y) で表示

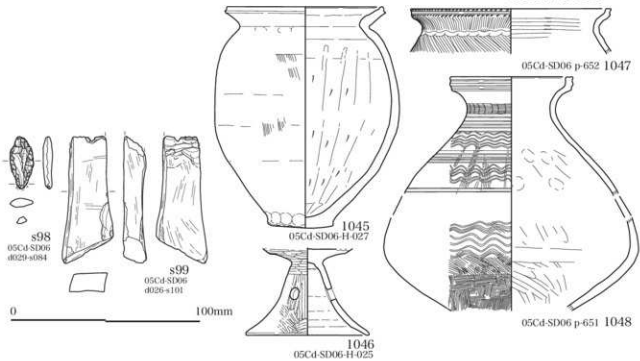
05Cc-SD01\_2



05Cc-SD02\_3



05Cd-SD06





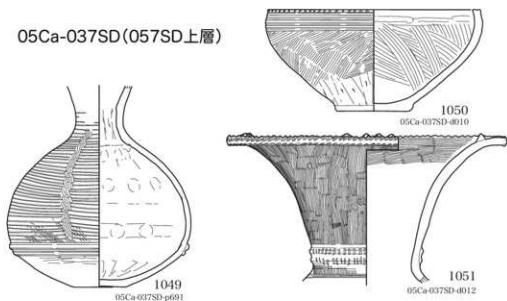
### 3.4.3.5 SZ436

05Cc-SD09・05Cd-SD02・SD04

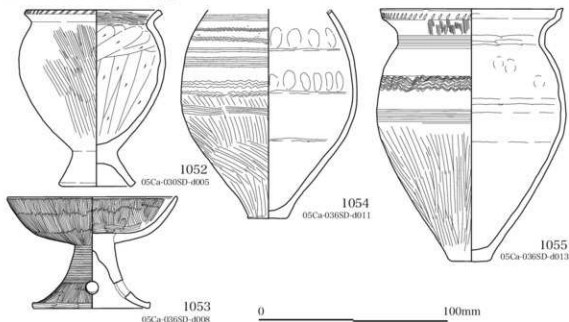
05Ca-030SD・036SD・037SD・057SD

SZ436は高蔵式期に所属するもので、谷B右岸に存在する大型の方形周溝墓。墳丘のほぼ中央部には大型の墓壇(029SK)が存在し、黄色中粒砂基盤層(朝日G層)を混在する埋土が見られる。その内側には033SKの木棺墓と思われる痕跡が検出でき、頭部を含めわずかに人骨痕跡が確認できた。SZ436はいくつかの陸橋部をもつ長方形を呈する周溝墓で、規模は17.5×12.6mを測る。墓壇029SKは3.46×2m以上で深さ0.58m。033SKは2.49×1.0mで深さは0.43m。

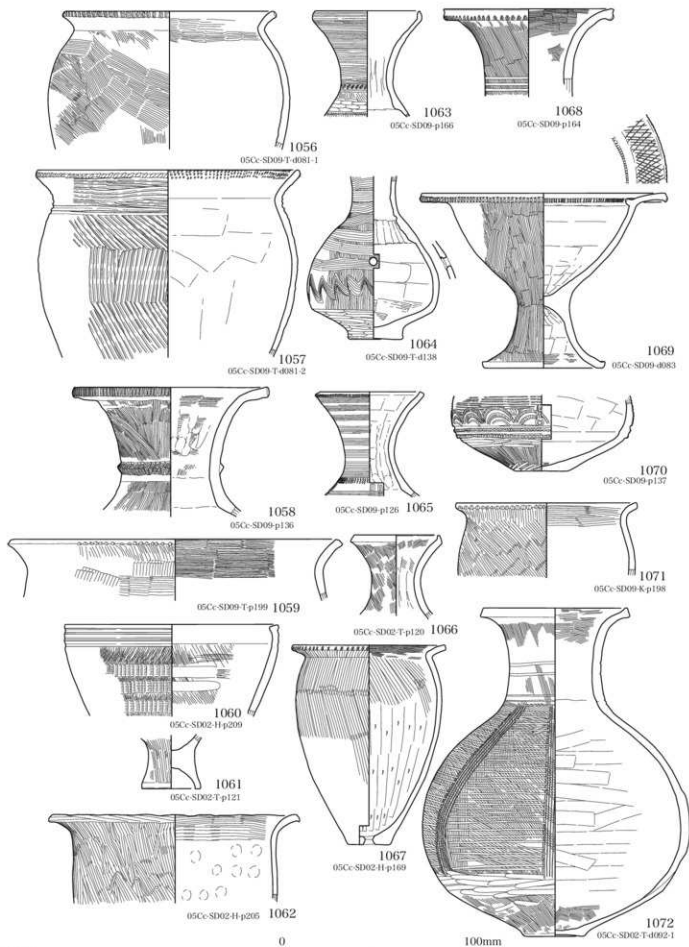
05Ca-037SD(057SD上層)

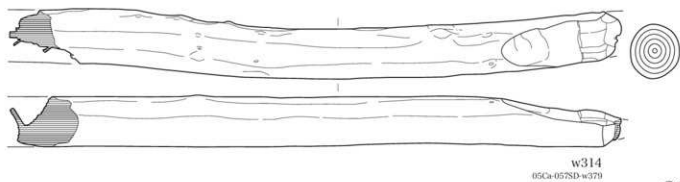
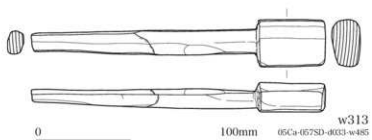
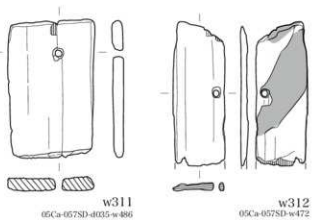
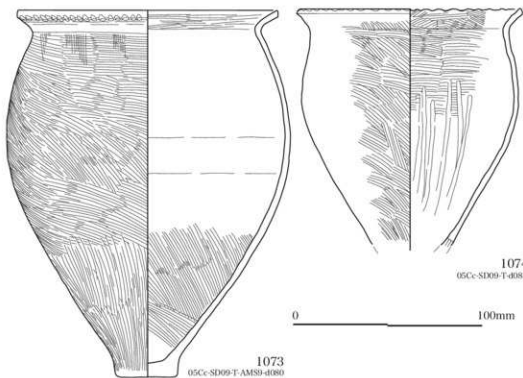


05Ca-030・036SD上層

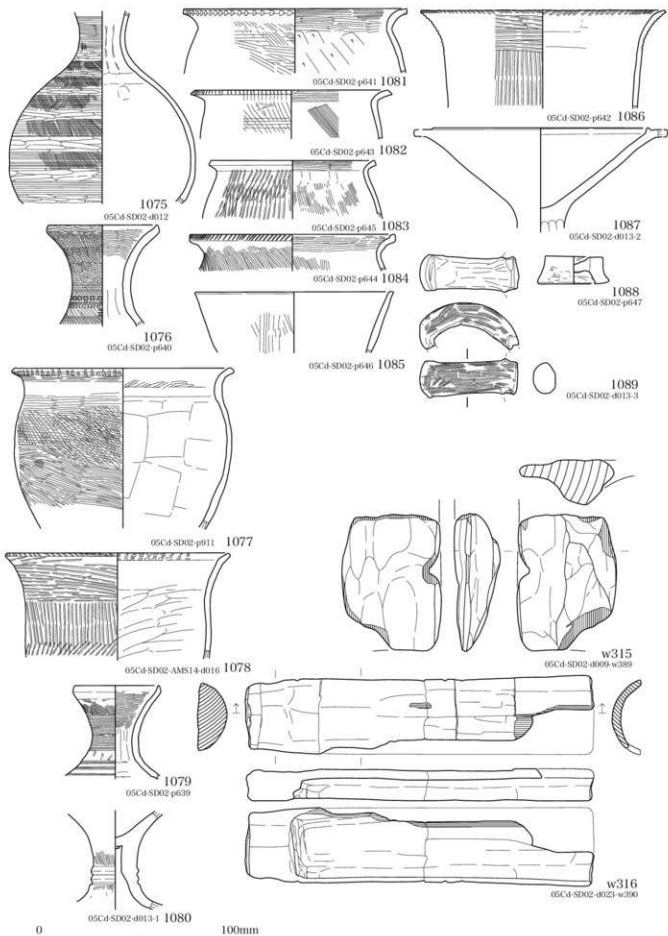






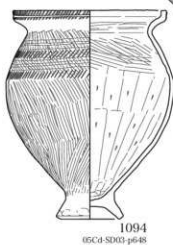
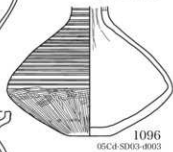
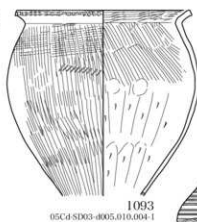
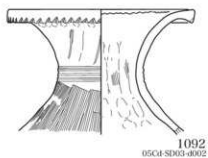
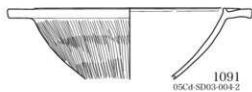
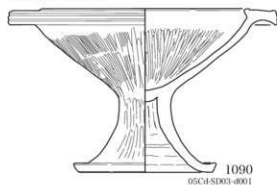


05Cd-SD02



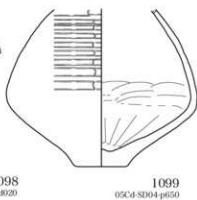
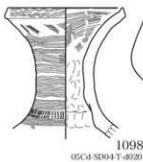
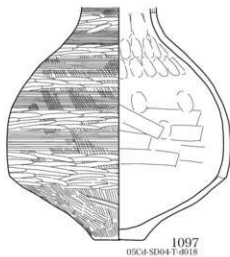


05Cd-SD03



05Cd-SD04

0 100mm

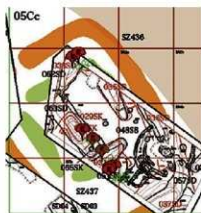
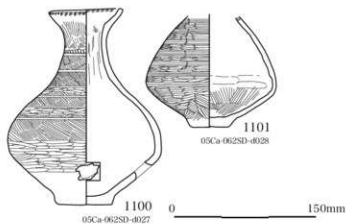




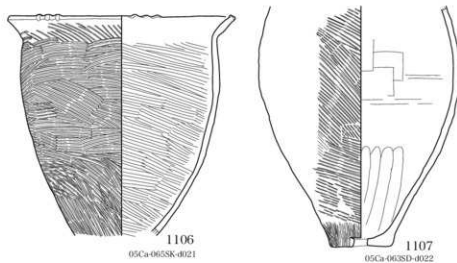
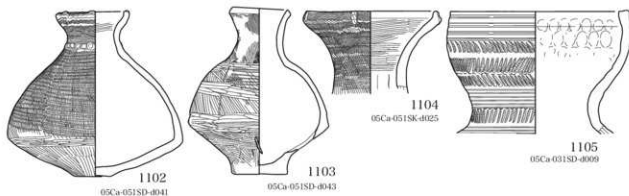
### 3.4.3.6 SZ437

05Ca-038SD・035SD・031SD・062SD

SZ437



関連遺物出土地点



### 3.4.3.7 05Ca-048SB



048SBは05Ca区で方形周溝墓SZ436の下層で検出した竪穴建物。二重の円形壁溝を伴い、支柱穴が6ヶ所確認できる。中央土坑には両脇に小ピットを伴う松菊里型住居であ

るが、南側には長方形の突出部と思われる施設が伴う。径5.46m 深さ0.27mを測る。貝田町式前葉に所属するものと思われる。なお南側にはベンガラの散布が見られる。

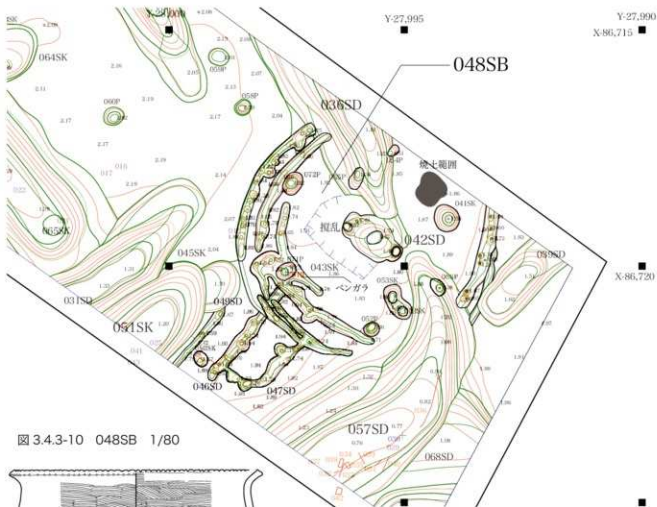
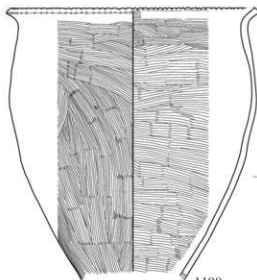


図 3.4.3-10 048SB 1/80



0 150mm





### 3.4.3.8 05Cc- 遺物集積

#### 05Cc-SU01 ~ SU10

05Cc 区の北東側で確認できた遺物集積群。

後期環濠の出入口付近には、土器を含む小規模な土手状の若干の高まりが存在し、高蔵式期を中心とした土器が多く含まれる。おそらく後期環濠の掘削とその出入口および谷 B 右岸の整備のための造成面と推測でき、高蔵式期の土器廃棄面と考えるよりも、二次的な整地等に伴うものと評価したい。

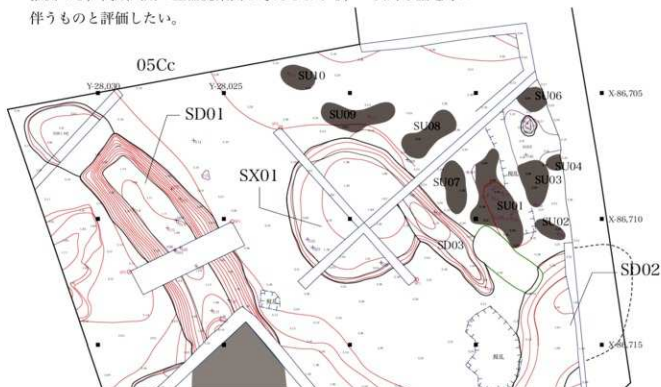
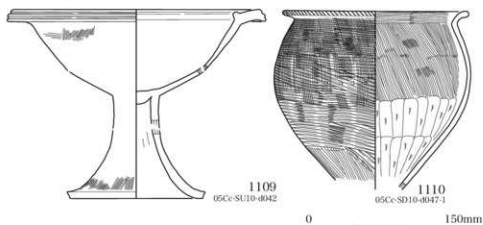
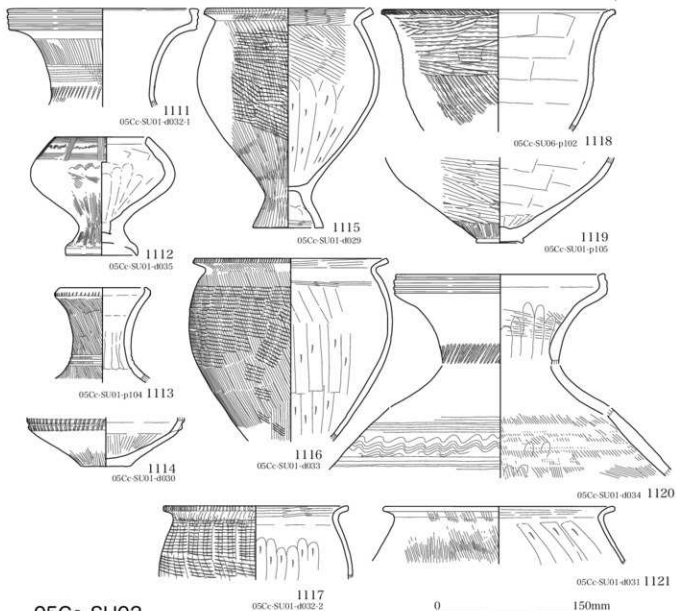


図 3.4.3-11 遺物集積 1/150

#### 05Cc-SU10



05Cc-SU01

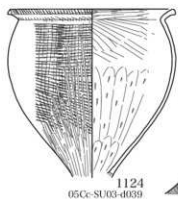


05Cc-SU02



遺物集積 (SU) 遺物分布 (加工面との照合)

05Cc-SU03

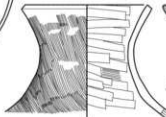


1124  
05Cc-SU03-d039

0 150mm



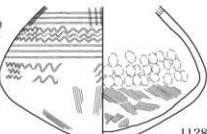
1127  
05Cc-SU03-p217



1125  
05Cc-SU03-p219

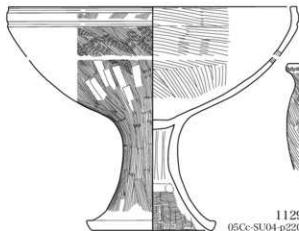


1126  
05Cc-SU03-p218

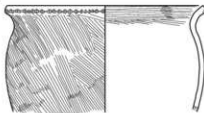


1128  
05Cc-SU03-p216

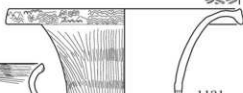
05Cc-SU04



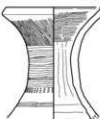
1129  
05Cc-SU04-p220



1130  
05Cc-SU04-p221

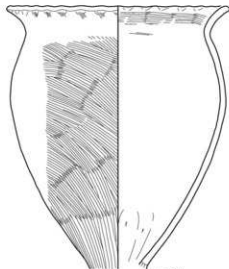


1131  
05Cc-SU04-p222



1132  
05Cc-SU04-p103

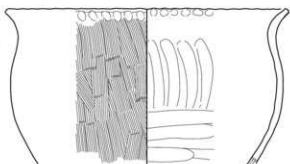
05Cc-SU05



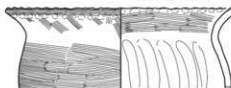
1133  
05Cc-SU05-d040-1



1134  
05Cc-SU05-p223

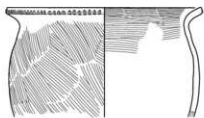


05Cc-SU05-d040-2 1135



1136  
05Cc-SU05-d040-3

05Cc-SU07



1137

05Cc-SU07-p224



1138

05Cc-SU07-p106

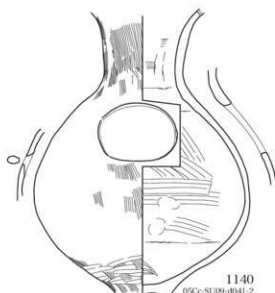
05Cc-SU08



1139

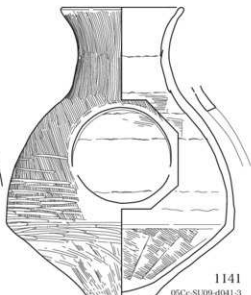
05Cc-SU08-p129

05Cc-SU09



1140

05Cc-SU09-d041-2



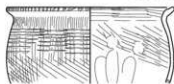
1141

05Cc-SU09-d041-3



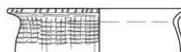
1142

05Cc-SU09-p228



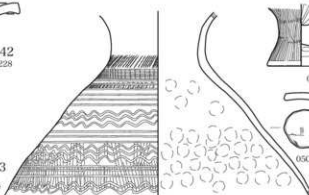
1143

05Cc-SU09-p225



1144

05Cc-SU09-p226



1146

05Cc-SU09-d041



1147

05Cc-SU09-d041-4

1145

05Cc-SU09-p227

0 150mm



### 3.4.3.9 05Cd- 遺物集積と竪穴建物

05Cd-SU01 ~ SU08・SB03・SB07

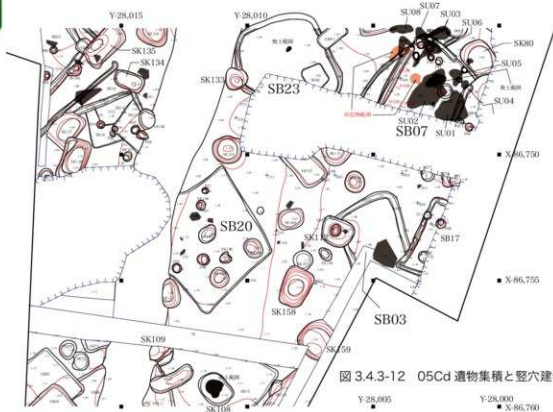
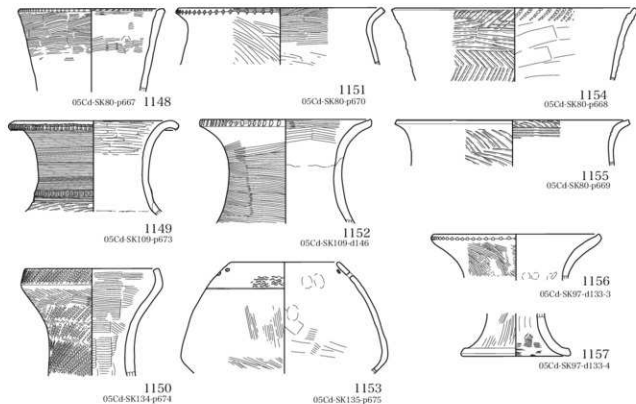
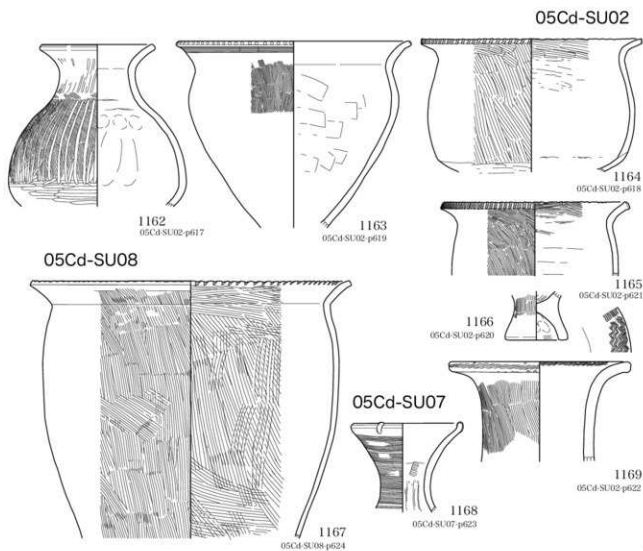
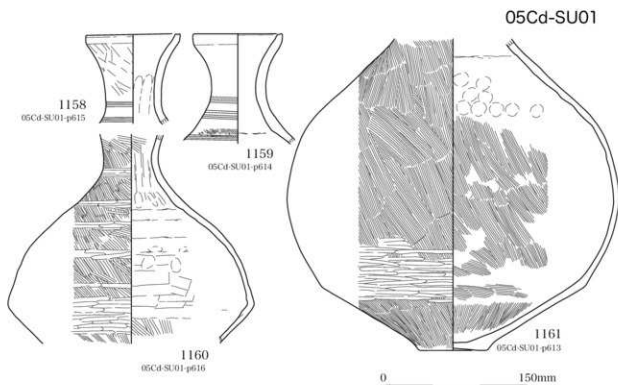


図 3.4.3-12 05Cd 遺物集積と竪穴建物 1/150

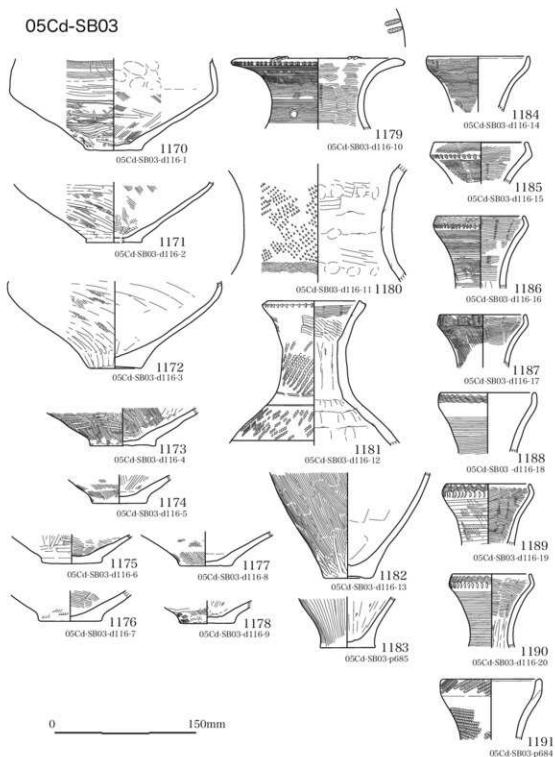
### 05Cd-SK





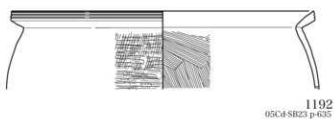


## 05Cd-SB03



05Cd 区中央部で検出した竪穴建物と廃棄土坑群。SB07の上層には貝田町式3期新を中心とした土器集積が見られる。竪穴建物は3～4m前後の小規模なものが多く、部分的に焼土面が見られる。

## 05Cd-SB23



05Cd 遺物分布



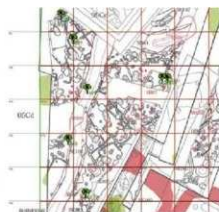
木製品の分布



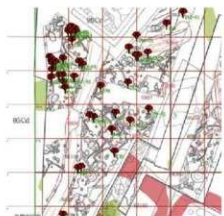
石器の分布



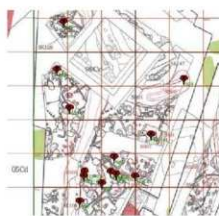
石斧の分布



石器の分布



高麗式期の土器分布



貝田町式期の土器分布



### 3.4.3.10 SZ439 (05Cd-SD09 · SD81)

05Cd-SD09

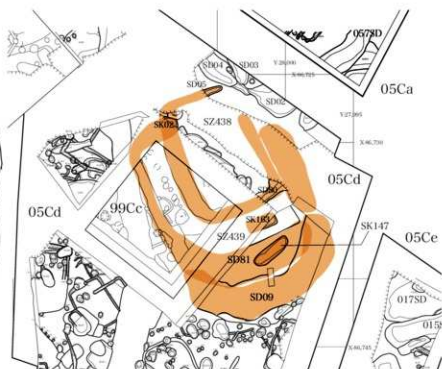
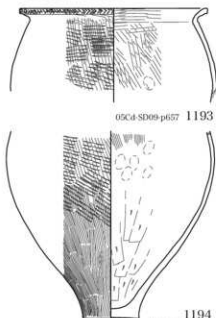
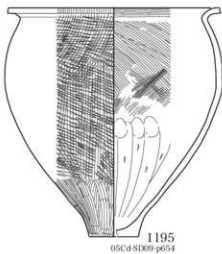
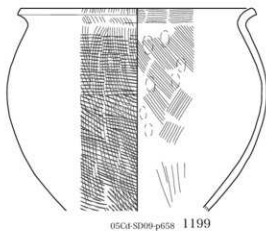
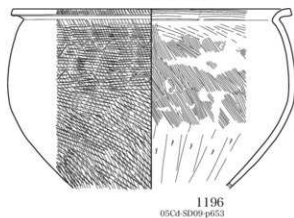


图 3.4.3-13 05Cd 区 SZ439 1/300



0 150mm



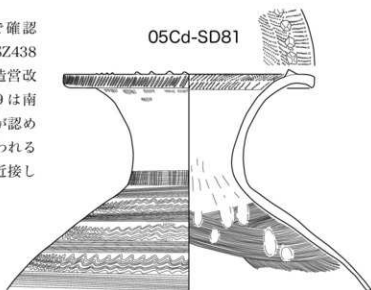
SZ439 は 05Cd 区 と 99Cc 区 で確認できた高蔵式期の方形周溝墓。SZ438 を基軸にして、合わせて三回の造営改変が行われる墳墓であり、SZ439 は南側への拡張 (SD81 から SD09) が認められる。SD81 上には主体部と思われる SK147 が存在し、その北側には近接して SK163 が見られる。

SZ438 は 8.6×5.9m

SZ439 は 10.5×9.7m から

13.5×10m に拡張。

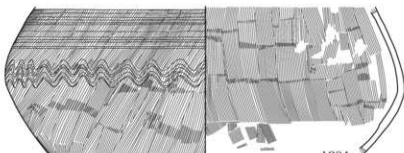
05Cd-SD81



1203  
05Cd-SD81-d152-7



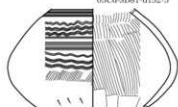
1200  
05Cd-SD81-d164



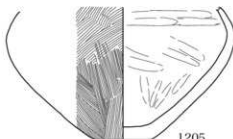
1204  
05Cd-SD81-d152-1



1201  
05Cd-SD81-d152-5



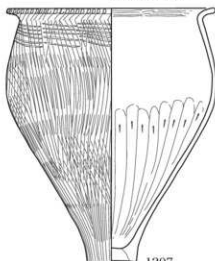
1202  
05Cd-SD81-d152-6



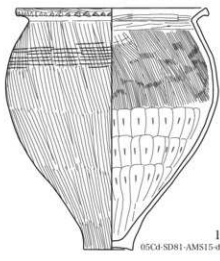
1205  
05Cd-SD81-d152-3



1206  
05Cd-SD81-d152-4



1207  
05Cd-SD81-d152-2



1208  
05Cd-SD81-AMS15-d161-1

0 150mm



### 3.4.3.11 05Cd-SK128・SB21 とその周辺遺構等



SB21 は南北 5.06m で深さ 0.25m を測る竪穴建物で、建直しの痕跡がうかがえる。貝田町式古段階に所属する。また周囲には高藏式の遺構が点在し、SK128 は黒色砂質土ブロック・大量の炭化物・多量の酸化鉄分・多量の腐植物含む楕円形の土坑で、1.17×0.53m で深さ 0.30m を測る。

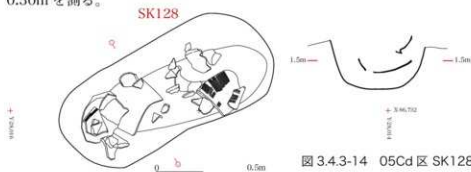


図 3.4.3-14 05Cd 区 SK128 1/20

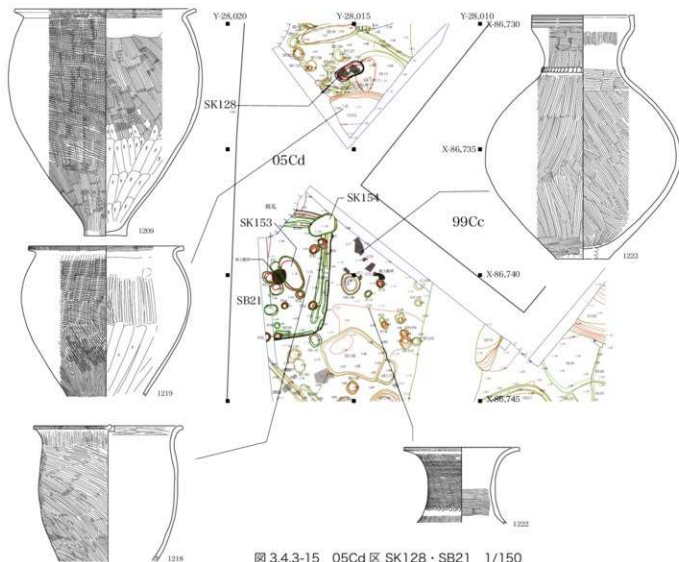
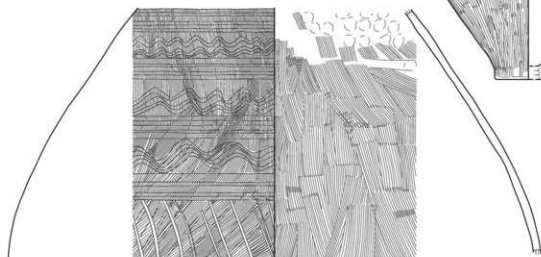
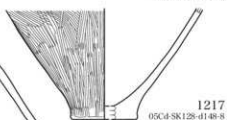
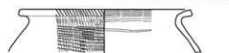
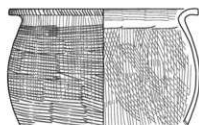
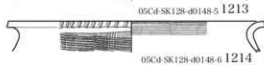
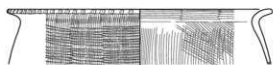
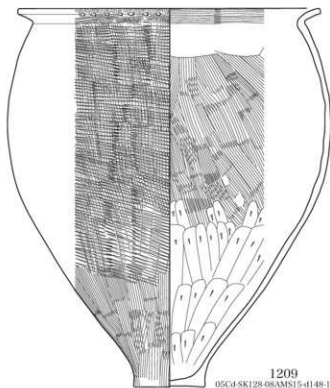


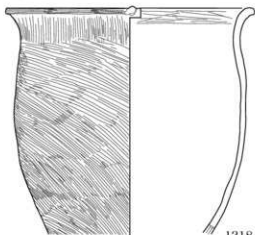
図 3.4.3-15 05Cd 区 SK128・SB21 1/150

05Cd-SK128

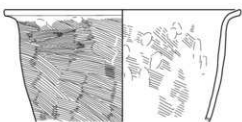


0 150mm

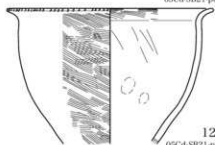
05Cd-SB21



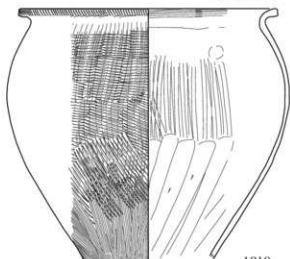
1218  
05Cd-SB21-d135



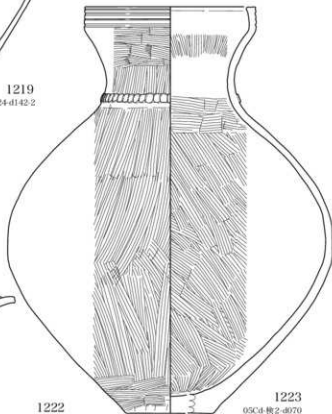
1220  
05Cd-SB21-p634



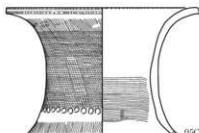
1221  
05Cd-SB21-p633



1219  
05Cd-SD24-d142.2



1223  
05Cd-桃2-4070



1222  
05Cd-桃2-T-d136



### 3.4.3.12 SZ441

#### 05Ce-014SD · 015SD

05Ce-061SK



05Ce-061SK-d033 1224



1225

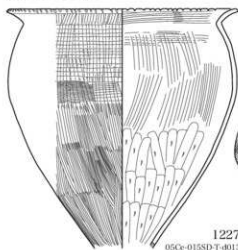
05Ce-061SK-d036



1226

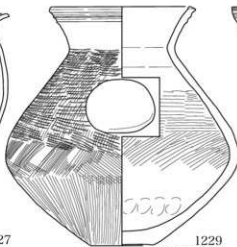
05Ce-061SK-d035

05Ce-SD15



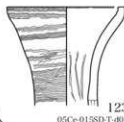
1227

05Ce-015SD-T-0013



1229

05Ce-015SD-d012



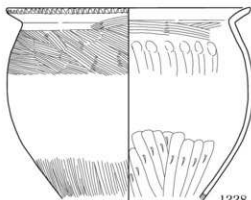
1231

05Ce-015SD-T-0018



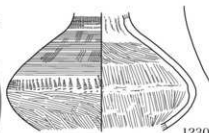
1232

05Ce-015SD-T-0019



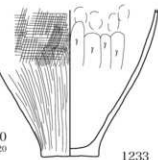
1228

05Ce-015SD-T-0014-01



1230

05Ce-015SD-T-0020



1233

05Ce-015SD-T-0015

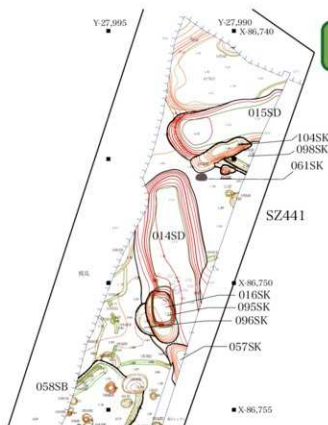
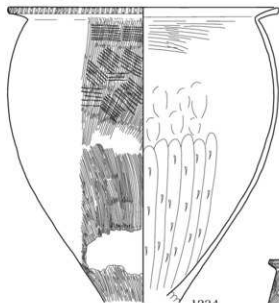


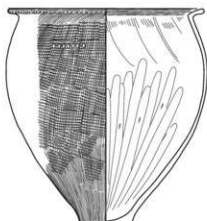
图 3.4.3-16 SZ441 1/150

0 150mm

05Ce-SD14



1234  
05Ce-014SD-T-0028-1



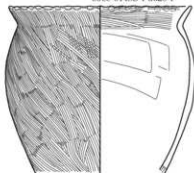
1238  
05Ce-014SD-p661



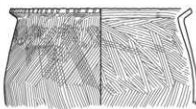
1243  
05Ce-014SD-T-0026



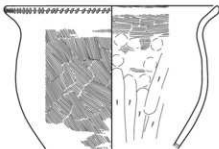
1244  
05Ce-014SD-0058



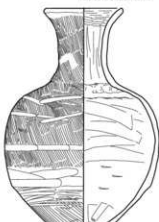
05Ce-014SD-0038 1235



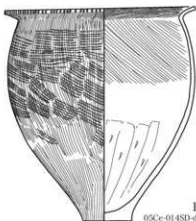
05Ce-014SD-0061-2 1239



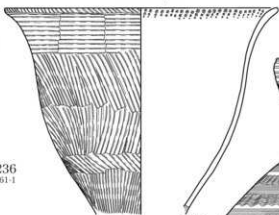
05Ce-014SD-p662 1240



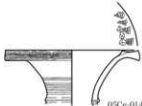
1245  
05Ce-014SD-0059.062



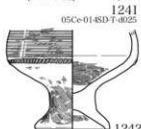
1236  
05Ce-014SD-0061-1



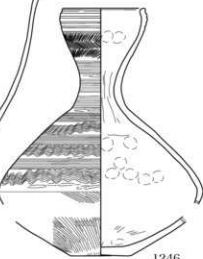
1241  
05Ce-014SD-T-0025



1237  
05Ce-014SD-0010



1242  
05Ce-014SD-p659

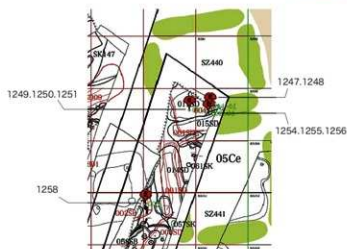


1246  
05Ce-014SD-p660

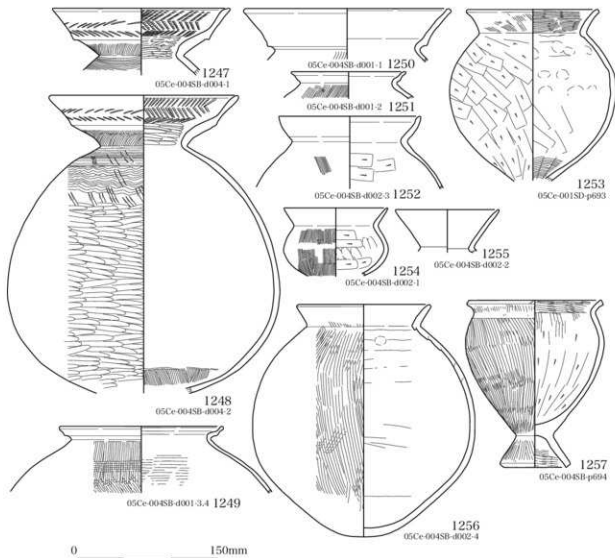
### 3.4.3.12 05Ce-004SB



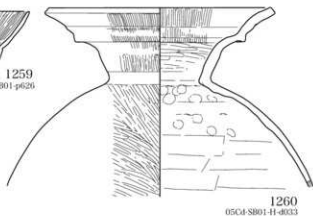
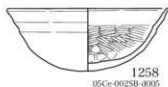
05Ce 区の北端に存在する 004SB は方形周溝墓の周溝と墳丘の高まりを利用して営まれた竪穴建物と考えられる。廻間Ⅲ式期の遺物が出土している。谷 B 右岸に面した周辺は 05Ce 区 002SB・020SB や 02Cc 区 SB01・SB03 など廻間Ⅲ式期から松戸Ⅰ式期にかけての竪穴建物が点在する地区である。



05Ce-004SB



05Ce-002SB·05Cd-SB01

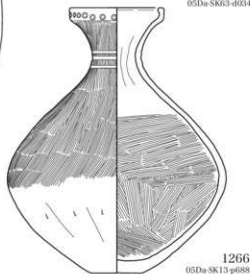
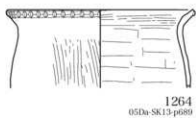
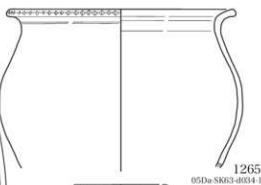
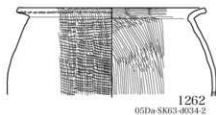


05Ce-021SB



0 150mm

05Da-SK63 · SK13



0 150mm

### 3.4.4 D 区の遺構

05Da 区では後期の八王子古宮式から山中中期の  
 竪穴建物が展開し、これに重複する形で加工  
 面上に高蔵式期の竪穴建物が残存する。調査区  
 南東隅の山中 1 式期の SB10 は、建直しが認め  
 られ、基盤層の黄色シルトと黒色シルトを混合  
 させた三面の貼床が明瞭に残存する。



#### 3.4.4.1 05Da-SB10

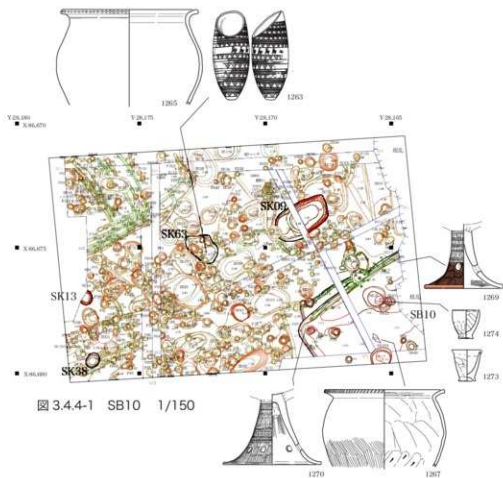
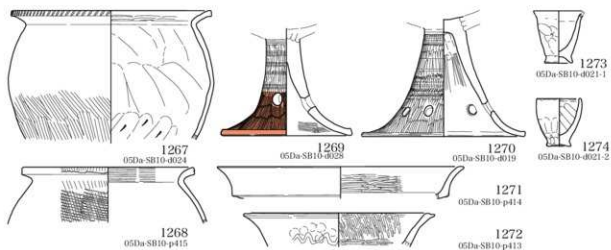
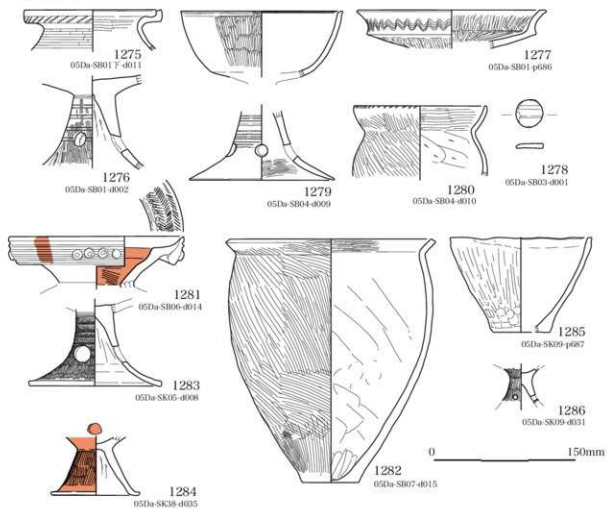


図 3.4.4-1 SB10 1/150

#### 05Da-SB10



05Da-SB

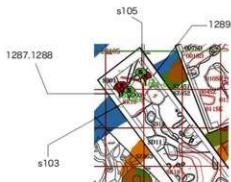


### 3.4.4.2 中期南区画環濠

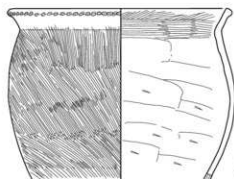
#### 05Dc-SD03 下層・SD32・07D-007SD



05Dc 区北端と 07D 区北西隅で検出した大溝で、幅 4.4m で深さ 0.83m を測る。大溝の上層は多様な遺構により再利用されており、複雑な様相を呈している。主に SZ451・452 の方形周溝墓の北溝として利用されている。この遺構を境にして南側には南墓域が展開し、遺物の出土は著しく少なくなる。なお溝の掘削 (SD32) は朝日式期に遡り、貝田町式 2 期まで機能する。



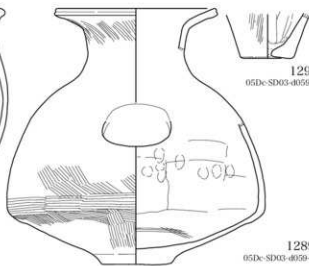
#### 05Dc-SD03



1287  
05Dc-SD03  
AMS6-0014



1288  
05Dc-SD03-AMS16-0072



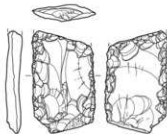
1290  
05Dc-SD03-0059-2

1289  
05Dc-SD03-0059-1



s101  
07D-001SD  
d026-s1021

s102  
07D-001SD  
s1022



s104  
05Dc-SD03  
d075-s1164



s105  
05Dc-SD03  
d073-s1168

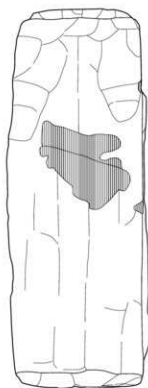


s103  
07D-007SD  
d068-s1024

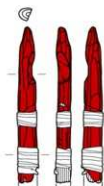
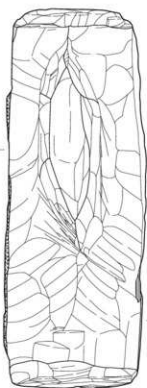
0 100mm

図例拡大

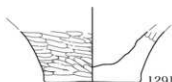
05Dc-SD32



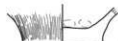
w317  
05Dc-SD32-d099-w473



w318  
05Dc-SD32-w304



1291  
05Dc-SD32-d100



1292  
05Dc-SD32-d105

0 150mm





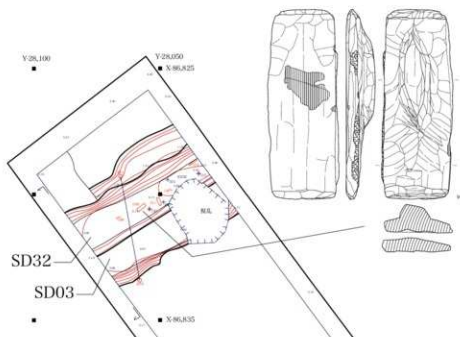


図 3.4.4-2 05Dc 区 SD32 (最終加工面) 1/150

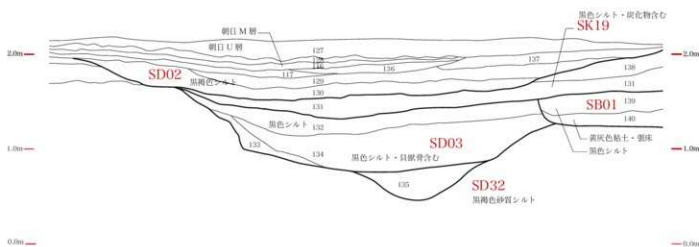
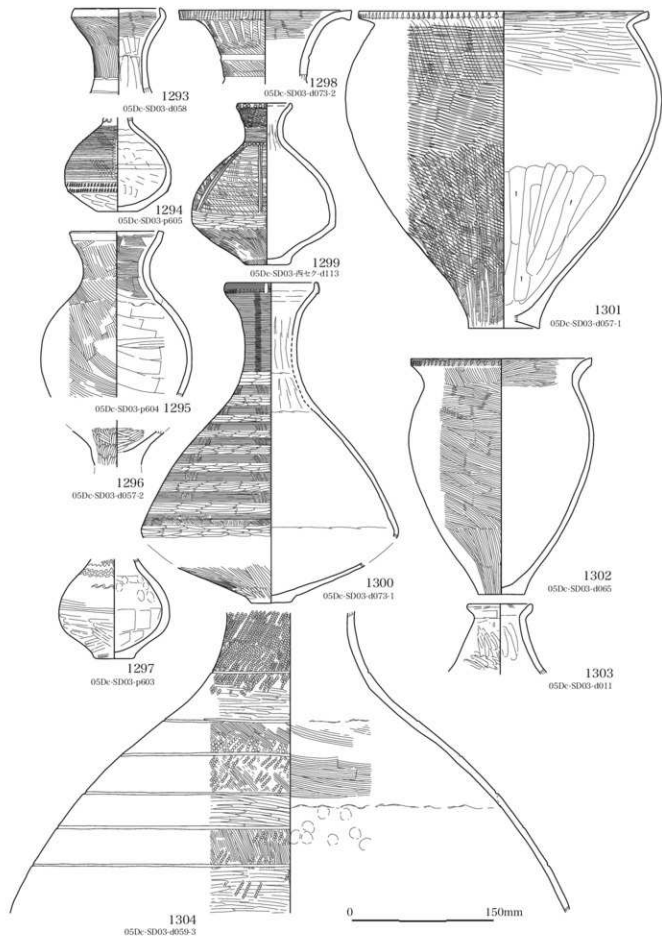


図 3.4.4-3 05Dc 区 SD32 西壁断面図 1/40



図 3.4.4-4 07D 区西壁断面図 1/40 SZ452・SZ451・SD03

05Dc-SD03

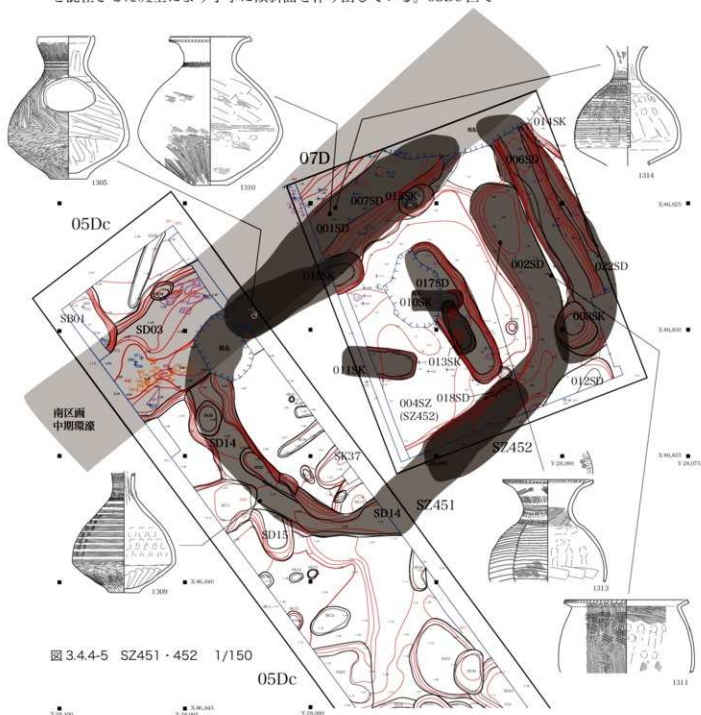


### 3.4.4.3 SZ451・452

#### 05Dc-SD14・07D-001SD・002SD・006SD



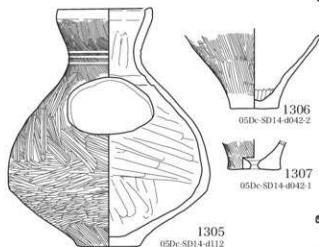
調査区07Dの形に合わせて、方形周溝墓004SZ (SZ452)が存在する。北溝は南区画を画する中期環濠の上層を利用して設けられた溝07D-001SDが存在し、東溝002SDと南溝003SDはほぼ連続する周溝となる。陸橋部は西北隅に存在し、基盤層である黄色シルトを混在させた斑土により丁寧に傾斜面を作り出している。05Dc区で



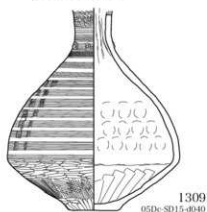
確認できた溝SD14を西溝と想定すると、墳丘墓の規模は東西14mで南北10m、高さは1.2mを測る。東西に長軸をもつ長方形を呈する。しかし、その後の墳丘盛土下で、あらたに溝017SDが確認でき、さらに北溝に重複する016SKと南溝に重複する018SDの痕跡を検出したため、方10m規模の正方形を呈する方形周溝墓019SZ (SZ451)であったものを、墳丘を利用して東側に大きく拡張する形で増築したものとして推定した。築造時期は最初に築かれたSZ451は、共伴した土器などから貝田町式3期に所属し、その後の東側への増築は05Dc区の円窓付土器(1305)の出土や基盤シルトによる陸橋部の付設を考慮

すると、高蔵式期に所属するものと想定したい。なお調査区東端には006SD・022SDが存在するが、断面観察等からは002SD以前と推測でき、この溝をSZ452に伴う東溝と想定すると、やや規模を縮小する再度の墳丘改変を想定することになる。墳丘墓004SZは3ヶ所の主体部を検出でき、墳丘墓のほぼ中央部に存在する東西方向に主軸を置く011SKと、拡張された溝を埋め立てられた後に埋葬された013SK・010SKが存在する。013SDは南北2.24m、東西083m、深さ015mの楕円形状を呈し、人骨の痕跡が認められる。頭位を南方向に置く横臥屈葬と推測できる。両者とも墳丘盛土の構築段階に設置されており、増築された004SZ (SZ452)に伴うものと思われる。

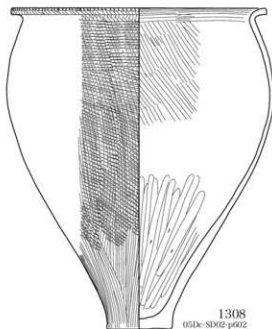
05Dc-SD14



05Dc-SD15

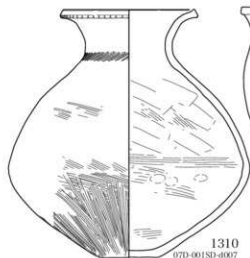


05Dc-SD02 (SD14 上層)

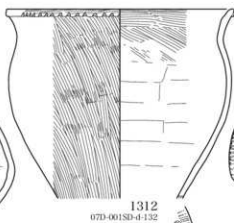


0 150mm

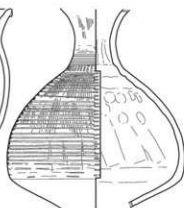
07D-001SD-002SD



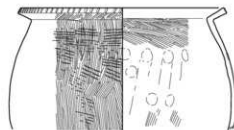
1310  
07D-001SD-0007



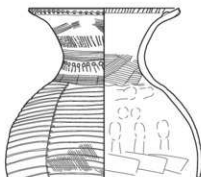
1312  
07D-001SD-0132



1314  
07D-001SD-0109

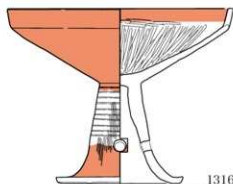


1311  
07D-002SD-0020



1313  
07D-002SD-0016

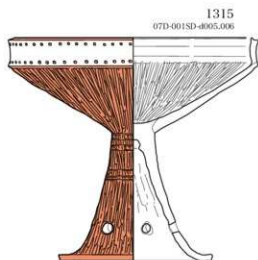
0 150mm



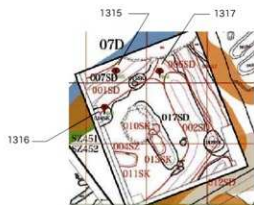
1316  
07D-004SZ-0069



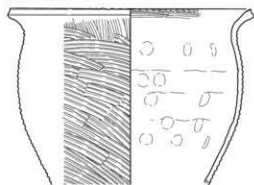
1317  
07D-002SD-0004



1315  
07D-001SD-0005,006



07D-007SD



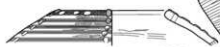
1318

07D-007SD-d082

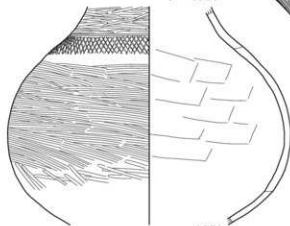


1319

07D-007SD-d082

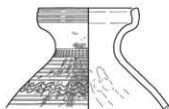


07D-007SD-p705 1320



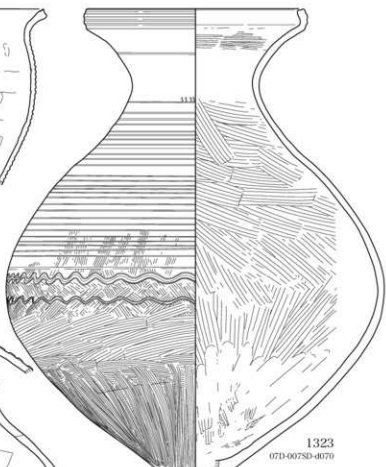
1321

07D-007SD-p706



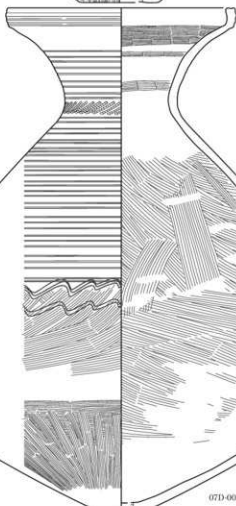
1322

07D-001SD-p704



1323

07D-007SD-d070



1324

07D-001SD-d014

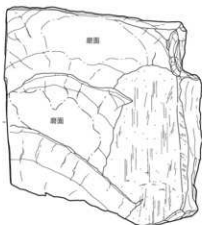
0 150mm



1325  
07D-008SK-042



s106  
07D-008SK  
0048-s1029



s107  
07D-008SK  
0044-s1028



0 100mm



w319  
07D-002SD-0017-w571



w320  
07D-002SD-0091-w570

0 150mm



### 3.4.4.4 SZ463

#### 05Dc-SK21・SD11・SD13

0SZ463は05Dc区北端に位置する方形周溝墓で、主体部SK18を伴う。墳丘は5.7×5.0mの小規模なもので、高さ1.0mが残存する。SK18は長軸2.41mで深さ0.26mを測る。第27区の状況を考慮すると北溝と南溝のほぼ中央部に陸橋部をもつB型墳と推定できる。SK21とした北溝上層からは石剣を含めてまとまって遺物が出土しており、溝内埋葬の可能性が高い。高蔵式期に所属。

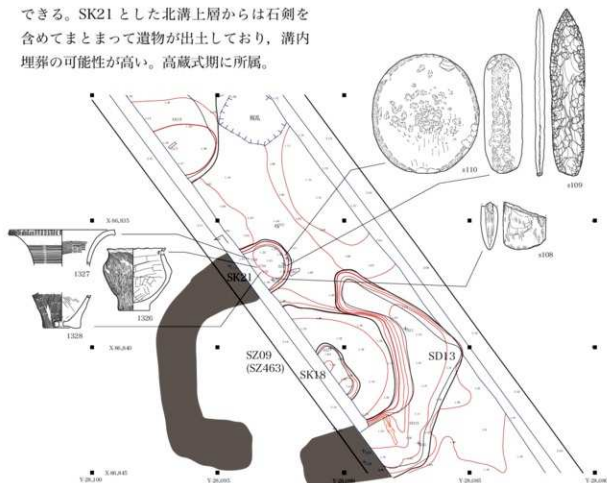


図 3.4.4-6 05Dc区 SZ463 1/150 (土器:1/6・石器:1/4)

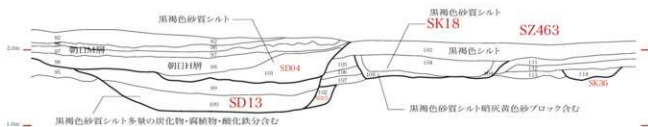
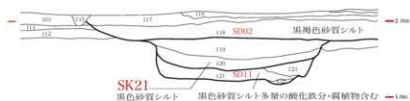
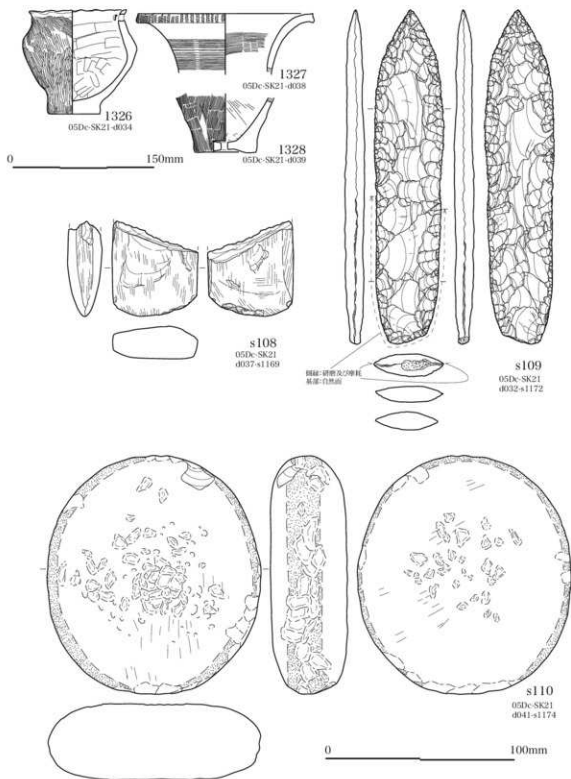
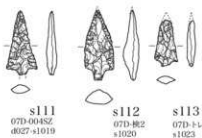
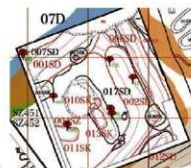
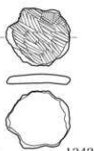
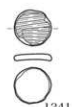
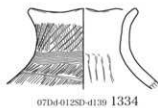
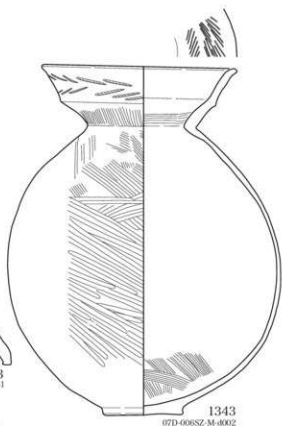
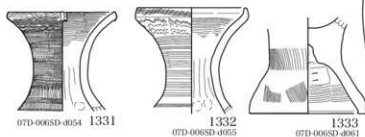
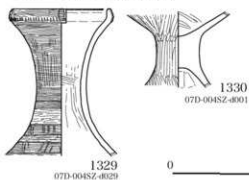


図 3.4.4-7 05Dc区 SZ463 西壁断面図 1/50



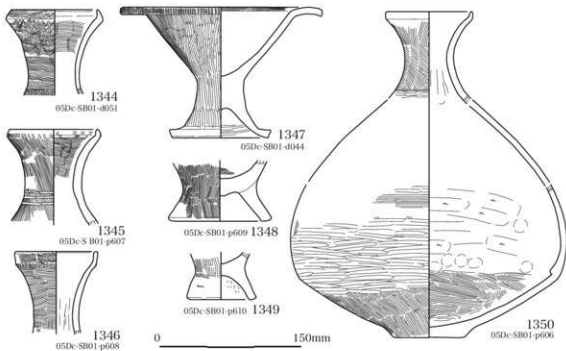


07D-004SZ関連遺構

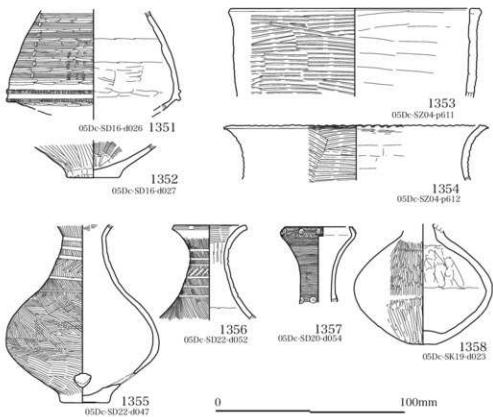


0 100mm

05Dc-SB01



SZ453・SZ164関連遺構

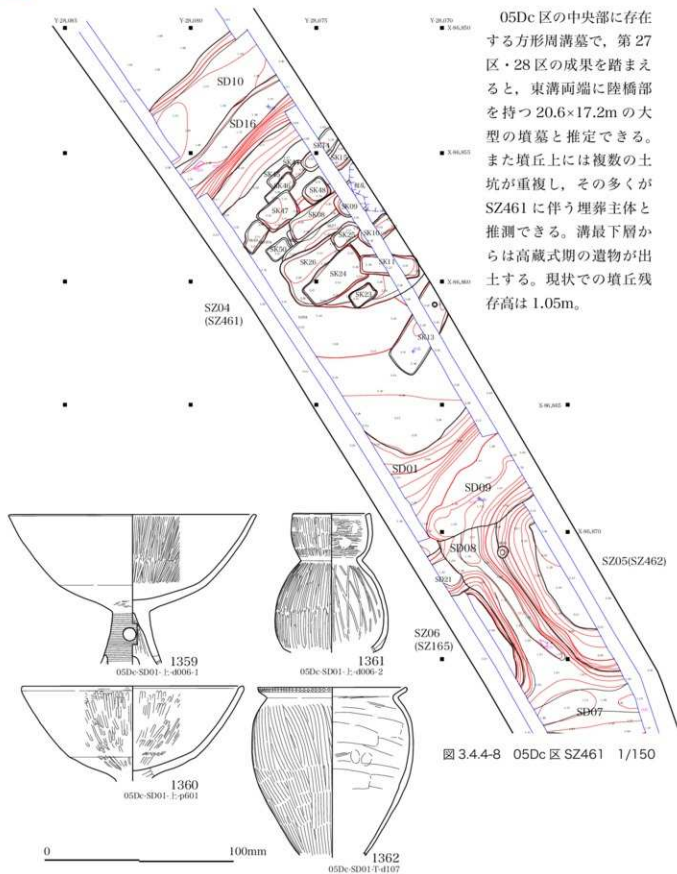




### 3.4.4.5 SZ461

05Dc-SD10・SD16・SD01・05Dc-SZ04

05Dc 区の中央部に存在する方形周溝墓で、第27区・28区の成果を踏まえると、東溝両端に陸橋部を持つ20.6×17.2mの大型の墳墓と推定できる。また墳丘上には複数の土坑が重複し、その多くがSZ461に伴う埋葬主体と推測できる。溝最下層からは高蔵式期の遺物が出土する。現状での墳丘残存高は1.05m。



### 3.4.4.6 SZ168

#### 05Dd-017SD

05Dd 区の中央部に存在する方形周溝墓で、第 25 区の成果を踏まえる  
と規模は 9.5×9.0m で、現状での高さは 1.2m を測る。調査区内では墳  
丘上に主軸を同じくする三つの主体部が確認できた。050SK はほぼ中央  
部に位置し、その後に封土を盛り足した後に 010SK と 011SK が営まれ  
たものと推測できる。遺物の出土は見られないが、周囲の遺構配置と基  
本層序からは高蔵式期に所属するものと思われる。

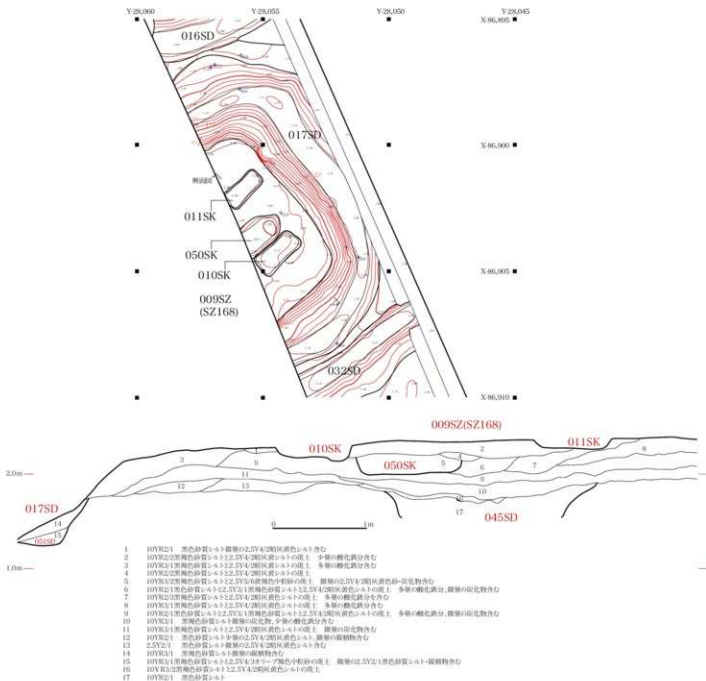


図 3.4.4-9 05Dc 区 SZ168 (1/150) と墳丘断面図 (1/40)

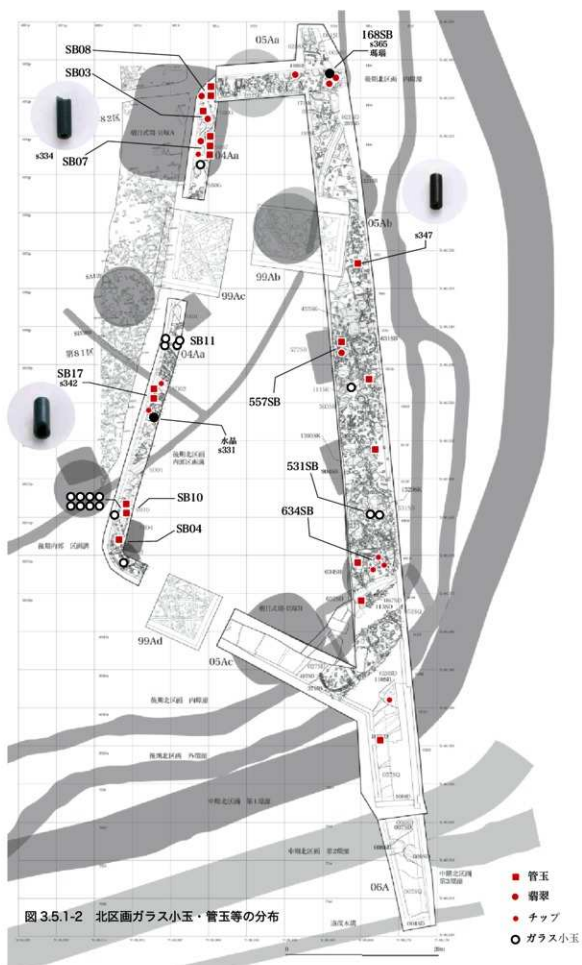
## 3.5 特定遺物の概要

### 3.5.1 玉類の分布

勾玉・管玉・ガラス小玉等の玉類の分布を見ていくと、まず北区画竪穴建物周辺部から数多く出土している傾向がうかがえる。さらに貝塚・貝層内からの出土も目立つが、その多くは溶結凝灰岩・翡翠等を使つての装身具類製造過程で生み出される残滓の廃棄と思われる。なお今回の調査区からは方形周溝墓の埋葬主体部からの出土は確認できていない。石材の種類は緑色の溶結凝灰岩・翡翠・ガラスなどが一般的で、その他に水晶・瑪瑙なども見られる。玉造関係の施設として、05Ab区環濠帯付近に存在する竪穴建物 G34SB が想定できる。

表 3.5.1-1 玉類一覧表

遺跡	調査区	グリッド	遺構	d 番号	調査	材質
s330	勾玉	05Cc	8J4c	SK18		翡翠
s331	石珠	04Aa	6H11f	SR16		水晶
s332	石珠	04Bb	5J20d	棟 2		翡翠
s333	石珠	04Bc	6A11a	SR01 上層	1	溶結凝灰岩
s334	管玉	04Aa	6H3c	SR03	5.8 (破損) +2.1mm	溶結凝灰岩
s335	管玉	04Aa	6H14c	SR04	破片	溶結凝灰岩
s336	管玉	04Aa	6H4d	SR07	破片	溶結凝灰岩
s337	管玉	04Aa	6H4d	SR07	5.1 (破損) +2.3mm	溶結凝灰岩
s338	管玉	04Aa	6I2a	SR08	5.4 (破損) +2.4mm	溶結凝灰岩
s339	管玉	04Aa	6I2a	SR08	7.3 (破損) +4.1mm	溶結凝灰岩・軟質
s340	管玉	04Aa	6H12c	SR10	破片	溶結凝灰岩
s341	管玉	04Aa	6H12c	SR10	6.2 (破損) +2.5mm	不明(漆器)
s342	管玉	04Aa	6H10c	SR17	111 8.7+3.4mm・ベンガラ付着	溶結凝灰岩
s343	管玉	04Aa	6H10c	SK144	172 8.6+4.1mm(両面穿孔)	溶結凝灰岩
s344	管玉	04Aa	644a	棟 1	6.6+2.9mm	溶結凝灰岩
s345	管玉	05Ab	108SD		0.8+4mm(片層内)	不明
s346	管玉	05Ab	6H16c	1687SD	1146 15+4.3mm	溶結凝灰岩
s347	管玉	05Ab	6H7c	棟 2	258 6.7+2.4mm	溶結凝灰岩
s348	管玉	05Ab	6H12c	棟 2	1016 41+1.5mm(両面穿孔)	溶結凝灰岩
s349	管玉	05Ab	6H15c	棟 2	869 7.9+2.2mm	溶結凝灰岩・軟質
s350	管玉	05Ab	6H9d	棟 2	241 5.3+2.8mm	溶結凝灰岩
s351	管玉	05Ab	6H10c	棟 2	421 9 (破損) +5.0mm	溶結凝灰岩
s352	管玉	05Cd	8J11i	棟 2	50 8.8+2.2mm	溶結凝灰岩
s353	管玉	05Cc	8A10b	014SD	30 8.8+2.3mm	溶結凝灰岩
s354	管玉	05Da	7I16f	SR09	12+2.7mm	溶結凝灰岩
s355	管玉	05Da	7I16f	東 3 区シナチ	10 (破損) +4.9mm	溶結凝灰岩
s356	翡翠原石	06Bc	6J13c	0515K		翡翠
s357	翡翠原石片	04Aa	6H2a	SR03		翡翠
s358	翡翠原石片	04Aa	6I2a	SR08		翡翠
s359	翡翠原石片	05Aa	6I2d	3015K		翡翠
s360	翡翠原石片	07Bb	6I7f	0035Z		翡翠
s361	翡翠装身具	05Aa	6I2c	0705B	175 勾玉状	翡翠
s362	翡翠チップ	04Aa	6H4d	SR07		翡翠
s363	翡翠チップ	05Ab	6H9d	棟 2		翡翠
s364	溶結凝灰岩片	05Db	8I10f	0305B		溶結凝灰岩・軟質
s365	瑪瑙薄片	05Aa	6I2d	1685B	557	瑪瑙
s366	チップ	04Aa	6H4d	SR05		翡翠
s367	チップ	04Aa	6H10a	SR02		溶結凝灰岩
s368	チップ	04Bc	6J10f	SR03		溶結凝灰岩
s369	チップ	04Bd	6H18f	SR28Q 上層		溶結凝灰岩
s370	チップ	05Ab	6H15c	634SB	溶結凝灰岩・下石石・チャート等	
s371	チップ	05Ab	6H15c	634SB	1077	溶結凝灰岩
s372	チップ	05Ab	6H15c	634SB	溶結凝灰岩・下石石・チャート等	
s373	ガラス小玉	04Ac	7H11c	T1	溝縁	
s374	ガラス小玉	06Bc	6J12m	014SZ	101 溝縁?	
s375	ガラス小玉	04Aa	6H13a	SR10	窟	
s376	ガラス小玉	04Aa	6H13a	SR10	窟	
s377	ガラス小玉	04Aa	6H13a	SR10	窟	
s378	ガラス小玉	04Aa	6H13a	SR10	水	
s379	ガラス小玉	04Aa	6H13a	SR10	水	
s380	ガラス小玉	04Aa	6H13a	SR10	水	
s381	ガラス小玉	04Aa	6H13a	SR03	水	
s382	ガラス小玉	04Aa	6H15e	SR02	水	
s383	ガラス小玉	04Aa	6H4d	SR05	水	
s384	ガラス小玉	04Aa	6H9e	SR11	水	
s385	ガラス小玉	04Aa	6H9e	棟出 H-1	水	
s386	ガラス小玉	05Ab	6H10d	棟出 2Y	228 水	
s387	ガラス小玉	05Ab	6H14c	棟出 2Y3	864 水	
s388	ガラス小玉	05Ab	6H10d	棟出 2Y	水	
s389	ガラス小玉	06C	7J16q	0045X	84 水	
s390	ガラス小玉	06C	7J17p	0045X	86 水	
s391	ガラス小玉	06C	7J17q	001NR-M	30 水	
s392	ガラス小玉	05Ct		0045K	水	



## 3.5.2 動物遺体

樋泉岳二（早稲田大学）・中村賢太郎・孔智賢（パレオ・ラボ）

試料は採集、選別済の動物遺体である。同定方法は現生標本との比較を基本とした。現生標本は筆者（樋泉）の所蔵標本のほか、国立歴史民俗博物館西本豊弘氏の所蔵標本も参照させていただいた。

### 3.5.2.1 貝類

貝類の組成（表 3.5.2-1・図 3.5.2-2）は、遺構によってばらつきはあるが、ハマグリが個体数比で約 50～80%と最も多く、ヤマトシジミが約 15～30%前後でこれに次ぐ点では共通している。すべての試料において、これら 2 種が 70%以上を占めている。マガキ、イボウミナナ、フトヘナタリ、アカニシも普通である。その他、タニシ科、カワニナ、ウミナナ、サルボウ、シオフキ、カガミガイが若干数見られた。

ハマグリとヤマトシジミはいずれも大型のものが多い。計測可能な資料が多かったサンプルでの計測結果（図 3.5.2-3）をみると、ハマグリは SD04-T で殻高約 50～80mm（平均 64mm）、ヤマトシジミは SD02・SD04-T とともに殻高 25～40mm 前後の個体が主体で、平均約 30mm であった。マガキは SD04-T で殻長 40～75mm が主体（平均 58mm）で、本種としては中型の個体が主体である。上記以外試料では計測可能な資料が少なかったが、おおむね同傾向とみてよい。

生息環境別にみると、内湾砂質干潟に生息するハマグリなどが最も多く、次いで汽水域に生息するヤマトシジミが多い。内湾泥質干潟に生息するマガキ・イボウミナナや、内湾干潟上部のアシ原に生息するフトヘナタリも、ある程度の量見られた。内湾から汽水域

にかけての広い範囲で貝類採集が行われていたと考えられる。

貝類の採集域が広範囲と考えられる一方で、確認された貝の種数は少ない。すなわち、内湾砂質干潟の代表的な生息種としてはハマグリ以外にアサリ・シオフキなど、内湾泥質干潟の代表的な生息種としては、マガキ・イボウミナナ以外にハイガイ・オキシジミなどがあるが、これらはほとんど出土していない。また、ハマグリとヤマトシジミのサイズが比較的大型のものに限られている点も特徴である。こうしたことから、貝類採集において種類とサイズに強い選択性が働いていたと推定される。

いっぽう、淡水性種のタニシ類・カワニナはごく少なく、遺跡周囲の淡水域（水田・水路など）における貝類採集は不活発であったと推定される。

なお、SD02 出土のアカニシには死殻（死んだ貝の貝殻）が見られた。食用以外の何らかの意図で採集されたものと推定される。



表 3.5.2-1 朝日遺跡出土貝類の同定結果

試料	遺跡	朝日遺跡						他遺跡										計		
		イボウミ Vulgarella	カワニテ Solenostoma Anomal	ウミエビ Aurillio munitense	イボウミエビ E. ananhi	フトヘナタリ Cerithiidae Ptilothaeretes	アカニシ Acanthis	ヤマタシジミ Siphonaria californica		マガグリ Chamaelea glabra		ハマグリ Margarita lanceolata		ヤマトシジミ Cerithiidae Agapornis		ヤマタシジミ Ptilothaeretes			ハマグリ Margarita Anodonta	
								左	右	左	右	左	右	左	右	左	右			
00076a-1	IANEGC SD02E(11BE)			1	17	2	3	1	6	3			41	36			69	64	223	
00076a-2	IANEGC SD02E(11BE)				1	2	1	1		1							20	15	64	
00076a-3	IANEGC SD12(18BE)												2	4			24	13	43	
00076a-4	IANEGC SD12(18BE)			2									7	10			37	37	91	
00076a-5	IANEGC SD12(18BE)						1			6	11						1		19	
00076a-6	IANEGC SD02E(11BE)			2			1				1						1	3	6	
00076a-7	IANEGC SD02E(11BE)									1				6	9		1	3	20	
00076a-8	IANEGC SD04-T	1	1		5	11	8			23	31	1	1	47	45	1	86	86	320	
00076a-9	計	1	1	1	27	15	14	1	1	30	48	1	1	118	119	1	230	223	790	

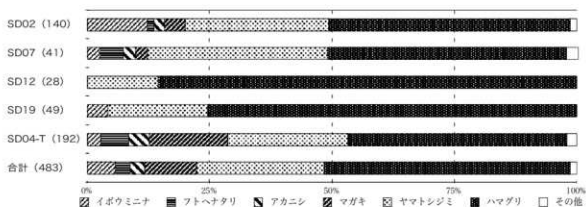


図 3.5.2-2 朝日遺跡の貝類組成 合計資料数 20 個体以上の試料のみ表示

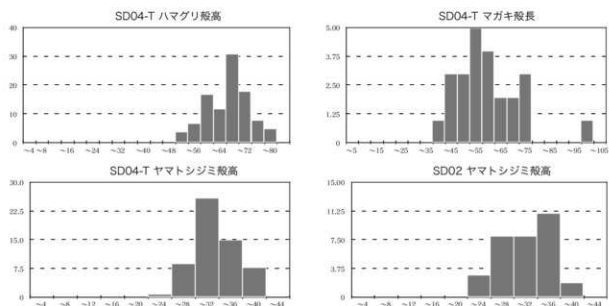


図 3.5.2-3 朝日遺跡の主要貝類のサイズ分布 計測値の単位は mm

### 3.5.2.2 魚類

出土数は少ない。淡水性種としてコイおよび種不明のコイ科・ナマズ・ウナギ属、海生種としてサメ類(メジロザメ科?)・ニシン科・クロダイ属が見られた(表3.5.2-4)。SD02では同一個体と考えられるナマズの頭部骨格がまとまって出土している。

淡水魚が多く、大型魚が少ない傾向があるが、現時点では魚骨の採集・選別方法の詳細が不明なので、以上の結果が魚類利用の実態を示しているかは判断できない。

### 3.5.2.3 両生類・爬虫類

出土数は少ない。SK03・SD02・SD10a・SD19でカエル類、SD02でヘビ類が確認された(表3.5.2-5)。SK03・SD02では、それぞれ複数個体のカエル類の骨がまとまって採集されており、何らかの意図的な利用がなされた可能性も考えられる。

### 3.5.2.4 鳥類

出土数は少ない。SK03でカモ科(ガン類)、005SDでワシ科、110SD-Yでカラス属、027SDで種の判別困難な鳥骨が見られた(表3.5.2-6)。

005SD出土のワシ科大腿骨・脛骨・中足骨

は同一個体である。いずれも関節のサイズはトビ程度だが、長さははるかに長いことから、比較的小型のワシ科で脚が長いタイプ(オオノスリ・チュウヒ・オオタカなど)の可能性がある。

### 3.5.2.5 哺乳類(ヒト以外)

出土数はきわめて多い(表3.5.2-7~13)。組成としてはイノシシがMNI(最小個体数)=6と最も多く、次いでイヌ(MNI=3)、ニホンジカ(MNI=2)が多く見られた(表3.5.2-13)。その他にモグラ科、ネズミ科、キツネ?、イタチ、クジラ類が同定されたが、いずれも少数である。

イノシシとシカの部位組成を比較すると、イノシシは全身の部位が見られ、部位の偏りは認められないのに対し、ニホンジカでは歯が少ない傾向が認められた。

イノシシの年齢構成は、顎骨・歯が多くないため明確でないが、乳歯を残す幼獣からM3萌出完了の成獣までが混在しており、とくに明確な偏りはみられないようである。

001NR-K出土のイノシシ下顎骨は左右の下顎が連合した良好資料で、左右とも関節突起・筋突起を欠くが、下顎体~下顎角はよく保存されている。左右とも切歯~P3は脱落している。雌で、M3が萌出しており成獣

表 3.5.2-4 朝日遺跡出土魚類遺体の同定結果

遺体	種類	部位	左右	数	備考
027SD	ニシン科 クロダイ属	脛骨		1	
		歯骨	R	1	
		頭上顎骨	R	1	
110SD-Y	クロダイ属	骨髄第2端		1	
		椎骨		1	ごく小型
SD02	板鰓類	コイ	R	1	
		コイ科?		2	
	ナマズ	コイ科?		1	
		尾椎	L	1	同一個体
		歯骨	L	1	同一個体
		歯骨	R	1	同一個体
		内骨	R	1	同一個体
		基底歯骨		1	おそらく同一個体
		尾椎		1	おそらく同一個体
		歯骨破片	多数	2	おそらくナマズ同一個体
真骨類同定不可	尾椎		1		
SD07	ウナギ属	椎骨		1	
	真骨類同定不可	椎骨破片		1	
SD19	サメ類	歯		1	メジロザメ科?
	ウナギ属	椎骨		1	
	真骨類同定不可	椎骨破片		2	



ある。歯周症の兆候がみられる点や、下顎連合部一下顎底の角度がやや大きい点は西本(1991)が主張する「ブタ」の特徴と一致することから、家畜化の可能性も考慮する必要がある。

イヌは同一個体の一部がまとまって出土する傾向が見られた。004SDでは同一個体の成獣右下顎骨および椎骨2点・四肢骨3点、110SD-Yでは同一個体と推定される幼獣の左右下顎骨と尺骨1点・肋骨6点、SD02でも同一個体の可能性の強い幼獣骨8点および成獣骨6点(成獣骨は同一個体か不明)が、それぞれまとまって採集されている。これらは埋葬個体の可能性もあるが、確実ではなく、出土状況との照合を要する。

### 3.5.2.6 ヒト

110SD-Yと113SDでヒトの散乱骨が確認された(表3.5.2-14)。

### 3.5.2.7 小結

朝日遺跡で採集された動物遺体を同定した。貝類は、内湾砂質干潟でのハマグリ採集、汽水域でのヤマトシジミ採集が中心で、内湾泥質干潟でのマガキ・イボウミニナの採集も

行われている。採集域の多様性は強いが、確認された貝の種数は少なく、種類とサイズを選択性が強い点か特徴である。淡水性種は少なく、水田・水路などにおける貝類採集は不活発であったと推定される。

魚類は少ない。淡水魚のコイ科・ナマズ・ウナギ属がやや目立ち、海生種のサメ類・ニシン科・クロダイ属が若干見られた。ただし、これが埋蔵されていた魚骨の実態を示しているかについては、さらに検討を要する。

両生類では、SK03・SD02でカエル類がまとまって採集されており、意図的な利用がなされた可能性がある。爬虫類・鳥類は少ない。

哺乳類ではイノシシが多い。他の種は少ない。001NR-K出土のイノシシ下顎骨は家畜化の可能性を検討する必要がある。イヌには埋葬個体の可能性のある個体が複数みられたが、出土状況と照合した上で判断する必要がある。

脚註  
国立歴史民俗博物館西本豊弘氏はイノシシの形質的な所見についてご教示を賜った。厚く御礼申し上げる。

参考文献  
西本豊弘(1991)「発土時代のブタについて」国立歴史民俗博物館研究報告第36集, pp.175-194

表 3.5.2-8 朝日遺跡出土イノシシ・イヌの顎骨詳細

| ]は顎骨の残存範囲、()は朝出中の歯を示す。

種類	遺構	上顎/下顎	左右	残存位置	備考
イノシシ	001NR-K	下顎骨	L	(D, m, + mo + ms)	幼獣
イノシシ	001NR-K		L	(D, Pa, P, Ms, 下顎角)	埋蔵突起・歯列欠欠
イノシシ	001NR-K	下顎骨	R	(D, Pa, P, Ms, 下顎角)	埋蔵突起・歯列欠欠
イノシシ	004SD	上顎骨	R	(P, P, M, Ms)	
イノシシ	004SD	上顎骨	R	(P, P, M, Ms)	
イノシシ	004SD	下顎骨	L	(ms, mo, M, Ms)	
イノシシ	004SD	下顎骨	R	下顎角	
イノシシ	108SD	下顎骨	R	下顎体中	
イノシシ	110SD-Y	下顎骨	?	?	
イノシシ	SD02	下顎骨	R	(P, M, Ms, M)	
イノシシ	SD02	下顎骨	R	(ms, M)	
イヌ	004SD	下顎骨	L	完全 (P, ~M, 残存)	M.L.=203.7mm
イヌ	004SD	下顎骨	R	完全 (全歯残存)	M.L.=205.2mm, 切歯～犬歯の咬痕顕著。
イヌ	110SD-Y	下顎骨	R	(M, 耳)	幼獣, M.L.=17.4
イヌ	110SD-Y	下顎骨	L	吻端欠損 (M, 耳残存)	幼獣, M.L.=17.3
イヌ	SD01	下顎骨	R	下顎角中	
イヌ	SD02	上顎骨	R	歯槽中に(耳)・(P)	幼獣
イヌ	SD02	下顎骨	R	吻・下顎欠欠 (P, P, M, 残存)	

表 3.5.2-9 朝日遺跡出土ニホンジカ遺体の同定結果 残存位置の略号凡例は表 3.5.2-7 を参照

遺構	低頭骨 + 角		頸頭骨	頸頭骨～頭頂骨		後頭骨	遊離骨 (上顎)			第3手根骨	寛骨	肩甲骨	大腸骨			脛骨	距骨	中足骨	中手/中足骨	基礎骨	NISP
	L	fr		L	R		環椎	軸椎	頸椎				上腕骨	L	L						
							R	M	<d>	p	<p>	d	<p>	L	L	R	d	d			
004SD	1							1			1										9
005SD									1												1
027SD																	1				1
107SD-Y						1															1
108SD										1											2
110SD-Y						1								1							2
113SD													1								2
455SK				1										1							4
SD01			1												1						3
SD02											1										2
計	1	1	1			1	2	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	2	27

表 3.5.2-10 朝日遺跡出土イノシシまたはニホンジカ遺体の同定結果 残存位置の略号凡例は表 3.5.2-7 を参照

遺構	下顎骨		頸椎	胸椎	腰椎	仙椎	椎骨	肋骨		上腕骨		寛骨	脛骨			手根/足根骨	NISP	
	fr							p	fr	m	m		fr	L	R			?
																	?	
001NR-K										1								1
004SD			1							1				1	1			6
005SD							1			1						1		3
107SD-Y					1													1
108SD						1				1								2
110SD-Y												1						2
455SK						1												1
SD02										1				1				2
SD10										1	1							2
SD19															1			1
SK03			1	1											1			3
計			2	1	1	2	1	2	2	3	1	1	1	2	3	1	1	24

表 3.5.2-11 朝日遺跡出土イヌ遺体の同定結果  
斜字はイヌか確実でないもの、残存位置の略号凡例は表 3.5.2-7 を参照、顎骨の詳細は表 3.5.2-8 参照

遺構	上顎骨		下顎骨					環椎	軸椎	頸椎	肋骨	肩甲骨	上腕骨	腕骨	尺骨	寛骨	大腸骨	脛骨	距骨	新骨	中手/中足骨	第2足骨	基礎骨	NISP												
	L	R	w	w	吻端欠	IM	吻・下顎枝欠																		下顎角	L	R	R	L	R	L	R	R	p	(p)	(p)+(d)
																								p	<d>	(d)	肩甲骨切痕	尺骨切痕	(d)	p	(p)	(p)+(d)	L	L	R	d
001NR-Y																									1											
004SD			1	1																			1	1	5											
005SD																									2											
108SD								1																	2											
110SD-Y				1	1																				4											
113SD																									2											
SD01																									1											
SD02			1																						14											
計	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	30											





図 3.5.2-15 朝日遺跡出土の貝類 (スケールバー, 1-7・10-15-18:1cm, 8-14-19-20:5cm)

1. タニシ類 2. カワニナ 3. ウミニナ 4. イボウミニナ 5・6. フトヘナタリ 7-9. アカニシ  
10. サルボウガイ 11-14. マガキ 15. シオフキ 16-17. ヤマトシジミ 18. カガミガイ 19-20. ハマグリ



図 3.5.2-16 朝日遺跡出土の両生類と魚類貝類 (スケールバー 1cm)

1. カエル類寛骨 L(IAS04Ab,SK03) 2. カエル類桡尺骨 L(IAS04Ab,SK03) 3. コイ下咽頭骨 R(IAS05Cc,SD02)  
4. ナマズ歯骨 L(IAS05Cc,SD02) 5. ナマズ角骨 L(IAS05Cc,SD02)



図 3.5.2-17 朝日遺跡出土の鳥類 (スケールバー 5cm)

1. カモ科 (ガン類) 尺骨 R(IAS04Ab,SK03) 2. ワシ科大腿骨 R(IAS06Ba,005SD-A) 3. ワシ科脛骨 R(IAS06Ba,005SD-A)  
4. ワシ科足根中足骨 R(IAS06Ba,005SD-A) 5. カラス属軽骨 L(IAS05Ab,110SD-Y)



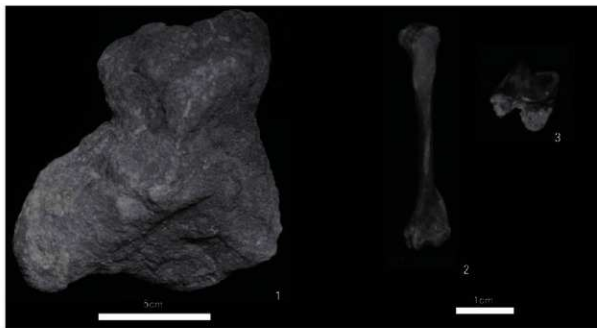


図 3.5.2-18 朝日遺跡出土の哺乳類その他

1. クジラ類不明 (IAS05Ab,108SD) 2. イタチ上腕骨 L(IAS06A,004SD) 3. キツネ? 上顎 L,P4(IAS04Ab,SD02)

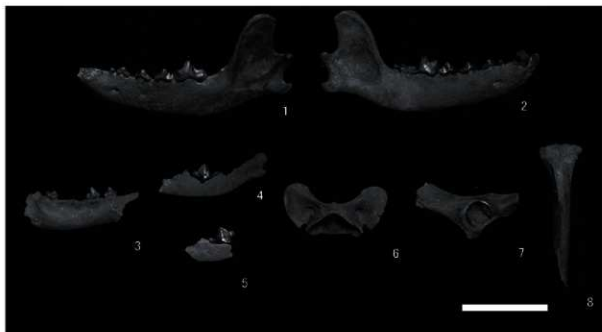


図 3.5.2-19 朝日遺跡出土のイヌ (スケールバー 5cm)

1. イヌ下顎骨 L(IAS06A,004SD) 2. イヌ下顎骨 R(IAS06A,004SD) 3. イヌ下顎骨 R(IAS04Ab,SD02)  
 4. イヌ幼獣下顎骨 L(IAS05Ac,110SD-Y) 5. イヌ幼獣下顎骨 R(IAS05Ac,110SD-Y) 6. イヌ環椎 (IAS06,004SD)  
 7. イヌ寛骨 L(IAS06Ba,005SD-A) 8. イヌ脛骨 R(IAS06Bd,001NR-T)

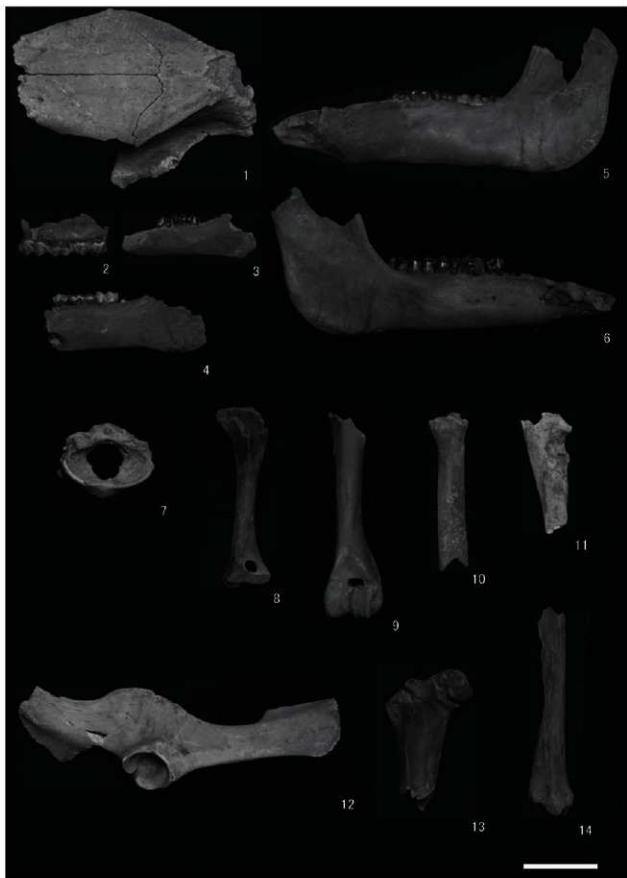


図 3.5.2-20 朝日遺跡出土のイノシシ (スケールバー 5cm)

1. イノシシ頭蓋骨 (IAS05Cd,SD02) 2. イノシシ上顎骨 R (IAS06A,004SD) 3. イノシシ幼獣下顎骨 L (IAS06Bd,001NR-K)  
 4. イノシシ下顎骨 L (IAS06A,004SD) 5. イノシシ下顎骨 L (IAS06Bd,001NR-K) 6. イノシシ下顎骨 R (IAS06Bd,001NR-K)  
 7. イノシシ環椎 (IAS05Ab,028SD) 8. イノシシ上腕骨 L (IAS06A,004SD) 9. イノシシ上腕骨 L (IAS04Ab,SK03)  
 10. イノシシ橈骨 R (IAS05C4,SD02) 11. イノシシ尺骨 R (IAS05C5,SD02) 12. イノシシ寛骨 R (IAS05Cd,SD02)  
 13. イノシシ大腿骨 R (IAS06A,004SD) 14. イノシシ脛骨 L (IAS06Bd,001NR-T)



図 3.5.2-21 朝日遺跡出土のニホンジカ (スケールバー 5cm)

1. ニホンジカ前頭骨+角 (IAS06A,004SD) 2. ニホンジカ環椎 (IAS06Ba,005SD-AS) 3. ニホンジカ軸椎 (IAS05Ab,455SK)  
 4. ニホンジカ肩甲骨 L (IAS05Ab,113SD-Y) 5. ニホンジカ大腿骨 L (IAS05Ac,110SD-Y)  
 6. ニホンジカ大腿骨 L (IAS05Ab,455SK)  
 7. ニホンジカ脛骨 L (IAS06A,004SD) 8. ニホンジカ距骨 L (IAS06A,004SD) 9. ニホンジカ中足骨 R (IAS06A,004SD)







# 遺物実測図

主要遺物出土遺物については本文編 3.4 を参照

\* 発出土量は 1/4 石製品・骨角類は 1/2 木製品は 1/4 を原則とし、大きさに応じて変更。

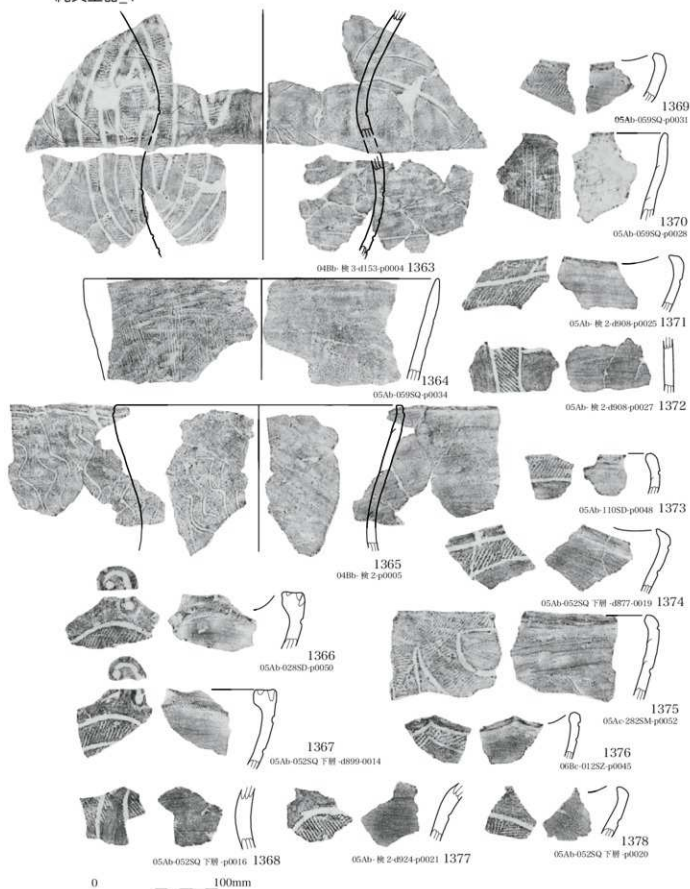
\* キャプション記号は「愛知学術文化財センター基本マニュアル 2002」に基づく分類を用い、

焼き物一般を E (無記名)・石製品 S・木製品 W・金属製品 M・その他 X とする。

<例> 05Ab-001SD-下層-0004-1 (調査区・遺物番号・層序・座標取上番号・枝番)

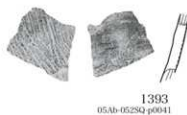
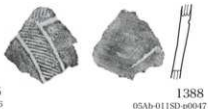
ただし p.s.w.m.x は座標取上以外の実測回数・整理番号

繩文土器\_1

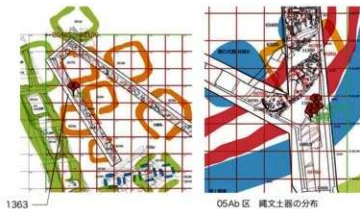




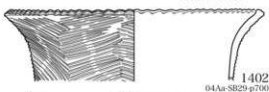
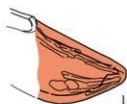
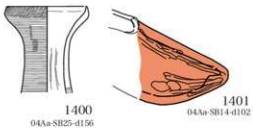
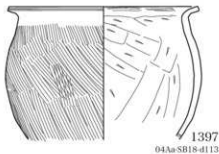
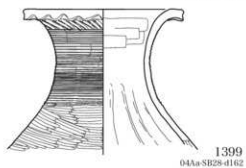
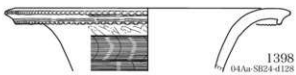
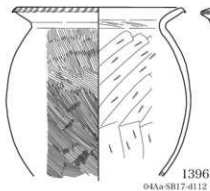
縄文土器\_2



0 100mm

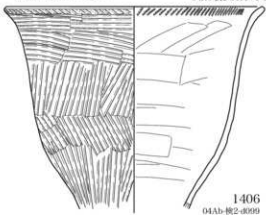
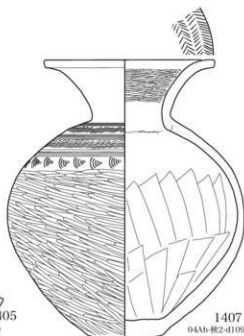
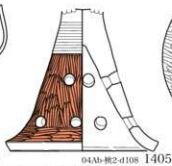
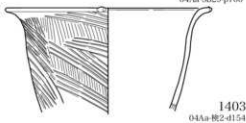


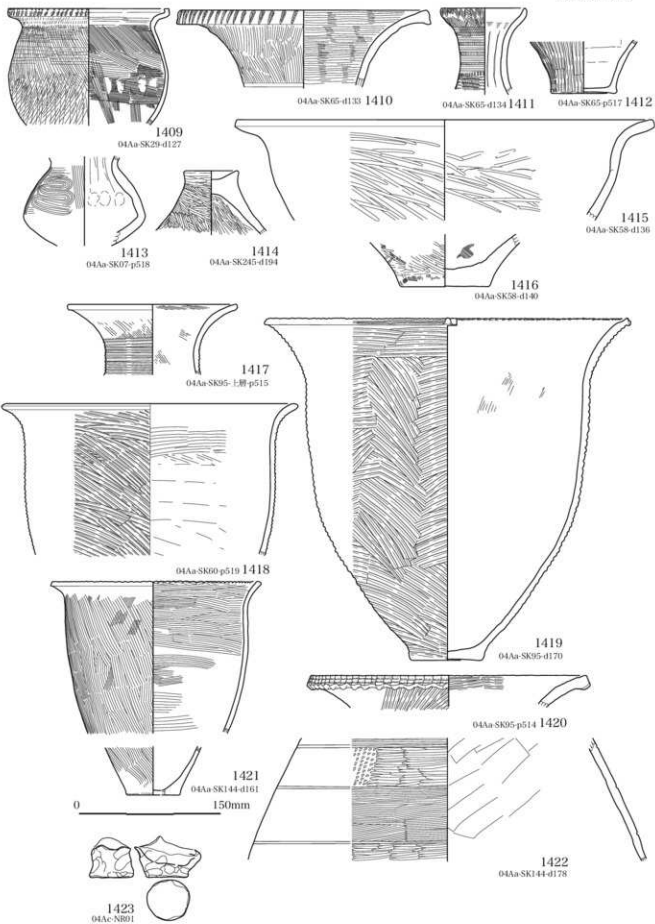
04Aa-SB



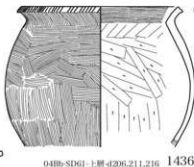
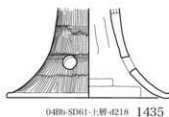
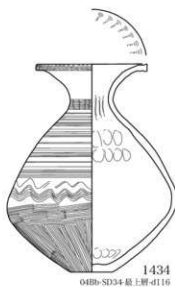
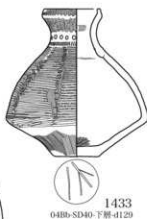
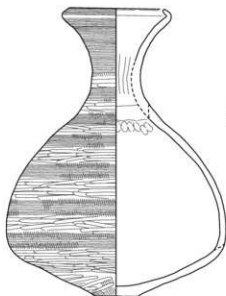
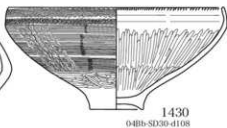
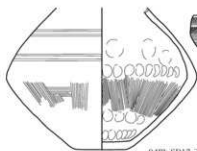
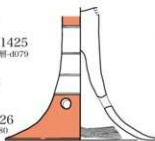
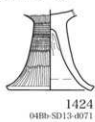
0 150mm

04Ab

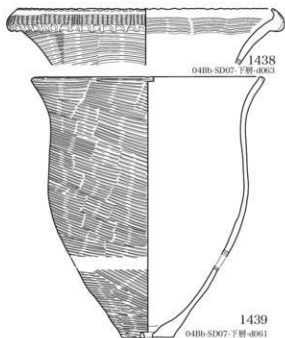




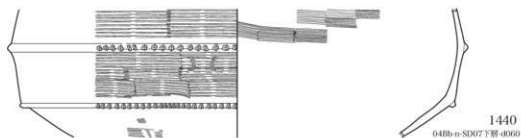
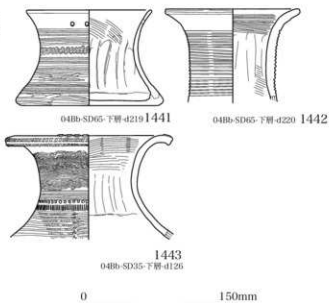
04Bb-SD



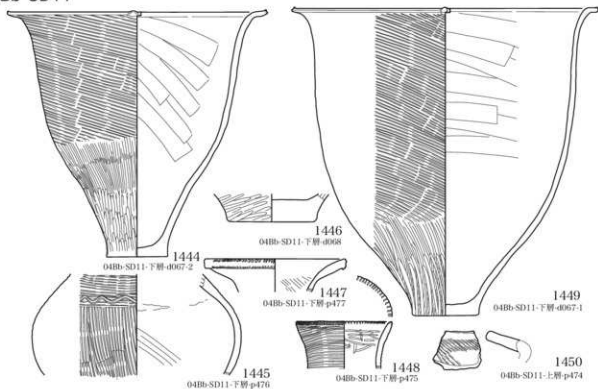
04Bb-SD07



04Bb-SD65



04Bb-SD11



04Bb



1451

04Bb-SB03-d053



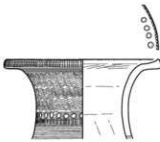
1452

04Bb-SK08-d042



1454

04Bb-SK26-d038



1455

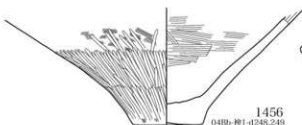
04Bb-e-SD35-FW-d125



1453

04Bb-SB03-d057

0 150mm



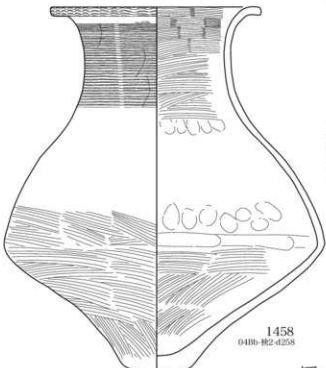
1456

04Bb-R1-d248.249



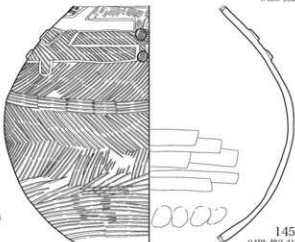
1457

04Bb-R2-d281



1458

04Bb-R2-d258



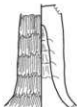
1459

04Bb-R2-d198



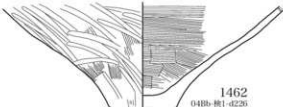
1460

04Bb-R2-d271



1461

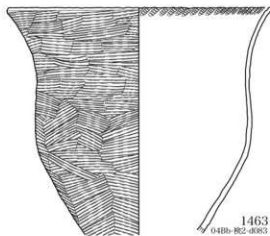
04Bb-R1-d224



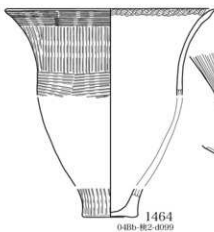
1462

04Bb-R1-d226

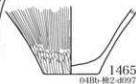
04Bb



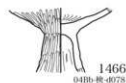
1463  
04Bb-標2-0083



1464  
04Bb-標2-0099



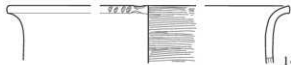
1465  
04Bb-標2-0097



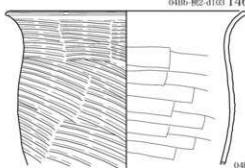
1466  
04Bb-標2-0078



04Bb-標2-d103 1467



1469  
04Bb-標2-0094



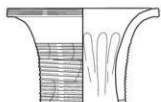
1468  
04Bb-標2-0098



1470  
04Bb-標2-d100



1471  
04Bb-標2-0088

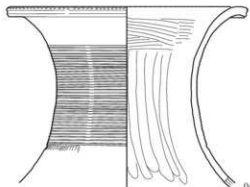


1472  
04Bb-標2-d301



1473  
04Bb-標1-d222

0 150mm



1474  
04Bb-標-d310-1



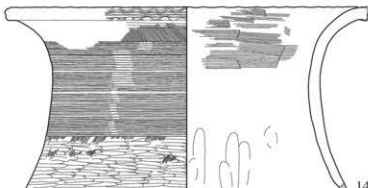
1475  
04Bb-標-d310-2

04Bc



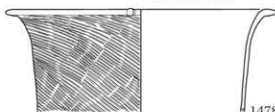
1476

04Bc-SB01-上群-d003



1477

04Bc-SB01-上群-d006.010



1478

04Bc-SB01-上群-d008



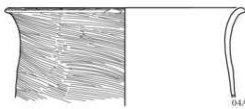
1480

04Bc-R2-d004



1479

04Bc-SK08-d054



1481

04Ac-NR02-AMS1-p001



1483

04Bc-R2-d032



1482

04Bc-R2-d034

05A



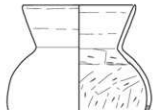
1484

05Aa-043SK-H-d038



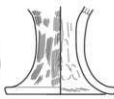
1485

05Aa-237SK-d006



1486

05Aa-032SK-H-d046



1487

05Aa-073SKY-d142



1488

05Aa-062SB-Y-d099

05A-578SK



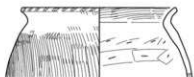
1489

05Ab-578SK-d912



1490

05Ab-578SK-d911

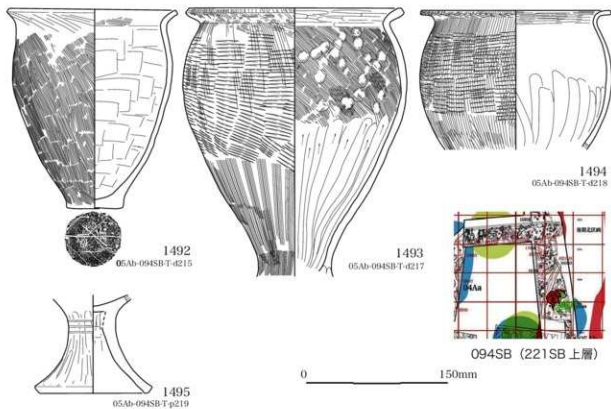


1491

05Ab-578SK-d913



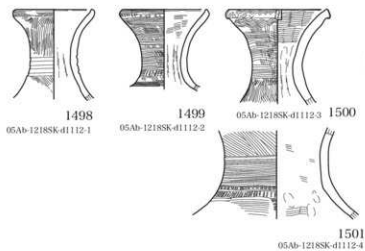
05Ab-094SB



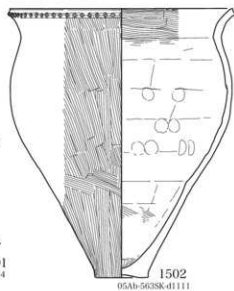
05Ac-375SK



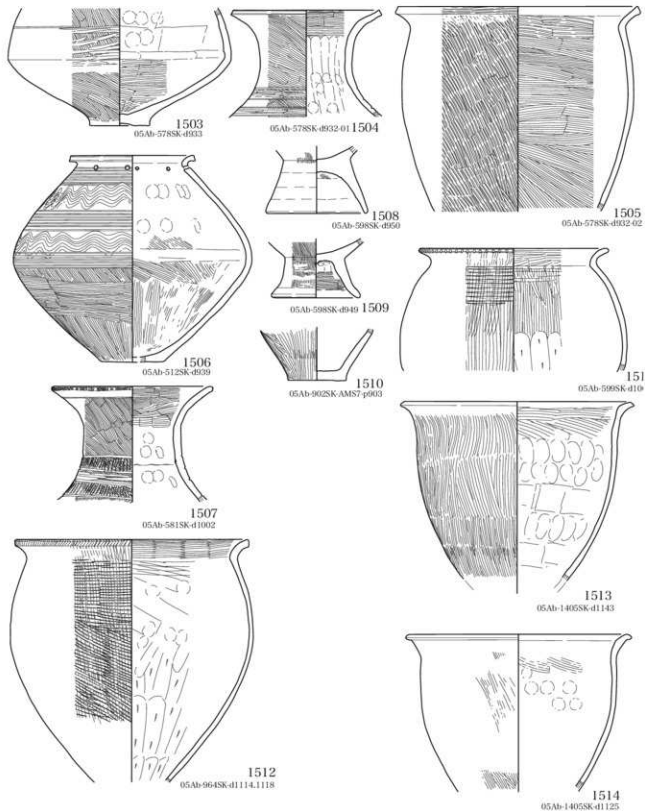
05Ab-1218SK



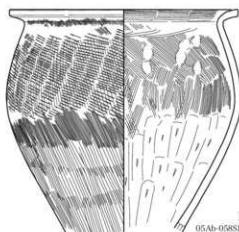
05Ab-563SK



05Ab-SK



05Ab



1515

05Ab-058SD-d100



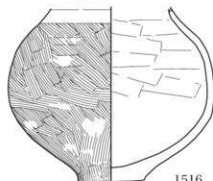
1519

05Ac-375SK-p093



1520

05Ab-030SK-d021



1516

05Ab-027SD-d323



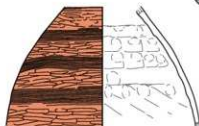
1521

05Ab-1003SK-d1066



1523

05Ab-091SK-P292



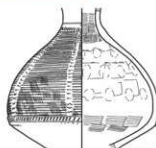
1522

05Ab-棟-d1060



1517

05Ab-531SB-d1139

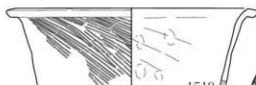


1525

05Ab-東トレ-d274

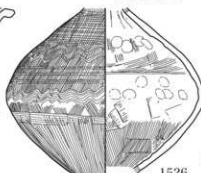


05Ab-棟3-d717 1528



1518

05Ab-棟-d1068

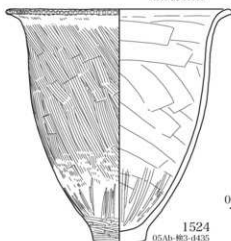


1526

05Aa-棟2-d111



05Ab-棟(108SD)-d766 1529



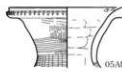
1524

05Ab-棟3-d435



1527

05Aa-棟2-d141



1530

05Ab-棟2-d947

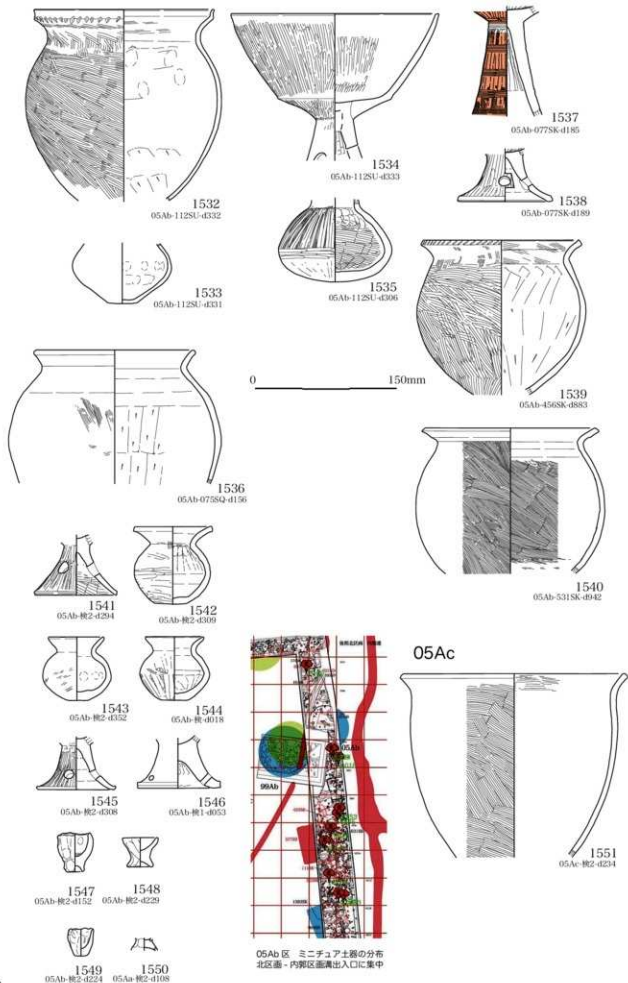
0 150mm

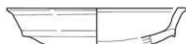


1531

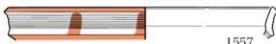
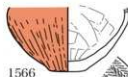
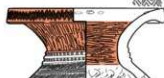
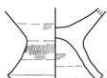
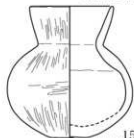
05Ab-棟2-d220

05Ab

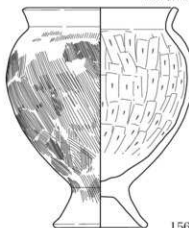
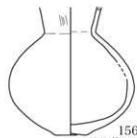
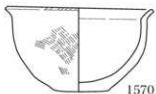
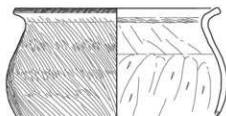




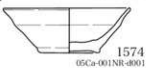
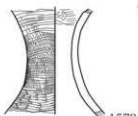
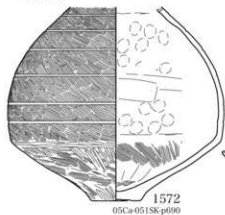
05Ab-棟2-p010 1552

1557  
05Ab-棟2-42671553  
05Ab-棟2-42311558  
05Ab-棟2-48881565  
05Ab-棟2-42691554  
05Ab-532-P9461559  
05Ab-棟2-43341566  
05Ab-棟2-41791560  
05Ab-棟2-42951567  
05Ab-棟2-41371555  
05Ab-棟2-41811561  
05Ab-棟2-42721556  
05Ab-棟2-L-40151562  
05Ab-棟2-43221568  
05Ab-棟2-4114

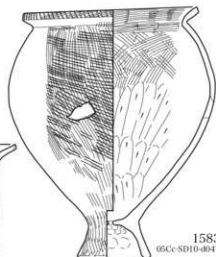
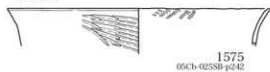
0 150mm

1563  
05Ab-棟2-42231569  
05Ab-棟2-48871570  
05Ab-棟2-Y2-8841564  
05Ab-棟2-AM23-41481571  
05Ab-棟2-4319

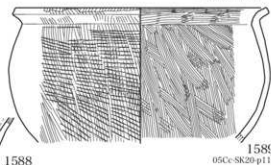
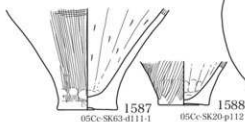
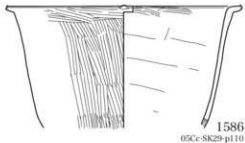
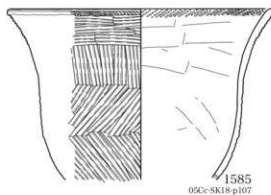
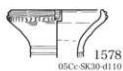
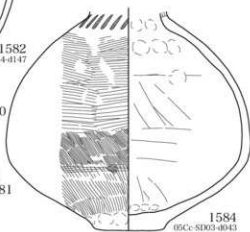
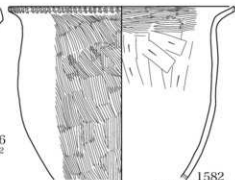
05Ca

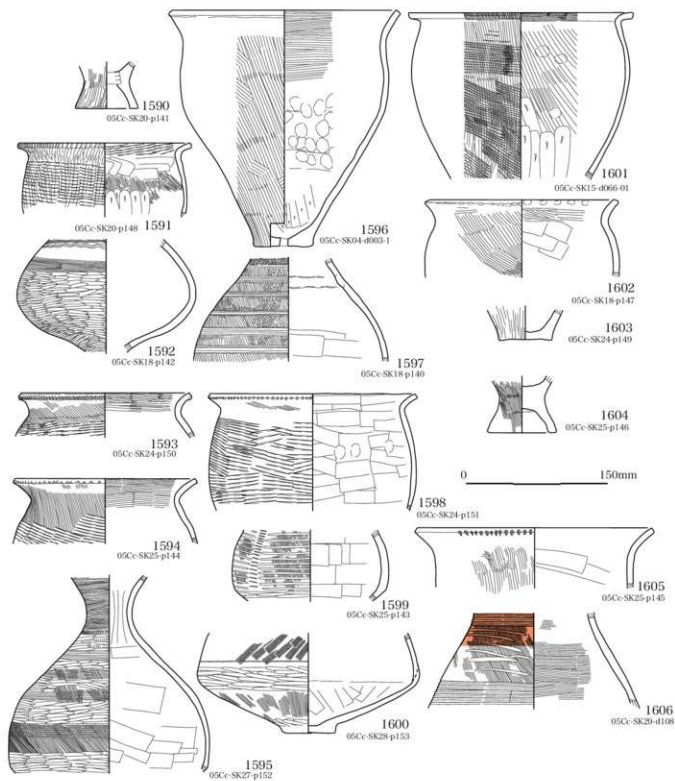


05Cb

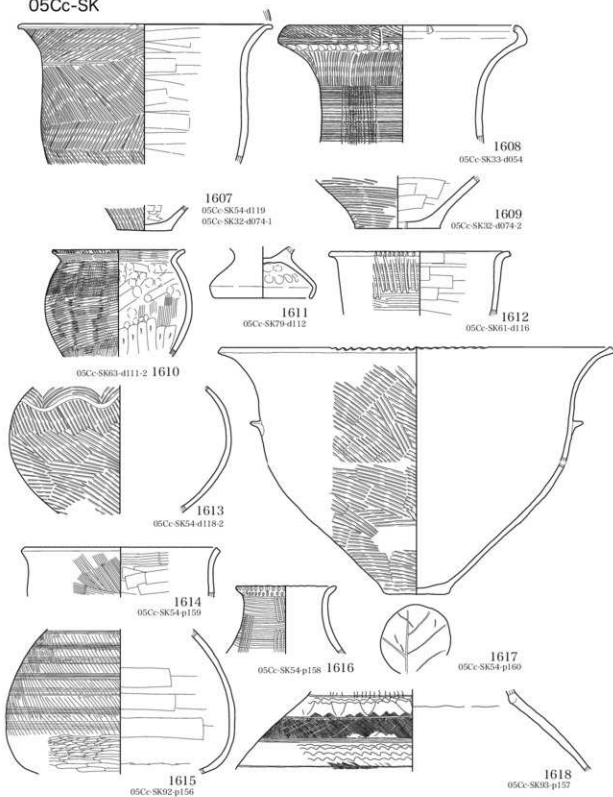


05Cc



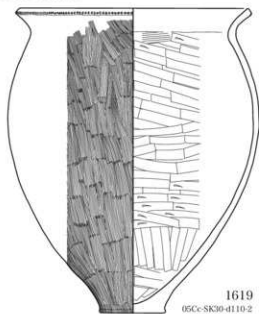


05Cc-SK

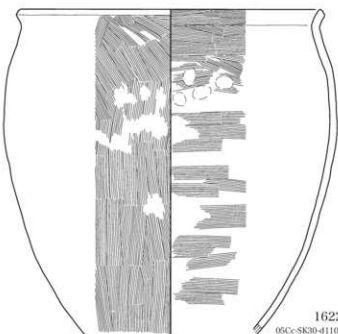




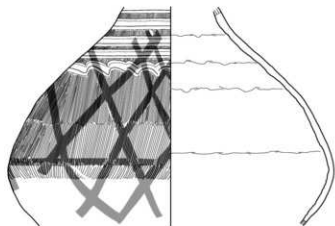
05Cc-SK30



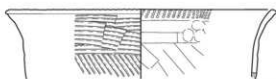
1619  
05Cc-SK30-4110-2



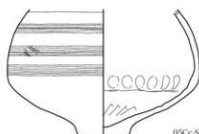
1622  
05Cc-SK30-4110-1



1620  
05Cc-SK30-4137

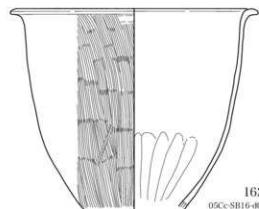


1623  
05Cc-SK30-p154



1624  
05Cc-SK30-p155

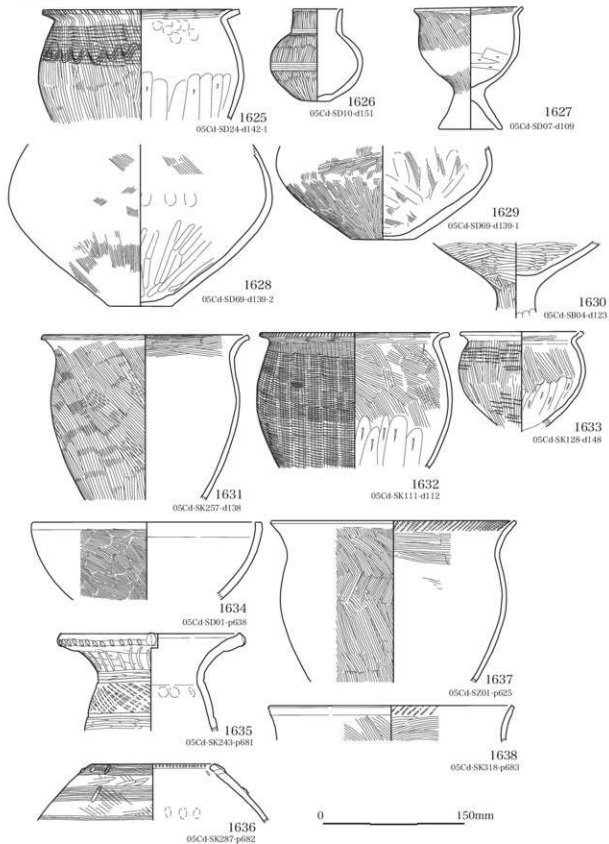
05Cc-SB16

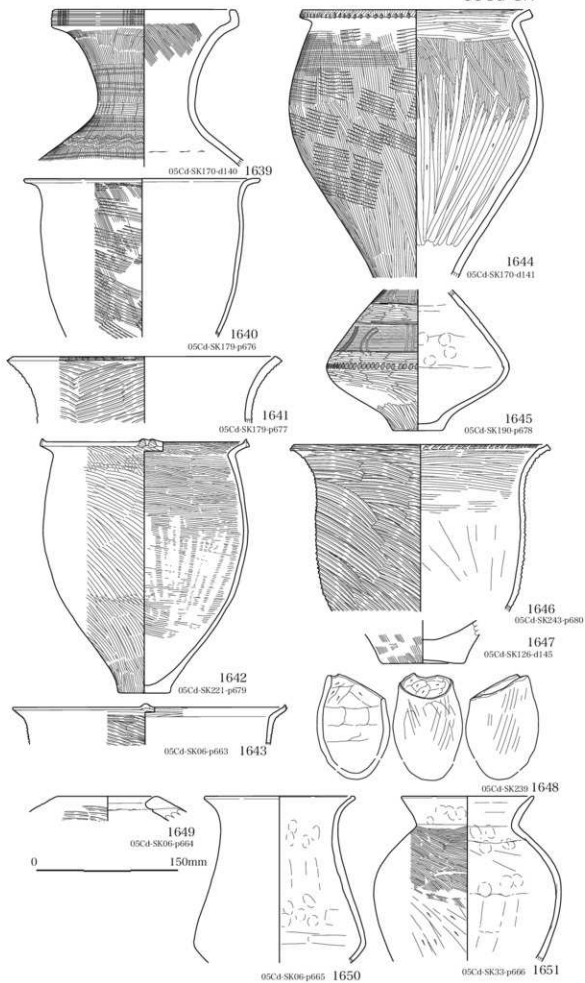


1621  
05Cc-SB16-4072

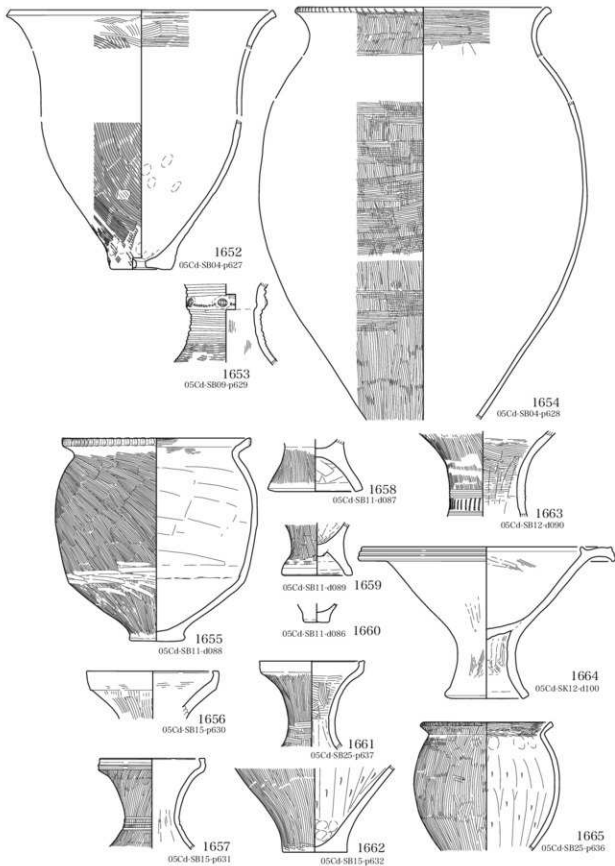


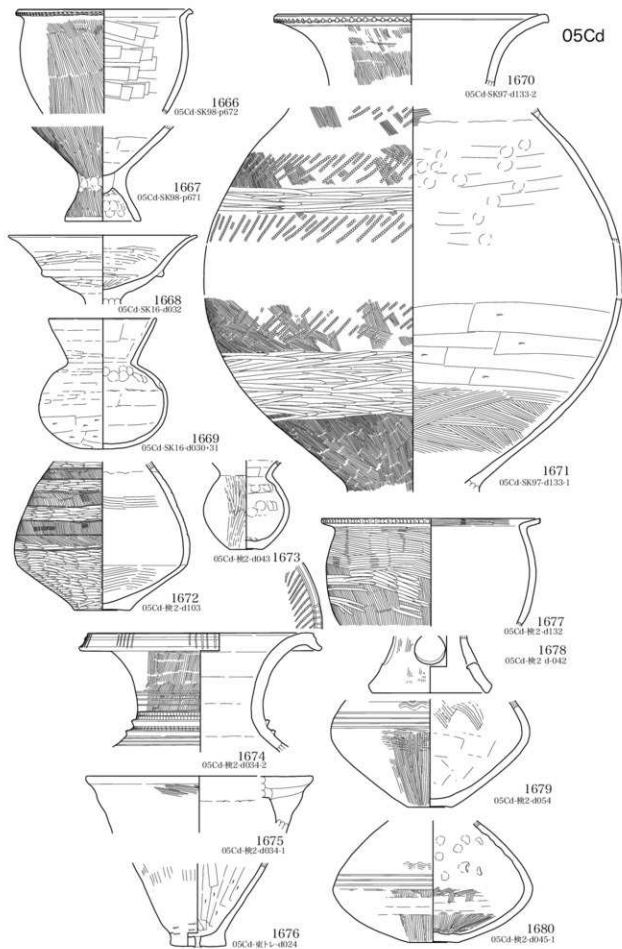
05Cd



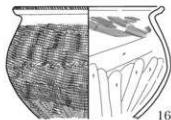


05Cd-SB

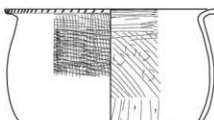




05Cd



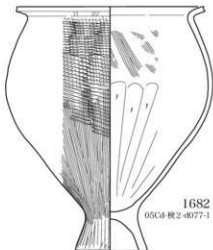
1681  
05Cd-横2-0078



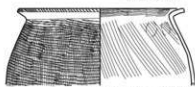
1686  
05Cd-横2-0081



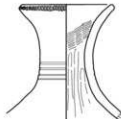
1692  
05Cd-横2-0085-3



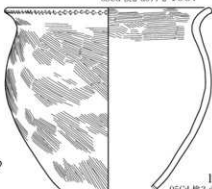
1682  
05Cd-横2-0077-1



1687  
05Cd-横2-0077-2



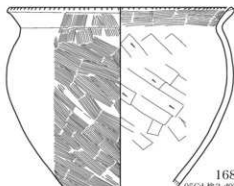
1693  
05Cd-横2-0074



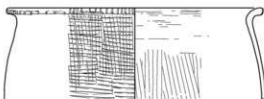
1688  
05Cd-横2-0085-1



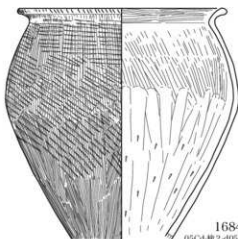
1694  
05Cd-横2-0085-2



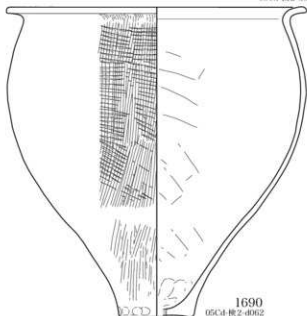
1683  
05Cd-横2-0084



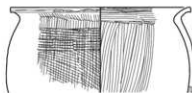
1689  
05Cd-横2-0059-1



1684  
05Cd-横2-0056



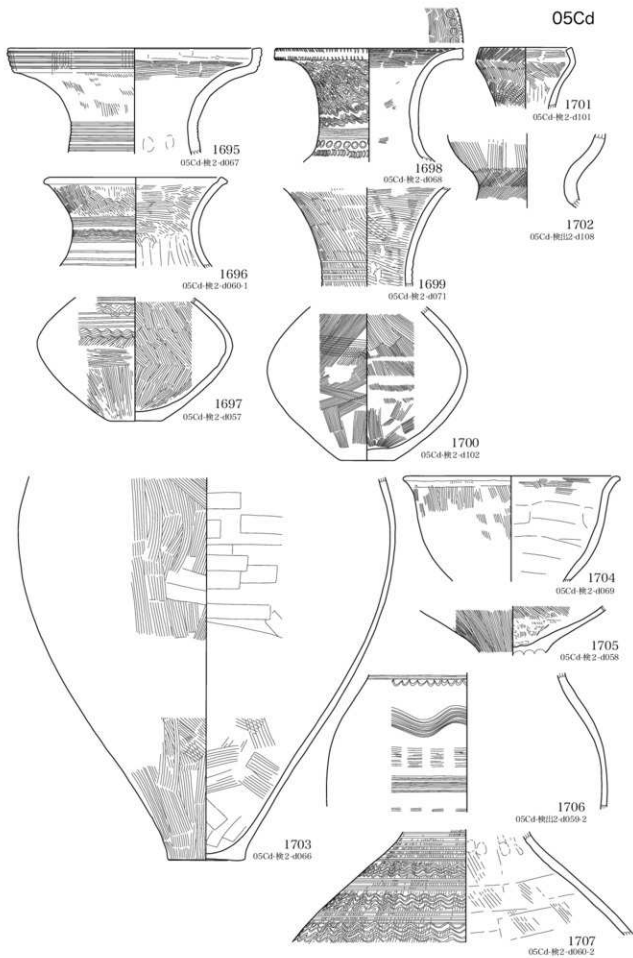
1690  
05Cd-横2-0062



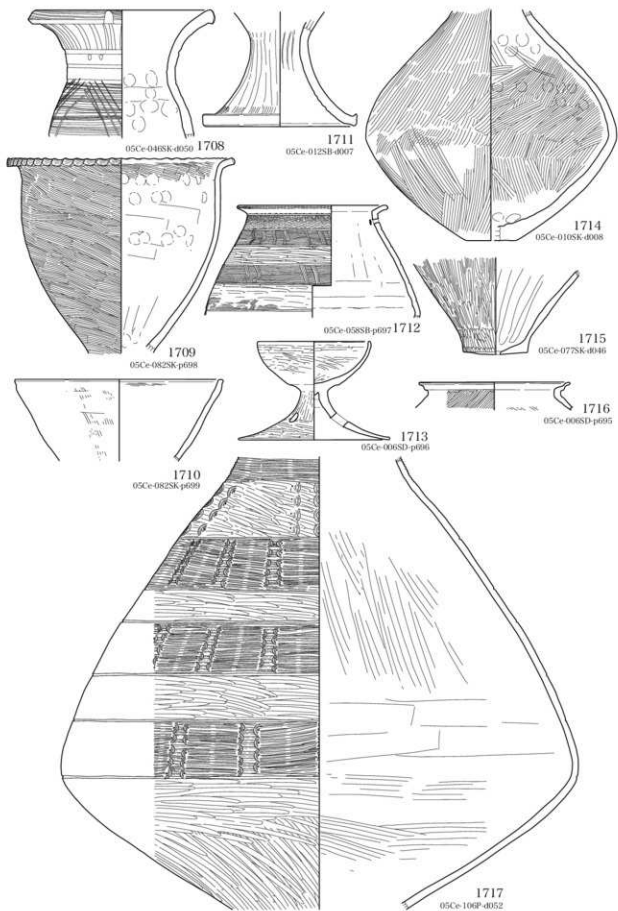
1685  
05Cd-横2-0055



1691  
05Cd-横2-0045-2

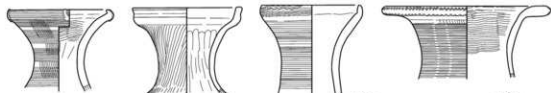


05Ce





05Ce-SD



1718  
05Ce-074SD-d043-1

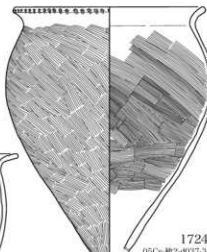
1719  
05Ce-060SD-d044

1720  
05Ce-076SD-d063

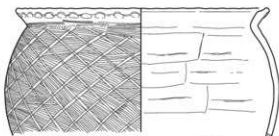
1721  
05Ce-076SD-d064



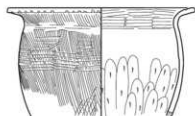
1722  
05Ce-#E2-d037-1



1724  
05Ce-#E2-d037-3

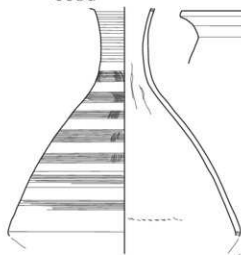


1725  
05Ce-#E2-d040

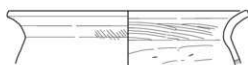


1723  
05Ce-#E2-d037-2

05Da



1726  
05Da-SK08-29



1727  
05Da-#F1-d006



1728  
05Da-#F1-d005



05Da-#E2-d020-3 1730



05Da-#E2-d020-1 1731

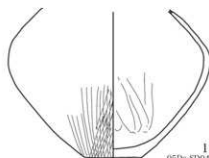


1729  
05Da-#E2-d012



05Da-#E2-d020-2 1732

05Dc



1733  
05Dc-SD04-d010

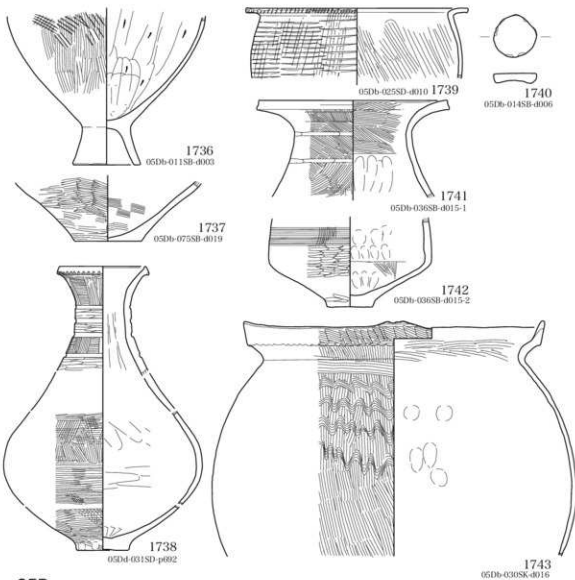


1734  
05Dc-SD09-d018

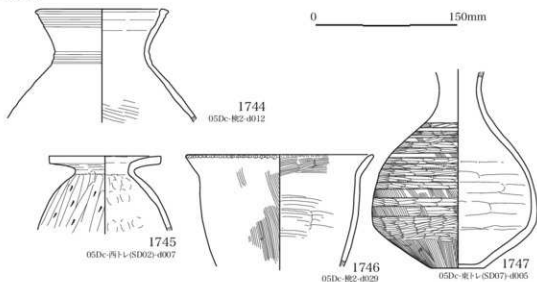


1735  
05Dc-SD08-d035

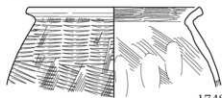
05Db



05Dc



05De



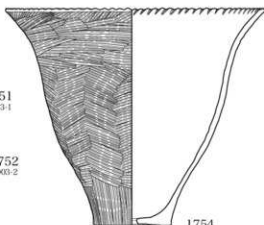
1748

05De-SK04-0004



1751

05De-SK04-0003-1



1754

05De-SD02-附々7-0011



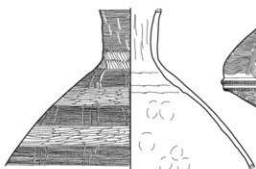
1749

05De-SK04-0005



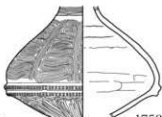
1752

05De-SK04-0003-2



1750

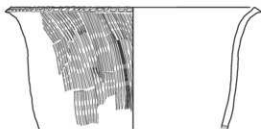
05De-P13-0010



1753

05De-SD01-0006

06Ba



1755

06Ba-R2-0078

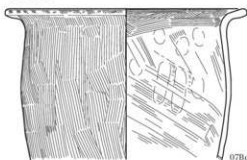


1756

06Ba-R2-0030



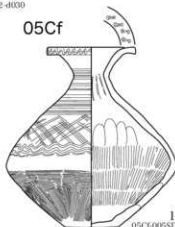
07Bc



1757

07Bc-001SD-0002

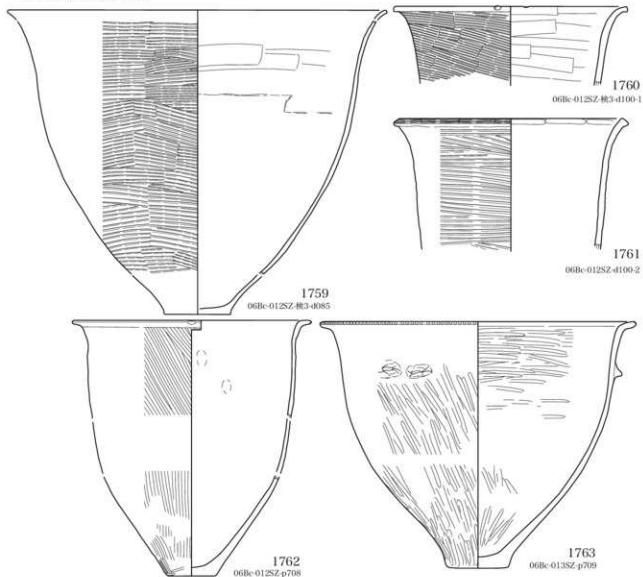
05Cf



1758

05Cf-005SD-0001

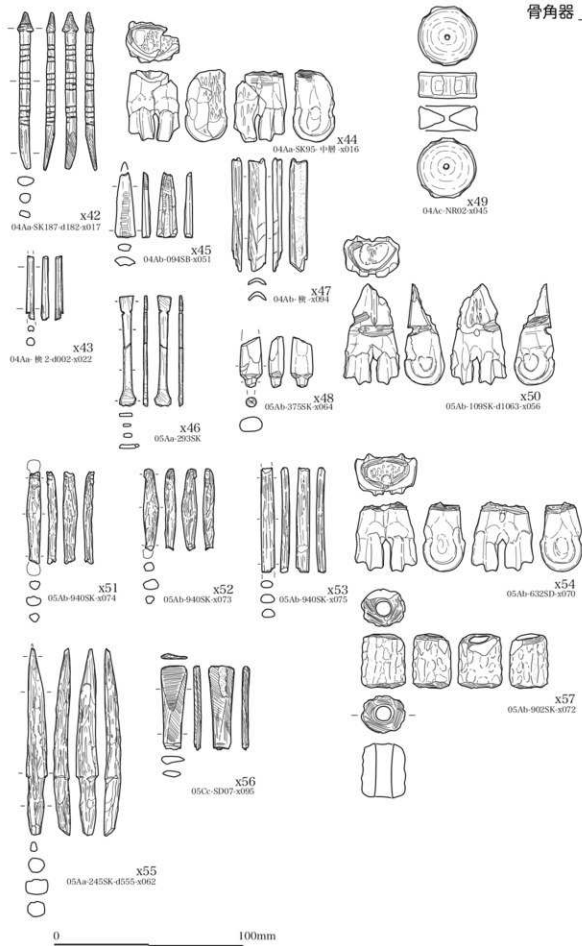
06Bc-周溝墓下層



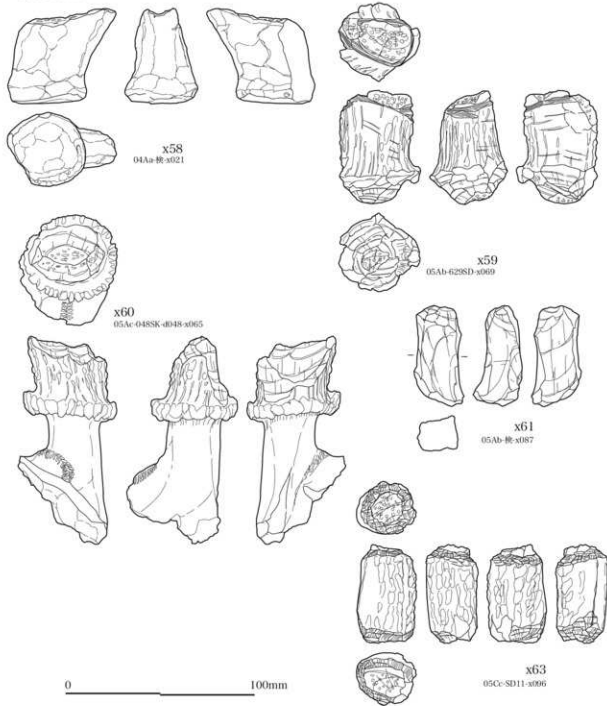
0 150mm



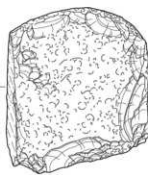
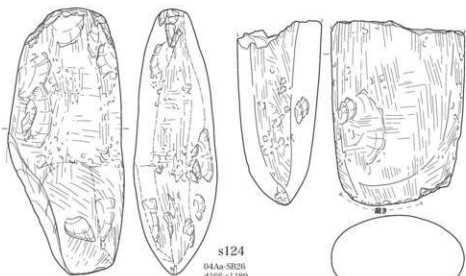
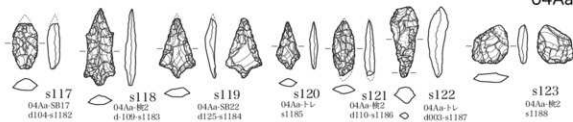
1759, 1760, 1761



骨角器\_2

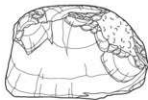


04Aa



自然面

自然面

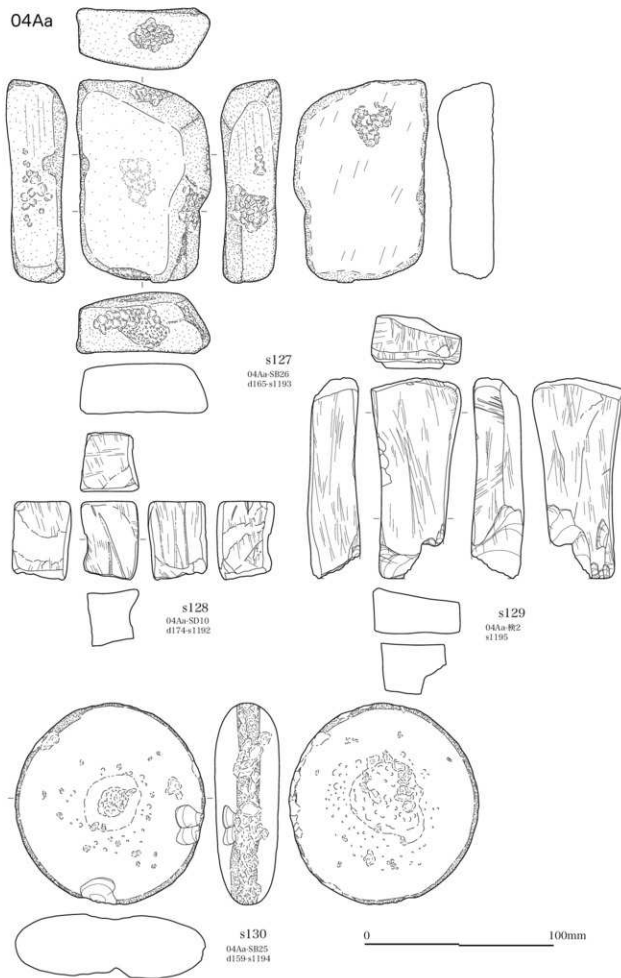


s126  
04Aa-SK189  
184-s1191



0 100mm

04Aa

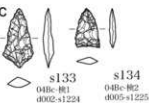




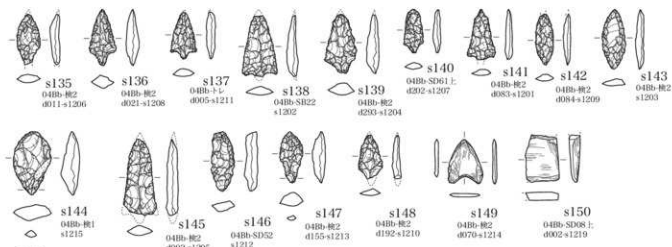
## 04Ba



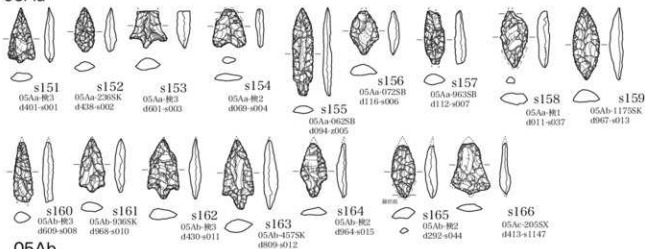
## 04Bc



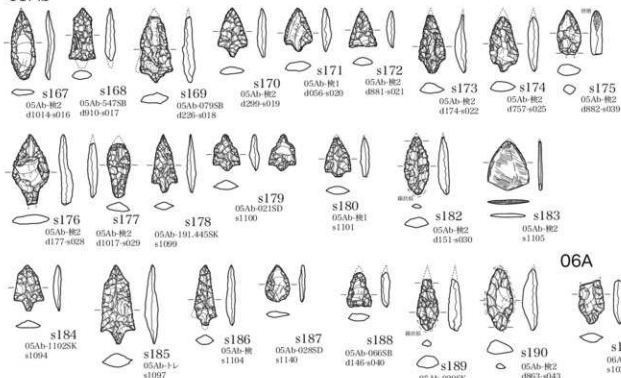
## 04Bb



## 05Aa



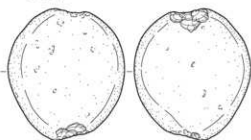
## 05Ab



## 06A

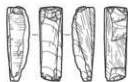


04Bb



s192

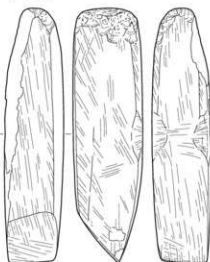
04Bb-SK29  
d055-11223



s193

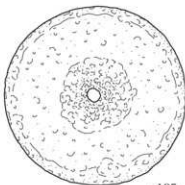
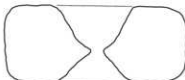
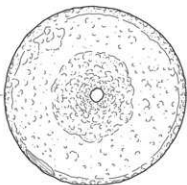
04Bb-SB20  
d296-11221

04Bc



s194

04Bb-#E2  
d061-11226



s195

04Bb-SD40 F#1  
d131-11222

0 100mm



s196

04Bb-SD55 上層  
d195-11217



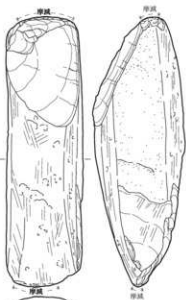
s197

04Bb-#E2  
d259-11220

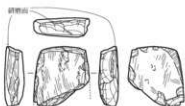
05Ab



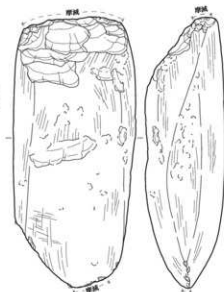
s198  
05Ab-H2  
d1029-s049



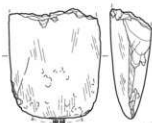
s199  
05Ab-557SB  
d1006-s053



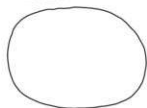
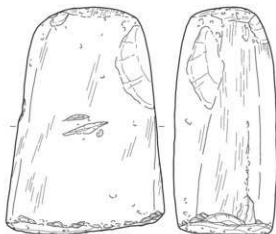
s200  
05Ab-533SK  
s1114



s201  
05Ab-830SK  
d1020-s050

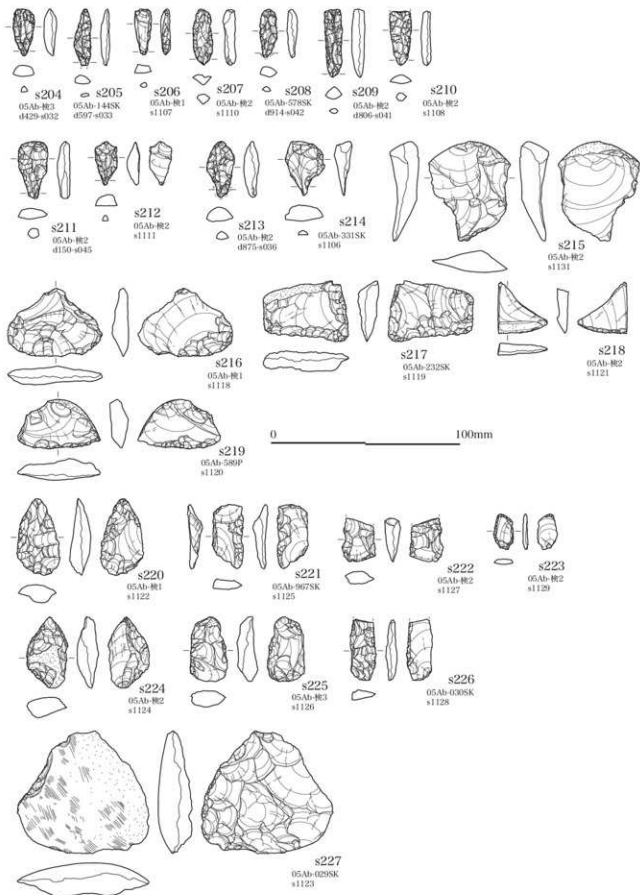


s202  
05Ab-H2  
d1021-s051

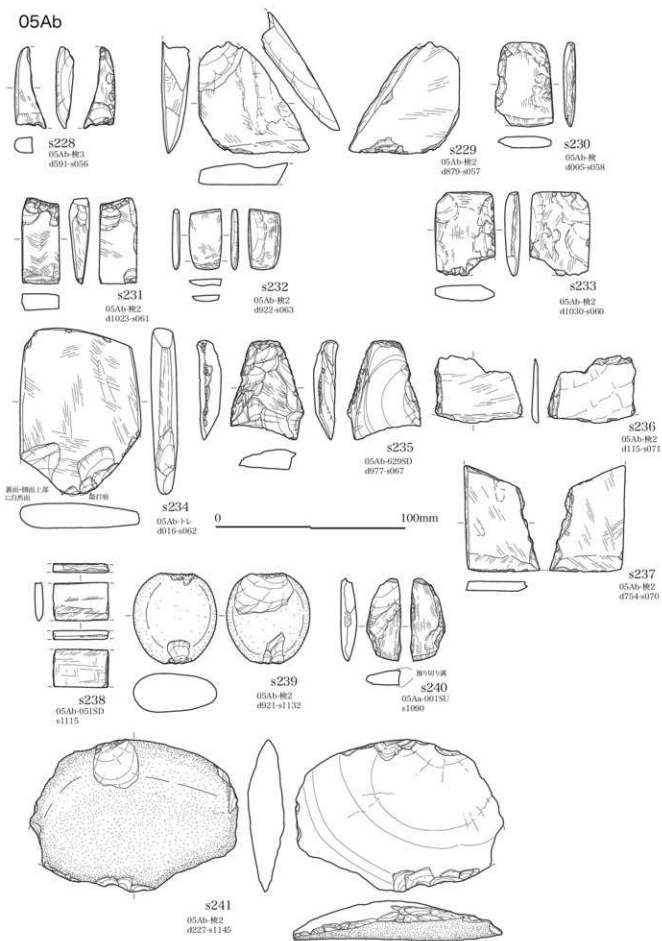


s203  
05Ab-H2  
d1139-s052

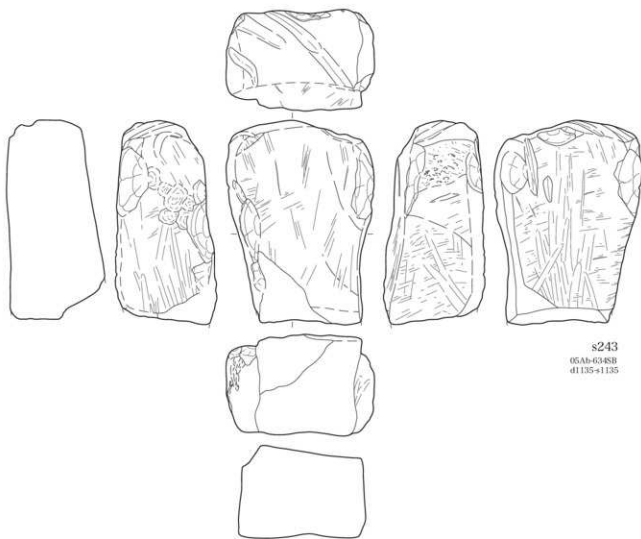
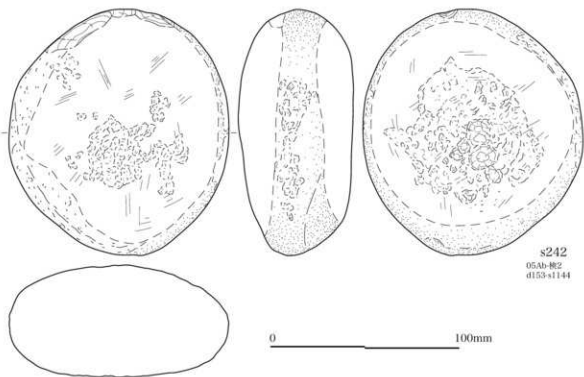
05Ab



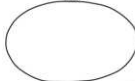
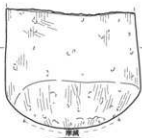
05Ab



05Ab



05Aa



s244  
05Aa-b-L  
d001-s055



s245  
05Aa-072SB  
d191-s1091



05Ab

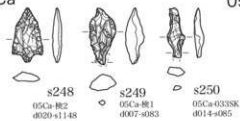


s246  
05Ab-779SB  
d1101-s1136

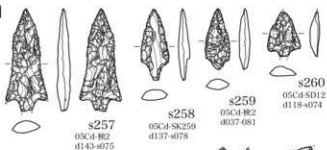


s247  
05Ab-022SK  
s1139

05Ca



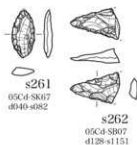
05Cd



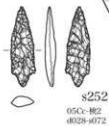
05Cb



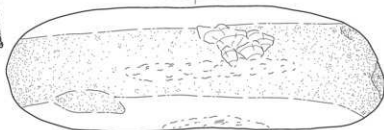
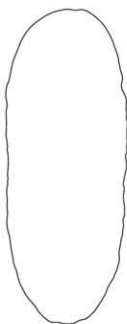
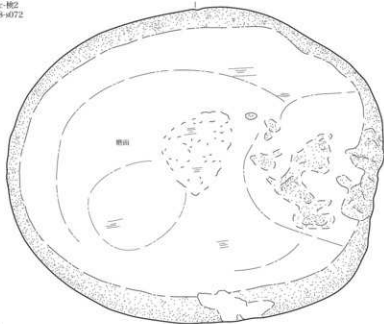
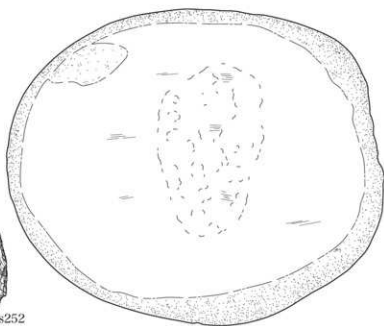
0 100mm



05Cc



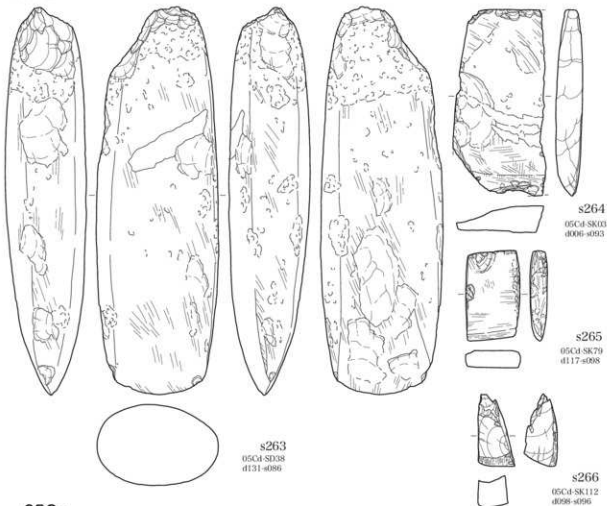
05Cf



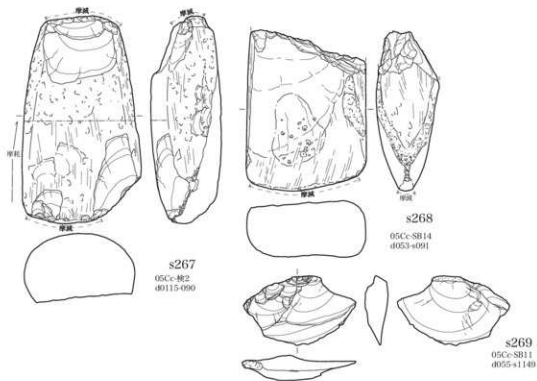
s256  
05Cf-SK32  
d074+1150



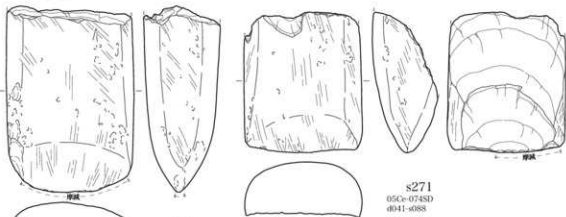
05Cd



05Cc

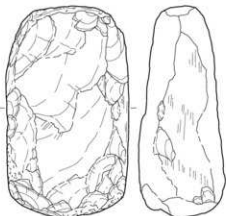


05Ce



s270  
05Ce-043SD  
d049-s087

s271  
05Ce-074SD  
d041-s088



s272  
05Ce-077SK  
d048-s089



s273  
05Ce-014SD  
d017-s092



s276  
05Ce-009  
d009-s100A

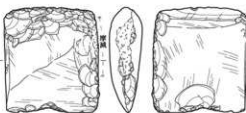


s274  
05Ce-009  
d003-s099

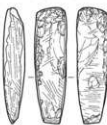


s275  
05Ce-009  
d009-s100B

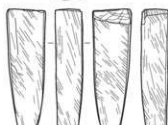
05De



s277  
05De-SK2  
d039-s095

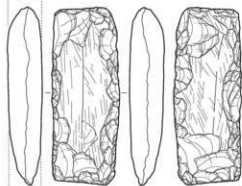


s278  
05De-1-L  
d001-s1170



s279  
05De-SK11  
d007-s1180

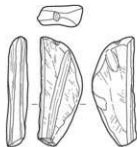
05Dc



s280  
05De-1-L  
d001-s1170



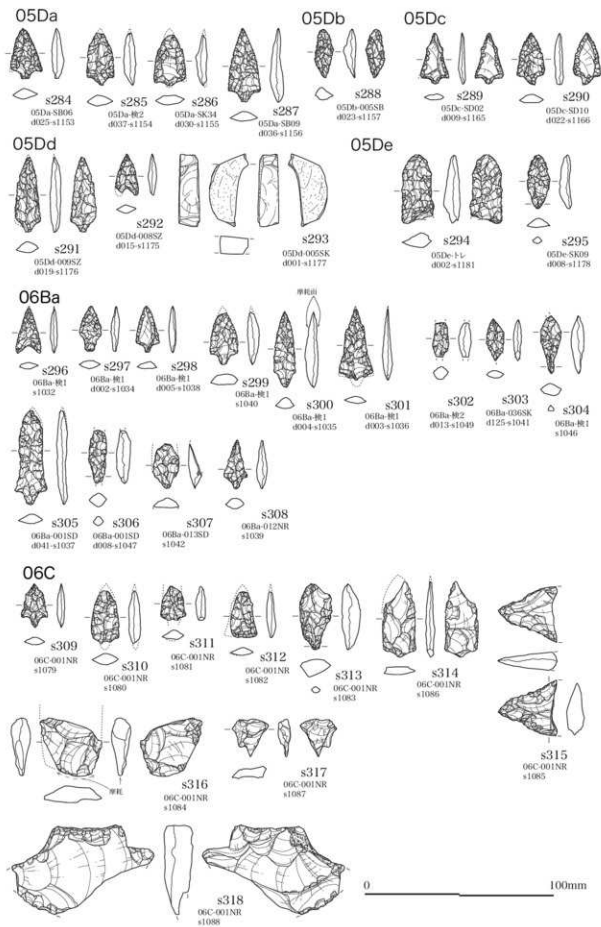
s281  
05De-SK14  
s1167



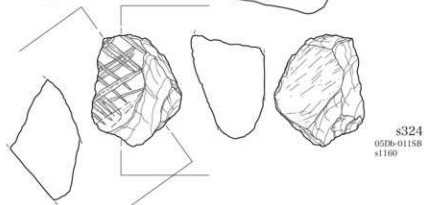
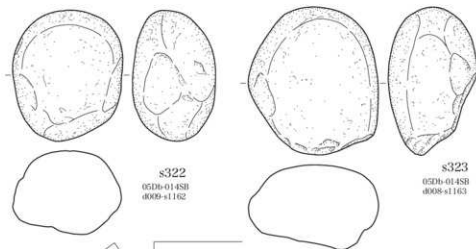
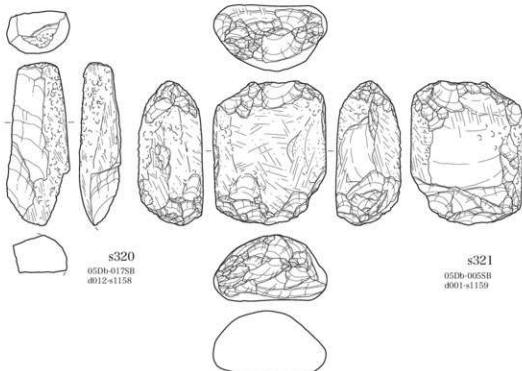
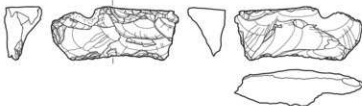
s282  
05De-SK14  
s1173



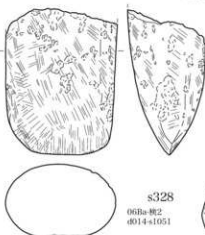
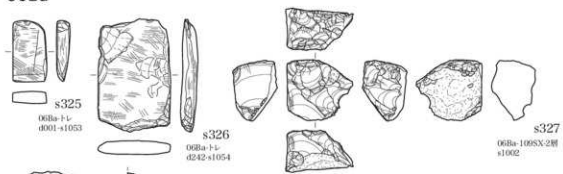
s283  
05De-1-L  
d002-s1167



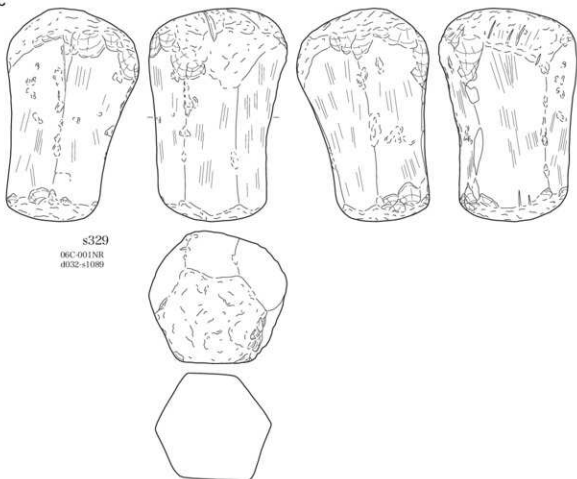
05Db



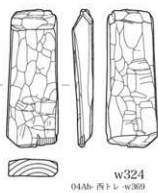
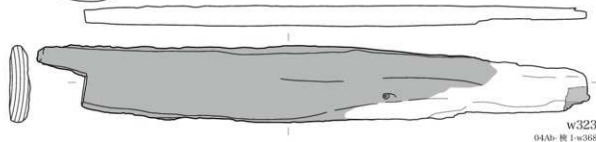
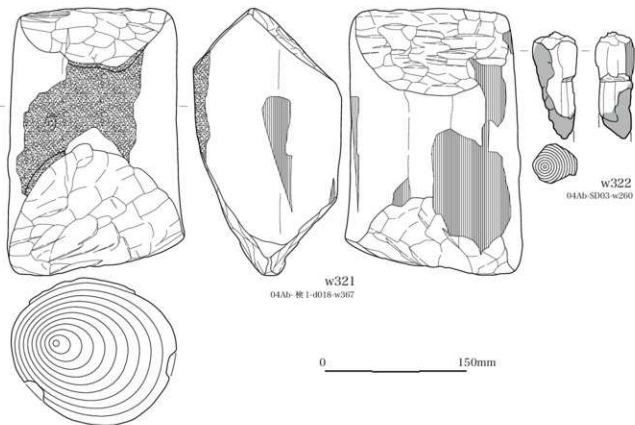
06Ba



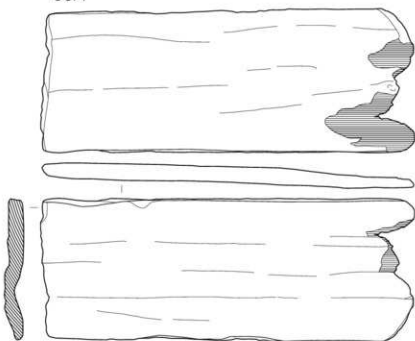
06Bc



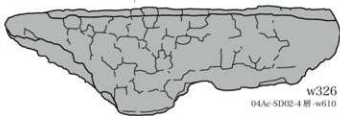
04Ab



06A

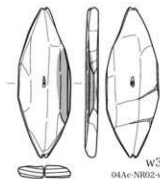


04Ac



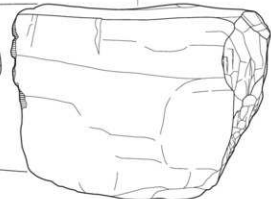
w326

04Ac-SD02-4 附 w610



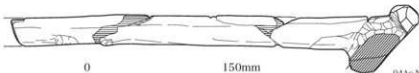
w327

04Ac-NR02-w373



w328

04Ac-NR01-w372



0

150mm

w329

04Ac-NR01-w371

05Ab



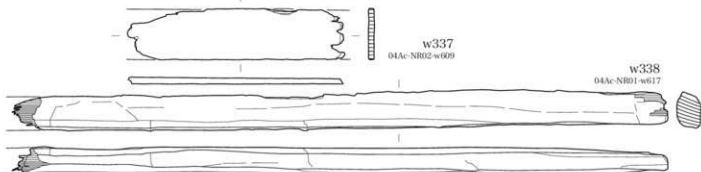
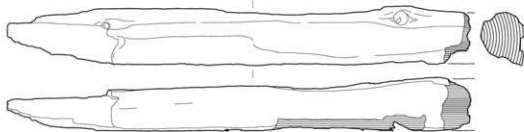
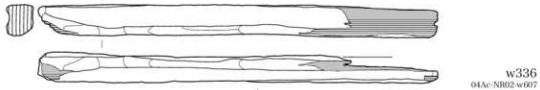
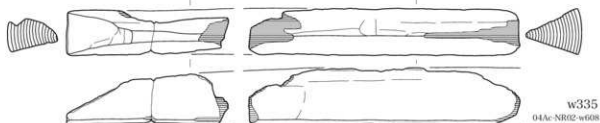
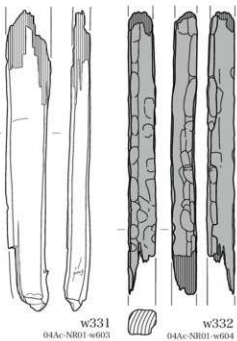
0

300mm

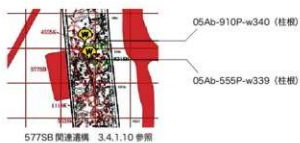
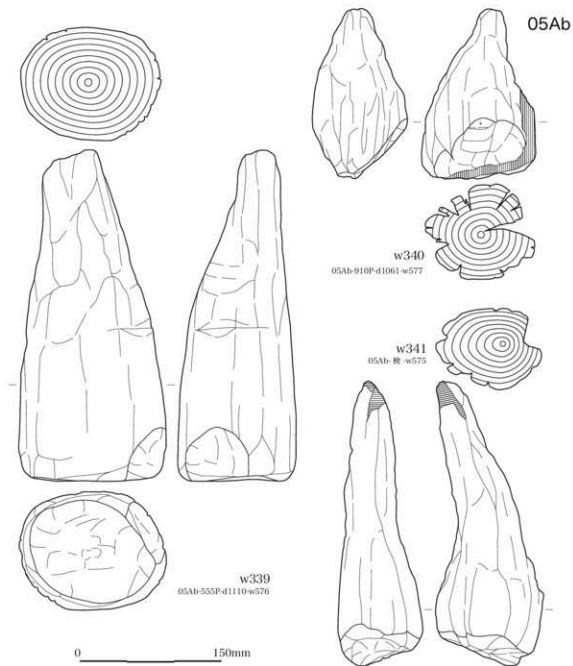
w330

05Ab-056SD-d087-w484 1/8

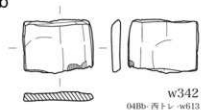
04Ac-NR01 · NR02



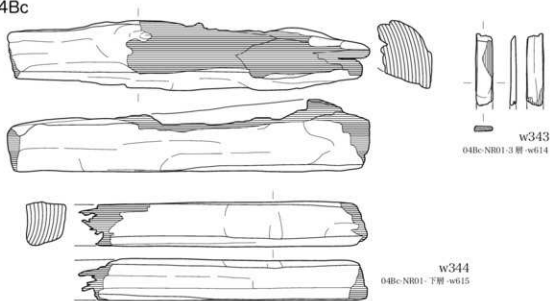




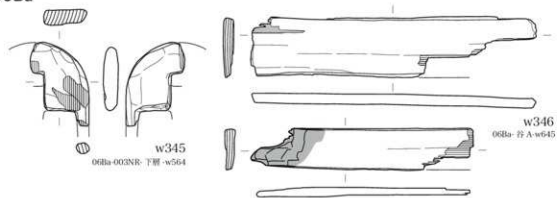
04Bb



04Bc



06Ba



ふりがな	あざひいせき はち							
書名	朝日遺跡 Ⅷ							
副書名	本文編、写真図版編、総集編							
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第154集							
編著者名	永井宏幸、堀本真美子、赤塚次郎、早野浩二、石黒立人、川添和峻 樋上 昇、鬼頭 剛、樋泉岳二、中村賢太郎、孔智賢、奥野絵美 森 勇一、藤尾慎一郎、尾崎大真							
編集機関	財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017 愛知県富岡市前ヶ須町野方802-24 TEL.0567(67)4161							
発行年月日	西暦 2009年 3月 31日							
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	°	'			
あぞひ いせき 朝日遺跡	21001 清洲市 名古屋市区 西春日井郡春日町	21	210001	35度 13分 16秒	136度 51分 16秒	2004年10月 ～ 2007年8月	5607㎡	遺跡の跡手掘り 及び、古墳遺跡、 自然高台遺跡、 一帯掘削及び埋蔵 文化財調査目的 で建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
朝日遺跡	集落	弥生時代 ～ 古墳時代	環濠、竪穴建物 掘立柱建物 方形周溝墓溝 溝、土坑 貝塚・旧河道など	弥生土器、土師器、 石器、木器 ガラス小玉 骨角器 動物遺体など		弥生時代の 環濠集落とその墓域 弥生中期の貝塚 方形周溝墓と その埋葬主体部 弥生後期の 祭祀遺構 鹿が描かれた筒形土 器・舌状石製品		
文書番号	発掘届(16埋七第51号/平16-09-13・17埋七第38号/平17-08-10 17埋七第125号/平18-03-22・18埋七第108号/平19-03-29) 発掘許可(16教生第1182号/平16-09-29・17教生第1104号/平17-08-31 18教生第45号/平18-04-12・19教生第19号/平19-04-05) 発見届(16埋七第124号/平17-03-31・17埋七第125号/平18-03-22 18埋七第109号/平19-03-20・19埋七第55号/平19-08-30) 終了届(16埋七第124号/平17-03-31・17埋七第125号/平18-03-22 18埋七第109号/平19-03-20・19埋七第55号/平19-08-30) 調査結果(17教生第364号/平17-05-23・18教生第466号/平18-06-14 19教生第469号/平19-05-23・19教生第1686号/平19-10-22)							
要約	今回の朝日遺跡の調査では、弥生後期の環濠である北区画内南側に広場的な空間があり、祭祀関係の遺構が存在する点が明らかとなった。また遺跡北東部の北墓域では、弥生時代中期を中心とした方形周溝墓群が展開し、その下層において中期前葉の居住域が広く営まれていた。遺跡南端部では南墓域が存在し、中期後葉を中心とした造営地であることが明らかとなった。さらに洪水性の砂層堆積が旧河道を中心に存在し、中期後葉の高蔵式期末葉段階に位置づけられる。朝日遺跡全体の集落景観とその変遷を考える上で、大変重要な資料を得ることができた。							

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第154集

朝日遺跡Ⅷ 本文編

2009年3月31日

編集・発行 財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団  
愛知県埋蔵文化財センター

印刷 サンメッセ株式会社